年中行事

はじめに

梅田地区でも皆沢となると、栃木県安蘇郡田沼町大字飛駒だった所が、最近桐生市に合併した山境のムラだけに、昭和初期に旧正月から新正月に変り、終戦後もなお新旧二回ずつ正月を祝っていたという。ここには独特の言語や風俗の片鱗が、今も老人たちに残っている。

しかし、一般的には古い習慣は戦後急速に失われた。ここではその中から特色のある年中行事を拾いあげてみよう。

正月の仕事始めとして、男は山仕事、女は朝織りということで、機織りをするのは、機場のさかんな土地がらをよく表わしている。

石鴨で正月初めての午の日にマユ玉を作って供えるのは、一般に初午が二月になっているのと対照的で、新旧正月の混同を思わせる。小正月十四日に、十二膳様といって、御飯に十二膳のハラミバシを立てて年神様に供える風習は、勢多郡北橘村などのオミタマ様と共通しており、古風な信仰を伝えている。しかし、ドンドン焼きを全く記憶していないのは、よほど早く絶えたものであろうか。二十日正月をしまい正月にして、年神の棚を上げているのは、この日がエビス講と重なっているので、エビス・大黒が働きに出かけるという伝承と、年神が去来することと関連づけて考えているのであろうか。

節分に、冬至に作ったユズのみそ漬けを食べる風習は、冬至と節分との関連を伺わせる資料である。コト八日に、メカイにヒイラギや木槌をさしてダイマナクと呼んで、風除けにしたり悪魔除けにしたりする風習は、よそにも見られるが、木槌が出てくるのは珍しい。ヒイラギは節分に門口へさす所も多く、春に先立って訪れる神へのヨリマシという性格がひそんでいる。初午が「火ニタツ」といって、炭焼きは勿論、風呂までも休むというのは、この頃の人々のモノイミが徹底したものだったことが推定される。

三月の彼岸前の日曜日に「天祭り」といって、組の者が集まって天道様の祭りをして五穀の豊作を祈る行事は、この地方の特色を示すものである。ほかの地方で天道念仏などという行事とも関連がありそうで、興味深い。なお、春祭りを日曜日にしているのは合理的で、今後各地に広まる傾向にある。

四月に日を決めて山廻りをして、たくさんの御幣やボンデンを山の神々に立てて歩く行事（石鴨）は、特色のある山の神祭りで、農事の開始期に当たり、山の神を迎え降ろす意味があったと思われる。七夕に乞巧奠（キコウテン）の行事が多く見られるのも、この土地がらで、新しい着物を供えたり、機神（はたがみ）に機織り技術の向上を祈願したりしていた。七夕が機（はた）織りと結びついて興味深い。盆も月遅れだが、盆棚にマコモのゴザを敷くのは東毛地方に多い風習で、精霊ゴモともいい、仏の座を示している。盆棚の下に敷いて、ガキ仏の座としている家もある。なお、盆棚に垂らした色紙の切りはぎをまとめて竹に付け、盆送りの時に墓地に立てておくのも珍しい風俗である。皆沢の百万遍の念仏は今でもさかんに行なわれる懐しい行事である。

秋の旧十月十日の十日夜のころ、十二山の祭りに人々が参集し、山頂でばくちが盛んだったことは有名である。今年の取入れが無事にすんで安心した人々が、田の神を山へ送って行った行事が、山の神祭りに変ったものと思われる。大勢の人が山で楽しみ、ツグミを食べ、ばくちをうち、天下晴れて山遊びをしたものであろう。春の山廻りといい、秋の十二山の祭りといい、よく古風を伝えている。一方、屋敷稲荷の祭りは、二月の初午以外には、秋は祭らないというのは不思議なことである。

冬至の時に、冬至の水を汲んで朝早く屋根にかけて火災除けにしたのは珍しい行事で、現在の消防訓練が十二月に行なわれることと思い合わせて興味深い。正月の餅がつけない皆沢の籾山イッケでは、鎮守の明神の伝説との関係が、今なお強調されている。

大晦日（オオミソカ）に仏壇のオミタマ様に箸を十二本立てた御飯を供えるのは、小正月の行事と似ており、大正月・小正月の関連が伺える。さらに、都丸十九一氏がかねて発表されたように、年神とオミタマ様（祖霊）が同一性格をもつものとする信仰の現われと推測される。大まかに取り上げても、かなり古風のあることが伺えよう。しかし、これも今の老人たちの伝承するもので、急速に忘れられようとしている。

以上の項の記述に当たっては、各項目別に山奥の方の部落から順に並べて、地域の変化を比べてみる便を考慮した。（関口正巳）

一月

元日

旧正月　昭和四、五年ごろ、旧正月から新正月に変わったが、終戦後も新・旧二回ずつ正月を祝い、最近まで続いた。（皆沢）

年神　去来については何もいわれない。（皆沢）

その年に新しく来る神で、暮の二十八日に飾り、二十日正月が終ると棚をおろす。節分に豆を上げると棚をおろす家もある。（居館）

年男　話には聞くが、正月の年男はしない。（皆沢）

一家の主人か、長男がなる。（鍋足）

年男はだいたい相続人がやる。三十一日のソバを上げ、一日には灯明、お供えを上げる。（居館）

若水　「鳥畜類（とりちくるい）の鳴かないうちに早く起き」て水を汲めというので、朝早く起きて年男が若水を汲む、下の大川から汲み上げるもので、オサユや、まんまを煮るにも新しい水を使った。朝早くふろをたく。

いまの年男たちは若水も何もかまわねえ。（石鴨）

昔は旦那が川へ行って、米をまいてから水を汲んできた。井戸は各戸になかったので川の水を使っていた。（皆沢）

年男が若水をくみ、お茶をわかして年神に供える。若水はふだん使っている川や、井戸からくむ。（鍋足）

朝湯　年寄りか若大将がわかした。（今倉）

たてない。最近はたてる家もある。（皆沢）

昔からしない。（鍋足）

家によってはやる。他の人は呼ばない。（居館）

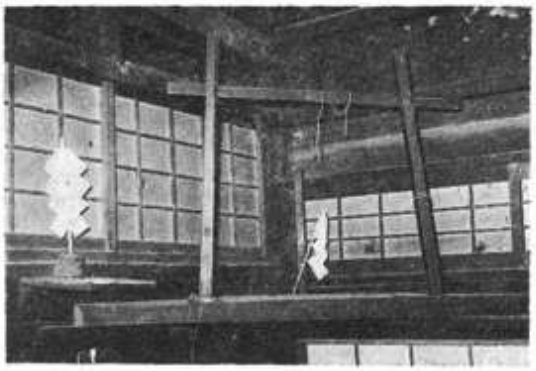
朝参り　除夜の鐘がなり終えると同時に参拝した。（今倉）

除夜の鐘がなると、鎮守様へ行く家もあるが、あまり行かない。（皆沢）

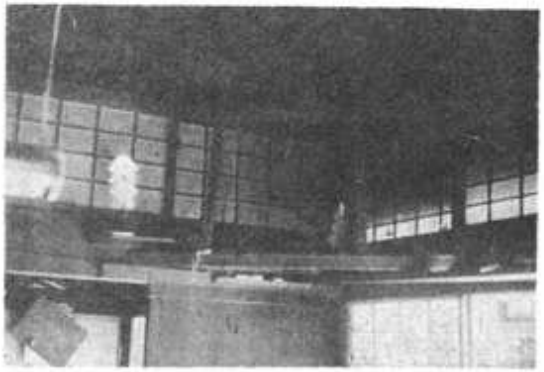
鳴神山に登った。一軒に一人位はお参りをした。鳴神山神社の祭神は日本武尊である。（鍋足）

氏神様にお参りをする。高沢では大山祇神社、浅部では熊野神社である。（浅部）

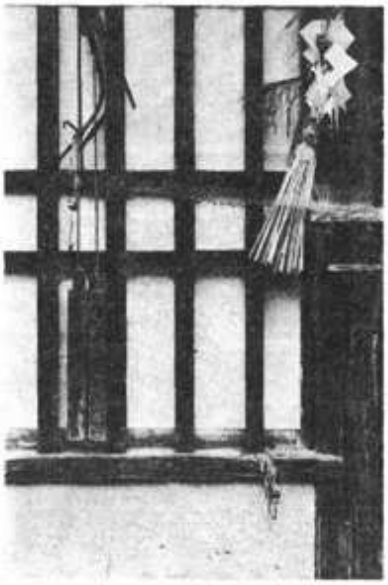
新田の生品の稲荷様や大間々の奥の貴船様へ夜中からお参りをした。開運の神様で毎月一日にも参拝する人が多かった。氏神の日枝神社へは行かない。（居館）



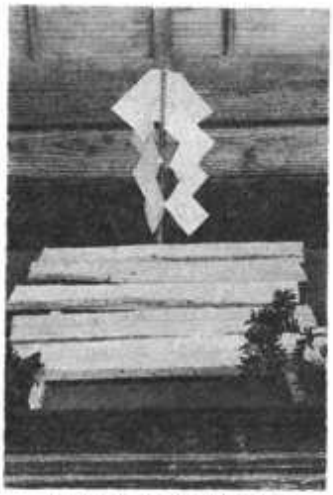
正　月　棚（萩 平）　（撮影　都丸十九一）



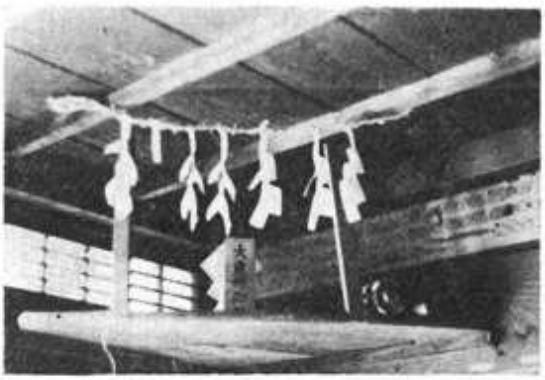
正　月　棚　（蛇留瀧　安蔵勝次氏宅）



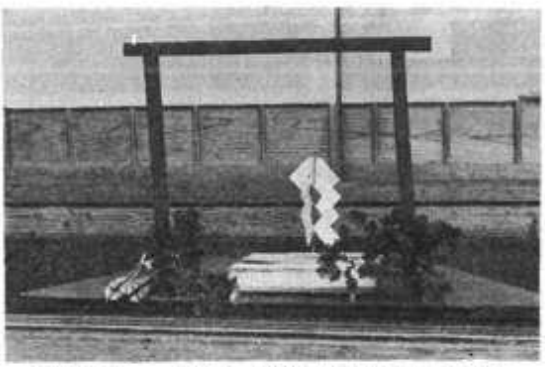
松　飾　り　（左は火の用心の拍子木）　（橋詰）
（撮影　関　口　正　巳）



正月だな（ならまきでつくる）　（清水）
（撮影　阪　本　英　一）



年　　神　　棚　（皆　沢）
（撮　影　　関　口　正　巳）



正月たな　　これを、その年の方にあわせて移動する（清水）　　（撮　影　　阪　本　英　一）

年始まわり　むかしは三十数戸あった部落中どこでも年始まわりに歩いたというが、昭和になってはそんなにやらなかった。（石鴨）

昔は各戸を廻ったが、今は縁の深い家だけ廻る。（皆沢）

めいめい歩いた。これといったきまりはない。（鍋足・浅部）

元日の朝、手拭の上にシオガマ（米の粉で作った菓子）をのせて毎戸配って歩いた。（大門）

昔は、コウチの懇意を廻ったが、今は中止した。集会所や組長の家等へ一日十時ごろ集まり、新年宴会をする。会費百円。（居館）

正月棚　二〇年程前までは、年神様のお棚をつくった。楢やクヌギを材料に、薪を薄く切って四枚位並べたようなものを、麻で編んだ。これはアキの方向即ちコンジン様のいない方向につくった。このお棚には、大麻と一緒に桐生の天神様からもってくる年神大神のお札、幣束、御神酒、榊を供える。（今倉）

吉方（アキノカタ）に棚を作り、年神様を祭る。棚がきまっている家もある。ミカン・コブ・ホシガキなどを供える。（鍋足）

ナラの木を切ってくる。ナタで割り、板にして神棚を作る。棚は吉方に作る、棚は川へ流したり、ヘッツイでもした場合もある。（浅部）

正月のオタナイタはならの木でつくる。尺二寸に切ったならの木を割って、大きいものなら三枚、細ければ五枚とか七枚並べて、尺二寸の正方形に近い形につくる。オタナは毎年アキノカタにたてるので、暦をみてからつくったがしまいにはイナリになって、常だなになった。

たな板の後に巻きわらで新しいヘイソクをたて、笠木の鳥居に両方へイソクを下げる。ヘイソクはカンヌシサマに頼んで切ってもらい、新しいおふだも来る。

オタナの板は毎年新しくつくるもので、しばってとっておくもので、屋根のアイダッコ（間）にさしておいたこともあり、最近はじゃまになってしまうので、三本辻に出して燃してしまった家もある。

むかしは、兵隊で戦地へ行く人にこの板でもってオコワをふかしてやると無事に帰れるといった。（石鴨）

二十八日ごろまでに、山からナラの木を伐ってきて、割って八枚の板にして棚を編み、アキの方に向けて飾る。作る家もあるが、作らない家もある。（皆沢）

二、三年前までは明の方に正月棚を作った。神官から幣束を作ってもらって飾り、松飾りやお供え餅を年神へ一組大きいのを供えた。（居館）

カド松　神棚三カ所、聖徳太子、（床の間）裏様、仏壇、ハタ神、井戸神、火防の神（勝手の神）等にたてる。（居館）

一ノ瀬イッケ（二軒）、籾山イッケ（五軒）ではカド松を立てない。昔門松を立てていたらお客様が来たので、そのもてなしをする方が大事だからというので立てなかった。家の中にはお松を飾る。（皆沢）

茶松　正月の松かざりに、松を紙でくるんでカンゼヨリで玉を結んで上げる。朝茶をこしらえてはこれに茶をかけて神だなに上げる。朝早く起きて水を汲んで来て、灯明は火打ち石で上げた。手がさわらないもので、これを茶松という。（石鴨）

シメ飾り　シメ縄に幣束・カキダレ・柿・コンブ・ミカン等をはさんで上げる。オオシメはシメ縄をなって、わらを二本ずつ下げて飾りを付け、間にカキダレを挟んだものを、八畳の部屋全体に張り廻した。棒ジメは三つぐり（三本縄）になう家もある。（一ノ瀬、籾山イッケ）松飾りを作るのに半日もかかった。（皆沢）

飾り物

オタナの笠木になわをはり、両方にヘイソクを下げるが、そのほかに、笠木に直接ほしがき、みかん、こぶをつける。ほしがきは金や財をかきこむため、みかんは正月だからダイダイの代りで繁昌をねがい、こぶは巾の広いのをかけてよろこぶという。

年神さまだけは毎年オシラキを新しいものにし（小鉢）、ふつうのひら膳も一枚買うしきたりになっている。（石鴨）

供え物　元日から三ガ日は、もちなしでやり、年神さまに上げるものも、おすいもんのミをすくってオシラキに入れて上げる。ミは、にんじん、だいこん、ごぼうなどで、三ガ日はシラメシは食わない。うどんやそばで、ごはんをふかすこともしない。

一時ぞうにをつくったこともあるにはあったが、長くはしなかったようで、三日間はオシラキに重ねて上げる。(石鴨)

安之丞さんの家では、お供えの餅は丸くなく、四角に切って、半紙で包んで見えないようにして上げるので、カクシモチとよんで、ふつうのオソナエはとらない。カクシモチも粟もちとシロモチとでやる。

安之丞さんの家と向う二軒、若宮とシダデとで五軒ほどの家がオソナエはとらない。(石鴨)

一日～三日はお供えの上にオシラキに雑煮をおく。また小松飾りの上に小さく切ったお雑煮をおく。(今倉)

家　例　シメ縄のあるうちにトロロ飯を食うと風邪をひかないという(皆沢)。

三が日はうどん・ソバの家が多い。二日の夕食はご飯にする。四日の朝はオジヤを作る。七日の朝は七草がゆにする。そのほかは自由だった。(皆沢)

元日の縁起で「三ガ日は包丁つかわず」といい、七つ切だめに煮た物を入れておくことになっていた。(大門)

三ガ日には、朝、ゾウニ、昼、ウドン、夕、ゴハンの家が多い。

ミソカソバを残しておいて元日の夕方食べる家がある。また、三ガ日の朝食にオハギを作る家もある。(鍋足・浅部)

三ガ日はゾウニの家とソバの家とある。魚にタラを出すのが多い。昆布巻は中に塩サケの頭を入れコブノヘリ・イモガラ・カンピョウで作り供えた。(居館)

前原政男さんの家では、年内もちはいけない。暮のうちに正月のかざりはしておくが、もちは元日につく。

小正月のまいだまは木にささず、ますに山盛りにして上げる。(石鴨)

下の前原イッケは、正月の三ガ日はホウキをもってはいけない。その間はゴミは箸で拾う。

ふつうの家では大晦日にオビドからどこからきれいにそうじをしておいて、元日は十時前ははき出すな、という。(石鴨)

神棚を乾いた新しい手拭を雑巾にしてふき、その雑巾をそのまま三ガ日動かさずにおく家がある。(居館)

門　付　二月の一、二日の頃、三河万歳がきた。つづみをたたいて縁起のいいことをいっていく。宿にする家がきまっていた。米を三・四合もたせてやった。万歳がふざけるのと、雪が降ってもなんでも細い山道を登って座間の方にいったのをよく覚えている。(鍋足)

昔は二人万歳や獅子舞(二人や一人)、角兵衛獅子が来た。(居館)

春ごま　明治二十年頃きたのを記憶している。(鍋足)

昔は正月に春ごまが来た。(居館)

二　日

山入り　二日の仕事始めの日が山入りになる。ちょっと行って木を一本でも切って来る。ごへいそくと小さいオソネエをもってゆき、山の神さまのところ、近くになければ仕事場の足を踏まないところへたてる。

この日に行けないときも、別の日に行くとき新しいごへいとオソネエをもってゆく。

山の神さまは男の神さまだ。(石鴨)

仕事始め　もとは炭焼きがさかんだったが、二日の仕事始めにはまちがいなく山へ行った。三日は不浄日なので休んだ。(皆沢)

昔は「朝織り」といって、朝ちょっと機織りをした。(猿石)

男は山仕事を、たとえ半日でもやった。また木を一本でも切った。

女はテバタ（桐生の問屋からの賃機）を織った。（鍋足）
洋服屋では裁断のはじめをする。この辺では山仕事をする人が多い。（浅部）
事始めに女は機織りで一尺織った。男は荷車引きで材木、薪、氷を運んだ。茂倉に氷池が三つあった。（居館）

初　荷　炭を馬につけて桐生に持っていった。桐生からは米をつけてきた。馬には鈴をつけた。また、メリンスの腹掛けをつけたり、きれいな荷鞍をつけたりした。（鍋足）
初荷にはスギ・ヒノキを出した。（昔は梅田は炭と材木で食っていた）。また、茂倉の氷池から氷を車で停車場通りの小村へ出した。（猿石）
印半纏を着て、荷に日の丸をつけ荷車で運んだ。荷は炭が主であった。（浅部）

三　日

厄落とし　今はしない。もと佐野大師さまへ正月三日に行った。（皆沢）

四　日

オタナサガシ
正月四日に、年神さまに上げたりしたものを入れておじやをつくる。おじやのこせえ初めだなどといってつくり、これを食べると「夏のハエに酔わない」といい、まちがってハエが食いものにたかっても腹を病まないといった。（石鴨）
四日は雑煮をおろしてオジヤにして、また神様にあげる。この日お寺さんが半紙、お札をもってご年始に来る。（今倉）
年神様への供え物を上げだめて置いて、下げてオジヤにした。七日にする家もある。（皆沢）
三ガ日の供え物をさげてオカユにして食べた。食べると風邪をひかないという。（鍋足）
三ガ日にあげた物を下げて、オジヤにしてまた上げた。（居館）

寺のご年始　坊さんが年始に来る日で、ふつうの年始はしない。（皆沢）
半紙一帖にお札をつけて、坊さんが年始にきた。（鍋足）
お寺さんが年始にくる。お札を持ってくる。こちらはだいたい三日に行く。（居館）

五　日

ナズナ取り　七草ガユのナズナをとっておく。一夜飾りと同じで、前日にナズナをとるのはよくない。（鍋足）
四日に下げたお供え餅をかいて、焼いて上げる。（居館）

六　日

ツメ切り　しない。（皆沢）
七草の用意をする。（居館）

七　日

七草げえ（かゆ）　塩気を入れないかゆで、ナナクサナズナセリタタキといって、セリ、ナズナ、モチグサ（ごぎょう）ハコベ、ナ（すずな）ダイコン（すずしろ）などで七つになるようにしてつくるが、厄年の者がいるときはセリを入れないで他のもので間に合わせる。厄年の人がセリを食べてあたるとなおらないといわれている。厄年は男二十五・四十二で、女は十九と三十三歳をいう。（石鴨）
七草粥はナズナ、ミカンの皮、大根、人参、里芋等七種の野菜を用いる、これを年神棚の下にまな板をもって行って、みじん切りにしてお粥に入れる。昔は

「ナナクサナズナトウドノトリガ
ニホンノクニニワタラヌサキニ
ストトントントタキモウセ」
と唱えたものである。
この日はお粥のたき始めで、七日の粥の前に病人が出てお粥をたくことは縁起が悪いとされる。（今倉）
ナズナを入れておかゆを作り、神様に供える。ナズナを入れれば七色入れたと同じである。別にたたかない。アズキは入れない。初めてのかゆである。（皆沢）
七草ガユには、コメ、ムギ、ナズナ、セリ、ホシガキ、ダイコン、ニンジンを入れる。（鍋足）
ニンジン、ゴボウ、ダイコン、カンピョウ、サトイモ、コンニャク、ナズナを入れる。（浅部）
シヤミセン草は一つで七草とされていた。普通は、ヨメナ、ツクシ、ゴボウ、ナ、ハコベ、大根、人参。（大門）
七草はナズナ・セリ・ゴボウ・ホトケノザ、あと不明、おかゆにたきこんで煮て上げる。今はほとんどしない。（居館）
七草粥は「セリ、ナズナ、ゴギョウ、カブラナ（ハコベラ）ホトケノザ、スズナ、スズシロこれぞ七草」といって、これらの入った粥をたべると病気にならない。風邪をひかないという。（萩平）

唱え言　七草を切りながら「ナナクサ、ナズナ、ニホンノトリト、トノドノトリト、ワタラヌウチニ、ストトントン。」と唱え言をする。（鍋足・浅部）
「ナナクサ　ナズナ　トウトリノ　ワタラヌウチニ……セリタタキ。」（居館）
「ナナクサ　ナズナ　トウトノ鳥ノ　ワタラヌウチニ　ツリ橋ワタレ」（大門）

嫁・聟の年始　嫁に行って二、三年は、嫁・聟が赤飯をもって実家へ年始に来る。一泊して八日に帰る。（皆沢）

八　日

針供養　戦前一月八日に行なった。七日までは針をいじってはいけないとされていた。この日針坊主を解いて、針を全部出し、欠けたものなどを出して火にくべた。使える針は銀紙に包み、新らし針坊主を作る。この日すしを作ってたべた。それはお針の師匠の家に、一人米二合位持寄り、海苔、油揚、お金を五十銭から一円位出し合い、オチラシ（五目）飯を作るのであるが、師匠には別にお祝いをした。（普通は五円位の襦袢の襟を贈った）。（萩平）

十　一　日

サクタテ　この村には倉はないから倉びらきはない。十一日はサクタテというのをする。
麦の俵を積んである上にタワラガミサマのへいそくをたてて正月をやるが、このごへいをもって畑へ行き、たとえ三尺の長さでもよいから三さくのさくを切って、まん中のサクにごへいをたてる。そこへその日にできたうどんとか、まんま（何もなければオサゴでもいい）を上げて来る。（石鴨）
十一日は百姓の正月で、クワイレ正月といい、畑に小さく三さく切る。そして米俵にお飾りをしてある（俵神様という）そのお飾りの小さいお松と幣束を、その「さく」に立てる。そして「さく神様」となる。この神様に神酒、餅を供える。（今倉）
十一日は鍬入れ正月で家の台所の俵の上に飾っておいた作神様のお松を畑に出して「鍬入れ正月」をする。台所の俵神様に飾った松しめを麦畑に立て、尾頭付きの魚とおミキ（神酒）を供え、三サクほどサクッテくる。（皆沢）
鍬立て様は、畑に半サクも鍬を入れて御幣と松シメを飾る。今でもす

る家がある。（皆沢）

十一日は鍬立てで、畑に、オミキ、オサゴ、カシラツキを持っていってサクをきる。少くともニサクはきる。（鍋足）

くわ入れは鍬（古ければ洗っておく）の柄にわらでシメをつけ、それを持って畑へ出て、一くわでもサクを立てる。畑には暮の二十八日頃のお飾りの時お松を立ててある。そこへお供え餅や三ガ日に上げたものを、上げて、三サクぐらいきる。（居館）

倉開き　初めて倉を開き、米一升持ってきて、畑にまいてくる。（皆沢）

正月午の日　正月の初めての午の日に、マイダマを十二粒桑の木にさしてあげる。十二日前にある。（石鴨）

十二日

山の神　十二日は山の神様の仕事する日だから、人間の山仕事する人は休む。地名に十二という所はあるが十二様とはいわない。（居館）

十四日

お松ひき　お松をさげる。お松の一部は、初午にイロリでもす。その他はとっておいて、ヒョウが降るときもした。火をつけて庭に投げると、ヒョウが作物にあたらないといわれている。（鍋足）

お松は川へおさめる。（浅部）

十四日には正月のお松を全部下げて、マユ玉と取り替える。（居館）

十ニゼン様　一月十四日にお重に一カマ御飯を炊いて入れ、それに十二膳のハラミ箸を立て、上げる。神様は十二ゼン様という。大神宮様の隣、年神様の棚の上におまつりしてある。

神主は十二天様といっている。幣束を十二本藁ツトに立てる。神棚へ一年中上げておく。（居館）

マユダマ正月　十四日は若正月、マユダマ正月という。カザリカエの日で、お飾りの松をさげて、カズ、ニワトコで作ったハナの先にマユダマを立てたのを、そのあとへ立てる。

この日十二ゼン箸、ハラミ箸、カユカキ棒を作る。蚕神はオシラ様とも十二ゼン様ともいう。このオシラ祭りには、お重にご飯を一杯入れて、十二人分の箸を立てて供え、また大神宮様、年神様にあげた。

養蚕時には、蚕が眠る度にマユダマを作り、蚕にあげた。休みは四回（シジ休み、タケ休み、フナ休み、ニワ休み）またマユを糸で結えつないで根本山神社に供えることになっている。（今倉）

十四日の夜はモノツクリで、その家の主人は家族数だけヌデンボーでハラミバシを作る。これで十五日の小豆粥をたべる。（萩平）

小正月ということばは使わず、ジュウゴンチショウガツとか、オマイダマショウガツという。

十四日にまいだまをつくり、おかざりげえをする。床の間にはボクーならの木にまいだまをさし、もなかの皮のようなコバンを買ってつるす。木は適当なのがなければ何でもよい。ドンドンヤキというのはないので、十九日なり、二十日にとる。（石鴨）

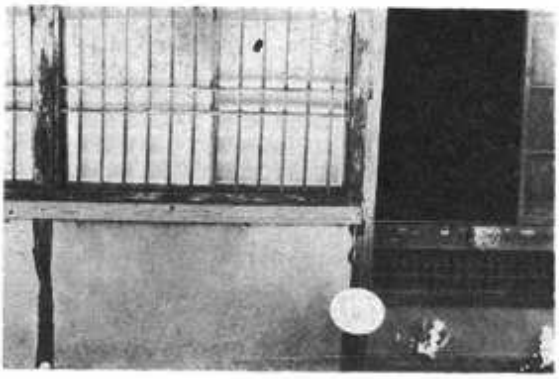
マユ玉　米の粉をこねて作り、ミヤマハギの木にさして、神棚・年神・カド松に供える。

前には山ックワのボクをせんぐりせんぐりこさえておいて、マユ形の大きなだんごを十六個作り十六メー玉（玉ンマエの形）としたほかに、細かいマユ玉をたくさん作って、枝いっぱいにさした。それに小判という米の粉で作った飾り菓子の白・赤・黄色に染めたものなどを飾りつけ座敷いっぱいに飾った。（皆沢）

十四日にマユ玉を作ってハギの木にさしてかざる。（鍋足）

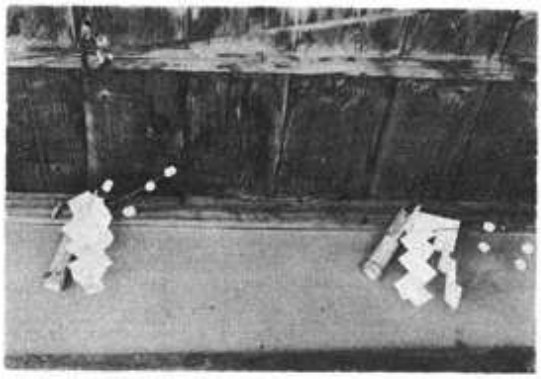
十四日にお松と引き替えにマユ玉を飾る。マユ玉の木はたいがいナラにつけるが、年神様には梅の枝でつける。年神様にはマユ玉形を十二個、座敷のボクには卵の形を十六個つける。（居館）

若餅　小正月のモチは十四日につく。（鍋足）



小正月のマイ玉　右は紙屋のサマという格子窓
（皆沢）　（撮影　関口正巳）

ハナ（清水）　（撮影　阪本英一）



小正月のマイ玉　入口の軒下にさす（皆沢）
（撮影　関口正巳）

松のかわりにするのでよけいにぎやかだった。竹を三本に割り、両方に一つずつハナをつけ、まんなかはつぼみといって木のままつけた。家の中は五組か七組で、その他は小さい。墓には仏花といって三段にかいたものを立てた。（石鴨）

ハナはニワトコの木をかいて作る。大神宮様へは十六ダンのハナを上げる。墓地へは三ダンぐらいのハナを上げる。庚申様へも上げてくる。今はあまりしなくなった。（皆沢）

ハナノ木・ニワトコの木を作ってハナをかき、神棚等へマユ玉と一緒に供える。十六というのはハナの数をたくさん作って太いのを作った。（居館）

オシラ様　オマユをあげる神様である。（鍋足）

オシラ様という語はない。マユ玉を蚕神に上げるとはいう。（居館）

十五日

十五日がゆ　あずきのがゆをつくり、ハラミバシを使って食う。三くち食ううちは吹かないで食う。もし吹けば大風が吹くといい、塩気も食わない。塩気を食うときはほかのはしで食う。石鴨の中でもシラッカユの家もあり、シラッカユにマイダマを入れる家もある。（石鴨）

前日作ったマユ玉を十五日朝煮て（マユ玉を煮るのは糸を引く意味）お湯ごと吸う。おかずは沢庵ぐらいである。

またこの日小豆、塩の入ったお粥を煮る。カユカキ棒は二本作り、四つ割りにしてマユ玉をはさみ、これでお粥をかき廻す。そして一本は半紙でくるみ、水引きをかけて年神棚におき、十七日に田圃にもっていく。正月の飾りは十七日におろし、オエビス様の飾りだけは二十日までおくことになっている。

ハラミ箸はノーデンボーで家族の人数だけ作る。そしてお粥をたべるが、そのときは子供からたべる。

小豆粥は熱ざましといわれている。こうしたことから厄病除けともさ

小正月には、大正月と同じ餅を、多少少なくつく。（居館）

ハナ　十五日正月には、トロノキという木でハナをつくってかざる。十一日に山から切って来てほしておき、ひまのときに作っておいて十四日にかざる。神さまには全部上げるので、おそなえをかざったところはすべておかざる。

れている。（今倉）

小豆粥は塩気を入れないもので、一杯だけおかずなしでたべる。そのあとはおかずと一緒にたべる。おかずなしでたべることをアワセナイでたべるという。これは熱いから吹いてたべてもよい。お粥をたべた器、なべを洗った水を、ヌキウチ（軒内）を一巡り撒き歩いた。こうすると蛇やむかでが入らないという。

小豆粥はカユカキ棒を四つに割り、マユ玉をさして二・三回かき廻す。そして年神様にあげる。このカユカキ棒は伊勢参宮に行くとき燃して、茶をわかして飲むと乗物に酔わないという。（萩平）

おかゆを吹かずに食えといわれる。わけはわからない。（皆沢）

十五日にアズキガユを作る。このカユはふいて食べてはいけない。ふいて食べると田植えの時に大風になる。（鍋足・浅部）

おかゆは吹いて食べてはいけない。おかずなしに一杯は食べる。（居館）

ケエカキボウ　ハナをつくるときにケエカキボウとハラミバシをつくる。ヌデンボウの木で尺二寸の長さに切り、一方をとがらせ、片方は割る。十五日ゲエのとき、割ったところにまいだまをさし、かゆをおろすに先立ってかゆの中を三まわりまわしてかけばよい。使った後は年神さまに上げる。年神さまのオタナを外したときいっしょにおろすが、これを集めてゴマをたいたときに使ったこともある。（石鴨）

ケーカキ棒は　ヌデンボ（ヌルデ）の皮をむいて一尺二、三寸に二本伐り、上を四つ割にしてマユ玉を挟んで作る。これで十五日のかゆをかん回して年神様にあげておく。田植えまで置き、植えた田の水口に立てて、田植えのごちそうを供えると、米がとれるという。（皆沢）

カユかき棒の先を四つにわり、そこにマユ玉をはさんでカユをかきまわす。（鍋足）

ノデンボウの木の先を四つにわって作る。使った後年神様に上げておいて、二十日正月に歳神様のオタナと一緒に屋根の上に上げておいた。

ケエカキボウ　（清水）
（撮影　阪本英一）

火事にならないという。ただし、これは農家ではない家である。（浅部）

ハラミバシ　ヌデンボウの木で、家の人数だけ作り、十五日のかゆをたとえ一口でもこのハシで食べる。このハシはショッパエものを挟んではいけないので、二・三口だけでもホグイ（おかずなし）にする。これはショッパエものを食べないと、ふだん粗末にした有難味がわかるからだという。このハシをデーガラバシともいい、昔はみな作った。（皆沢）

ヌデンボウの木ではらみ箸を作る。（鍋足）

ノデンボウでハラミバシを作り、十二膳さまへ上げる。この箸で塩っぱいものを食ってはいかぬ。（居館）

アボ・ヒボ　竹の先を三つに割り、上にニワトコで作ったハナをつけ、下にアボ・ヒボ（けずらない）をさしたものを、二十四本作り、全部神棚・カド松・稲荷様（ウジ神様）へ供える。（皆沢）

蛇除け・虫除け　十五日がゆを食べた後の茶わんやかまなどの洗い水と、まいだまをうでた湯とをまぜて、どびんか何かに入れて、家のまわりにトギレのないように注いでまわると蛇が「もってえねえ」というので入らない。虫けらも入らねえという。だから十五日がゆを食べるときは、あんまりきれいに食べちゃわねえで、ちったあ残しておいて、うんとわってふやせ、といわれた。（石鴨）

小正月のマユ玉のうで湯を家の廻りを一周してまいておくと、青虫が入らない。（皆沢）

カユを年神に供え、オシラキ（カユをもる器）をカユを煮たナベで洗い、その水を家の廻りにまく。水がとぎれないようにまく。（鍋足）

成り木責め　ゆずの木には、ゆずの実をもっていって、なるようにといって、刺につっとおす。

柿の木などは、なたとズリ（のこぎり）をもって二人で行って、「ならねえとぶっきるぞ」と一人がいうと、もう一人が「なりますなります」といってやったという話は聞いている。（石鴨）

ナリモノの木にナタで一寸きずをつけ、カユをそこになすりつける。（鍋足）

スデンボの丸太を縦杵の形に削って作り、成り果物の木をたたく。柿の木をその棒でたたいた。（皆沢）

道祖神　祭った覚えがない。松飾りやシメは川へ納めて流してしまう。（皆沢）

この辺では聞いたことがない。松小屋などの風習は全然ない。（鍋足）

ここではやらない。（居館）

十六日

休み日　ガキの首も許される日、懲役人も許される日、十五日、十六日には休める。（皆沢）

ゴミタマ様　正月十六日に家の人数分のハラミバシを、重箱に盛ったごはんにさして、年神様に供える。（大門）

馬頭観世音の縁日　今倉の碧雲寺に観音堂があったが、四・五年前の台風でつぶれた。そこへ前には馬を洗ってきれいにして鞍をつけて乗ってお参りに行った。ウマヤゴイを出してきれいにした。（皆沢）

正月十六日と盆の十六日に、観音様に馬をつれてきた。奉納馬頭観世音と書かれた絵馬をもってお参りにきた。この部落の当番の人が、馬頭観世音とあるだけのお札と、お供え一組を渡す。お供えは馬が食べた。このお供えは組合の人にもくばった。

四、五年前までは、一、二頭馬がきたが、最近では馬のいる家はほとんどない。（浅部）

十六日に浅部の学校のそばの馬頭観音へ馬でお参りした。茂倉にも行き、観音橋を渡りおだんごなどもらった。（居館）

正月十六と盆の十六日に馬屋のこい（堆肥）を取り出してきれいにして、馬を休ませる。（大門）

十七日

マユ玉取り　たいてい十七日にマユ玉を取るが二十日正月まで置く家もある。取ったマユ玉は風に吹かれぬようにしまっておく。（皆沢）

マユかきでマユ玉は二十日に下げる。固くしておかゆに入れて時おり食べる。（居館）

正月ガラ　正月十七日は正月ガラといって半日休む。（浅部）

別に何も祭らない。（皆沢）

十八日

十八日ガユ　正月十五日の小豆がゆをオヒラキの上に上げておき、この日に下げて食べると風邪にかからないという。（大門）

二十日

シマイ正月　カケ正月　二十日には、歳神さまのオタナイタを上げたり、下げておいたカケジをまいたりして片づけるので、シマイ正月とか、カケ正月という。そうすればお正月さまがハシッチャッタ（行った）わけになる。（石鴨）

あそびじまい　この日はあそびじまいといって、桐生の西宮、その前は足利にいき、お札をうけてくる。（浅部）

カユかき棒のところでものべたように、歳神様のオタナを屋根に上

げ、それで火事にならないという。（浅部）

二十日正月は正月の終りで、年神様から下げたお供え餅でお汁粉を作り、皆で食べる。（居館）

えびす講　秋ほどにはしない。

むかしは正月のカケジをしまうときに、えびすさまのカケジだけは外すのを残しておいてやった。

つくるものは秋と同じようで、あまりにぎやかにはしない。（石鴨）

二十日正月はオエビス様の正月で、ウドンをお供えにあげる。オエビス様の供え物を、おろすことをオエビス様の福分けといって、細かくわけて他の神様にあげる。（今倉）

エビス様に御飯を山もりにして上げ、一升ますにお金を入れて供えた。「朝エビス、ヨーヤマの神様さま」といい、夜は山の神に向けてオヒラキに新しい食物をのせて供えた。「〇〇山の神さま」と名ざして家の中から拝む。

縄ないは別にしない。前は、二十日正月を過ぎなければ、仕事をするものではなかった。（皆沢）

えびす講で、うどんを作って供えた。（鍋足）

二十八日

しまい正月　しまい正月は別に行事をしない。二十日正月でおしまい。（皆沢）

二　月

二郎の一日（一日）

むかしは「二郎の一日コガネで祝う」といって、ちっとんべえの金でやるというので、いくらかオゴッツォをコサエて祝った。何かかわりもんぐらいで、どこの家でも気に入ったものでやればいいんだんべえといった。

いまはかまわない家が多い。（石鴨）

「ジュロウの一日は黄金で祝う」といい、あずき飯を大神宮様の棚にあげた。（浅部）

二月一日を昔は二郎の日といった。川内に二郎の一日を馬鹿にして、半狂いになった人がいる。（居館）

二月一日は「月まいり」といい神社にお参りする。（大門）

節　分（三日）

豆まき　赤飯と豆投げでやる。

むかしは毎年新しい素焼きのホーロクを買って豆をいったので、節分前になると背負って売りに来た。いった豆はオシラキか一升ますに入れて神だなに上げておき、年男がまくときは年神さまの方へツンムイテやり、家の中を三場所とか五場所とかにまく。戸を開けておいて、「福は内、福は内、鬼は外」とやって戸をしめる。すむと福茶といって豆とお茶をまぜたお茶を神に上げてからのむ。お茶菓子としては冬至の日につけておいたゆずのみそづけを食べる。

豆はまいたのを拾って食べたり、年の数だけ食べることになっている。（石鴨）

節分をトシトリという。女衆が豆をいって神様にあげておく。豆をいりながら、鰯の頭を木の二又にさし、家中のものがつばをかけながら、「ナムシコウサクノムシノクチヲヤキトメル、ブッブッ」という。

一方年男はお湯に入り、身体を清めてお飾りをし、夕食後神様にあげておいた豆をさげ、お供が提灯をもち、大神宮様、座敷、外のお稲荷様、水神様、便所神に詣り、部屋に帰って福茶（大豆・みかんの皮のお茶）を神棚にあげ、次で家族の者一同が飲む。福茶を飲みながら自分の年の数だけ豆をたべる。

豆の一部は、雷豆といって神棚におき、初雷のとき家中でたべる。そうすると雷が落ちないという。また厄豆といって紙をねじってその中に

入れ、これで身体中をなで家中の者を廻して同様なことをしたあとで、三本辻に送り出し、うしろを振り返らないで家に戻ってくる。また神棚にあげた豆の一部は、粉にして大ダメの中に入れ、そのタメを畑にまく。

なお、桐生市広沢町では、この日正月のお飾りをさげておいたのを神社にもって行って燃す。このとき火くずにさわっても火傷しないという。(今倉)

二月三日か四日でトシコシという。ホーロクで豆をいり、一升桝に入れて年神様にあげ、その豆でトシをとって豆撒きをする。この豆をとっておいて初雷のときたべると雷は落ちないという。トシコシの夜、鰯の頭を柊の木の枝にさして焼きながらツバをつける。このとき「油虫の口を焼きます」と唱える。これをヤカガシという。鰯の頭を水の中でとかし、その水を菜、大根にかけると虫がつかないという。またトシコシの豆を紙に包んでしばったうえ、イロリ端やナゲシの所にさしておき、またはヤカガシの枝に一緒にしばっておく。(萩平)

だいたい長男が豆まきをする。家の中からお松を上げた所、畑までまき、最後にご不浄にまく。

豆をいって年神に供え、年男が夕方風呂に入ってから豆をまいた。「福は内、福は内、鬼は外」と唱えながら、座敷で二、三回まき、外に出て屋敷稲荷、川バタ、便所などに豆をまいた。家によっては、夕飯を半分食べて(半食いにして)豆をまき、雨戸を明けて「鬼は外」と唱えて豆をまくと、戸をぴたんとしめる、外に豆をまいてきてから夕飯のあとを続けて食べる。(皆沢)

お豆をいって自分の家の稲荷様に上げる。あとは「福は内、鬼は外」を個人でやるだけである。(鍋足)

豆　豆まきの豆はまいた残りを大神宮様に上げておき、福茶にして飲む。また、年の数だけ食べるものだという。(皆沢・居館)

年越し魚　夕食はふつうの家は白のご飯だが、粒山イッチはアズキご飯だった。年越し魚はイワシを使うか、川のカジカを使う。昔、福島～茨城の海岸でイワシが取れ過ぎて、虫が出てどうしょうもないので、焼きはじめたという。(皆沢)

ユ　ズ　豆まきの日に、ユズをミソに付けたものを食べると、中気のくすりになる。(皆沢)

厄払い　新しいホウロクを買ってくる。菊のカラとナスのカラと豆のカラで豆をいった。マメにするカラ、借金ナスカラ、よい事キクカラの意味である。

豆をまいた後一つかみを三本辻におさめて厄払いとする。あと一つつみを年神様に供えておいて、初雷の時食べる。

豆は年の数だけ食べるといわれているが、十の位はとって食べる。

豆はその他、福茶にする。福茶は神仏に供えてから飲む。

節分には、福茶とユズと豆はきりはなせない。ユズは年越しに食べるように、冬至にみそづけにしておく。(浅部)

ヤカガシ　節分の日に、二またになったならの木の棒に、いわしの頭をつっとうしてユルリで焼いて年神さまに供える。焼くときには「〇〇の虫を焼きます。まむしの口を焼きます。鳩の口を焼きます」といって焼くが、まむしにかまれないようにとか、鳩に畑を掘られないようにということである。

いまはユルリがねえからやらなくなった。(石鴨)

豆はホウロクでふつうの火をもやしている。その時、ナラのザンマタ(二又)にイワシの頭を二個、相向かいに腹を合わせてさし、ツバキをひっかけて焼く。「ムカデの口や蛇の口を焼く。」「虫の口を焼く。アビラウンケン」などと唱える。(皆沢)

イワシの頭を木の二又にさして、イロリでやき、作物の名をあげて、それを食う虫の口をやき申すといってつばをかける。それは豆と一緒に年神様に上げ、後、トボグチにさしておく。こうするとナスやダイコンなどに虫がつかないという。そして、ナ、ダイコンをまくとき種に入れて

まきこむ。（鍋足）

桑の木の二又にイワシの頭をさす。それを、豆をいるときの火のわきにつきとおしておいた。そして「ナスユウガオの虫の口をチリリチツとやきとばす。四十二種の耕作の虫の口をやきます。」と唱え、ツバを三回ひっかける。（浅部）

イワシの頭を豆がらにとおして、火鉢で焼いてツバキをかける。「アビラウンケンサマ　アビラウンケンサマ　菜大根の虫の口焼きます」と唱える。（居館）

コト八日（八日）

コト八日は秋と同じことをする。

勢多東の草木ではねぎを燃す。ねぎをなすりつけるのと同じで、やっぱりにおいでヤクジン神を追いはらうのだという。（石鴨）

八日はコト八日、この日ヒイラギをとぼぐちにさして魔除けとする。またメカイにヒイラギをさし、庭の中で転がし廻す。これをダイマナクといい、風よけになるという。（今倉）

厄除けといって家のとぼぐちにネギを焼いて塗りつけ、ヒイラギをオショッテきてさす。またこの日イモメケーに、薬をうつカケヤ（木槌）をのせ、とぼぐちの脇に置く。これは戦前まで行われていた。（荻平）

コト八日はデーマナクといい、「一ツメマナクノダンジュウロウガ来ル」といって、草刈り籠か、イモメケエをおっかぶせて、わらたたきぎねをいっつけ、ヒイラギをさして厄病除けをした。また、ネギなどを焼いてトボロの柱になすりつけた。十二月八日にもした。（皆沢）

こと八日はことはじめともいい、棒の先にメカイをかぶせて、ひいらぎを二本さす。ダイマナコといい悪魔よけである。（浅部）

メカイに柊をたて、庭に竿を立てた。「水をならさぬコト八日」といい、昔は仕事を休んだ。ダイマナクが来るという。（居館）

初午（午の日）

稲荷祭り　おいなりさんにハタを上げ、いわしのオカシラツキ、トウフのスミキリ（角々をほうちょうでおとす）でおこわを上げる。おこわは昔はどこの家でもふかしたが、いまは半分ほどだろう。

マイダマをつくり、オシラキに二つずつ入れておいなりさんや天神さんにも上げる。

この日炭焼きは絶対やらない。この日は火早いというので火を扱うことは一切休みにする。（石鴨）

初午には火を用いない。従って炭焼きを休み風呂もわかさない。五色の旗（青・黄・赤・白・黒の五色をつないだもの）に「奉納・正一位稲荷大明神　〇〇家」と書いたのを一対、油揚げ、スミドウフ（豆腐の角を落したもの）赤飯・ゴマメ、お頭つきなどを稲荷様にあげる。養蚕をする人はオマイダマも供える。（今倉）

屋敷稲荷に旗を立て、アンコの中にダンゴを入れてかきまぜたブックルミダンゴを作って供えた。また、とうふの四隅の三角の所を取り、スミドウフとして、頭付の魚や塩とともに稲荷様に供える。（スミズカリの作り方は知らない）。（皆沢）

オイナリ様に正一位稲荷大明神という旗をあげる。この日に風呂はたてない。（浅部）

初午には旗を上げて、赤飯をたいて稲荷祭りをする。油揚・とうふ（三角に切って、スミドウフという）を上げる。狐はスシが食べいいという。「初午は火にたつ」というので、湯はたてない。（居館）

山神祭り　初午は山の神祭りの日で、山仕事をする人は休んで、山神講などをする。山仕事や炭焼きをする人たちが仲間で宿に集まり、金を出し合って餅をつき、十個ぐらいずつ分ける。オミキスズ（竹）に酒を入れて炭がまのそばに供える。（皆沢）

初午は「火にたつ」といって、炭を焼くと火事になるというので、カマを止めてみんなで休む。三、四十年前に落合の人がひとりで炭を焼いていたら、火事になったことがあり、それから初午に炭を焼く人はいな

い。（皆沢）

針供養　むかしはこの地では針供養などはしなかった。かえっていまの人の方がやるようになってきている。（石鴨）

針供養は個人の家では別にしないが、お針のけいこに行く人たちがする。（皆沢）

桐生市で修業した洋服屋であるがその家では、豆腐をかって針をさしそれにゴチソウをあげて、最後に畠の安全なところにナムアミダブツといってうめる。豆腐にさすのは最後にやわらかいものにさしてやるという意味である。（浅部）

針坊主に供えたものをいく人か呼び、お師匠さんが先にたって弟子たちとお参りして、赤飯のごちそうを食べた。八日だか、十一日だか。（居館）

ねはん（十五日）

寺へお参りに行く。寺ではハナダンゴを作る。米の粉をこねて色粉を付け、花のようにきれいにしたダンゴで、味はつけない。（猿石）

天神待（二十五日）

小学生全部が参加する。都合のよい家を宿とし、米を持寄り、ごはんをにて天神様にあげてたべる。（今倉）

子どもが集まって、天神様のお姿を飾ってやった。（鍋足）

天神講・梅若・ケイヤク等はやらない。（皆沢）

三　月

王子稲荷神社祭り（第一日曜）

昭和二十六年以来二渡神社の分神になった王子稲荷神社の新しい祭り方を決めて、二月の月遅れの初午と天祭りを一緒にした年一回のお祭りをしている。二渡の南部の橋詰（十六戸）、井戸谷戸（十六戸）、作網（十一戸）の三コーチ四十三戸が、男も女も子どもも全部休んで王子稲荷社神社に寄ってお祭りする。組長三人と、クジ引きで世話人が出る。祭りの前日に半数が出て神社掃除や灯明・上げ物・お札つくりなど祭典の用意をいっさいする。次ぐ日に半分出て、当日は全員が参加する。初めのころは花火・のど自慢・神楽等を五、六年やったが、最近は余興をしない。七十歳以上の年寄りを招いて敬老会をやったり、神社総代や役員などを招待して、飲み食いする。にぎわってもけんかなどはない。桐生の天満宮の宮司が来る。

もと東京の王子から持ってきて王子稲荷として個人で祭っていたのがもとで、皆で祭るようになったもの。

稲荷祭りには社務所の名で招待状を出したり、紙の旗も五十本ぐらい刷って参詣人にくれる。

午前八時ごろから集まって井などでご馳走を持ち寄り、分類して小皿に分けてお客に出す。赤飯は神社でふかし、へぎ包みにしてつまみにしたりみやげにしたりする。十時に神官が来て準備を仕上げ、十一時過ぎに拝み始める。昼食には全部そろって、席をつくりナオライを始める。神社の方から赤飯・飴・生がし、供物等を来た人々に配る。参加する人は灯明料を包んでくる。老人で来られない人には生がし一包みを届ける。三時にはお開きになる。以前はのんべんだらりと五時過ぎまでしていたが、日がかげると寒いので切り上げるようにした。

帳場には三コーチから三人の受付が出て、包んできたハナを控える。（猿石）

テンマツリ　三月の彼岸前の日曜日に、上組九軒、下組十四軒が組ごとに分かれて、テンマツリ当番の家に集まる。天道様のお祭りで、五穀豊作、作神のお札を受けてきて祭り、お札を畑に立てる。

村役をきめて、申し送りを、そのあとでする。（皆沢）

天祭りは三月第一日曜に、組合の者が集まって、役決めをしたあと、酒を飲んでえらい騒ぎをした。お札を配って畑に立てる。

天祭りは百姓の祭りで、その年の豊作を感謝して天道様を祭る。わら

束に幣束を二・三十本もさして竹竿につけ、ご神木にいわいつける。（猿石）

天祭りは三月初めの日曜日に、コウチを廻り番にしてやる。男が料理してきて、寄って一日酒飲んで二食食べる。全員で二食分作った。（居館）

春彼岸

彼岸は春秋とも変らない。

春は草もものびていないので墓そうじは特にしない。

墓参りにはハシリクチに行く。この日米の粉でだんごをつくってもってゆき、アリギリ（全部）上げてくる。ハシリクチダンゴといい、いまは米の粉でなく、うどん粉でつくって行くこともあり、みつくろって少しつくるていどである。（石鴨）

彼岸の入り口には変りものを作って仏さまに上げる。中日にはボタ餅を作って仏さまにあげる。走り口には墓参りをして、だんごを墓に供え水と線香を供える。（皆沢）

彼岸には墓参りをする。七日間は仏壇に灯明を上げる。送り日に送りだんごを供える。（猿石）

墓参りをする。オハギを作って食べる。（鍋足）

寺や墓へお参りに行き、だんごを供える。（居館）

社日　小泉へ百姓道具や種・植木を買いに行った。（居館）

四月

節供（三日）

ひな様　月遅れの三日がひな様で、三月二十七・八日ごろ、ひな様を出して座敷に飾る。前日を「エー節供」当日を「アガリ節供」といい、草餅を菱形に切って五枚ずつ白と青の餅を重ねて、ひな様に供える。（皆沢）

月遅れの節供である。ひし餅を作った。赤（紅）、青（ヨモギ）、白、と三種作った。来客は嫁の親や親戚。長女の時にヒナ様を贈る。（鍋足）

ひな段にひな人形を飾り、菱形の餅、すし、おにしめ、蓮を供える。（居館）

初節供　ひなまつりは四月三日にやる。女の初孫には親せきやこんいな人が初節供のおひなさまを買う。嫁の親方では親王さんびなを買う。キョウビ（この頃）は御殿のついたえらいものを買うようになったので、もらう人の方も節供返しはおおごとになった。節供返しは昔はしなかったので最近十年ぐらいのことといってよい。おかえしはサクラモチで、町に注文してつくるらしいが、かたい人でこの上に酒（二合びん）とスルメ（二枚から五枚）をつけるのもある。（石鴨）

贈答は親戚相互に初節供のときだけ行なう。もらったもののうち内裏様だけは嫁に行くとき持って行く。

前日に菱餅をつき、白酒をおひな様にあげる。（今倉）

初子の初節供に親戚からヒナ人形を贈る。お返しにはおこわ（赤飯）を重箱に一升も入れてスルメを付けて返した。最近は布きれやお勝手道具などに、桜餅をそえてやる。（皆沢）

長女のとき、嫁の親元から内裏ビナをおくる。二番目からヒナの数がへる。（浅部）

初節供には嫁の家からおひな様をもらうので、お返しに桜餅をやる。（昼館）

古いひな　古いひなさまは、大がいが稲荷様にもってゆく。

天神さまの、けやきの下に出す。

川へ納める家もあるが、いくらひなさまでも、川へ流すとひっかかるからみっともないのでいやがる。（石鴨）

ひな人形をしまう日は自由。古くなったひな人形は、明神様の裏に納める。（皆沢）

雹害除け（三日）

この日雹害除けとしてボンデンを立てる。それは藁束に大きな幣束と神主の作ったお札を立て、周りに麻のシメ縄の大きいのを廻したものである。これは山に立てるもので、部落中一戸百円位の会費を出し合い、神酒、果物、野菜を供え、各自参拝してその場で下げてたべる。そして、各人には雹乱除けのお札を渡す。このボンデン立てには、一戸一人参加するが、子供達は別に山に登り、百円ずつ出し合った会費の中から菓子を買ってやる。

台・諸沢、当実平、梅田四丁目の四十戸位の人は、唐沢山のオネで竹の先にボンデンをつけて、松の木に結わえる。(今倉)

オシャカサマ(八日)

四月八日では花がないので屋根がふけないので、お寺では五月八日にする。お参りに行けば甘茶とおだんごをくれる。

この日のためにお寺からは米を出してくれといってふれがまわり、寺世話人の人が集めて、オッサマのカミサンとつくるのだろうが、一戸一合くらいを出す。

村でも、家でも特別の行事はない。(石鴨)

寺でお釈迦さまの屋根を組み立てて花で飾ってお祝いをした。女衆が寄って、米を出しっこして餅をこさえ、甘茶を作って参詣人にくれた。今は行かない。(皆沢)

お寺にいって、像に甘茶をかけた。また、ナズナを少しもっていって、オシャカ様の甘茶にひたして蚕の室にかざっておく。するとマユに虫がつかない。(鍋足)

お寺でおしゃか様に甘茶をかけた。ウツギを軒へ三ヵ所さした。(居館)

藤の花 旧四月八日には藤の花やウツギの花を神棚に上げた。カドには出さなかった。(皆沢)

春祭り(十日)

鳴神山の雷岳(ナルカーダケ)神社に皆お参りにいった。神楽を数年前までやった。(鍋足)

日枝神社の春祭りを昔は四月十日にした。今は四月第二日曜に雷電様を祭る。(居館)

城山の下の雷電山の祭りでは一杯飲む。そのお宮には、力持ち(進藤氏)が出て、五尺くらいの黒石を背負って上ったという。(居館)

山まわり(十五日)

特別のお祭りとして山まわりというのが四月十五日にある。村中から男衆が一人ずつ出て大へんな数のゴヘイをつくり、昔は三組、現在は五組に分れて屋敷神でない山々の峰などにある神さまを全部まわり、杉の葉でも檜の葉でも青い葉をとって上げ、これにオミキを注ぎ、ゴヘイを立てて拝んでまわるので、みんなまわると三里か四里はある。相当の昔からあるらしく天保頃からともいう。その後めしをたいて食うが昔は五合ずつ、今は二合ずつである。(石鴨)

四月の第二日曜の日に村中が集まって神信心する。ヘイソクを切ったのを山の神に上げて歩く。

その日や別の日に村中が集まってきめることもないが、必要に応じてきめるから不都合もおこらない。(津久原)

護国神社春祭り(十五日)

護国神社の春祭りであった。神楽をやった。(浅部)

鎮守祭り(二十日)

鎮守様(山神様といって、鳴神山の下にある)の祭りで、にぎやかであった。当番があって、その家でゴザをしき、子供に赤飯をくれた。(鍋足)

四月第三日曜が明神様の春祭り。祭り当番が赤飯・お供え餅一組・頭付魚・果物等を明神様に供える。村の人は神社に寄っておはらいを受け、社務所に集まってナオライの会食をする。神楽や獅子舞はしない。(皆沢)

四月の第三日曜に明神様のお祭りをする。もとは旧三月十五日と九月

一日が祭日だったが、昭和八・九年ごろ、神主が先生をしているために日曜日になった。子供も遊びに来られるのでいい。（皆沢）

ボンデン　明神様の祭りの翌日、四月第三月曜比叡・鍋岩・仮屋方の三か所の山の神（石宮）にボンデンを立て御幣をあげる。神主に作ってもらって山へ行く人に頼んでやるが、年一回だけ祭る。この日に道路普請と、祭りの旗じまいもする。（皆沢）

天神まつり（二十五日）

もとは三月二十五日だったがいまは四月二十五日にやる。

おこわをふかし、天神さんのお金で大きなおそなえをつくる。おそなえの上っ玉は神主、下っ玉は氏子や酒や金子を供えてくれた商人、山師などにも上げる。氏子には組長さんがくばり、カトウキンを集める。

秋の天神まつり十月二十五日だったが、これも今は十五日になっている。（石鴨）

赤飯を上げる日　神の祝いには赤飯を上げる。ケゴ（煙、湯気）の出るものを神に上げる。上げる順は神が先で仏はあとにする。（皆沢）

五　月

節　供（五日）

節供にはのぼり・吹き流し・鯉のぼりを立てる。吹き流しには丸いのもある。（紋二個つける）。五色のものもある。（居館）

吹き流し　川内の大下氏はちりめんの大巾五色の吹き流しを作った。（居館）

ヨモギ・ショウブ　五日の節供には、ショウブとヨモギを軒にさしたり、しょうぶ湯をつくって入ったりする。

のきにさすときは、大屋根（おも屋の屋根）と、物置、便所の屋根などに、それぞれ二尺間かくくらいに三か所ずつ、合計九か所にさすことになっている。いまはトタン屋根になっちゃったので、かんたんにさせなくなった。（石鴨）

昔あるところにきれいな娘がいて、おハリをしていたら、蛇が娘を見染めて若衆姿になって娘のところへ来たという。何度かそういうことがあったが娘の方もあんまりきれいな男が来るものだからどこの男かと後をつけていったところ、沼か川へ出たんだという。男の姿が見えなくなってしまったがどこからか話が聞えてきたので聞いていたら若衆にばけてきた蛇が仲間と話していることで、「おれはシャバに子どもを残して来た」という話だった。おどろいていると仲間の話声がして、「人間はりこうだから、ヨモギとショウブをテエソク（ヒトツカと同じで手の巾を尺）に切って煎じて飲まれればお前の子どももオリルからだめだ」というのが聞えてきた。おどろいた娘は急いで家へ帰り、さっそくヨモギとショウブをとって来て蛇たちの話のようにテエソクに切って煎じて飲んだので蛇の子どもをオロスことができたという。それでヨモギとショウブは屋根にさすものだという。（石鴨）

この日、よもぎ、しょうぶを屋根にさし、しょうぶ湯をわかす。こうすると蛇に見込まれないという。（今倉）

ヨモギ・ショウブを七・五・三の数にして屋根の軒端にさした。五日は「女の大将の日だ」といった。（皆沢）

ショウブ湯は五日の晩に風呂をたてた。フキゴモリは知らない。（皆沢）

ヨモギ・ショウブを屋根にさした。

ショウブを頭にまくと、頭が痛くならないといって家中の者がやる。

ショウブ酒（トックリにショウブを立てる）を女衆が飲むと、カクシドコロに蛇が入らないという。

ショウブを着物のヒモのようにむすんで、しごくとキュウキュウ音がする。虫が切れるという。（鍋足）

ヨモドとショウブをヒサシにさす。

ショウブをこまかくきざんで酒に入れる。それごと飲んでしまえなど

という。ショウブ酒は蛇をよけるという。女の人はかならず飲めという。どこかで小便をするとき、蛇が入らない。(浅部)

ヨモギ・ショウブを軒にさす。ショウブ湯は五日の夜にたてる。(居館)

初節供　男の子の初節供には人形を届けるのはひなまつりと同じだが、嫁の親方では吹き流しをくれる。

節供がえしはかしわもちで、かたい家で酒をつける。

新の五月では柏の葉がちっちゃくってだめなので店につくってもらうがウチマツリは柏っ葉がでっかくなった六月につくって食べる。(石鴨)

初節供のときは、親戚の人々がお客にくる。(今倉)

男の初子に対して、のぼりをもらった。庭にのぼりをたてるのを男衆がいそがしがってたてなくなった。最近はまた立てるようになった。(皆沢)

長男の時、ノボリをおくった。昔はオカエシはなかったが、今はやる。赤飯をたく。(鍋足)

贈答　初節供にはのぼりなどを先に贈り、赤飯や柏餅を返す。昔は干鱈を返した。(居館)

鳴神山　五月の第一日曜はコウ沢の奥と川内のチョンにある鳴海山のお祭りで、子どもや若い衆も出かける。山に神社があってそのお祭りで、神楽がある。(橋詰)

六　月

稲作儀礼

田植え　六月十日～三十ごろ、上から植えてくる。卯・辰の日には嵐が来て取れないから植えない。(居館)

まんが洗い　共同で田植えをした人が祝う。(居館)

禁忌　蒔き物は戌の日はいけない。昔、麦の種がないので、水戸黄門様が麦こなしていた所から、種を盗んできた。そこで犬が吠えたので怪しまれ、六尺ふんどしまで探してせめられたという話がある。(居館)

七　月

八丁じめ(一日)

ふせぎ　七月一日に大きなワラジを片方作り、二本の竹の真中につるす。そして、村に通ずる道に四ヵ所ぐらいに立てた。

最近では、ワラジは作らないで神主のお札を竹を割ってはさんで立てる。(鍋足)

カネザワ(金沢)では大きなわらじを下げた。今はしない。(居館)

八月一日に八坂神社の札を竹に下げて、村の三本辻と、飛駒から来る道に立てたり、各戸の入口にも札を貼る。小麦まんじゅうを新粉で作った。(皆沢)

厄神除けに道に竹を立て、ワラジを吊るしたが、今はしない。(皆沢)

半夏生(二日)

作物は半夏過ぎたら蒔いても取れない。半夏田植は遅いので笑われる。「半夏越えて植えるなら、のっくりかえって寝てえろ」といわれる。遅くて取れないから無駄だというわけ。菜っ葉や大根・インゲンならよい。半夏虫という腹を上に向ける虫がいる。(皆沢)

半夏坊主が草がひどいので、いそがしくて田畑をまたいで死んでいた。それで半夏には田植えをしない。七月二日は畑だけしろという。(居館)

庚申さま　年一回、七月第一日曜には、二渡南部(四十三戸)が呼ばれて庚申さまをする。創価学会その他五軒くらいが不参加で、あとは大体参加する。三組合あって当番の組合に他の二組合は呼ばれる。当番の

組合には十六戸なら十六年間、庚申さまが居るわけで、その組合内で回り番に宿になる。二間くらいあれば宿ができるが、狭い家では酒一升届けて広い家に宿をしてもらう。

会費は割勘で今年は一三〇円だった。キュウリ・ナス・インゲン・ゴマなどでよごしやキュウリモミを作り、酒のさかなにする。インゲンをおしたじのコにしてメンコ（うどん）を食べほうだいにする。酒は七年前オメンチ（高瀬氏宅）から出し始めたが、一合と決めている。

庚申さまの掛軸は一組に一体ずつあり、三体そろえてお膳を供えて置き、線香と灯明を上げ、皆でお参りしてから食事になる。早く拝まないと、その間に地震が来ると拝み直しをしなければならない。庚申さまの掛軸は組の最後の当番の家にずっと置いてある。（橋詰）

農休み・祇園

農休み　以前は七月二十二、二十三日の桐生のオギオンと一緒であったが、その後七月十五、十六日の二日間となり、今は八月四日が前夜祭で、八月五・六・七日となっている。

農休みには新しい粉でうどんを打ち、また、うでまんじゅうを作る。昔は畑も広く耕していたので、農休みも本格的であったが、今は勤めに出たり、山仕事・仕立てなどの縫製内職をする者が多くなり、農休みもまちまちになりつつある。勤めた方が百姓よりよいというのが一般である。（今倉）

七月二十、二十一日ごろ二日間を農休みとして祝った。群馬県に合併したので、去年四月より止めて、八月一日にいっしょに祝うようになった。栃木県安蘇郡田沼町大字飛駒小字皆沢（二十七戸）が、桐生市梅田四丁目に入ったので、栃木県の今倉の根本さんと、四丁目の天王様（二渡神社）と、両方からお札が来る。（皆沢）

八坂神社祭り　八月五―七日の桐生祭りに合わせて、天王祭りをする。以前は田の三番草を取ってから、七月十五日が祇園、十六日が農休みで、二日間休んだが、今は桐生祭りと合せて祭る。二渡りの町内二百三十戸のうち半数ずつが夏祭りか、二渡神社の春祭りかに参加すればよいことになっていて、くじ引きで決めたり、希望で決めたりする。祭りに半数が出れば、あとの半数は仕事を休まない。

天王様には山海の珍味として、キュウリ・トマト・お頭付き・赤飯・供え餅・神酒を供える。供え餅は上玉（上の餅）を神官にやり、下の餅を組合ごとに戸数によって切って分け、あとで神社のお札と共に配る。願をかけて成就した者は重ね餅を上げると、上玉を返して下玉を神社でもらう。

神輿は町内のお仮屋に入れて置くだけで、動かすと病気がはいるというので担いだことはない。ところが、戦後に子どもの神輿ができて、若い衆が手伝って担いで、大洲―忍山まで行った。それも四、五年で若い衆がコワクなって（くたびれて）担がなくなり、両方ともお仮屋に置く。（橋詰）

お祇園にからんで農休み、十四日までに麦を俵につめた。

八坂神社のミコシは昔、部落全体をまわった。ここ五年位はだしていない。このミコシは静かにかつぐ。もむと病人がでるという。女でおとなしいからもむなともいう。（浅部）

もとは七月十五、六日に天王様のみこしが出た。まんじゅうを作る。今は桐生祭りと一緒になった。（居館）

四、五年前までは十五日がぎおんで、みこしを担いだ。みこしは憎まれた家へもみ込んだり、田んぼへ入ったりする。これは一致して行ってしまうので、天王様がしたんだからしかたがないという。八坂神社は女の神様。（居館）

土　用

入り口　土用の入り口に餅をついた。神社のめぐりの草を刈ってから、寄って酒を飲む。（皆沢）

七晩げ　土用の一週間、七夜、藁を束ねて家の前で燃す。体をあたためるとハヤリヤマイにかからないという。（今倉）

精　進

男衆が一軒で一人でて、煮たきをする。食べたあと、水でゆすいで、その水まで飲んでしまった。(鍋足)

川神様　旧七月一日、川に堰があるので、そこで子どもと一緒に水浴びをした。金を出し合って、皆そろって川神様を祭る。(居館)

八　月

カマの口あけ（一日）

むかしは八月一日をカマの口あけといってモチをつくる。モチといっても何でもいいのでやきもちというものが多かった。ヤマノクチアケモチともいった。女たちが仏さまに上げる。最近はかんたんにフライパンでやったりする。

この日は村中から出て天神さんのめぐりの草むしりをしたり、観音さんのそうじをする。(石鴨)

八月一日はお盆様のくる日、釜のフタモチ（カマップタモチ）を二・三年前まで作った。昔はうでまんじゅう、今はふかしまんじゅうを作る家もあり、餅或はヤキモチでもよく、これを仏様に供える。(今倉)

八月一日は釜のふたがあいて、仏様が出てくる日なので、カマップタ餅としてうどん粉のやき餅を作る。(皆沢)

八月一日の朝、カマップタ餅を作る。その日地獄のカマノフタをこの餅であけて、仏さまが出てくるという。うすくてまるい餅を作る。(皆沢)

ウデマンジュウを作って食べた。道刈りといって、鳴神山への道を刈った。一軒で一人はでた。(鍋足)

ウデマンジュウをした。(浅部)

かまの口あき　やき餅を作って仏様へ上げる。やき餅はいくらか味をつけ、桑の葉を上下にのせて焼く。少ししかする人はいない。二日。(居館)

ミチガリ　八月一日に道刈りで、村に入ってくる道の草刈りをする。餅をついて会食したが、食いほうだいで腹をこわす人がいたので、餅を分けることにした。(皆沢)

観音さま　餅をついて上げた。送り盆の時にはダンゴを上げた。(皆沢)

七　夕（七日）

竹にたんざくを下げるていどのことだが、むかしはアミを竹の先に必らずつけるものとして一番先につくり、ほかには天の川、たなばたと書いたたんざくを下げた。

この日は日は雨が降らないほうが良いが、天の川と書くから、たいていはいくつか降ることになっていた。

特別にきまりもなく家によって別々で、うどんをつくるぐらい。

「七夕さまに貸せ」といって、主として女もののゆかたをつくって七夕さまをしばる網にかけておいた。

七夕に書くスミは、いもの葉の露をとってきてすずりですってやるとよいといったが、上手の人はそうやって気をつかってやった。今はやる人はいない。

ササは、ツグアサ（翌朝）早くもって行って川へ流す人が七分くらいで、あとの三分は、虫除けにたてるというので大根や菜畑にもっていってたてる。(石鴨)

ゆかたでも何でも、新しいものをつくってくれるときに七夕さまに上げた。

オリヒメなんかの話で、着るものに縁故のことなので、着かざるものとして上げたんだろう。七夕は何か衣類に関係あるらしかった。

ゆかたなどは、表の柱に七夕さまをしばった網にかけ、そこにお膳や机などを出していろいろ進ぜた。

七夕さまには線香を上げた。

旧暦でやったからタナバタミズが出るかボンミズが出るかといった。（津久原）

新しい竹に色紙や色テープを飾り軒端やカドの庭に立てる。昔は紙で着物の形に初って上げたが、今は短冊（タンジャク）やありあえの物を飾る。（皆沢）

供え物は、縁に机を出してその上に膳を作り、朝はまんじゅう、昼はごはんやうどんなどを供える。キュウリやナスなどは供えない。最近は余り飾らなくなった。（皆沢）

七夕には雨は降らない方がよい。雨が落ちると夫婦の間が大水がふえるんで行き会えなくなるから。（皆沢）

竹を二本庭先に立てた。屋根より高くしろといわれている。ダイコンやナの畠に持っていって立てる。虫がつかないという。

七夕に雨が三粒でも降ればよいという。（鍋足）

三粒でも雨が降ればよい。「天ノ川、トオキワタリニアワネドモ、キミガツナデハ、トシニコソマテ」などと書いて竹につるす。竹は桐生川に流した。

女衆は桐生川で髪を洗った。（浅部）

朝暗いうちに起きて水あびをする。

ねぶたの木の葉をとって目を洗うと目性がよくなる。（浅部）

六日晩に竹竿に短冊をつけて立てる。願いごとを書くと叶うという。白幡神社を祭る。（居館）

雨は外へ三粒でも降るといいという。（居館）

昔は女の人が朝早く桐生川へ行き髪を洗う。七夕には畑へフロー（豆）取りに行かない。（大門）

機神さま　二渡神社にある機神（ハタガミ）さまは、機屋が盛んのころはさかんに信心され、機屋の連中が七夕には供え物をしたり、神主の方からお札が配られたりした。織り子は腕があがるように水を浴びて朝参りした。そして、この日は朝暗いうちに一アヤ織ってしまうと、あとは仕事を休んだ。ネブタの葉を枕の下に入れて寝ると、朝早く起きられるという。（橋詰）

赤城登山　八月七日の七夕ごろ、四、五人で赤城登山をした。着ござを持って行き、休んで弁当を食べ小沼にも廻ってきた。大正年代にはよく行った。（橋詰）

盆（十三日～十六日）

盆の用意　お墓のそうじを十日前後ころするので、その日にチガヤを刈るのが最初のしごととなる。庭先にほしておき、ぼんだなをつくるときに四角にまわして二回りするようになってやる。このなわに十三仏のカケジや善光寺さまなどのカケジをかけたりする。

盆だなはない家もあるが、新しい仏のできた年に新しくつくることがある。ザシキに東向きにつくる。

必らずかざるものは、水、盆花、ナス、キュウリなどのやさいもん、などで、キュウリは十五・六日に送り盆のウマをつくる。

位はいはみんな並べるが、オキャクボトケも出してやる。オキャクボトケというのは、親せきの葬式に行くと、ヒキモンの上に紙に戒名を書いた位はいがのっているので、これをもらってきて仏だんにおさめておくもののことである。

機　神
（文化十三歳丙子九月吉日氏子中）
（皆沢）　（撮影　関口正巳）

上の段が位はいで、下の段にうちでできたやさいもんなどをのせる。（石鴨）

七夕過ぎて、盆前の十日か十二日ごろ、墓の草を刈ってそうじし、水入れもきれいにする。道刈りは墓そうじとは関係ない。

盆花は、もとはミソハギを山へ取りに行った。昔の畑の跡などによく生えている。今では庭まわりの花を取って飾る。（皆沢）

盆　棚　盆棚には夕食をあげると共に、果物、トウナス、スイカ、トウモロコシ、なすなどを、またカワラケにオハギ、ウドンを入れて供える。芋の葉にのせて供える家もある。お客には親戚やその家から他所に出ている子供達がくる。（今倉）

盆棚は座敷の隅に四本の竹を立てて、高さ一mぐらいで三尺四方の台を置いて作る。竹にはチガヤの縄をなって二段にまわしていわえ色紙を切って吊るしたり、ホウズキを飾る。このごろは竹を二本にする。台上に新しい盆ござをしき、位牌をのせる箱を置く。花びんにミソハギをさして、棚の前に線香と並べて置く。棚の上には全部の位牌や観音さまの掛軸を置き、線香・水・くだ物（リンゴ・ナシ・サトイモ・トウナス・スイカ・キュウリ等）を供える。キュウリ・ナスの馬をこさえて、トウモロコシの毛を尾につけておく。（皆沢）

十三日に盆棚を座敷に作る。チガヤで縄を作り、色紙でキリサゲを作って縄につける。そしてイハイをかざる。（鍋足）

盆棚はチガヤを縄にないホオヅキをさし、色紙で旗を作る。新しいござを敷き、マコモのござを買ってしく。カワラケに供え、造花を飾る。盆花は金紙でできたものを売りに来る。ミソハギで水をかける。カルカヤ・オミナエシ・キキョウの花を飾る。客間や座敷へ飾る。（居館）

盆　花　むかしはむずかしいこともいったかも知れないが、キキョウやキイレイ花、シレイの花を入れる。いまはツボヤにある花は何の花でもとってきてあげる。（石鴨）

シレイを盆花にする。（蛇留淵）

キキョウ・オミナエシ・カルカヤ。（大門）

盆迎え（十三日）　寺は津久原の長谷寺で遠いので、寺への迎えはしないし、墓へも行かない。だから門火もない。いつ迎えるもなく、十三日の晩になったから盆さんも来たべえや、とか、たなをつくり、位はいを上げ、食べるものも上げれば盆さんが来たものと思う。（石鴨）

お盆は旧七月十三日～十五日で、先祖がお客に来る日である。

迎え火は十三日の夕方、年寄りがローソク、提灯をもってお寺の本堂の火をもらってくる。そして座敷に作った盆棚に火を移す。（今倉）

盆迎えはやらない。（皆沢）

墓地または寺へお参りに行き「迎えに来ましたよ」といって、提灯の火をつけてくる。家の玄関の前で迎え火をたく。（猿石）

特に行事なし。ただ、十三日の夜雨戸を一尺ばかりあけて、縁側に水をくんでおく。仏様が足を洗ってあがるといわれている。（鍋足）

お寺に行って火をもらってくる。（浅部）

十三日にお寺へ盆迎えに行く。提灯を持って行き、おさい銭を供える。（居館）

盆　礼　家で生まれた者や親戚が本家の親へさとう・うどん・飲み物などを持って、線香あげに来る。「結構なお盆さまでおめでとうございます。線香をあげさしてください」などと挨拶する。生き盆とはいわない。（皆沢）

青物や妙糖・そうめんなどを贈る。（居館）

アラ(新)盆　アラ盆にはオショウさんも来るが、親せきなどが墓参りに来てくれる。ヒャッカンニチでもすぎれば、「結構なお盆さんでございます」というように、ふつうと変らないあいさつで特別なことばはない。トーナス、スイカ、干ウドン、ソーメンなど思い思いのものをもって来てくれるのでザシキいっぱいになってしまう。今はかびてしまうので妙糖やお菓子などをもってあいさつに行く。行くのは身内、組内、親せき、孫子や、こんいな人である。（石鴨）

親戚や近所の人は、線香代或は妙糖、スイカ、ウドン（昔は山のようにもらったものである）などをもってくる。仏様が水を汲んでのむというので、瀬戸物をくれる人もあった。（今倉）

新盆は盆棚に一緒に新しい位牌を飾る。葬式に来た親戚はたいてい線香あげに来る。新盆見舞という言葉はいわない。（皆沢）

親戚や懇意の人が集まる。（鍋足）

親戚や組合の人などが、金やその他をもってくる。もらいっぱなしがよいといわれている。（浅部）

近所の人が新盆の家へ見舞をもって行く。引物はない（居館）

新盆ちょうちんは身内が買うものであった。終るとお寺へ上げた。（大門）

盆棚にあがれない仏様（一人前にならずに死んだ人など）は、盆棚の下に祀る。その仏様への供物は、ソウリョウゴモ（精霊ごも、桐生から売りに来るが、チガヤで自家で作る人もある）にのせる。（今倉）

ソウリョウゴムという草で編んだスダレを盆棚の下に敷き、ガキ仏を祭る。これは一人前にならない子どもで死んだ者は、盆棚の上に上がれないので下に置いて祭るので、カワラケで供え物をした。（皆沢）

無縁仏は棚の下に祭る。（鍋足）

棚の下の精霊様は、子どもの霊だという。コモの上に小さいカワラケを二枚のせる。（浅部）

るすい仏　仏だんの中のるすい仏にも少しごはんを上げる。神棚には仏さまより先にごはんを上げる。（皆沢）

仏壇には留守仏がいらっしゃるといって、同じ供え物をする。（鍋足）

るすい仏には一番古い位牌を残しておく。供え物は同じ。（浅部）

仏だんにはるすい仏、神棚には何もしない。（居館）

無縁仏　墓場に行った時に、線香などを無縁仏にも上げる。かわいそうだから供養してやる。（皆沢）

送り盆（十六日）　お昼のときにごちそうをつくって上げ、上げたものをそのままお土産につけていもの葉の上にのせ、盆さま竹といっしょに道の端にまとめて辻の辺におき、麦わらといっしょに竹を燃やして、でっけえ音がして煙が上ると、この音がキリで盆さんが煙にのって帰ってゆく。竹を燃した火で線香にくっつけ、水、おだんごをもって墓参りに行く。盆の墓参りはこの時だけである。（石鴨）

お盆の期間の供物は、ためておいて十六日に送り出すときお土産としてもたせる。

送り盆は十六日、墓場まで送り線香をあげる。このとき竹を墓で燃す。（カイドで燃す家もある）この黒煙に乗って仏様は帰るという。（今倉）

昼食を食べてから三時ごろ、家じゅうで盆を送り出す。盆棚の竹や縄をカイドウ先に持ち出して、麦わらい火をつけて燃やす。この煙に乗って仏さまは帰るという。キュウリの馬をそこに供えておく。燃してからお墓へ行き、墓にダンゴ・水・線香・花を供え、色紙を竹にさしたものを墓地に立てる。施餓鬼の被（はちまき）いも持って行く。提灯は持たない。

盆棚を片づけたあとは掃いておく。（皆沢）

墓地で盆棚の竹などを燃やす。送りだんごや茶の葉を紙に包んで供え、花を立てる。（猿石）

棚をこわし、供え物を下げて、四本の竹を三本辻でもす。（鍋足）

三本辻で、盆棚、ナス、キウリの馬、供え物などをもす。その煙にのって帰るという。

お墓には水とダンゴを供える。（浅部）

十六日の昼、または夕方、盆様に供えた物をいっさい持って、三本辻や墓などへ行き、棚に使った竹がはねるまで火を燃やす。ナスやキュウリの馬を一緒に置く。墓参りをする。（居館）

供えたものは全部三本辻に送り出す。燃した竹がはねれば仏が帰ったといわれた。（大針）

盆棚の色紙　送り盆に棚の竹やチガヤを三本辻でもやすが、吊るした

盆送りのあと　（石鴨）
（撮影　上野　勇）

盆おくりのあと　（石鴨）
（撮影　上野　勇）

盆送り　一色紙を立てる
（橋詰）　（撮影 関口正巳）

送り盆に燃した盆だなの竹
（石鴨）　（撮影 阪本英一）

盆送りの供物（後沢）

盆送り　ショウリョウコモに供物をのせカド道
ばたに送り出す（橋詰）　（撮影 関口正巳）

盆送り　供物を出し棚を焼く　（橋詰）
（撮影　関口正巳）

色紙は墓地に持って行って、竹につけて立てておく。（皆沢）

盆の食事　盆にはぼた餅・うどん・すし・てんぷら等を食べる。盆魚は使わない。（皆沢）

朝、オハギ。昼、ウドン。夜、ごはん。（浅部・鍋足）

「盆にぼた餅、お昼にうどん、夜は米の飯、トウナス汁よと」歌がある。うどんやおはぎを食べる。（居館）

施餓鬼（十五日）

石雲寺へ寺世話人が寄って、各家庭の仏に祈禱してもらう。各組一人ずつと、壇徒総代の三人が寄り、各戸より百円ずつ集めて行き、被（はな）いの札を各戸一本分ずつもらってくる。先祖代々の供養なので、盆送りに墓へ持って行ってあげてくる。（皆沢）

盆月の死者　死んで四十九日の来ない人は、仲間入りができないので翌年廻しとなる。「おれはお客に行くのに、お前はどこに行く」といわれるという。また盆ぎわに死ぬとホーロクをかぶせて埋葬する。（今倉）

盆の月に死んだ人には、シラジ（すり鉢）をかぶせて埋めた。これは多くの仏さまが出てくる時に、逆にあの世へ行くので、出会った時に、「人が来る時、行くてがあるか」といって、ゲンコをもらうから、頭にかぶせてやった。（皆沢）

百万遍の念仏（十七日）

盆の十七日に、皆沢では大きなズズ（ジュズ）を持って百万遍の念仏をする。

一軒一人ずつ男でも女でも出て、麻の綱にズズを付けたものを持って各家庭を全部廻る。家々では一番広い座敷の畳をはがして待っている。一行は家に入ると座敷にあがり、お茶を飲んでから始める。大きなズズで輪を作り、廻りから綱を持ち、真中に鐘と太鼓を入れて三人ぐらいで打ち鳴らす。内と外で交代に「ナムアミダーンブツ」と念仏を唱えながらズズの綱を廻す。麻の房の所が廻って来るといただく動作をする。綱をめぐしているうちに綱引きみたいになり、しきいに足を踏んがけて引っ張り合う。初めは女や子どもがしているが、しまいには男衆が鉢巻をして綱を引っ張り合い、おもしろくてニヤニヤ笑いながらにぎやかにやる。約二十分ぐらいして、最後に表の庭までズズを引っ張り出して、厄神を払うと、次の家に移る。

一番上の家から始めて、両端の家を順々にやってきて最後に三本辻でやって終る。終ると、鎮守さまの庭で子どもに菓子をくれ、おとなは酒を飲んでわかれる。朝九時ごろから始めて、夕方三時ごろまでかかる。

終戦後、昭和三十年ごろ一年だけ止めたら、流行性感冒がはやったので、また始めた。今では家々を廻らないで、村の入口と中ノ沢と出口の三か所の道路上でやる。出口の庚申さまの前で、厄病神を道の方へ送り出すために、とくに激しく暴れる。（皆沢）

八木節

盆踊にするものと決まっていたが、最近は祇園でも踊る。盆の十三～十六日まで四日間続けて踊り、十七日には櫓をこわす。村内では二渡神社に集まって、女・子供も出て踊った。桐生近辺や川内村へは男衆が出かけたが、わらじを履いて腰に提灯を下げて行った。（橋詰）

明治の末ごろ、イサミダルをはたいて踊ったぐらいで、その後はない。（鍋足）

神社で八木節を踊る。桐生祭と一緒にする。（居館）

九　月

八朔の節供（一日）

嫁やムコは、おこわをもって実家へお客に行く。ごく昔はホケエにおこわを入れて背負って行ったというが、大正から昭和の初にかけてはホケエはへってきた。ヒネリザカナといって、半紙ガミを細くたたんで両方のコグチをひねったものを上にのせて行った。現在ならゴマシオということだが当時はそれでよかった。（石鴨）

八朔は旧八月一日、赤飯、ショウガをもって嫁が里帰りした。しょうがの節供ともいう。一、二泊する人もあり、泊らない人もあるが、そのとき箕をもたせて帰す家もある。（今倉）

嫁ごの泣き別れ節供で、おこわ飯をふかして実家へお客に行く。お客に行く最後の節供で、これで正月まではお客に行けない。（皆沢）

節供のおしまいであるといって、おつかい物をかってもらって嫁が実家に帰った。（浅部）

三月・五月の節供にもらったものや、盆にもらったものを八朔にお返しする。八朔がえし。（居館）

旧八月一日に親せきに、ショウガ、トウナスを贈る。お返しは、み、ふるい、ざるなどの道具であった。嫁の実家からは、み、ますのお返しがあったが四節供の中一回だけ返せばよいとされていた。（大門）

初嫁がお客に行く日　一月七日（七草）、三月三日（節供）、五月五日（節供）、七月二十日ごろ（ナツヅキ、祇園）、八月八日（「八は開く」「二八の十六、一家は満足」という）、八朔などに実家へお客に行く。（皆沢）

元服祝い、嫁にきた人が初めて、マルマゲにゆって里帰りをする。赤飯をたいて家に帰った。（鍋足）

二百十日（一日）

かてえ人が何かかわりもんをつくって、あらしが来ねえように神だな、大神宮さん、えびすさまなどに上げた。アズキのまんまや、うどんなどが多く、大正ころ、それも二・三年ころが境で、その後はうんと簡略になった。（石鴨）

神社に寄って荒れないように前祝いをして、餅をついて供え、飲み食いした。（皆沢）

ニシメの晩（八日）

九月八日をニシメの晩といい、いも、サツマイモ、ダイコ（ン）、キノコ、など、何でもいい材料でニシメをつくって観音さんに上げる。観音さんは、藤生イッケが天神さまの方の観音さんで、前原イッケがシモの方のカシマサマのところにある観音さまに行く。この方は今はぶっこわれてない。（石鴨）

二百二十日（十日）

荒れなくてよかったといって、神社に寄って用意してある臼と杵で餅を二～二、五斗ぐらいついた。戦後も一回やったが、ヤミ米を買ったので警察につかまって、騒ぎになった。（皆沢）

十五夜（旧八月十五日）

月さまの祭りで、みに入れて、くだもの、大根（必らず）、ススキの穂と秋の草花なら何でも、オマル（ダンゴ）を上げる。ススキとオマルは十五ずつにする。

むかしはよくつきに来て、来ればとれるように戸を開けてやっておいたのだが、大根までもとってゆくものだった。昭和の初に生まれた人たちはよく歩いたようだった。（石鴨）

十五夜は旧九月十五日、子供が五・六人で一緒に組になって、オマル、柿をさげに歩いた。方法はバヤッコ（競争でとりっこすること）でとりに来たものである。（今倉）

ススキを絶利にさして縁側に出し、まんじゅう、ぼた餅、すし、うどん・柿・栗・大根・イモなどを供える。おまる（だんご）を供える家は少ない。

子どものころ、三、四人で組んで十五夜の供え物を下げて歩いた。うどんとお下地以外は、何でも下げるのがおもしろかった。家では幾度でも供えて置き、廻ってくる子に下げさせた。男の子も女の子も廻ったがお月様は国めぐりをしているので、女の子は嫁に行った家に居られないと困るから、女の子は下げるものではないといわれた。（皆沢）

ススキをかざり、オマルを十五作ってあげた。ナシ、クリ、トウモロコシサ、ツマイモなど供えた。

近所の子供がサゲにいった。（鍋足）

オマルを十五個供える。ススキは五本か、十五本。（浅部）

百姓の取ったものを箕の中へ入れて上げる。ヤツガシラを根ごと上げる。ニンジン・大根・すすきを供える。（居館）

十五夜、子供が竿の先へ釘をさして、だんごや栗をさして歩く。（居館）

彼　岸（二十四日）

アラヒガンには、アラボンにゆくように何かちょっとした品をもってゆく。むかしはボタモチをもってゆく習慣だった。今はもらった人はおごとだから略になったようだ。盆と同じように、さとう、おかしなどでよく、いいあんべえのものがなければお金を包んでゆく。（石鴨）

彼岸には墓参りする。入り口に線香や水を供え、中日にぼた餅走り口にだんごを供える。墓地の地蔵や観音さまに先に供えてから、自分の家の墓、次に親戚の墓に供える。（皆沢）

寺や墓参りをして、だんごを供える。（居館）

社　日

社日には小泉へお参りする。（居館）

十　月

オクンチ（旧九月九、十九、二十九日）

むかしはやったが今は特別にいわない。九月の九日、十九日、二十九日を合せてミクンチといって、この日は、かわりもんなら何でもいいから何かつくる。

ミクンチに関しては、「ミクンチナスを食う」といい、食うことはいいのだが、「ミクンチナスを立ててはいけない」といって、二十九日前になすの木をこぐものだといわれる。（石鴨）

旧九月九日をオクンチ、十九日をナカグンチ、二十九日をシマイグンチといい、よなべ仕事は休み、かわりものを作ってたべた。（今倉）

旧九月九日・十九日・二十九日をミクンチといい、その日はオクンチだから何かこさえて神さまに上げた。昔は朝鮮ビーソバをこさえて上げた。朝鮮ビエは天候に強い作物で昔はよく作り餅にまぜてついたこともある。今でもソバ用に作る家もあるが、うどん紛に二・三合まぜて山イモでも入れればうまくできる。少し赤味をもつが、歯ぎれがよい。オシラキにもって供える。ケンチン汁を作るが、仏にはオシタジを上げるが神にはオシタジを上げるなという。（皆沢）

初グンチ、中グンチ、シマイグンチに赤飯をたいて、稲荷様に供えた。（鍋足）

七草の祈祷　梅田五丁目の根本神社の里宮で、十月十五日ごろ、保存会が中心になって祈禱をする。神主が来てお祓いをしたり、十二段のはしごを刀の刃で作り、神主が登ったりする。人を切った刀は使えない。根本神社は山の神で天狗を祭り、東京大震災の時にご利益が現われたというので、東京からもお客が来る。五十人、百人の講があって大繁昌した。（皆沢）

神おくり（旧十月一日）

神おくりや、神むかえは一切しない。

神さまがたつのはイッカに立つか知らねえが、九日の晩にルスインギョウダンゴというのをつくって大神宮さんなどにしんぜるのだろうが、よくはわからねえ、ということである。（石鴨）

十月一日、この月はカミナシ月で、この日ウシの刻に神様は出雲国に行くという。またこの日明神様にお詣りした。飛駒の番場では賑やかな祭りがあり「イイトコバンバ」といわれたものである。（今倉）

旧十月一日は神さまが出雲の国へ行く日で、十月は神無し月になる。エビス様だけが留守をしている。（皆沢）

十　三　夜（旧九月十三日）

十五夜と同じようなことで、オマルもすすきも十三本（十三こ）という点がちがうくらいである。（石鴨）

十五夜と同じように供え物をして下げるのも同様にしていた。（皆沢）

オマシ（オマル）十三個供える。ススキは三本、十三本。（浅部）

十三夜は十五夜と同じに祝う。オマン（だんご）が十三個だけ異る。この日にくもると、小麦がはずれる。「十五夜に晴なし、十三夜にくもりなし」という。また、片見月はいけないという。（居館）

片見月　十五夜を他所でやった場合は十三夜も他所でやる。そうしないといけない。（鍋足）

十一月

刈り上げ祝い　コナシの時に手伝いっこするので、ご馳走を作って届けた。家によって赤飯や餅をついた。（皆沢）

マキアゲモチ　十月の三十、三十一日ころ、おそくも十一月一日までには麦まきが終りになるので。その日にマキアゲモチをつくる。どんなもちでもいいもので。少しでもつくって、焼いて、こがして上げた。麦まきが終ったときには必らずつくるものだった。（石鴨）

麦蒔きが終ると、蒔き上げ餅をついて家で祝う。畑には供えない。（皆沢）

麦まき終りには、昔は麦まきボタ餅を作って祝った。（居館）

七五三（十五日）

「四つでオビトキ」といって、ひもをつけない着物で帯をつけて、天神さんにお参りにゆく。（石鴨）

もとは四歳になると、オビトキの祝いで、子どもが満足に育つように三尺（さんじゃく）でも何でもしめさせて、神社へお参りした。（今は七歳の女の子もお参りする）。明神さまにお参りしてアズキご飯を箸ではさんで上げる。酒も二合びんで上げて、あと分けて飲む。親戚からお祝いに金や物をもらうので、呼んでお祝いをする。（皆沢）

赤飯を作って鎮守様にお参りにいく。鳴神山の下に山神様があり、これをこの辺では鎮守様といっている。（鍋足）

神社にお参りに行く。赤飯を神社に集まる近所の子どもに分けてやった。（浅部）

庚申様祭

十一月十六日ごろ、小谷戸の薬師様の庭の庚申様（石塔）の前に、女の人が集まって赤飯をふかして食べる。「庚申様の日に子供をつくると、頭のい子ができる。」とか、「石川五衛門ができる」とかいう。「庚申様のお祭りは寝ても眠るな、寝てもよるな」ともいう。（居館）

十日夜（旧十月十日）

大正ころまではワラデッポウをつくった。中へイモガラを入れてやると音がいい。もぐらたいじで、うたもあったが忘れられた。いくらかのカワリモンを食ったのかなあというていどだが、当時わらは、わらざいくをするのに買った貴重品だったから、ワラデッポウはよくたたけて、ゾウリをつくるのにぐあいがいといわれたもだった。（津久原）

九日か十日にルスインギョウダンゴとかいうのでつくると聞いているが、アベカワモチ、ボタモチをつくる家もある。大神宮さんなどに進ぜるのだろうが、昭和の初ごろ佐野の長井さんという病院に入院していたら、十日夜の晩にアベカワモチを出してくれたんだから、あっちの方も同じことをしていたんだろう。

石鴨では、わらがないし、いもがらもないから、わらでっぽうはしなかったようで一番の年老りでも知らない。（石鴨）

十日夜は旧十月十日。藁鉄砲で畑を打って歩く。そのとき「十日夜、わら鉄砲、夕めしくってぶったたけ」或は「十日夜、十日夜、夕めしくってぶったたけ、十日の晩には、ねられねえ」「十日夜、十日夜、十日夜の晩に、藁鉄砲たたけ」などと唱えた。この音で大根が大きく伸びるとも、大根がぬけ出して抜きよくなるともいう。またこれは地を堅めるためとか、霜柱の立たぬようにするのだともいう。（今倉）

「十日夜（とうかんや）・十日夜（とうかんや）」と唱えながら藁鉄砲で土をうちながら家の周りを

まわる。この音を聞いて大根が大きくなるという。またもぐら退治だともいう。（萩平）

新わらのツトッコでワラデッポウを作り、家の周りをたたいてまわった。モグラ退治といわれ、回っていくと家では小づかい銭をくれた。終戦前までしていた。（皆沢）

ワラデッポウは、モグラが逃げていなくなり、モグラがもらいないように地固めするためにたたく、「十日夜　十日夜　十日夜ノワラデッポウ」と唱えながら、男も女もたたいた。（皆沢）

もとは隣から隣へと十日夜餅をつくいた。米や粟で餅をつき、あずきあんを入れた大福餅を作り、家の神、大神宮様・エビス様、五社の神（五本の幣束）・八百万神に供えた。（カマ神には供えない。）

麦蒔きが終えて、モグラがもらないように畑をつきかためるため、餅をつくという。（皆沢）

オモチをついて食べた。イモガラを藁につつみ、さらに縄でまいて、藁鉄砲を作り、「十日夜、十日夜、藁鉄砲をぶっぱたけ」などといって地面をたたいた。（鍋足）

藁鉄砲をたたいた。「十日夜、藁鉄砲、十日の晩にはねらんねえ。」音を聞いて、大根がぬけ上るという。（浅部）

旧十月十日には餅をつく。しんに芋がらを入れたワラ鉄砲をつくり、地面をたたいてモグラ退治をする。（居館）

十日夜の唱え言は「十日夜、十日夜、十日夜のワラ鉄砲」「十日夜、十日夜、十日夜の晩に、嫁と聟が……」（居館）

わらでっぽうで「十日夜わらでっぽう。大麦あたれ、小麦あたれ」と唱える。（大門）

十二山の祭り

旧十月十日は安蘇郡飛駒村の十二山（高さ約千m）のお祭りで、近郷から十二山神社へお祭りに登った。十二の宮は根本神社の奥の院で大きな釣鐘があった。昭和十一年ごろ火事で焼けて、今は小さな宮がある。

十二山へは廻りの十二か町村から上れるので、随分にぎわい、箕ですくうほどさい銭があがった。

祭にはバクチが盛んで、平の所にござを敷いてどこでもやっていた。神梅丹次の縄張りで、用心棒が日本刀をござにくるんで持っていた。男衆に女衆も少しまじっていた。藤づるで編んだ籠をふせて、さいころをふってやったが、丁半とか、白黒とか呼ぶばくちだった。警察がよく行かなかったと思うほど盛んで、大正時代を中心に、昭和初年の大演習の時にもやっていた。娘たちが見ているとロ止めに「小づかい持って行ぎない」といってお金をくれた。

十二山はツグ（ツグミ）がよく取れたので、トキ（網）を張りに子どもも登った。やきとりにして売っていて、よく食べた。（皆沢）

十日夜のころは十二山のお祭りで、昭和十年ごろまでは、神梅丹次ら丁半ぶちが盛んに開帳していた。

ツグ（ツグミ）が渡って来るのでツグを取りに登った。ツグがグミを食べに来るのを、網を張っておとりを鳴かして取る。商売人が三段ぐらいも網を張り、泊りこむ小屋が三つも四つもできていた。十日夜のころが盛りで、ツグを串にさして焼いてタレを付けて食べる。一連が十羽で幾人かで食べたり、みやげに買ったりする。山で食うとうまいので、酒を持参して食う人もいる。ツグのワタ（内臓）は塩辛になるし、にがい所はせんじて飲めば腹痛がすぐ治るので、一合いくらで買ってくる。ツグは飛騨の人が取って、桐生の料理屋へもおろしていた。（橋詰）

えびす講（二十日）

これをやらねえ家はねえというもので、十九日に桐生の西ノ宮神社のえびすさまに行って来て、二十日の朝にオコワをつくって上げる。

えびす様を下におろす家とおろさない家があるが、ちゃぶ台か机の上に出して、ケンチョン汗やサンマのカシラツキを上げる。サンマは二匹をハラッカワセにして上げるもので、その他としては、柿を必らず上げ

る。えびす様は金をこしらえる神さまで柿は「カキコム」に通じるから買っても上げるものだという。

このごろは、はでにやることがはやって来て、かたい人はおたいやおふだを上げるが、りんごや菓子その他をにぎやかに上げて、表面だけははでにする家もふえて来た。(石鴨)

旧十月二十日(現十一月二十日)はエビス様で、膳にご飯を高盛りにしてケンチョン汁・サンマ・イモ・大根等をそえて供える。お金も供える。朝エビスを祭る。

なお、十九日晩は桐生二丁目のエビス祭りでさかり、お札を受けてくる。(皆沢)

十九、二十日はえびす講。ごちそうを作った。ごはんや尾頭付きを供えた。(鍋足)

えびす講にはサンマを供えた。フナの生きているのを上げた。金をわけて、家族でえびす様に供えたものをかった家もある。

えびす様の祭りを十月(神無月)—旧暦—にやるのは、その他の神様は出雲にでかけ、えびす様だけが留守をしているからだという。(浅部)

えびす講は金の神様で、ケンチン汁を作り、床の間に一升ますに種銭として、札や金を入れて上げる。サンマ・柿・ミカンなど供える。桐生の西の宮へお参りする。熊手・箒・コヨミ・神棚など買う。つとめ人は十九日が勤め先、二十日が家の祭りという。(居館)

十二月

カビタリ餅(一日)

十二月一日にカビタリモチといってもちをつくり、川でカッパにひかれないように水神さまに上げる。

四十、五十の人たちは知っているが、今は知ってる人がなくなった。(石鴨)

昔はカビタリ餅をやった。(居館)

ツジョウモチ 暮の二十七日につくるもちで、どんな粉でもよいから粉をこねて、煮るとか焼くとかいうことはしないなまのままで、ならや桑の二またになっている枝に握りつけた形のままにさして、入り口のところに上げる。

これは、暮に通って歩くオカミに上げるためだといい、冬至の神だとか、暮だからというので一軒一軒ひとの家をノゾッテミル神のためにやる。

昭和十年ころまではやっていた。(石鴨)

ツジュウダンゴはしない。(皆沢)

屋敷イナリ 秋は祭らない。初午に祭るだけ。(皆沢)

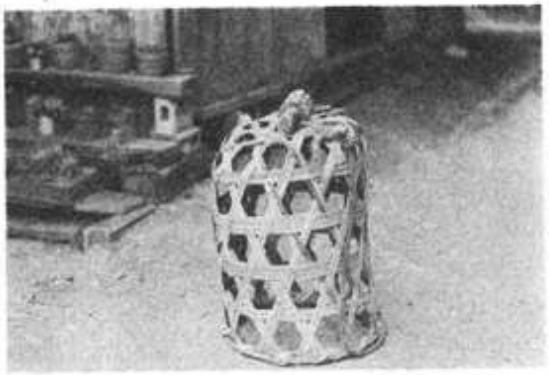
初午以外には祭らない。(居館)

コト八日(八日)

二月にやるコト八日とも同じことをする。

ねぎをとってきて、戸のたてつけのところを全部なすってやるもので、このほかにダイマナクを出せといって、ザマカゴでも桑つみかごでもいいからメのあるかごの上に、わらをぶった(たたいた)キネをたて、キネ(つちともいう)にもねぎをなすりつけた。ねぎをなすってあるので、くさくって、ヤクジン神が入れねえようにしたわけである。かごはメカイでもいいが、キネの柄を中へ突っ通して、ねぎのナスリッカラなどを、かごの上にいっける(のせる)。昔は、わらうちを槌でやったからあったが、今はわらじもなわもつくらねえから槌の家もあって簡略になってきた。しまいにはトボグチのタテツケだけぬるようになったが、ねぎをなすった槌を出すことをダイマナクを出せという。出すところはトボッツアキに立てる。

天神前のキナさんの家ではひいらぎがカイドにあるので、もらって来てたてる家もある。(石鴨)



ざるとわらづち（清水）　（撮影　上野　勇）

ヒイラギをトボグチにさした。これで鬼が恐れて逃げるのだという。また庭に大きい草刈かごを置き、これにヒイラギをさし、ツチンボ（藁をたたくつち）をこのかごにのせておいた。ダイマナクという。（今倉）

一月八日のコト八日と十二月のシワス八日には、魔除けにヒイラギの枝をカドロにさした。ネギを焼いて匂いをさせればいい。（猿石）

八日はことじまい。カドバシラ（お松を飾るところ）を毎年新しくした。ナラの木で作った。

メカイの中に、ヒイラギとツチン棒（こなし棒）を入れてカドバシラのところに飾った。悪魔が入ってこないという。ザルに目がいっぱいあり、ヒイラギでつつかれ、ツチン棒でなぐられるからという。ネギをやいてザルに入れた記憶もある。くさいので逃げるという。（鍋足）

十二月八日は「コト八日」といい、「ことじまいだ」という。この日には、ヒイラギの枝を家の入口にさす。道路に面した方に多くさし、盗難よけとする。（大門）

すすなぜ（十三日）

すすなぜ（すすはらい）は十二月十三日ときまっていて、この日にやればアイダはいつなぜてもいいことになった。だからどんなにいそがしくても、カギだけでもいいからなぜろというのだが、いまは一斉そうじのときになぜれば、暮のそうじなどはやらないで、神だなぐらいしかやらない。（石鴨）

煤はきはお飾りをする日、三十日が多い。（鍋足）

冬　至（二十二日）

冬至にはアッタケエモノをつくって食う。冬至トーナスといって、この日にトーナスを食うとカゼをひかない。夏やせしないといわれる。

この日はゆず湯をした。

このころはちょうどミソをたく時期なので、この日にゆずを味噌づけにしておいて節分の日にこれを食うものだといった。いまはミソタキをしないからやらなくなって、この日に薄く切って、さとうをかけてお茶がしにして食べてしまう。（石鴨）

「冬至トウナス」「冬至にはとうじるほどうまいものを食べる」などといって、トウナスを一つ取っておいておかずに煮て食べた。「冬至には暖かい物を食うもんだ」といってお汁粉を食う。（皆沢）

「冬至十日、あと先三日間は日見ずよし」といって、何をしてもよい、わるいことはないとされる。（皆沢）

「冬至トウナス」といって、トウナスを食べた。中気にならないという。（鍋足）

コンニャクを食べる。一年中の砂はらいという。

トウナスは中気がでないようにと食べる。

ユズをかって、みそにつけて年越の晩に食べる。（浅部）

冬至にはユズをみそに漬けて、年越に食う。砂払いでコンニャクを食べる。トウナスを食べる。（居館）

冬至の水　冬至の朝早く、手桶に冬至の水を汲んできて屋根の上にかけた。おも屋や便所の屋根に、川のチミテー（冷たい水）を、歌よみをしてかけた。歌は「氷の柱に霜のけた。火事火難にあわないように」と唱える。子どもでは水が屋根まで届かないので、女衆がやった。

家の廻りに水をまいた。火事にならないという。（浅部）

お太師講（二十四日）

霜月の二十四日に、あずきのおけえをつくった。

どこの神だかわらねえが、お大師講のススリッケエといってつくるもので、神だなに上げてから食ったものだ。（石鴨）

太子講は職人が集まってやった。飲んだり食べたりした。（鍋足）

昔はやったが、月は忘れた。（居館）

歳暮

親子とか、嫁のくれた先から、塩びきシャケなどを贈った。お返しはあまり金目の違わないものを返した。（皆沢）

嫁をせわすると、仲人の初めての年には、たいがい新巻のシャケを持ってくる。（居館）

松迎え

正月につかう松むかえは、三十日にやることになっているが、藤生イッケは松竹を使わないのでとらない。先祖の藤生紀伊守が松のかげから攻められて苦しめられたので、それからは松竹をかざらないのだという。森下でもかざらない。この家は、いつだったかお松むかえに行った日にばあさんが死んだので、藤生イッケだからかざらねえのがいいのだんべえということになってよした。

二渡の藤生イッケはかざるのでもとがちがうのだろう。（石鴨）

十二月二十八日に山からお松を切ってくる。自分の山に適当なのがない場合は、他人の山から内証でもらってくる。このときは恵方からとってくる。そして二十九日或は三十日におかざりを飾る。一夜かざりはいけないという。おかざりは家の中の全部の神様また門松、お稲荷様、水神様等に供える。

三十一日の夜はミソカソバをたべる。（今倉）

松迎えは「一夜松を飾るものではない」といい、その前にアキの山から三段松の枝を取ってくる。カドに二本、屋敷稲荷、便所、納屋、川バタ、井戸神さまなど家の外にも松を飾る。家の中には大神宮、年神、エビス、十二神、三宝荒神、かま神、俵神、床の間など十か所ぐらいに松を飾った。（皆沢）

松は方角のよい方から取ってくる。（鍋足）

松は二十八日のお松迎えという日に取ってきて飾る。二十八日か、三十日に、カド松、屋内、庭松三本（外ムキもあり、内ムキもある）を飾る。（居館）

もちつき

「イチヤモチはつくな」といわれ、早い家では二十八日ごろからつきはじめるが、ふつうは三十日ごろ。あんこの入ったもの、のしもちをつくるが、金銀をつくといって、キミやアワのように黄色いもちもついた。

小さいころ、多人数だったから早くもちも終るので、お他人様のように、もちがかびる話がうらやましくて、大きくなったらうんとついて食うべえと思っていたが、いまは食べなくなったからあんまりつかない。（石鴨）

二十九日ごろ餅をつく。米・粟・ウルチ米の粉などでつくが、米はのし餅、粟はのし餅とアンピン・ウルチ米はアンピンにする。（皆沢）

臼の下にわらを十文字においてつく。（鍋足）

一夜餅はつけないので、三十日につく。一夜飾りと同じである。（浅部）

二十八日に餅をつく。九日餅はつかない。（居館）

正月の餅がつけない家　一ノ瀬・鞍山イッケでは正月の餅は十五日までつけない。お明神様が逃げてきた時、金の刀の鍔をもらって黙っているようにいわれたが、あとから来た追手にちょうど正月の餅をついていた杵の先で、行った先を教えたため、ついに仇を取られてしまった。そこで、お明神様への忠義に餅をつかない方がよい。今でも暮に正月の餅をつかないで小正月の十三日につく。しかし、家で杵を使えないのだから、よその家からもらって食べるのはかまわない。子供がかわいそうなので、よその家でついてもらう人もいる。（皆沢）

森下イッケも正月にならないと餅がつけない。暮につかないで、元旦になってからつく。理由はわからない。（皆沢）

一ノ瀬と籾山は同じイッケである。天保のころの人の話で、飛駒の塩田から聟を貰った時に、籾山を名乗ったものという。（皆沢）

森下イッケでは正月に餅がつけない。よその家から餅をもらって食べるので、十月十日の十日夜に餅をついてお返ししておく。（猿石）

正月休み

暮の二十日から二十五日ごろに炭焼きの人は炭がまの火を止めて、正月二十日ごろまで休んでいた。（皆沢）

正月の歌

「お正月いいもんだ、コッパの様な餅食って、雪のようなマンマ食べて、赤いベコ着て、羽根ついて」。（居館）

大晦日（三十一日）

ミソカソバそばをつくるていどで、特別のことはない。

早く寝ると早く年とるといって、ヨーッパリ（おそくまで起きている）をした。（石鴨）

大晦日はミソカソバを食べて、除夜の鐘を聞くまで起きている。昔はそんなに遅くまで起きていなかった。（皆沢）

オミタマ様　仏壇のオミタマ様に、コバチにゴハンをよそって、ハシ木を十二本（ウルウ年には十三本）供える。（浅部）

神迎え　十二月三十一日には神さまが帰ってくるので、ナラの木と松を組んで、カド松を二本ずつ家のカドに立てる。（皆沢）

口頭伝承

はじめに

桐生川の流れに沿ったこの梅田地区には、多くの伝説が今もなお生き生きと息づいている。とりわけ地名伝説は、地形名とともに豊富である。それに比べて、昔話はほとんど採集されなかった。

命名の中では、あだなの実例がかなり多い。あだなの採集されない調査地も、かつてあった。実名のほかに通称を用いる者が多いことと併せて、この土地の好みがうかがわれるようである。

謎も多く採集された。「なんぞは、きたなくかけて、きれいにとく。その反対に、きれいにかけて、きたなくとく」のが、謎のきまりであるという。

前者の例としては、

おっきれわらじとかけて、十七、八のねえさんととく。

後者の例としては、

天神さまとかけて、タメビシャクととく。

があげられよう。こうしたカケ・トキ・ココロの三段型のなぞについては、トキの部分において、「カケに対して飛びきり没交渉な命題を提出する」面白味が説かれているが（「なぞの研究」鈴木棠三）、梅田のなぞのきまりは、この命題の内容を具体的に明示している。

かつては蚊が、ゴムシーン（御無心）と、鳴いて来たという。旗本の娘には、蛙の声がオレキレキ（お歴々）と聞えたというから、無心に響いて来る音は、今も昔も変らないが、その聞きなしは、時代により所により異ることを示して興味がある。（上野　勇）

一伝説

正一位八幡宮　皆沢の明神さまは足利忠綱公を祀る。忠綱公はイクサ人の大将に仕えた家来でお気に入りだったので、主人のお姫さまのおそばについていた。主人が戦いに出て帰って来てみたら、お姫さまの腹が大きくなっていた。主人は怒って、お姫様の腹をさき、忠綱公を打首にしろと言いつけた。忠綱公は追手をさけて白馬に乗って逃れて、明神山にかくれた。それを白犬が見つけてワンワン鳴いたので見つかり追手から弓を引かれた。初めは飛んでくる矢を両手でつかみ取っていたが、二重になっている管矢（クダヤ）を引かれたので、ついに殺された。

お姫さまが殺されて腹をさいて見ると、子ができたのでなくて脹満（チョウマン）という病気だったことがわかり、申し訳ないのですぐに触れを出して、忠綱公を殺したら共に打首だといったが間に合わなかった。

忠綱公は、皆沢の人は白い犬と白い馬は飼うでないぞといって死んだ

明神山（皆沢）明神様が追手から矢をかけられたという。（撮影　関口正巳）

ので、皆沢の人は忠綱公への忠義に飼わない。

一之瀬家では節供に白馬をもらったが、昼間は贈った人への義理で飾っても、夜はふろしきにくるんでかくした。そのまま飾れないので、しまいには色を塗って斑（ブチ）にして鞍を書いて、一節供飾っただけで神社に納めた。

忠綱公に向けて引いた矢の根が明神山に落ちていたものを拾って、神主の藤倉京丸氏に納めた。忠綱公はホラの貝が強くて、一里四方も聞えるほど吹いたという。（皆沢）

火あぶり田　金八という頭のよくない男が治療の為とてイモリを黒焼にした火が元で火事になり、鶏足寺の方迄もえて、荒神の火事と呼ばれる火事となった。

そのため火あぶりの刑に処せられた跡。（忌み田となる）

ねぎ仏（前出）病気の神様。

相馬神　居館に石造の円い筒の上に四角の桝形があり、その四方に馬の頭部だけ四つついているのがある。相馬神の信仰という。昔熊谷三郎兵衛という男、由比正雪の乱に加担して幕府の転覆を計り、失敗して、此処に逃れ来って寺子屋の師匠などして死んだ。はじめ調雲寺にかくれていた。死んでからその素性が知れた。この不思議な石塔はその墓という。（大門にて）

火あぶり田（つづき）

金八が火あぶりの刑をうけた時、××寺（薬師様）と、〇〇寺と鶏足寺の三カ寺の和尚が出てくれれば助かったのに出なかったので、寺が焼けた。

金八は町屋の者だから地蔵様をお堂から引取ったが、その人達が皆運がわるい。

地蔵の台石が残っていたのを石屋が盗んで赤城亭という料理屋で買って稲荷の台石にしたが、その店もつぶれた。（大門）

火あぶり田　文化頃、後田の金八という人がイモリを焼いて粉を作る火から大火事となり、栃木県足利市の小俣（おまた）まで移った。この火事を「荒神の大火」と伝えている。この時金八は田で火あぶりの刑にあった。それ以後その田を作った家は魔が悪く二年間と持ちつづけられる人はいなかった。たたりがあるので金八地蔵としてまったが、ふいてもふいても赤くなるといわれていた。（大門）

因縁畑

高園寺の小坊主が、寺子屋に通ってくる子とけんかをした。叱られた小坊主は寺を逃げだした。栗生山のすそに岩が一つもっくり出ている。その岩の上で衣を焼いて小坊主は行方不明になった。そこには一寸した畑があるが、その時から持主に不吉な魔の悪いことがあるという。そこで高園寺に寄附してしまった。そこを因縁畑という。（浅部）

七つ石

城山にある。七つ時になると、山の影がさして来る。時間がわかる。

鏡石

金沢峠にある。平らで光沢がある。この石の由来各説がある。

① 桐生氏の奥方の千鏡代りになったという。

② 同じ人が姿をうつしたという。

③ 桐生大炊介が使った。

④ 峠を越える為の荷がスレて光ったのだという。とにかくこの石は磨くと少しは光る。しかし、今は大分欠けたという。

旭さす　湯沢の渡良瀬河岸の捷松寺の東にこの跡がある。

「旭さす　夕日かがやく（この処諸説区々）（ミオトリノ）（ヒヨドリノ）（西ノ窪）（××ガ岳）等、黄金千杯、朱千杯」

この歌も不明になっている。（大門）

十三童子　山の頂上から一寸下った処にある。（一丁目）

千代が淵　千代という女が身投げした処、等其の他云い伝えあり。

だいころし　ダイコ寺の和尚が過去帳を背負って入水した。又、ダイという女が入水したとも。又、ダイコオロシ似た淵なのでという。（大門にて）

三堺塚

白い蛇が土地の人を困らせるので三堺坊が呪文で淵の中へ封じ込めた。

高園寺

三丁目の高沢川にかかっている。曲っている。落ちて怪我したり死んだりする人が多いので、高園寺の和尚がお経を上げてお経を埋めた。最近は事件はなく、馬は落ちても助かったり、人も落ちても死んだ人はない。

オマンゴ石

西方寺沢の水源で水が湧いている。

旗竿の藪

つい先頃迄（といっても徳川期か）免税であった。ここは、新田義貞以来、徳川将軍の旗竿の竹を出した竹藪という。

相馬様

四月桜の咲く頃（廿一日頃）お祭りがある。強飯とか団子をもってゆき子供にくれた。石塔の上に馬の頭がある。元は山光院というのが近くにあって（今は植木屋をしている）そこに相馬様の井戸というのがあり、リョウマチ、神経痛の薬になったという。

城山の娘

城山の頂に家があり、オカッパの女の子が夕方になると、山も駆け下りて油買いに小谷戸へ来た。

鏡石

金沢から直木へ出る道に、峠へ登りつめる右手の手前にある、白っぽい石で、大きさは一米角位、山へよりかかって立っている。桐生城がうつるといっていぶした。

強力

進藤さんに力の強い女が生れて彦間へ嫁に行き、夕立がふって来たので外湯へ入っていた旦那様を風呂桶ごと家の中へ取り入れたので、そんな力持は困るといって離縁された。

彦間で藪の開墾をしている時、免倒くさいとてボリボリ引きこいでしまった。

城山の上にある雷電の石宮（これは大きな一枚石の屋根がある）を一晩で背負ひ上げた。（居館）

朝日さす

湯沢の栖松寺境内の庚申様の堂の中にある燈籠の棹石に

「朝日さす　夕日かがやく　明きの方　黄金千杯　漆千杯　朱が千杯。この寺大廃に終る時は掘って使うべし」と書いてあるという。（実際はないとの話）この歌、小異を以て此の土地に伝えられている。必ず何かの根があるらしいが、深く極められない。（居館）

ハネ滝

浅部にある。桐生城が落ちた時、お姫様が佐野へ逃げようとして、ここ迄来たが橋がない。橋がないので跳んだが川へ落ちて死んだ処という。（居館）

天狗松

上湯沢と金沢の尾根境に直径三尺位の松の大木があり、上が平らであった。天狗が住んでいたという。天狗の腰掛松とか天狗のインダイ（縁台）松と呼ばれた、三百年位の松である。（湯沢）

大　蛇

鏡石の処に大蛇がいたので金沢の猟師が鉄砲で打った。翌日行ってみたら大蛇が死んでいた。そして村の女衆がお茶のんでいたら急須の中に小さな蛇がいた。大蛇が身をかえて村の人にたたろうとしたのだろうとおそれられた。鉄砲打の夢に出て、姿を現わしたのが残念だと云ったという。（湯沢）

蛇留淵

サンキョウの寺のお和尚さんが、野山を荒した白い大蛇に法をかけて追い出した。そしてこの蛇留淵の少し上流の岩の下に庵をつくり、当分ここにいて農民を守ってやると言った。当時、農民がサンキョウサマにお茶をあげますといって、家で供えても、サンキョウサマにはすぐそれが解って、翌日は必ずお礼に来たということである。

また蛇切丸という刀があって、これを根本山にあげたともいう。（蛇留淵）

サンキョウ坊主

コウゼンジという高い山にコウゼン寺という寺があり、そこにサンキョウ坊主がいた。そのころ下の方の東村のザマの辺に大きな蛇が出て、作物をあらし、いろいろに害をなすので、これではしようがないというので坊さんが追い出してきた。ホウカケヅクリで法をかけ、キッカケバシで切っかけたので、蛇はたまらず逃げ出した。それを追ったサンキョウ坊主は、ジャリュウブチで切りこみたおしたという。そのとき使った刀は蛇切り丸という刀で、ダイショウ院に納めてある。蛇の頭を納めたところは森下徳太郎さんのところで、その場所に行くと頭が痛くなるという。そこに新しく社をたててまつった。（津久原）

米沢の不動穴

津久原の長谷寺のあるところから入った米沢に不動穴というのがある。いつのころか、そこからにわとりをはなしたら、あちら側の不動穴（高竹のもの）にぬけ出たという話がある。

米沢の不動穴は、大正時代にかけて石灰岩をとったので今はない。（津久原）

弘法池（皆沢）カヤボッチの間のくぼみから水が湧く（撮影　関口正巳）

忍　山

忍山の湯元の近くの淵に竜宮へ通じている穴があるという。

忍山にはもと温泉宿が五、六軒あった。あまりさかったので、すたらせようとして、馬を切ってお湯の出るほんもとへ入れたという。そのためにお湯がすたれたという。もとは忍山の沢に、家が百軒もあったという。忍山の湯は、薬師さまの井戸の水をくんでわかしたもの。胃腸病によくきいた。（忍山）

弘法さまの池　皆沢の森嶋氏の畑に弘法さまの池がある。おしめりが欲しいときには、ここに水をぶっこめば雨が降る。（皆沢）

森嶋弥佐市氏の畑に弘法の池という窪みがある。ここはどんな日でりの天気にも水が絶えたことがない。雨乞いの時にはこの水をかんまわすと雨が降る。また、この水を汲んできて飲むと、母乳の足らない人も乳がよく出るようになるという。（皆沢）

弘法の水　皆沢には弘法の井戸といわれたところがある。これは弘法さまがついているので、百日のひでりもたえないといわれている。（皆沢）

井戸沢の弘法井戸　（橋詰）
（撮影　関口正巳）

弘法様の井戸　県道の下に弘法様の井戸があり、共同井戸にしているが、浅くてもどんどん水が出る。雨が降ってもにごらない。（橋詰）

弘法さま　昔、弘法さまが訪れたときに、大尽さまのお番シュを頼まれていた人が気の毒に思ってご飯をくれたら、その家のおかみさんに叱られた。その人はえらいジャヒッツラ（ジャンカヅラ、ほうそうの跡のある顔）だったので、弘法さまがきたない布巾を出して、これでなでればきれいになると教えた。毎日その布巾でふくとだんだんきれいになった。おかみさんが不思議がり、その布巾を借りて毎朝なでたら、うつってメッコマ・ヒッコマのできたえらい顔のジャヒになった。悪な考えをもってはいけない。（皆沢）

鴨ぶちの竜宮　昔鴨ぶちのところに大きなずいどうがあり、そこは竜宮へ通じる道になっていたという。村でお祝いごとなどがあって膳椀が必要のときは、ここへ来て十人分を貸してくれとたのめば十人分の膳椀を貸してくれたという。ところがある時欲の深い人がいて、借りたものを返さなかったのでそれからはいくら頼んでも貸してはくれなくなってしまった。（石鴨）

鶏をホチブチの穴にはなしたら、それが大間々のナガメのタカツド峡に出て鳴いたといわれている。（高沢）

鴨の形のあった石（石鴨）
（撮影　上野　勇）

大力和尚の居た西方寺
（撮影　清水義男）

大力和尚

昔大力の和尚があった。名は分らない。寺の普請の時、棟木を大勢かかっても引けないでいた。和尚さんはこれを見て笑ったので、一同が不思議に思ったが怒った。そしたら和尚が加勢しようと手を出して軽く動かしてしまった。

本堂を建てると萱で屋根をふくわけだが、その萱の大束は本堂の軒端迄背負い上げるのが大変で、幾人かの人が背負っては和尚が一人言を云うのに、時間がおしいのうという。そこで和尚にたのんだら、和尚さんその萱の大束を軒迄ほうり上げてしまった。力を入れると棟迄とどいた。

ある時江戸に用事があって出かけた。毎朝、毎午鐘をつくのだがその日は留守なのでつかなかった。正午頃、今何刻頃かと畑の百姓に尋ねたところ、今日はまだ桐生の西方寺の鐘が聞こえないから午にはなりませぬと答えたという。強力なので鐘の音も遠く迄響いたという訳である。

江戸の角力とりが噂にきいて力比べにやって来た。この寺の

下に竹藪があり、そこで竹を根こぎにしてねじってタスキにして入って来た。和尚さん出て来て何事ですかときくと、力比べに来た、一手手合せしてくれという。いやいやとんでもない。出家の身で力比べなどできないと答える。見ると大して力もなさ相なので張合ぬけして角力取ももじもじしていたら、切角来た事だからお茶でも御飲みという事になり、青竹のタスキをはずして上り茶と茶うけを出された。その茶うけが胡桃だったか、和尚が指で（親指と人さし指で）一すひねると胡桃が割れて身が出て来る。角力取りはこれを見ていたが驚いて、平伏してあやまってそこそこに逃帰ったという。（大門　天利秀雄師談）

巨樹

杉　今は伐って無い。鳳仙寺にあった。大阪落城の時植えたという。

槻　二渡（四丁目）にある。下に神様があるので伐らない。市の指定となる。

欅　大門の部落共有の御神木。枝下しに上り、近藤佐右衛門という人、枝に腕をはさまれ、手をブラブラしていたが、切ってしまった。（大門）

北山家（郡主山・新蔵院）

前原寛臣さんは賀茂神社の宮司で検定で宮司の位をとった人である。この人の話によると、北山家は、京都で争いに敗れてにげてきて、いまの産業会館近くの象ケ窪という所に住んでいた。ところが追求の手がきびしくなっていられなくなり、高沢の奥に逃げこんだ。その頃高沢の奥には人がいなかった。北山家の従僕二人が尋ねてきた。二人はこの村の象ケ窪の下の大室に住んだ。二人は川島家の先祖であるという。

北山家の逃げてきた人か、そのせがれか分らないが、とにかく北山家直系の人がホチブチで修行をして、修験者となった。それから諏訪明神を勧請して郡主山、新蔵院となったという。（高沢）

二　怪異

不思議な木

岡平の山神様の周囲の杉の木、一本大きなのがあり、大工の前原幸吉氏がこれを買った。樵夫は久保吉兵衛氏をたのんだ。俺がゆくから先に切り始めていろというので伐ったが、仲々前原氏がこない。前原氏の家ではお祖母さんが信心深くて、山神様の木を伐るのだからと、御神酒を竹の筒に入れ、赤飯をふかしたので、おじいさんがそれをもって山へ登った。山では樵夫の鋸が皆幹を通ったのに木が倒れない。おじいさんがおこわを供えて拍手を打ったら倒れた。おじいさんの子が熱が出て困ったので見てもらったら、これは山の神のお腹立ちだというので、木を十本あげた。それをこいだ人があったがしばらく手がきかなくなった。（居館）

化かされた話　ばかされた話はいくつかあるが、これということがなく、どこそこで背負ってきた魚をとられたとかいうことでくわしい話がない。（石鴨）

ヒカリダマ

ヤマドリの尾が光るといっても、これはヒカリが少ない。それにくらべてヒカリダマは道が明るくなるほど光るものだ。

日露戦争のときでたヒカリダマは、くさかりかごぐらいの大きさがあったといい、とにかくでっかいものだったが、これは根本さまが戦争にでかけたのだといったという。（津久原）

カネダマ　生形豊二郎さんのおじいさんは、カネダマを見ただけでなく、胸にとびこんでからその後シンショウを残したという。（津久原）

オオカミ　オオカミは、明治九年生まれの、沢のクラサンが十六歳のときには見たという話だった。これがこの辺での最後の話だった。そのころは、イノシシもいたが、現在は絶えた。（津久原）

山の神　山の神さまは女だ。

山の神が女だからこそ、奥さんのことをヤマノカミという。（津久原）

ヘビに入られた話　あるとき、この村のある娘のまたにヘビが入ったというさわぎがあった。

これはヘビのタタリで、ヘビに魅せられるとそんなことになるのだという。（津久原）

古ムジナ　昔、吉田家は法印（山伏）が十何代も続いた。先々代の人がお日待に頼まれて拝みに行くと、夜道にえらい物がおっ立っていた。そこで不動の金しばりの術をかけて通った。次ぐ朝行って見たら、古ムジナがさかさに立って尻っぽを立てて動けないでいた。今後いたずらをしないと言えば術を解いてやるといって、術を解いたら、ペコペコ頭を下げて山の方へ逃げて行った。それきり、そこには何も出なかった。（橋詰）

オオカミ　三代前の人で、おクマばあさんが、マーセンボウでオオカミを追つ払ったら、死んだあと、オオカミがきて墓を掘って行った。白髪頭の白い毛が道ばたにずっと残っていた。（皆沢）

三　村の出来事

力のある女

梅田の人だが、大力の女がいて、若い衆が三人ぐらいで「またを開いたらやせる」というので力いっぱいであけて、ほれひらいたからというので一人入ったら、またでしめられてしまって「骨が折れるからかんべんしてくれ」とあやまったという。

またおやじさんが庭先で風呂に入っていたら、急に夕立になったので、「ホラ降って来た」というのでおやじさんが入ったまま風呂を家の中へ抱きこんだという。

ダイドコロをそうじするのに、片手で酒の入っている四斗だるを持ち上げて、その下を掃いたという。

根本さんにあったつりがねは、このきょうだいでかつぎ上げたという。

この人の最後は、トウヌキムシというでかい虫、ジョウサンという、これをこぎに行って力いっぱい引きぬいたら、そのひょうしに尻もちをついて強く腰をうち子どもがいたので流産して死んだという。

とにかく大力だったという。（津久原）

始末してして死んだ人

ミョウガの坂にひとりじいさまがいた。自分のいいたいことはいって、こっちのいうことはきかなかった人だが、ある日、おれも組合の者にいろいろと世話になったが、いよいよ旅立ちするから、分けてくれるものがあるからとみんなを家へ呼んで「大久保のシゲジイさんは山がねえから山をくれべえ」というように、どこはだれ、どこはだれといって分けるので、「じいさまが何をいうのか」といったら、そのあくる日の朝、床の中で死んでたという。（津久原）

シンショウ残す法

ショウデンサマをアブライリにするとシンショウを残すという。妻沼のお札でも何でもうけてきてやるのだろうが、上藤生の人で、一代でシンショウ残した人がいて、よくそういわれた。（津久原）

村の騒動

ダイゴロシのオオコグラの屋敷に未亡人が一人住んでいた。そこへやくざの熊ん蜂の吉五郎というきらわれ者がやって来て強姦してしまった。それが知られて大騒ぎになった。村中の者が竹槍を持って出て追っかけた。佐瀬さんのおばあさんはしっかり者だった。吉五郎の所へ行って、「おめえ今村中の人がお前を殺すと言っている。早く野峯を通って逃げろ。」と言った。しかし吉五郎は「おれはお願生を破ってしまった」からといって、ついに逃げないで、自分から殺された。（馬立）

汽車の音　「こんな坂、なんだ坂、土方が掘った坂、デガボボ、チッ

チボボ」。若い衆のひょうきんな者がよくいった。（橋詰）

歌ぼろんじ　村に心中した人がいると廻ってきて、二人のことを歌にして詠んだ。（皆沢）

湯沢の大事件

大　水　大正九年に観音橋（湯沢と茂倉の間に架す）が流れた。昭和二十三年には、湯沢では川島製材が流れた。この時は桐生川が祖父入（ジガイリ）の処から直線に流れ高橋という人を使用しているような家では、女達は二階へ上っていたなど云っていたが、家毎皆流れて失った。

山　押　し　明治二十一年に山津浪があり、山が方々崩れた。梅沢区全部がやられた。大きな杉など根ぐるみ押し流された。

大　火　事　昭和七年川島製材がやけた。湯沢で三回あった。昭和十九年頃青木久作氏の肥料小舎から火が出て、隣二軒もえた。青木氏もこがした。外の家が建たない中は自分の家を作らなかった。（湯沢）

術をつかう人

明治四十三年頃、上久方梅原の火の番小屋の鍵があかなかった。岡田豊松氏が九字をきって手をたたいたら鍵があいた。（大門）

占　い　者

岡平の山の神様に四郎法印という人が住んでいて、占いをした。ある子供を見て、この子は親不孝だねといった。その子は二十六歳で若死した。この四郎法印は赤城山で殺されたとか又はのたれ死したとか云われる。（大門）

胆力のある人

イクサバ勝という長脇差が、夜帰て来ると、お犬が出て来て大きな口を開いているので「オアキナンシ」と刀で口をあけたら馬か牛の骨が口の中にかかっていたのでとってやった。その勝の葬式の時、お犬（狼）が見送りに来て埋ける迄いたという。戦場というのは四丁目のダムの入口にある地名、桐生氏の自尽した跡だという。（大門にて）

長谷寺の火事

津久原や長谷寺が焼けた火事は大きかった。長谷寺の本堂が焼けそうになったとき、村の人がとんできて庭にあった池の中へ本尊さんを放りこんだというが、本堂が焼けた火で、池に浮んでいた本尊さんも木だからこげちゃったという。

最近ようやく再建し、本尊さまも須弥壇も新しくした。（津久原）

長　谷　寺　（津久原）
（撮影　上野　勇）

四命名

(一)人名

苗　字

萩平には安蔵（あんぞう）二戸、カミンチ・シモンチの屋号。むかしは七・八軒あって、豪族だったという。新田系とも伝えるが戦争に出ていってしまった。

笠向には前原一、藤生一。藤生はもと日下田（ひげた）姓だったのを亡んでしまったので、藤生が買って入ったのである。

北沢には石島姓三戸

寄日には蘭田四戸、小島二戸、須田一戸、緒方一戸。平には蘭田一戸、須田一戸、小島一戸。

同一姓で異字のもの

腰塚（高沢）。越越（二渡）。佐下橋（大洲四丁目ノ上）堤橋（忍山）

垣上（一丁目、居館）書上（一丁目、大堰）

峯岸（大門）

峰岸（居館）

同一苗字を文字を変えてかく例がある。

佐下橋　梅田五丁目

堤橋　堤箸　押山（居館）

この理由はわからない、

津布子（ツブコ）　浅部、梅田二丁目等、古い史上に津布子刑部というのがある。

津布久（ツブク桐生市新宿一丁目

皆沢の苗字は二十六戸のうち、森島十戸、森下九戸、籾山五戸、一ノ瀬二戸となっている。（皆沢）

異字の苗字　堤橋が四軒、佐下橋が六軒、橋本が三軒、箸本が一軒、その理由は不明。（猿石）

名付け

トラ　末っ子の方なので名をつけてくれといったら、トラ年にはトラとか、タケとつけるのだが、タケはおばさんにいるからということでトラとつけられたという。

タツ　タツ年だから。（石鴨）

名前をつけるのはお七夜までとする。名づけ親とか、名づけの祝いはしない。

安之丞さんはホウエンサマ（法印）がつけた名で、別にダイサンともいう。

おじいさんが八十八のときには、八十八を米としてこの字を使った名とする。

ステちゃんは、上の子が死んだので、捨て子をすると丈夫に育つということから捨て子になったのでそういう名がついた。（石鴨）

イシさんは、親がお産前に庭へ出て仕事をしているうちに生まれてしまったので、みんなで腰巻を外して、これにくるんでとり上げた、ちょうど石の上だったからというのでイシさんという名になった。（石鴨）

呼び方　同名の人を呼ぶ時には、頭に親父の名をつけて呼ぶ。幸さんなら、和田幸・峯幸と区別する。（猿石）

通称（屋号等）

竹屋（大沢氏）。うどん屋（小島氏）。道ばた（腰塚氏）。綿屋（金子氏）。鋳かけ屋（田島氏）。寄雄（よりや）（青木氏）。大嘉（大沢氏）。アヤトリ屋（越塚氏）。三味線屋（田村氏）。（居館）

オカタ　星野ケンイチさんの家。

カサ　星野伸太郎さんの家で、年貢をはかるためのカサ（おわんのふた状のもの）をあずかった家ということ。

シタデ　星野源作さんの家。

インキョ　桑原柳太郎さんの家の隠居。

ムカイ　向かい側なのでついた。

タカダケ　峠のことで、高竹と書くが地名からついた。

カナアナ　古い時代、金をとったという穴があり、石うすで鉱石をこまかくしてからとったという。鉱石をとるには、ダイナマイトもないので火で熱しておいて急に水をかけ、割って金をとったという。（津久原）

この土地では実名の外に通称を用いる人が多い。その例（上が本名、下が呼び名）

荒川みち—みね。吉越けい—とら。田村進之助—近三郎。前原久五郎

—忠五郎。吉田勝之助—辰之助。小島みづ—みつ。今井きく—なを。峯岸雄作—康雄。内田りん—みえ。

この最後の人の例は嫁に来たら同じ姓名の人があるので変えたという。

実名と呼び名の異る例は多い。

(例) 村岡みちえ——みち子 (呼)

屋　号

これには幾種類かあるが。

職業から来たもの——石屋、車屋。

家の位置から来たもの——オキタ (桐生家の下屋敷の真北にあるのでいう)、田中 (田の端にある)、橋本 (橋の傍にある)

特殊の呼び名——まつや (昔の旅籠屋)、十一屋 (格別商売なし)、(丸輪 (不詳)、カク本 (不詳)。(大門)

家　紋

提燈には裏紋を用いる。(萩平)

アダナ

ヒャクマンゴク、年中ホラをふいていたのでそれがあだなになる。

モットモのモトサブロウ

イネムリのキンマツ

タカゴエのモコウ。本名は音次郎といったが、もうこれでこせえねえといったのでモーコとつけたという。これがトウリアダナだろう。

トーフの好きなオジョウサン、おことさんという人だが、とうふと納豆など、豆類でなければ体がもたなかった人。マメジョウといわれた。(石鴨)

クラテン　力もあり話も上手で、罪のない話をするのでテングサマといわれてついた名。

ワカミヤハチマン　屋敷に八幡さまをもったのでついた名で、当人もいっていた。今もワカミヤで通る。

きりょうはオナオサン

歌ではオトウサン

オメコさせるなら××サン

明治のことで今から六十年から八十年も前のことで、若い衆にうたわれた歌という。(石鴨)

ポットしたワジュウロウ

おいらん買いばかしたのでオイランキン

名前からとってチョコイセ

ハナッチャブレのおたにさん

前からびっくり、後ろ姿の美しさでびっくり、声の良さ、歌のうまいのでびっくりして、サンドビックリ、大工をしたらしく、器用な人なのでトウリュウモト。

女郎買いをよくしてジョロシン

いいたい放だいのことをいったワンマンのトノサマ。(石鴨・清水)

そりひきなどのしごと仲間では、ふだんのよび名が、みんなあだ名でいっている。たとえば、村長、豊登、畑中など。(石鴨)

ちょこちょこするのがチョコイセさん

ショウルをかけたがオタミさん

シャッポイビリのソウサクさん

そのまたとなりの休五郎さん

デンボユイ　長右衛門 (うそ)

ヘップリの　小三郎 (へ)

長ザエモンの文太郎 (気長)

すねから火がでる松五郎 (忙しい)

色じゃ小島さん　男じゃそのだ

月琴ひきや星野さんにとどめさす。(馬立)

足尾線　動作ののろい人や、少したりない人のことを「足尾線の一汽車遅れ」という。(橋詰)

(二) 地　名

カッパ淵　山前の下、梅北山の家の下の方にあった。特にいわれはわからない。（石鴨）

岩に鴨の形があったので名がついた。その場所は、昭和初年の頃は、粘板岩のところに赤いのと白い岩とがまじり合って、鴨に似ていた。（石鴨）

形が鬼に似ていたかしてついた。（鬼淵）

馬立て　千代が淵より北には馬が入れないので、ここにくると馬が立ってしまうのでこういう名がついた。（馬立）

馬　立　忠綱公が桐生の方から馬に乗ってきたら馬立（梅田五丁目）の所で動かなくなった。そこで引き返して皆沢に入ったという。（皆沢）

馬　立　馬立（うまたて）から馬が立って、飛駒（栃木県、ヒコマ）に飛んで行った。そして間馬（栃木県、カンマ）へ行って止まったという地名についての話がある。（橋詰）

タル上、タル下　川が流れ落ちる滝はタキだが、それをタルというので、滝の上はタルウエ、滝の下の地名はタルシタという。

ニ　ケ　急傾斜の土地を上っていって、傾斜がゆるやかになったところのことを○○ニケというようによぶ。二階のようになったところというので、二階のニケからとったと考られている。（石鴨）

湯　沢　村岡氏が湯屋をした事がある。山の途中に大神宮があり、池がある。その水を引いて湯屋をした。そう余り古い昔ではない。

金沢（カネザワ）　近くにカネを掘った穴がある。五代位前に掘ったものという。

ツリガネ窪　鳳仙寺の丘にある。

ジンムコウ　桐生大炊介を攻めた時、陣の向うであったからついた名という。（湯沢）

梅原、桐原、松原、これは各々その木が植えられていたのだという。

大門は西方寺の部落

金沢（カネザワ）湯沢は各々鉱物や鉱泉が出たらしい。

居館（イダテ）は桐生氏の家臣の居館跡という。

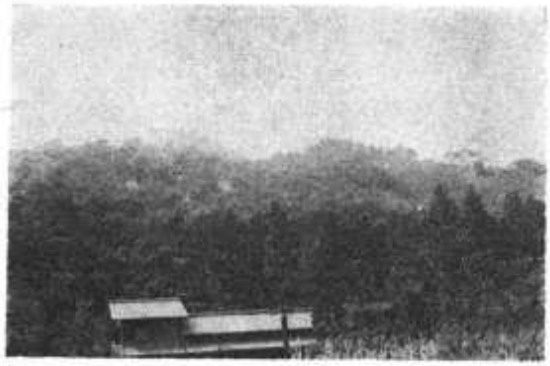
高沢（コウザワ）は高沢院という修験のいた処。

大滝　これは滝がある。

持丸、木品、鍋足、これは不明。

蔦丁（カブチョウ）土地の物知りは山王信仰とか一説にアイヌ語で女性器の事だとかいう。

大茂（ダイモン）残馬山と何か関係のある地名というが不明。（大門）



居館とか屋敷とかいうのは昔の豪族の居住地、東南面した、今でも暖かそうなよい処である。背後の山の上に、昔の城山の頂きがのぞいている。（撮影　今井善一郎）

水　場　清水の湧き出す所に洗イマをする場所を設け、ここで食器などを洗う。井戸は一丈二尺ほどで出るが、昔は大部分の家で前の川の水を使っていた。（皆沢）

入道ックボ　キツネかムジナがいて、通る人の魚なやふろしき包の中味をぬかれたりした。酔っぱらって帰りにねんじゅう魚を取られた人もいる。明治二十年ごろ、ゴ

リカン（きかない人）で有名な川島某という人なども、重箱にボタ餅を入れて待っていたが、つい取られてしまった。（橋詰）

猿　石　昭和二十二年に開田した時水路から掘り出された石が猿のかっこうをしているので、猿石として二渡神社の裏に祀ってある。猿石をセリシと呼んでいる。（猿石）

猿　石　「セルシ」「セリシ」と呼んでいる。鎮守は猿田彦神社だったが火事で焼けてから、明治四十四年に合併して二渡神様となった。猿の形をした石があるかどうか不明。（猿石）

七ガイト　「梅田の七ガイト」といって、ガイトのつく地名が七か所ある。小ガイト、備前ガイト、井戸ガイト、遠間ガイト、細ガイト、など。（橋詰）

マ　マ

ママというのは大間々という地名の示すように可成丈の高い急傾斜地、崖のやや傾斜のある処をいう。湯沢の南に「高間々」という地名があり名の如き難所であった。文政頃と伝えるが、ここを削りとって新道を作った時土地の文人村岡清雅が作った歌が石に刻まれて、当時の石垣に積み込まれている。

「諸人のつかれを削りとればこそ、高間々ならで、わかままにゆけ　清雅」

ノヤマ　木の立たない山。
タマリ　沼地のところ。
ボラッカ　草がはえていて手がつかないところ。
ジャクズレ　ヌケショともいう。山はだでクズレているところ。
トロ　急流でない流れのところ。（大門）
セムシ坂　セミ坂ともいうセムシに似た坂のこと。
アツケナ坂　思ったより簡単に登れる坂。（居館）
トズルーリ
ヨッピ
トウジッペ（当実平）
ヨッピ（寄日）
馬立（馬の足跡がついた）
セリ石（猿石）（猿の形の石がある）
石鴨（川の中にそういう石があった）
ジャルブチ（蛇留淵）

地形語　オネ―山頂で境の長い所。ミヤマ―日かげ。山と山のかげになる所。山ヌケ―山の斜面が崩れた所。はげ山になり地所がなくなっていることがある。ママ―川の土手。川に移る傾斜地。岩ックラ―岩山。デト―山の入り口の道。入り口。ハネット―谷を渡る所。湿地。じめじめ流れている所。タルミ―川の流れののろい所。トロ流れがのろくなり深くよどんだ所。（猿石）

石の名のついた地名

アオイシボトケ
ジジババイワ
タツイシ
ナガイワ
カガミイワ
ウナリイシ
ヒウチイシ

（石鴨）

五　諺

地　震

何の意味かよくわからないが、年老りたちがいったことば

六ッ八ッ風に
四ッひでり
五七が雨で

九がやまい　（清水）

ことわざ

山のミオキと、かかあのミオキは馬鹿がする。

山のミオキとは、山へきのことりに行って、まだ小さいからもったいないというので翌日あたりまで待とうとしても、そのときとらなければ必らず誰かがとってしまう。女も同じことで、まだ小さいからとか、あと一、二年たってからなどとのんきにかまえていれば先をこされて泣かされる。（清水）

ひや酒と親の意見はあとできく。（清水）

手足動けば口動く。

意味は、食うためには手足を動かしてはたらかねばならず、はたらくためには食わねばならない。丈夫な人はどちらも必要だということ。また食う人はよくかせぐということ。（石鴨）

あわてる職人にいい職人はいない。

大阪の陣に、あわてて逃げて尻を切られた人がいるというが、あわてて——急いでやるしごとにいいしごとはない。（あわてなければみんな切られちゃったろうという）

牛も千里、馬も千里

牛を使ってやっても、馬でやっても、仕上げは同じだということで、いそがせられたのに対して、あわてるなという返しことば。（清水）

猫にまたたび、泣く子にお乳

猫をたたくより皿をしまえ

子持ちを使うよりビッコを使え

大めし食う奴は大糞をひる

（収入多ければ支出も多いこと）

坊主をいじめれば七代たたる。（清水）

歌「中日ぼた餅食べたくない。ならば半日休みたい」と歌われた。（皆沢）

夏の火燃しは嫁にさせろ。（皆沢）

巳寅申（ミトラザル）　一軒の家にこの年生れの人がそろうとマが悪いといわれた。そこで、ひとりを仮に養子に出すまねをしたりする。（橘詰）

ひょう

ひょうが降ると線香をたてる。

中禅寺湖に魚の骨をぶちこむと、そのたたりでたつ巻がおこり、雲をもち上げ、強いひょうや、よくない大雨を降らせる。たつ巻きは、竜がウズヲマクというのですごい音がした。もとは飛行機がくるようなすごい音がしたが、最近は聞かない。

ひょうには、オカマサマの松に火をつけて外に出す。マモノは火がきらいだから火をさけて通る。（清水）

雷　雷の大きいのが鳴ると線香をたてる。（清水）

六　謎

なんぞのきまり

きたなくかけてきれいにとく。その反対にきれいにかけてきたなくとく。これがなんぞのきまりという。（石鴨）

子どものちんぼとかけて、手塚太郎光盛ととく、こころは

大きくなるにしたがって実盛をねらう。

折れたはかりとかけて、やきもちやきのおかみさんととく、こころはめかけはならぬ折ればかり（俺ばかり）

すり鉢とかけて寝坊のおかみさんととく、こころは、おこしてする。

寝坊のおかみさんとかけてすり鉢ととく、こころは、おこしてする。

天神さまとかけて、タメビシャクととく、こころは氏子を救う。

足尾銅山とかけて古ふんどしととく、こころは、たまに金が出る。

おっきれわらじとかけて十七、八のねえさんととく、こころは、あなもあいたがけもはえた。

オ××なめたとかけて床の間のそうじととく、こころは花生けがさわる。

なになになんぞ
なきりばんにほうちょう
そのうらなんぞ
鍋に入れてぐつぐつ
そのうらなんぞ
ちゃわんに入れてさらさら　（石鴨）
井戸にそりばし、だんごちんこなんぞ、それは鉄びん
朝早く一本道通るものなんぞ　（清水）
それは雨戸
坊主のあたまに皿が一枚ナンゾ、ケシ　（津久原）

馬方節の一節

（ハヤシ）
マメサエクレレバ
ピンシャンハネルヨ　パカパカ
トボグチにいて、寄れ寄れといっても寄らないものなんぞ。
ツエンボウ
けずればけずるほど大きくなるもの。アナ
さかさ井戸から大蛇がとび出る、小ぶなが止める。カギダケ
昭和橋とかけて何ととく
ボロフンドシととく、そのこころは、オマタが見える。（清水）

七方言

飛駒言葉　桐生と違ったことばづかいが多いので、飛駒っことばといわれた。例―セナゴ（兄）、舎弟（弟）、オッカヤン（母）、チヂカケ（石垣）、くね（垣根）、タンボコ（丸太）。（猿石）

テンパ―石垣の上をいう語。フクロッパタギー末っ子をいう。（猿石）
フキンヅル―フキの葉柄をいう。ツルともいう。（猿石）

草　花

カギンコバナ　すみれの一種のことで、子どもがとって来て、花のくびをひっかけてひっぱりっこをした。
イシベロ、石鴨ではシレイといい、津久原では白い花の方をシレイという。ハナシ、ハナナシの花で、球根はイシベロッタマ、花はイシベロで、盆花の一つにいれる。とってはならないほどではないが庭には植えない。（石鴨）
ジナイ　つぐみににた鳥で、たぶんアカハラという。
モンツキ　ジョウビタキが本名だと思うが、ちょうど紋があるように見える。モンツキバカッタラシともいい、すぐにでもつかまりそうなふうをしているのでつかめようとすると、ひょいと逃げてしまう。（石鴨）
カサヲカブル　かさをさすこと。
ツ　ボ　となりぐみ。
ポンバナ　オミナエシ、キキョウ、カルカヤボウズなど、いまは何の花でもいいように変った。
アマダレギワ　あまだれの落ちるところ。
ヒナタヘビ　さとではジムグリといい、土地ではツチムグリといっている蛇の一種。（石鴨）
クロボシ　クロボシとは、クルブシのことで、ここはアリンゴがはってもいけないという。（石鴨）
イ　ヌ　イヌというのはよくないものにつけてよぶことが多く、萱にている草をヘッタマというが、これも別名イヌガヤともいっている。（石鴨）
ボウのつく木　木は、ボウがつくのが悪いもののようで、カッテンボウ、ヌルデンボ

ウ、コーカンボウ（ねむ）、ヤッコンボウ（麻がら）はみな、木としても、薪炭にしても雑木である。（清水）

蚊

昔はゴムシーンと鳴いてきたが、今はキーン、或はクワーンとなく。クワーンといって、きつくくうものである。ブーンと鳴くのはアブである。（萩平）

蚊はクワーンといって飛んできて人の血を吸う。（橋詰）

お茶がしばなし　お茶を飲みながらの話をいう。（皆沢）

峠のすこしくぼんだあたりをさして「だあ」または「たあっこ」という。（高沢）

下の方のことを「でと」という。（高沢）

ものをのせることを「いっちける」という。（高沢）

ろくでなし　のろま、やくざものなどをさして、「よどうされ」という。（高沢）

天　気

ダッカゼ　沢の下の方へ吹く風で、炭やきの煙りが下へはうときは天気が変る。入梅の時期が蚕のさかんな時期なので、蚕をかっているときは炭やきの煙りに注意して、毎日よく見ていた。

風

足尾線の汽笛が聞えるときとか、草木の方の山のハッパ（発破）の音が聞えるときは風で、冬など向う山が見えないほどの雪がくる。

フッコミ（イリカゼ）　沢の下の方から吹いてくる風。（石鴨）

雪

ほんぶりではなく、風が運んでくる雪のことをフッコシとか、カザハナという。

フッコシは大きいかたまりになったのが吹いてきたとき。

カザハナは、小さいのがバラバラとくるときいう。（清水）

挨　拶

お早よう。今日は、今晩は、お晩です。

オトウ。オフチャン

トウチャン、オトウチャン（父）

オッカア、カカア、カアチャン、オカアチャン（母）

オジゴ、オバゴ

トンダワケデゴザイマシタ

ゴシュウショウデゴザイマシタ

（あとは、グニヤグニヤにごす。）（大門）

民家

一　はじめに

桑原　稔

これまで私は東毛の民家を調査する機会にめぐまれていなかったので、梅田町の民家調査には大きな期待を寄せていた。幸いにも、大川清一郎区長さんはじめ地元の役員の方々のお世話により、第一表に示す十五棟の民家を調査することができたことを、ここに深謝致します。これらの遺構を通して十八世紀の初期頃から明治に至る十九世紀の末期頃までの民家の実態を明らかにすることができたことは、当時の庶民の日常生活を直接示す有形的な史料を得ることができたわけであり、又滅び行く古民家の形態を、その寸前にとらえることができたわけであって、この方面の分野に今年も本編を通して寄与することができたことを感謝致す次第である。なおこの調査に当って、多忙にもかかわらず家の隅々まで心良く見せていただいた各家に心から感謝の意を表します。

第一表　地区別調査民家

地区	棟数	調査民家
一丁目	四　棟	青本末吉家、窪塚今朝吉家、内田正夫家、蛭間常夫家
二〃	一〃	津府子元蔵家
三〃	〇〃	
四〃	五〃	森下滋夫家、糸井栄三郎家、中島和夫家、森島茂平家、額山倉造家
五〃	五〃	星野富吉家、前原守家、前原八重子家、生形豊次郎家、前原コマ子家

二　梅田町内の古民家の現況と調査遺構の分類

このたび町内全地区を訪ねて先ず感じたことは、当地区が山地であるにもかかわらず桐生市街地に近接しているためか、近代化が著しく、百年以上の歳月を経た古民家があまりにも少なかったことである。町内に現存する近世民家を総ざらいしたのが第一表に示す十五棟であると言っても過言でない程で、これらの中でも外装は全く新しく変えられていたり、内部に於ても新建材を使って装いを新たにし、往時の姿とは全く異なっているものが三割近くにも及び復原図を画くのに大変苦労した程であった。

近世庶民の生活を知る上に、又、近世庶民の歴史を明らかにする上に欠くことのできない近世民家が、いまや壊滅の危機にひんしていることを生々しく感じさせられ、残された各家には滅びゆく古民家の哀愁が漂い、これらの家も、その多くが遠からぬうちに姿を消して行く運命にある今日、このたびの調査は正にその寸前にとらえることができた貴重な記録とも言えよう。

梅田町地区内における古民家の現況は上記のようであるが、これらの調査遺構を復原して、平面及び細部形式を分類し、様式編成すると第二

表のようになる。第二表で明らかな如く町内の近世民家は、平面形式から基本的には次の二つの形式に区分される。

(1) 広間型
(2) 四間取型

次にこれら二つの形式についてその特質を順次記述する。

三　広間型の民家について

この地方に於ける民家形式の最古の型は県西部(註1)、や赤城南麓地方に於ける古民家の形式(註2)と同様である広間型の形式を示すことが、このたびの調査で判明した。この広間型に属する民家遺構は第二表に示すU₁～U₈までの八棟であって調査遺構中の過半数となった。このうち最も古いと思われるものは青木末吉家であり、推定建立年代は十八世紀初期頃のものであり、最も新しいものは前原コマ子家であり明治十三年の建立となるものである。(第二表参照) この様に当地方に於ける広間型は、江戸初期の頃より明治の初期頃までにわたって建築されたもので、このような長い時代にわたって広間型が建築されたのは他の地域では見られないところである。(註3) これらの近世末期頃に建立された広間型遺構の総べては、桐生市街地より最も離れた梅田町五丁目の奥地、根本山に近い交通の不便な位置に存在する。従って、このような疎外された地域こそ広間型を明治に至るまで建築させた最大の原因であろうと考えられる。だが、今日ではやはり近代化の波はここにも及んで我々が訪れたのが遅かったことを残り少ない古民家が訴えているようでもあった。

三・一　広間型の古い遺構について

ここでは一応十八世紀末期頃までの広間型遺構を当地方に於ける広間型の古い遺構と考える。従って、この中にはU₁～U₄が含まれる。この中で最も古い平面形式を示すのが、青木末吉家である。当家は現在トボーグチの左側二間をもぎ取り裏側を改造し、梁行一間を拡張しているため、ナンドの奥行などは二間となっているが、復原すると添図U₁のように梁行三間、桁行八間余りとなる。平面の区画は、長方形を桁行のほぼ中央で二分し片側を土間として〝台所〟(ダイドコ)と呼び、ザシキと対して表側片隅にウマヤを配置する。この土間を除いた他の部分は床板が張られるわけであるが、この床上部分をさらに縦に二分し、土間寄りの大きな室を〝ザシキ〟と呼ぶ。残りの床上部分は表側に二間四方の室をとって、ここを〝デイ〟と呼びこの奥を〝ナンド〟と言う。次にこれらの各室について機能や年次的な発展過程を概説する。

○　デイについて

デイはいずれも二間四方の正方形の室となるが、古い遺構では表側の一間が土壁となり、トコやトダナも付かない。又ナンドとの境も土壁で閉鎖される。この室は他の室に位べて最も重要視された室ではあったが、未だ閉鎖性が強く対社会的空間として完成された室となっていない。この様な手法は青木末吉家や星野富吉家にみられるところであって十八世紀中頃以前のものと考えられる。これが次第に開放的になって行くのは、この室に限らず民家の発展の方向であるが、デイに於ては先ずナンドとの境の土壁が半分取除かれて、ここに建具が入り次いで表側の土壁も取除かれて表側が総べて開放される。こうして室廻りが開放されると同時に奥行の浅いトコやトダナが付いて一応対社会的空間としての体裁を備える。その早い例として見られるのが森下滋夫家(U₃)や糸井栄三郎家(U₄)であり、その建立時期は十八世紀末頃と思われる。ここで特記したいのは森下滋夫家である。どの古民家でもデイの柱にだけはカンナが掛けられるのが普通であるが、当家の柱は総べて栗材を使用しており、しかも総チョーナ仕上げである点がめずらしく特に注目されるところである。

○　ナンドについて

ナンドは家族の寝室に相当する室である。この室もデイと同様古い時代のもの程閉鎖性が強くなるわけである。青木末吉家より推察すれば十

八世紀初期にまで溯る古い民家のナンドは、わずか半間の出入口の他は総べて土壁で閉鎖されていたようである。そして昼でも全く採光されない陰惨な室であった。それが先ずデイ境の土壁を半分取除いて、ここに建具が入り、デイを通してであるが表側より採光が可能になる。この早い例が星野冨吉家であり、十八世紀中頃のことである。この後ナンドはザシキ側の開口部も大きくとられて幅一間に建具が入るようになる。しかしナンドの奥行は一間半をとるため残り半間は土壁が残存することになる。この例は森下滋夫家や糸井栄三郎家に見られるところであって十八世紀末期頃の手法に見受けられるようである。

○ ザシキについて

古い様式に見られるザシキの表側は、その幅の半分（一間）を低い腰壁の上に、格子棒を嵌込んだ武者窓とするようであるが、姪間常夫家（U15）のザシキ表にもこの武者窓が存在しているので、時には時代が降った時点に於ても武者窓は設けられることもあったようだ。

ザシキの本来の機能は床上の作業と家族のだんらん及び近隣の来客に対する接待とを合せ持つ多角的兼用空間である。そのためこの室には台所寄りにイロリが設けられるのが普通である。なお、古い遺構のザシキと台所境に建具は入っていないし、大黒柱の逃げもない。それは台所とザシキの密接なつながり（連続性）を表現するものであり、大黒柱の逃げのないことは、この室が当初に於ては板敷のまま使用されていたことを示している。すなわち、ザシキと台所とは互に結び付きが強く連続性を持たせる必要があった。そのためにザシキと台所境には建具が入らなかったのであり、このことはザシキの当初の機能が多角的兼用空間であったことを端的に示しているわけである。しかし、今日みるとこのザシキは大黒柱の位置で前後に区画され二室として使用されており、土間境にも建具が入っている家が多い。だが注意して検討すると前後の室境の鴨居は、後に入れたものであることが容易に判明し、土間境でも現在使用されている敷居下のカマチの角が丸くすりへっているので元は建具のなかったことがすぐにわかる。

○ 構造について

広間型の古い遺構に見られる構造の特質は、大黒柱が必ず棟の真下に据えられることである。これは赤城南麓地方に於ける古民家の構造にも見られた(註2)ところであって、その時代の構造的制約がそうさせたわけである。このため平面計画の強い影響によって、大黒柱より先に棟下から離れて行ったデイ・ナンド境の柱と相変らず旧態を維持して梁行中心線上に据えられた大黒柱とは当然ずれが生ずることになって、ここに見られる遺構（U1～U4）のようにデイ・ナンド境の柱と大黒柱とは前後に半間近い喰違いを生ずることになる。そして、これらの遺構では大黒柱の仕上げはチョーナが一般的であり、土台（地ふく）は用いられず柱は玉石の上に直接据えた。柱間の基本は一間であり、開口部もその幅は一間が基本であり、二間の開口部には必ず中間に柱が立ち柱間は一間となる。そして、この開口部には雨戸二枚、障子一枚を嵌め込んだことが、どの開口部の敷居、鴨居も三本溝であるところから推察される。

三・二　広間型の新しい遺構について

ここにいう広間型の新しい遺構とは、十九世紀初期から末期頃にかけて建築されたものを言う。従ってこの中にはU5～U8までが含まれる。この形式ではナンド・デイがより開放的になって土壁が消滅するのが大きな特徴であり、構造についての特質は、前形式に於て必ず棟の真下に存在した大黒柱が、棟下から逃げてナンドとザシキ境の間仕切線上に移行していることである。そして、梁行規模は増大して、中には五間もある大規模な家も現われる（U7、生形豊次郎家）又、屋根形式に入母屋造りが現われるのも十九世紀に入ってからのことである。当地方は古来より田畑は全く開けておらず、農家の生業は山仕事が主であった。そのためか蚕業もあまり行なわれなかったようで養蚕の影響を受けた民家を認めることができなかった。これは本県に於てはまことにめずらしいことで

他に例を知らない。従って、この地方の民家は明治に至るまで小屋裏利用が考えられず、対社会的空間であるデイの他は天井も張られないのが普通である。

○ デイについて

三方に建具が入り、妻側にはトコやトダナが設備され対社会的空間としての体裁を整える。一間の柱間はこれまでの約六・三尺より延びて約七・八尺余りと拡大する。デイとザシキ境は後になると中間に立つ柱が除かれて、ここは差鴨居が入るが、ナンドとの境や表側の開口部には、最後まで中間に柱が立ち、差鴨居が使用されないのは他の地域には見られないところであって特に注目される。

デイにトコやトダナが付く早い例は十八世紀末頃と思われるが、十九世紀に入ると一般化され、ほとんどの家に奥行の浅いトコやトダナが設けられたようである。こうして、デイは十九世紀に入ると名実共に対社会的空間としての体裁を備え民家では最も格式の高い室として整備されるのである。

○ ナンドについて

前にも述べたとうり、ナンドの本来の機能は寝室である。新しい遺構になっても、ナンドの機能について変化はない。ナンドはこの様な機能上の関係から、古くは全く土壁で閉鎖され、わずかに半間の出入口をザシキ側に開くだけであった。恐らく寝具のあまり発達していなかった時代に於ては、この様な閉鎖性が冬の寒さをしのぐのに好都合であったことは事実であろう。しかし、時代が新しくなると、この様な閉鎖性は徐々にくずれて、十九世紀中頃にはデイやザシキとの境が全部開放されて、ここに建具が入る。これらに相当する遺構が前原守家や前原八重子家である。さらにナンドは裏側にも一間の開口部を設けて、直接天空光を採り入れることになる。生形豊次郎家や前原コマ子家はこの例であり、ナンドは十九世紀中期から末期になると、居住性を増大して、時にはデイ境の建具を取りはずすことにより、デイの延長としてデイと共に使用されるようにもなる。

○ ザシキについて

一九世紀中期以降の広間型に於けるザシキは、裏側にも幅一間の開口部が設けられて、前後より採光することになる。このためザシキの奥も明るさを増し、台所境には建具を嵌め込んで居住性の向上が計られる。しかし、床は相変らず板張りのままで使用され、イロリも存在するとこからら、居住性の向上が幾分計られはしたが多角的兼用空間としての旧態を依然として持続けていることを示している。ザシキの奥のナンド寄りには上下に区分されたトダナが必ず付き、上段のナンド寄りに仏壇を置く。このトダナの上部にはザシキの幅いっぱいに板を渡して、ここを神棚とすのが通例である。

○ 構造について

広間型の新しい遺構に於ける構造の特質は、古い遺構に於て必ず棟下に据えられた大黒柱が、棟下から離れて平面計画上都合のよい位置、すなわちナンド・デイ境の間仕切線上に移行することである。大黒柱が移行すれば、これに従って下大黒柱も移行することとなって、大黒、下大黒柱はナンド・デイ境の間仕切線上で桁行方向に一直線に立ち並ぶことになる。この様な柱の棟下からの移行は構造的に重大な意味を秘めていると考えられる。それは構造的に重要な柱の配置が、小屋組との制約から独立したということであり、柱の位置と小屋組との関係が遊離したことにより、平面計画上自由な位置に柱を配置することが可能になったことを意味するものである。

四　四間取型の民家について

この形式の最も古い遺構と思われるものが、中島和男家（U$_9$）である。当家に於けるデイとナンド境の間仕切柱や大黒柱・下大黒柱はどれも棟の真下にあって構造的に古い様式を示している。デイとナンド境は土壁で閉鎖され、ザシキ表には武者窓を残す等平面的にもいくつか古い

様式を残している。当家の建立年代について知る資料は他にないが、十八世紀中期を下らないと推定する。なお、当家はこの頃の他の遺構と比較して規模が大きかった様で梁行は五間近くもある。これは当家が古くより名主の家柄であり、その格式が建築規模に反映したものと推察される。又、当家のデイとザシキ、チャノマとザシキ境には差鴨居（高さ七寸）が使用されており、差鴨居使用の早い例として注目される。これより新しい遺構になると、先ず、デイとナンド境の土壁が半分取除かれて、ここに建具が入る。さらにナンドは開放される傾向をたどるが、これは広間型の傾向と同様であり、十九世紀も末頃に至ると蛭間常夫家の様に各室境の間仕切には、総べて差鴨居が使用されるようになる。ナンドやチャノマの外壁も一部取除かれて外から直接採光が可能になる。だが、この地方の特徴として、広間型・四間取型を問わず表側の柱間の基本は一間であり（註4）、ここの部分に差鴨居を使用しないのは特異である。

○ ザシキについて

四間取型のザシキも古くは板敷で台所境には建具もなかった。しかし、やがて畳が入ると台所境に建具も入って、この室はデイと続いて接客空間の機能を果すようになる。こうして、広間型に於て、接客（註5）と作業と談らんとを兼ねていた多角的兼用空間としてのザシキが、四間取型になって、デイと付随した接客空間としてのザシキとして分化独立するのである。

○ チャノマについて

広間型に於て、大黒柱の位置でザシキを前後に区画した場合、表側の室が四間取型におけるザシキであり裏側の室がチャノマである。チャノマは四間取型になって新しく出現した室名であり、その機能は家族の居間と対近隣社会的接客空間とを持ち合せたものである。そのため、この室には台所寄りに必ずイロリが設けられる。古い遺構では台所境に建具が嵌められず、台所とこの室との結び付きが強かったことを示している。しかし、新しい遺構では台所境に建具が嵌め込まれチャノマは台所との関連を一応断ち切って一つの室としての体裁を整える。こうしたチャノマの機能は家族の居間そのものであり、これまた空間の機能に対する分化、独立が行なわれたわけである。チャノマが台所から独立すると同時にイロリは台所に移行することとなった。こうして、対近隣社会的接客空間もチャノマから独立して、このイロリと共に台所に進出することになったのである。このため、台所内には〝上リハナ〟に続いて大黒柱より奥に幅一間余りの床板が張られイロリはここのほぼ中央土間寄りに設けられることになり、台所の土間面積はその分だけ減少する。内田正夫家（U14）や蛭間常夫家（U15）はこの例である。

○ 構造について

古い四間取型遺構に於ける構造も大黒柱は棟の真下に配置され、広間型の古い遺構に於ける構造の特質と同様の形式を示すことが明らかとなった。そして、この様な遺構は細部資料も含めて検討すると、およそ十八世紀の中期頃まで溯るようである。十九世紀に入ると大黒柱は棟下より離れて、広間型の新しい遺構で解説した構造形式と同様の様式を示すことも判明した。一方これは平面的には、広間型の新しい遺構に於て、ザシキを大黒柱の位置で前後に間仕切れば、そのまま四間取型になることを構造的に裏付けるもので、この地方の四間取型が広間型から発展したものであることを証拠づけるものとして特に注目されるところである。

五　台所について

台所の面積は建坪のほぼ半分を占め、ザシキより一間あるいは一間半離れた位置の表側に幅一間のトボーグチを設ける。カッテ（ナガシ）はトボーグチを入って正面の奥でザシキあるいはチャノマと接して設けられた。ウマヤは古くはトボーグチに接して表側の片隅にザシキと対して設けられたため、トボーグチを入ると先ず馬に挨拶されたような有様で

あった。しかし、早いものでは十八世紀の末期頃には、ウマヤは後退して裏側の片隅に配置されるようになる。そして、もとのウマヤの位置には表側に〝サマ〟と呼ばれる格子棒が嵌められ、ここから台所内に採光することが可能になった。こうしてウマヤが台所の裏側の片隅に後退することによって、台所はより有効な空間を得たわけであり、この部分を市街地から離れた山間では〝スキヤ〟あるいは〝カミヤ〟と呼び、市街地に近い一丁目や二丁目あたりでは〝ハタヤ〟と称するようである。

スキヤあるいはカミヤの名称は、ここで紙スキを行ったために名付けられた名称であり、この名称が市街地より離れた山奥の地に多いのは、紙スキの条件（註6）と関係深いところであろう。この様なスキヤの設けられている遺構で最も古いと思われるのは森下滋夫家（U3）であり、一八世紀末頃のことである。

市街地に近い地区では、同じ場所をハタヤと呼ぶ。これは、この場所で機織りをしたことを物語るものである。十九世記に入ると、この地方の農家はどれもハタヤを有し、機織りを通して貨幣経済が浸潤していったことが建築的にうかがわれる。桐生地方の機織りは十八世紀の中期頃京より西陣の織師を招いて西陣技術の伝習を受けるため、その後急激に発展する。（註7）従って、建築にその影響が現われるのは十八世紀末期から十九世紀初期の頃であり、ウマヤが台所の奥に後退した表側にハタヤの設けられる時期は早くて十八世紀末期頃のことであろうと推察する。遺構に於ても十八世紀中期頃まで溯るとウマヤはトボーグチ近くの表側片隅に位置し、スキヤまたはハタヤは存在しないことが実証できた。青木未吉家（U1）や星野冨吉家（U2）がその例である。

「註」

1……桑原稔「群馬県西部と北部の民家遺構について」日本建築学会関東支部第三九回学術研究発表会梗概集（昭和四十三年六月）

2……同「赤城南麓民家に於ける平面と構造の年次的変遷について」日本建築学会関東支部第四〇回学術研究発表会梗概集（昭和四十四年十一月）

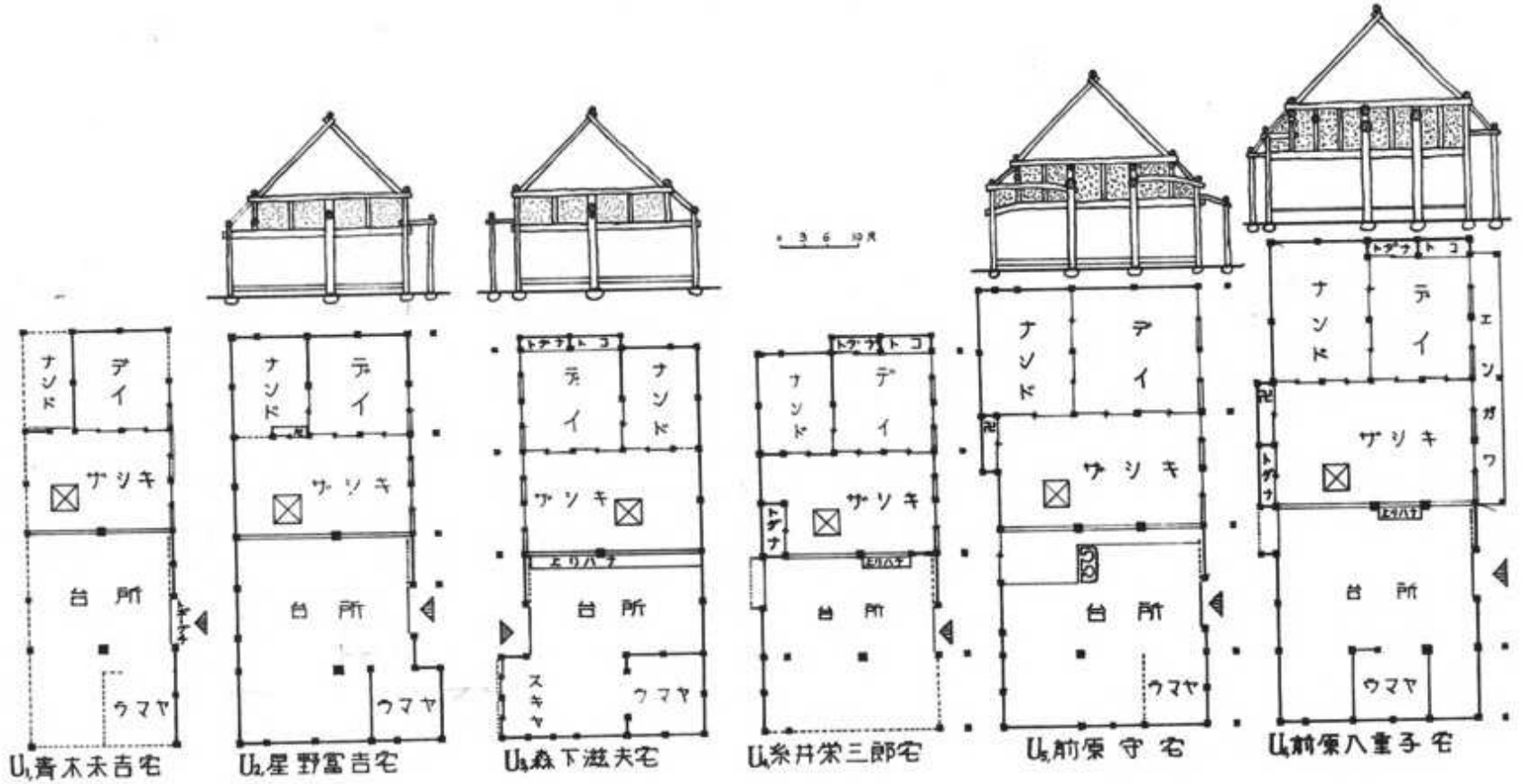
3……全国的にみても、広間型は近世前期頃までの古い遺構にみられる型であり、これから派生した喰違四間取型や田字型に吸収されて近世末期には全く姿を消すのである。これまで県内に於ても広間型は十八世紀中頃までの存在は確認されていたが、それ以後は見られなかった。

4……この地方の柱間は十八世紀末期頃までは約六・三尺のせまい柱間であり、十九世紀以降は約七・八尺の広い柱間をとるようになる。しかし、これは桁行方向の柱間についてのことであって、梁行方向柱間は一貫してせまい柱間を採用した。このため十九世紀以降におけるこの地方のデイは桁行に約三尺程長い長方形の室となる。

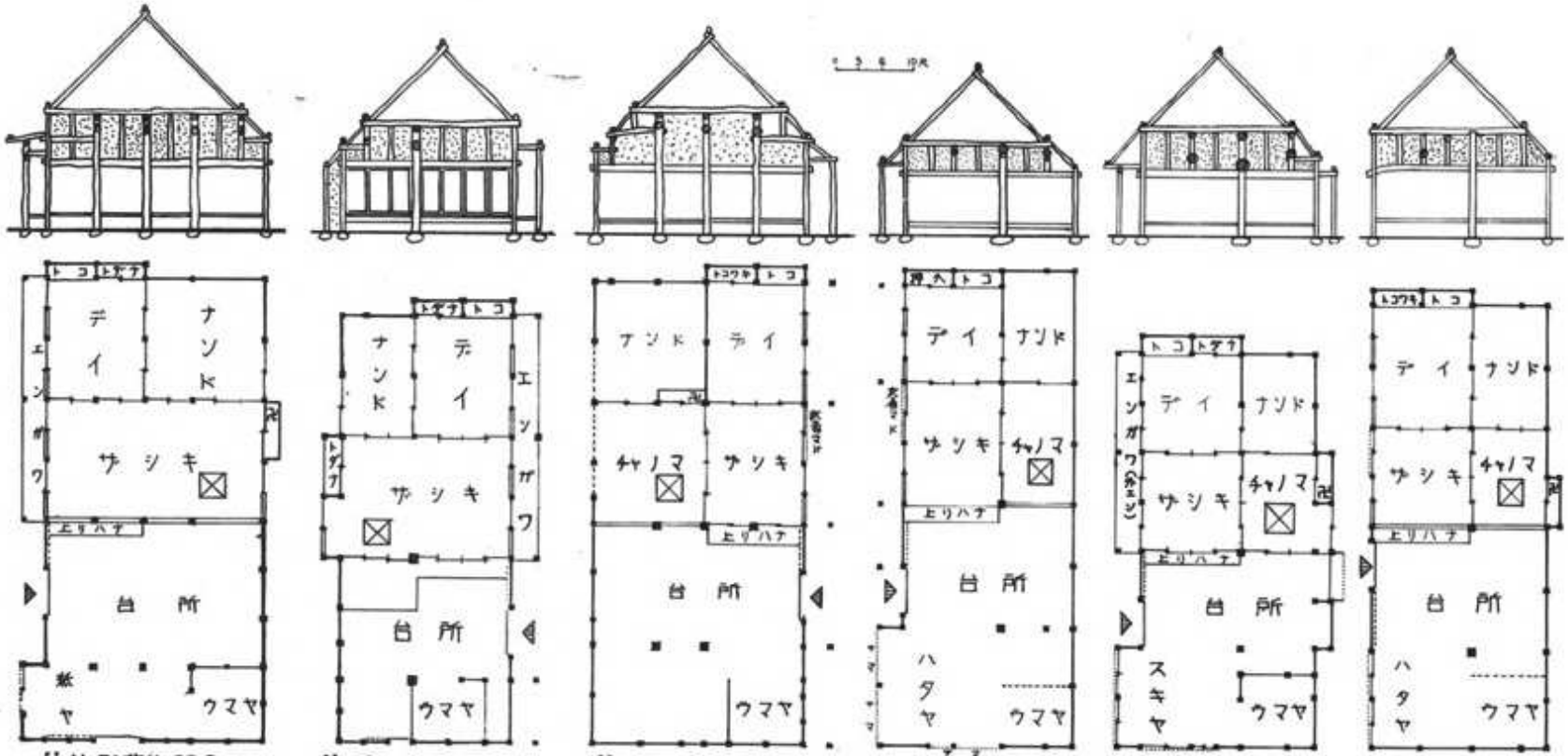
5……冠婚葬祭等正式な儀式に於て接客空間となるのはデイである。広間型に於けるザシキの接客とはもつと狭い意味でのことであり、イロリを囲んで家族ぐるみで談笑できる範囲の客と応対する場のことを意味し、日常近隣との応対は当然この中に含まれる。即ち、対近隣社会的接客空間とでも言われるものである。

6……土地の人の話によると、紙スキは水温と深い関係があり、上流の清く冷たい水が得られることが、その大事な条件とされている。

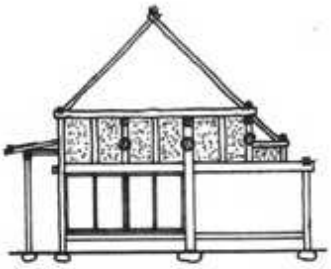
7……群馬県蚕糸業史編纂委員会編集「群馬県蚕糸業史下巻」群馬県蚕糸業協会発行。



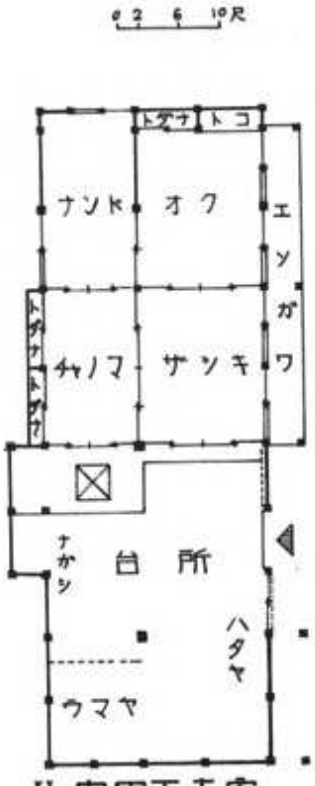
U1 青木禾吉宅　U2 星野富吉宅　U3 森下滋夫宅　U4 糸井栄三郎宅　U5 前原守宅　U6 前原八重子宅



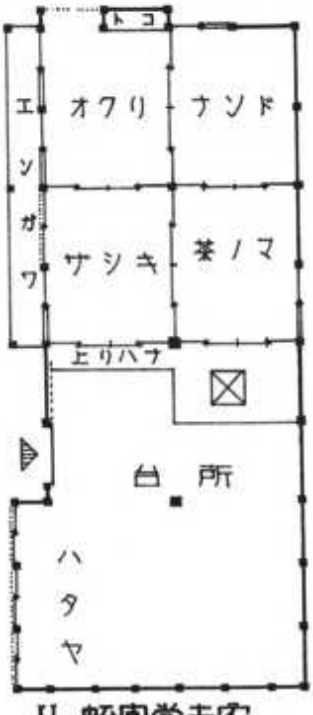
U1 生形豊次郎宅　U8 前原コマ子宅　U9 中島和男宅　U10 窪塚今朝吉宅　U11 森島茂平宅　U12 津府多元蔵宅



U13, 籾山倉造宅



U14, 内田正夫宅



U15, 蛭間常夫宅

第二表　梅田町民家遺構の形式分類表

所有者氏名	所在地	形式・構造 平面の形 広間型	平面の形 四間取型	土台 ナシ	土台 アリ	表側の柱間 一間(狭い)	表側の柱間 一間(広)	軒の構造 フキ下ン	軒の構造 セガイ	桁と梁の架 折置	桁と梁の架 京呂	大黒柱の徙け ナシ	大黒柱の徙け アリ	大黒柱と棟との関係 棟下にアリ	大黒柱と棟との関係 棟下にナシ	仕上・設備・間取・その他 土間・床上境の柱仕上 チョーナ	土間・床上境の柱仕上 併用	土間・床上境の柱仕上 カンナ	トコ ナシ	トコ アリ	トコの奥行(尺)	書院 ナシ	書院 アリ	屋根の形式 寄棟	屋根の形式 入母屋	エンガワ ナシ	エンガワ アリ	天井のある室名	長押のある室名	建立について 建立されたまゝ	不明	再建されたもの	昔の家柄(役職)	古い位牌の年号	古文書の年号	推定建立年代(世紀)	備考
U_1 青木末吉	1丁目	○		○		○		○		○		○		○		○			○		/	○		○		○		/	/		○		農			18初	
U_2 星野富吉	5 〃	○		○		○		○		○		○		○		○			○		/	○		○		○		/	/	○			〃			18中	ナンドを改造した時柱と梁の柄から室間の判明が出[illegible]
U_3 森下滋夫	4 〃	○		○		○		○		○		○		○		○				○	?	○		○		○		/	/		○		〃		天保11	18末	
U_4 糸井栄三郎	4 〃	○		○		○		○		○		○		○				○		○	2.1	○		○		○		/	デイ		○		[illegible]	天文17	延宝7	18末	
U_5 前栗 守	5 〃	○		○			○	○		○		○			○			○	○		/	○		○		○		/	/	○			農			19中	現主(大正5年生)で4代目
U_6 前栗八重子	5 〃	○		○			○	○		○			○		○		○			○	2.1	○			○		○	/	デイ		○		〃			19中	
U_7 生形豊次郎	5 〃	○		○			○		○	○			○	○				○		○	1.9	○			○		○	デイ(根太天井)	デイ	○			〃			19中	現主の9代前の人.政蔵(明7年,59才没)が建立する.
U_8 前栗コマ子	5 〃	○			○		○	○		○		○			○			○		○	1.6	○		○			○	/	〃	○			〃			19末	ひいおばあさん(8[illegible]才没45年前[illegible])[illegible]
U_9 中島和男	4 〃		○	○			○	○		○			○	○			○			○	?	○		○		○		デイ(サオブチ)	〃		○		名主	延宝2	永楽3	18中	
U_{10} 窪塚今朝吉	1 〃		○	○			○	○		○		○			○	○				○	2.1	○		○		○		デイ(サオブチ)	〃	○			農			19初	
U_{11} 森島茂平	4 〃		○	○		○		○		○			○		○			○		○	2.2	○		○			○	デイ(サオブチ) [illegible]	〃		○		〃			19中	
U_{12} 津府秀蔵	2 〃		○	○			○	○		○			○		○			○		○	2.2	○		○		○		/	/		○		〃			19中	
U_{13} 籾山倉造	4 〃		○		○	○			○	○			○		○			○		○	2.1	○		○			○	/	デイ		○		〃		嘉永2	19中	
U_{14} 内田正夫	1 〃		○		○		○	○		○			○		○			○		○	2.0	○		?			○	デイ(サオブチ)	〃		○		〃			19末	
U_{15} 蛭間常夫	1 〃		○	○			○	○		○		○			○			○		○	1.8	○		?			○	/	〃		○		〃			19末	

森下滋夫家（U₃）正面

青木末吉家（U₁）正面

森下滋夫家「スキヤの」表側サマ

星野冨吉家（U₂）正面

糸井栄三郎家（U₄）

星野冨吉家大黒柱

大黒柱の逃げがないため、柱を欠き込んで畳を入れている。元は畳が入っていなかった。

前原守家（U₅）正面
草葺屋根の上にトタンをかぶせたもの

星野冨吉家小屋組

前原守家大黒柱

大黒柱の逃げはなく、しかも畳と大黒柱間に畳寄せ（板張り）を有する。これは「ザシキ」に元は畳が入っていなかったことを示す。

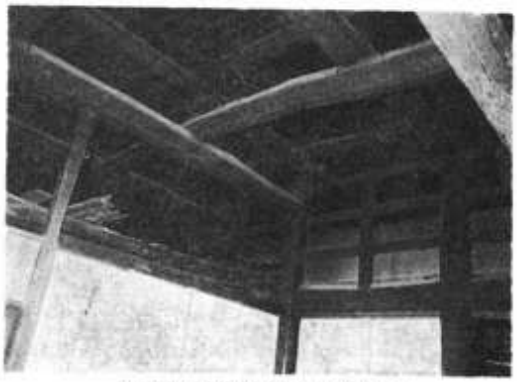
生形豊次郎家の妻屋根
元は入母屋であったという。

生形豊次郎家大黒柱

大黒柱は逃げがあって畳がすっきりと敷かれている。元から畳が入っていたことを示す。

前原八重子家（U₈）

前原コマ子家（U₈）



前原八重子家台所の上部架構

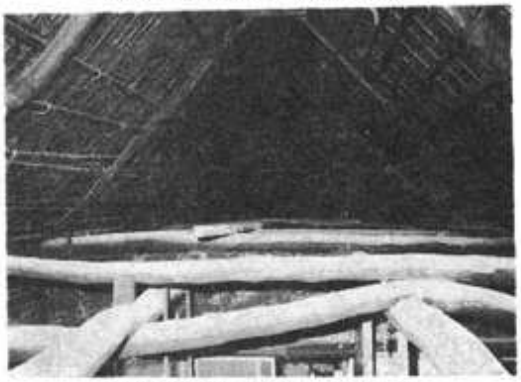
中島和男家（U₉）正面

生形豊次郎家（U₇）正面
棟のヤグラは後に上げたもの、元はクレダシ（土の付いた芝や草を棟に厚くのせたもの）であった。

靱山倉造家（U13）

窪塚今朝吉家（U10）
草葺屋根の上にトタンをかぶせる。

靱山倉蔵家、軒裏（セガイ）



窪塚今朝吉家、小屋組

内田正夫家（U14）
外観は改造してしまって往時をしのべない。

森島茂平家（U11）

蛭間常夫家（U15）
改造して外観は全く往時の面影をとどめない。

津府子元蔵家（U12）

（資料）

高山彦九郎

忍山湯旅の記

忍山湯旅の記（御物）　（二十九歳）

題名　原本ノマヽ、表紙現存ス、「安永四年乙未秋、七月二十九日甲戌、忍山湯旅の記」ト記ス。

範囲　自安永四年七月二十九日至同八月十三日、但シ原本ハ七月二十九日三十日ノ二日ノミニシテ以後ハ写本ナリ。

原本　一、体裁　半紙四ツ折横本。

一、紙数　表紙共ニ七葉。

一、所蔵者及其ノ経路　宮内省御所蔵御物ニシテ、矢島行康ガ高山彦九郎ノ叔父剣持長蔵ノ子孫ヨリ譲受ケ、明治二十年献上シ奉リ、御物トナリタルモノナリ。

写本　「玉能御声」巻六、原本ニ欠ケル八月一日以後十三日マデヲ収ムル筆写経路不詳。

内容　郷里ヲ出発シ、桐生ノ奥ニアル忍山温泉ニ入湯シテ帰宅スルマデノ記事ニシテ、地誌或ハ郷土資料トシテハ詳細ヲ極メタリ。

忍山湯旅の記

（自安永四年七月二十九日　至同　八月十三日）

叔父万郷君のさそいに因て忍山入湯の定めありぬ、立ちの時に至りて祖母公ゟ七十疋蓮沼政徳ゟ金百疋銭あり、七月二十九日、甲戌、氏神を拝し奉りて祠堂を拝し五ツ過に叔万郷細谷村に至り玉ひて四ツ時分に細谷村を立ツ、僕は台村ゟ具せられたる源七也、北原へ出てゝ由良村へ入る、たいみや右の方に藤の木有、其もと古の社地也と云イならハし置けりし所なりけるとなり、いつの頃か土民其地をほりて金男根を得たりいのりて証るし有りとて是を金男根大明神と号し今に祠あり、是レ欄干のきぼうしかきざはしの□の両方にある所のぎぼうしの地に埋れ有りしを後にほり出して愚なる土民共取り誤りて斯く号せるならむか、また林道春の神社考に戴（マヽ）せられたる奥州のまらがたの社の類か、一笑するにたへたる事也、斯く謂ハれなき神名を初むる程の里なれハ郷に至りてハ邪乱をなならハしとして五倫の間乱れたり痛むべきの至り也、由良村ゟ北新野の原へ懸りて新野村の人家を経て縄手を東北へ越へて中鳥山の宿と云ふ所へ出ツ、東西の通りにて（此所）古は宿ならん、即チ東へ経て右は小島山也、宿の東のはずれにしハらく休ひ酒などのみて是レゟ北上鳥山の方へ行きて堀を橋にて渡り郷戸村也、東に金山の松茂きに籠稲の蒼みたる所いとよし、北には小高き所に人家並ひて是レもまたよし、是レも郷戸の中也、彼ノ小高き所を左りに見て東北へ行く、彼ノ人家の前を堀流る是レを新田堀と云ふ也、郷戸の西に寺尾村見ゆ猶ほりにさかのぼりて樋有り水地中を行きて南に流る、土手の方への用水ならん、小坂を経て萩原是レ金山の北にて此辺より山田郡なり、細谷村ゟ鳥山迄壱里半是レ迄凡ソ二里東に丸山の里米山の薬師堂見ゆ、小山にして後は巌にてやゝ笠置の思ひを起す、此山を米山と号するは越後国に米山の薬師とて霊仏有り是レを以ての号ならん、道ゟ五丁斗り也、左りに山を見て北へ行きて吉沢村人家西を山にして東を新田堀の本流れて清き里也、猶北へ行きて人家を離れ左り堀の向ふ岩山もとに石の小祠有り石神明神と号するとそ、火打石出ツ、此石他国へ出たす事明神の禁すると（云ひ伝）ふ、惣して此石を取る事を神の好み玉ハすや（ずカ）、近年堀普請に役せられし人石を取りに岩屋へ入りて石を以て彼火打石を打破らんせし（と脱カ）に岩崩れて其人死せりと云ふ、道ゟ見るに物すこく暗き所也、是レゟ二三丁さかのぼりて新田堀を土橋にて渡る、此所堀東に遠かる也（ゝ脱カ）、唐沢人家を経て里続き一本木村此辺ゟ石道ゟ里柄吉沢ゟおとれり、下広沢村左り壱丁斗り入りて山の下に社有り、鳥井東に有り正一位加茂大明神と額に書せり、是レゟ社前まて石を布く、社東向舞殿五間半に二間茅葺三神也、本（宮）こけら葺両社は板葺也、本宮凡ソ壱間四方神垣六間に五間也、森夏木茂けし、社の後は山也、此の方に社家有り飯塚多宮と云ふ、叔父と共に立寄りて神名等を問ふに多宮老人なりしか知らずして傍の婦人上加茂の神にて別雷（ワイカツチ）の命の由云ふ、斯く社家愚かなる故に諸国の神多フくハ仏の為メに奪ハれたり、痛むべきの大なる也、別当も真言宗にて法薬寺とて有るの由也、此地も山田郡にて当社上毛十二社の一ツ也、社領とて別にあらず社地ゟ山に至りて三丁（斗）りの除地（と）云ふ、下広沢村□□□の所也、社家へ十二銅御酒（神脱カ）として献す、叔父も同し、道ハたの酒店に腰打懸けて中食し酒など飲みて七ツ時分に下広沢を出てゝ猶北へ行キて松原の渡し也、是下広沢村の中なり、渡しのこなた新田堀の源渡瀬川ゟ分る、夏を歩渡りす凡ソ三十間斗り也、渡りて綱越しにて渡瀬川を渡る、川幅凡ソ壱丁斗北へ渡る也、境野村を経て桐生新宿（シンジク）に至る、左右の人家皆ナ糸織（ゟ）を以て業とす、家の前小溝流る水車を以て綱を家に引はゑて糸をくる、奇異なる業なり、人の身なりもむさ〳〵しからず、わきて女は常に綱織る業を以て戸外に出る事希れなれは色つやも又タ悪しからず、是レゟ程なく新町也、入口東の方へ行道有り是レ足利への通路也、行程三里大間々へは二里と云ふ、新町は南北への通り也六丁斗り人家多フし、町

の中溝流る、是レも水車を以て糸をくる、富家多フし、鳥山ゟ此所迄三里余細谷村（より）凡ソ五里細谷ゟ鳥山迄ハ丑の方へ来る、郷戸萩原辺迄も同し、其レゟ桐生まで北とさして来る也、新町の中右の方市神の社有り、社前に（鞠場）□□有り、此（所）さや縮緬りんずどんすりうもんなゝこ絹はた等多フく出るを以て繁花にして人驕奢の風有り、上方の人売買の利を得んが為メに多フく入り込む故上ミの風をも少しくまじゆ、上毛は絹を多フく出す所といふわきてこの辺多フし、凡ソ四海半はをつくのふと云ひ伝へたり、新町の市三七の日なり、町の出口左り天神の社鳥井有り、石橋を渡りて壱丁斗り入りて流れ有り、板の反り橋屋根有り、渡りて社有り、左りに観音堂右鐘つき堂天神の社大イ也、拝殿を入りて拝す、時に暮六ツ時也、通りへ出でゝ天神宮の鳥井有り、新町ゟ忍山へは北へさして行く、おんだし町屋村爰に在り大荒神の社有り、大浜村の中にて大門といふ所左り黒門有り、桐生山鳳仙寺曹洞宗の御朱印寺有り、同しく大門の中左り西方寺とて済家宗大寺有り、次に居立て爰に道の右矢車金胎円の宅有り、高間々ゟにて酒店にてしハらく休ふ、新町ゟ壱里道甚だ暗し、湯沢次に浅部左りこう沢道右橋を渡りて叔父人家へ寄り玉ふて道を問はる、忍山まで壱里にしてまがひなしといふ、次に□（ニ脱カ）渡村に入りてひでに火とほして行くに逢ふ、乞ひとりて行く、猿石の彦右衛門は湯本三郎左衛門族類なるの由にて爰に灯燈を求むへきのよし彼の火とぼしの人云ふ、故に橋を渡りて彼ノ彦左衛門所へ寄る、また橋を渡りなして忍山道へ入り橋を渡りて川を左りに見る、火□燈へすきて燈火をきやす、紙などを以て煙管の火にてろうそくの火を取らんとせしが叶ハずして暗中を行く、橋をまた渡りし事有りて川を右にせり、忍山入口平六と云ふ者の所にて灯燈をかりて出ず、湯本三郎右衛門前にてまた橋を渡る、渡る時に五ツ半斗り也、高間々ゟこなた雨少しく降りし事有り、三郎右衛門事今は吉右衛門といふ、先ツ今夜は本宅に寝ぬ湯に壱度入りぬる也、新町ゟ二里半と云ふ三里及ぶべし、忍山は二渡村五百三十七石の中也、酒井小平治殿野々山十介殿小笠原忠左衛門殿川野善左衛門殿四人にて知行せり、湯本三郎右衛門は酒井氏の下也、忍山は沢の音ト恰モ雷雨の如し、川に山魚（ヤマメ）と云ふ魚多フし、外はうなぎ少しくあり小ばやもすめり、水早ヤければハ魚すくなし、三郎右衛門家ハ北と南に板橋有り是レゟ通路す、三十日天気吉、坪へ移る、二階下也、座敷の中廬有り外に棚有り、

（御物原本此処ニテ終ル）

八月、丙子朝、早に起て袴きて叔父と共にせり石へ参る、猿田彦命也、社美麗也、神主森下伊豆守と立なからしハらく語る、さる石大明神なりし所十年斗り以前猿田彦大明神に改めし由神主語る、川上二丁斗りに大石の上に松少し生ひて小祠有り是レを影向石と云ふ、せり石の川向は野州のよしなり、彼の大石は下野の分也とそ、是レより帰りて薬師へ行く、湯本宅より薬師まで六丁といふ、湯本をさる事壱丁余にして右川中に大石の上に弁天の小社有り、はしごにて登る、木生ひて有り岩松なども生ひたり、下に岩屋有りとそ、是レを右に見て行き欄干橋有り是レ迄湯本より三丁斗り、此橋ゟ東へ行く事六丁斗りにて蕪丁（カンヂャウ）とて家六軒有り、橋を渡らずして北へ行く事半丁斗りにして又橋有り、渡りて川を左りに見て薬師前にて橋を又渡り越へて鳥井有り、石階を登る、石段の登りに左りは本右衛門と云ふ湯本也、石段中腹右は湯本甚五右衛門離れ座敷なり、本宅は是レゟ北也、石階を上りて前殿左り湯水出る所有り、猶登りて左り湯泉大明神の社右薬師堂二間四面皆東向也、登り壱丁斗り、是レゟ帰るとて橋の上にて茂手木村の太七に逢ふ、渡りて酒店に寄る、これ善次郎父の出店也、酒を出タせり、湯本より薬師は北に当る、宿へ土産せり菓子、五ツ半に朝食して僕源七を帰へす、今日迄止め置けり、江戸相馬様へ書翰を上く、石川氏よりの先達ての翰を相馬様へ差越す也、祖母公へふミを上ぐ、山魚十添へ上ヶ奉る、僕立つ頃は四ツ時分也、其後旧館人孫兵衛所へ行く、丈

四郎所へ行く父は去年亡す母のミ也、丈四郎は今は湯本三郎右衛門に勤む、善次郎へも行く也、今日日食、未三刻西北の方より懸け初め未の八刻北の方に甚しく申の五刻東北の方に終る、食七分なり、晴れたり、

二日、天気吉、野州都賀郡中根村田村七郎右衛門上毛邑楽郡土橋村の佐右衛門を具して酒店に行く、

三日、天気吉、上毛館村(林カ)の辺土橋の人佐右衛門郷へ出立せり、昨日岩茸を持て来る也、此人学事を語るを悦べり、今日蓮沼政徳子来る、堅魚干壱ツ土産とす、七ツ時分也、夜雨降る、

四日、曇る、山田郡台村観音寺蓮沼氏外に二人是れ観音寺の具せる人也、吾レ忍山見物せり、先ツ湯本の橋を渡りて川を右に見て三丁行きて欄干橋を渡る也、渡りて左り岩崖也、六地蔵有り、是レより六丁斗り東へ登り行きて蕪丁と云ふ所是レ忍山の中也、家七軒有りといふ、織屋三軒程あり、欄干橋より東也、少し帰りて西北へ登りて山神有り、爰にしバらく石に腰打懸けて休ひ西南の方我が宿り抔も目下に見ゆ、景よし、是レも織屋也、爰にてもハた織業を見て是れより山越にして凡ソ六丁唐松へ下る道にて左り薬師堂見ゆ、唐松は谷間に家七軒(棗)有り、是レも忍山の中也、庭に唐松有て家有り、先ツ其上に筑山有りとて行きて見る、我レと軍治殿にはまた壱丁斗り登りて織屋を見る、帰るとて唐松壱本有る家にて休ミぬ、主しもてなし是レより薬師堂まで六丁といふ、四五丁斗り行きて川を渡る、其辺人家有り、渡りて左五兵衛といふ湯本也、其南に続きて清兵衛なり、其南に続きて甚五右衛門也、皆湯本也、皆湯本を一見して薬師江上りて帰るとて酒店にて休ひぬ、観音寺は先きに待てりとて迎ひを出しぬ、至りて酒のミて出ツ、宿りに帰る、今日蕪丁にて雨降る事有り程なく止む、晩方また雨なり、今日晴雨を占ふ事有り、明日雨降らずと、果して然り、今夜善次所へ酒飲みにゆく、七郎右衛門を供ナひて忍山の人は五郎といふ者灯燈を以て送り来る也、

五日、天気吉、野州都賀郡中根村田村七郎右衛門其郷江出立す、早に暇乞に来る也、此人ト筮を好めり、皆川市ノ正の臣と云ふ今は民間也、夜少し雨、善次樽と岩茸にて見舞也、

六日、今日不快にして湯入りを止めぬ、

七日、今日も湯に入らず、武州埼玉郡羽入上川崎村彦七同□影村善右衛門其郷へ出立す、善右衛門は石川早太が姑母女伯父也、夜雨降る事有り、但し天気吉二百十日也、叔父政徳を供なひ出でゝ北の方赤粉迄至り玉ふ、吾レは不快故に行かず、薬師より川にそふて北へ上り行く、七曲り八坂と云ふ坂を越ゆ、此所川に少しく遠く坂を下りて又タ川を右にして行きて橋を渡りて川を左に見てまた橋を渡り川は右なり大門といふ所なり、家七軒此処岩松多フし是レよりは山けハしふしてしのぶ岩松取りに難し、大門人家の辺左りこう沢道有り、大門より猶北に川を彼方此方に渡り行きて赤カごなとて人家二軒有り、一軒は空家なり、薬師堂より大門まで半里大門ゟ赤ごな迄半里薬師より北なり、(足尾)七曲りを登りつめて切通し也、岩の高サ壱丈四五尺赤ごなよりあしう迄六里、赤ごなゟ人家絶たる所を経る事二里にして足羽路へ出づ、其レゟ壱里にして花輪也、花輪ゟ三里あしう也、叔父の御物語りなり、今日薬師開帳にて道者参詣多フしと也、

九日、天気吉、足利郡名草の人にて田部井丈右衛門といふもの来る、此の人の物語りに足利学校は百石の御朱印にて江府へ独礼衣服拝領すといふ、学校の□は茂木丈右衛門といふ、足利学校は三学校とて江戸の聖堂、肥前の三学寺、下野足利、右海内の三学校也と云ふ、足利は今(元カ)は禅宗、本の学校は北十丁斗りに小谷村といふ所有り、(に脱カ)長尾顕長の古城の山有とぞ、名草は町より壱里半北也といふ、田部井氏ハ其先新田ゟ出ツ、岩松経氏の末也、為ヶ井を領せるによりて後氏を改めり、久しく語りて帰る、名草村に南□江守城山有り、寺に高氏ゟの書物有り、

また正平年中の書物も有るのよし也、川中の岩上の弁天へ政徳を供なひて参る、道ゟ半丁斗り下りて川辺へ下りて見るに横壱間余長サ三間近くの窟岩屋有り、東西通行す立ちて自由也、岩上に弁天の小社有り、下より上まで二丈四五尺の岩也、上に岩松多フし木も生ひたり、岩屋の辺川滝有り、社へははしごにて上る、岩上ハ九尺四方有り、今日吉右衛門に云ひて桐生忍山温泉縁起と云ふ壱冊を借る、見るに何れの代の年月や樵夫山に登りて温泉の湧出を見て里人に知らして是レより四時往来たへずして浴湯の人を以て此里大に繁昌す、此湯の流れゆく所を湯沢といふ、今湯川是レ也、湯沢山の城主桐生又次郎放逸にして新田今忍山の藤生記伊宅を持として天正元年三月十二日打寄せける、此時金山方旅人に事寄せ城を窺ひ浴湯の病客の真似をして謀をなさん訝り葺毛馬の蹇へたるをころし温泉の丈室にうづむ、是レより已来彼の穢れに懲で温泉水に変ず、此故に里人手足を措に所なく岩間を宅とし朝夕営ミ乏し、文禄年中里の西北に湯気白して天をつく、里翁古昔温泉在し事を知て地を穿ちて八九尺にして井桁燭台茶碗杓の類を得たり、次にかうハしき水涌いてたり、是を飲て味うに常の水にあらず五味を備ふ、汲ミ取て浴湯するに快し、里人に久しく腰の痛む者ノ有り入湯四五日にして痛を治す、是レに因て里人感胆弥入湯するに癰疽の類或は腋僂歴脚の寒或は痲気腹の痛ミ等に至るを皆以治せりといふなり、是ヲ以て遠近の人来りて入湯して全快をして帰りしとぞ、其後慶安年中八月湯前権現の新社を立つ、時ニ明暦年中叔父の喪に逢ふて一七日も過ぎさるに、隣家のさそひによりて来り浴せる人有しが其身痛悩荐りに又温戸も甚た熱し、一室の者入湯既に止む、亭主忌服の故ならんと推して祓ハしむるに忽ち本の如しとなり、又タ有る人の湯壺に旃陀羅夫婦来り浴すハ家の湯壺皆水となりぬ、家主怒て遂出し被しければ本の如しとなん、此里に葦毛の馬を嫌ふ事は桐生城主の温室に埋めし故也、是レ湯本権現を汚せし者のなれは今も此里へ往来する人は忌むべし、若シのれハ落馬す、服忌と〇〇と葦毛馬と三ツを忌と云ふなり、古伝に云く左辺に十二峯有り是レ薬師十二の標象也、右は貞享三年館林辺北嶋村の僧里人の語り伝を記るせる所を略旅中のつれ〴〵に写し置、十日に雷神岳へ登らんとて今夜飯を用意す、

十日、朝食して八五郎所へ至レば道を知るの由、八五郎帰る、雷神岳へ行くの約せり、是レより帰りて支度して八五郎を案内として温泉明神の前へ出でゝ明神より半町斗り北より西へ山を登る、道もなき所などの急なる所を西北と半里計り登りて山の頂也、山椒多フし実常より少大イ也、従弟取りて悦ぶ、辰巳温泉道の家一軒見ゆ、せり石の前なる高戸山も辰巳に高く見ゆ、西に高沢人家見ゆ、戌の方に兀と泉山に秀てゝ高きハ雷神岳也、忍山ハ甚た近く見ゆ、高沢江行、是レゟ道もなく木の茂ミの中を分け行く事甚だ岨也、木かやに取り付て漸々西北へ下りて人家辺に至る、猶下りて川を一本橋にて渡る、流水を皆ナ呑めり、是レより谷間を南に行きて右大滝口に至る、是レより岳まで二十一丁と石に記るせり、人家に休ふ是レ高沢也、茶店に休ミて中食など預けぬ権八といふものなり、小流にさかのぼる事二丁斗りにて不動堂滝有り、岩壁の如し、滝よし、此辺に又タ不動堂有り、是レより西北へ三四丁登りて手水場とて清き小流有り、手水を遣ひ水のミして猶登る、頂に至る頃ひる頃なり、同じく並びて登り南を桐生の岳とし北を仁田山の岳とそ、石の額にて二ツながら雷神岳と書せり、四方皆ナ見ゆ、是レより岩山を二丁斗り登り行く、半ばに女人参詣の限り有り、頭上に鐘有り、鐘引并に銘有り、是レ高沢の分にて即チ高沢の人小曾根氏の納めたる所にて高園寺の文なり、別当は高沢院と云ふ修験なり、是レ等皆ナ鐘を撞く、此ノ上に社有り辰巳向にて二間斗り也、是レ最も高き所也、南に桐生新町見ゆ、戌の方に赤坂山見ゆ、辰巳の方館林也、西に前皆晴レたる時はよく見ゆるとそ、今日は鳥井の辺に至りし頃より雷声を発せり、雲も四方に懸りて尽くは見へず、館林の城

なとは小く見ゆるとぞ、坤方に浅見潮見ゆる、此山なるかミの岳と号するは、昔し雷神上人住る故に此名ありとぞ、今に頂より西北の方に硯石手水石とて有りと云ふ、是レ虚説ならん、上人より先に此名ありけらし、又タ此上人の住めりしと云へるものハづらハし、高名の僧なる故名を託するならんか、社の神は山神といふ、是レ〻乾の方二丁斗りに仁田山岩山なり、此山は下より見ては兀として峯一ツの如くなれと、斯く□□を見れバ桐生岳と仁田岳と二峯実に神霊の在りとて来り詣するも宜也、下りて鳥井の辺護摩堂の戸を開きて腰懸けて休ふ、此辺春は茶店一二軒出るとぞ、仁田山の方の鳥井には預永と有り是レ仁田山の小名也と云ふ、桐生の方には高沢と有り、下るとて雷雨に逢ふ、杉の木茂りたる所にて雨めやミなとをまちて小山の渡り権八所へ立寄りてべんとうを開く時に暮六ツ也、岳登り急也、是〻東南の方谷間を左りに川の音を聞きて下りて行き、三四度彼方此ナ方と川は橋にて渡り高園寺の所へ出ツ、是レ禅宗にて鳳仙寺の末也、高沢院も此レより近しとぞ、程なく右江出つ、是まで大滝口より壱里半東南に来る、通りへも二三軒高沢も望めりとぞ、道の半ばハ浅部也、半ばハ高沢なり、高沢の中南北は二里斗り東西は谷甚だせばし、一丁或は二三丁なりとぞ、此所より新町は坤に当り忍山は丑に当るとぞ、是レより浅部社を経て二渡村、川〻向は下野足利郡上ひし村下ひし村は新町の東也とぞ、二渡村のてうせん寺とて禅寺を左に見て行き左り山高き所に天王の社有り、爰にて右せり、右の方へ分る是レ佐野道、是レより天明町七里にて彦間へ二里といふ、せり石より半里斗り東はやまち村也といふ、其村は南北三里斗りの長き村にて桐生領の果也とぞ、是レより東は野州彦間也とぞ、忍山より天明も彦間も辰巳に当ると也、夜の九ツ前八五郎の家に着く皆寝たりし、八五郎起してそうめんなと煮てかさしむ(出カ)厚きもてなし也、九ツ半時分に宿りに帰る、今日昼の九ツに宿りを立て今朝鳳仙寺の僧遠州浜松の産大寿出立せり、忍山〻山越へにて高沢大滝口迄壱里、是レより岳まで二十一丁大滝口〻浅部まで壱里半其レ〻忍山まで壱里也、高沢の中にて人家にて□(酒カ)なと飲ミしが人甚だいぶかる也、大滝口より雨止めり、

十一日、天気吉、当月六日〻今日迄湯入を止めたり、不快に因て也、今日入湯せり、三度入りぬる也、八五郎来る、其後二百銅包ミて吾レ彼レが宅へ至りて遣す、兄などよろこびて酒なと兄弟にて出たす、酔ひて帰る、暮方より宵の間雨降る、

十二日、曇る、鳳仙寺の僧参州吉田の産良勇人を遣す、下野佐野安楽寺は筑紫安楽寺の模しなるよし也、御朱印二十三石余なみの木の内大門村の中也、足黒は通りに望める所にて寺は大門村の中のよし也、繁利君の子寺を継しより三代目のよし也、並木の中つま村の藤兵衛茂兵衛等の物語りにて吾レ聞けり、今日は丁亥の日にて白露八月の節也、七ツ時分食して吾レひとり大門赤粉へ行く、先ツ湯泉の鳥井の半丁斗りこなた梁枕の如き青岩川に横たハり此下川滝にて淵あり、里の伝へに右へ鶏りを以て此淵へ入れける所に高沢の淵より出てぬるとぞ、高沢にも懸る深淵有りと云ふ、虚説ならんかし、昔しの饑饉の年小児を爰に沉めし人有りといふ、また二十年斗り以前に此ノ下二渡の村の人十三四なる女主の叱りに逢ふて爰に身を投けしといふ、此五六年以前も忍山の人に召仕ハれし奴僕物の失せたりしに付き其身に疑ハれて此淵に身を沈めしとなん、かく度々人の死せりし淵なりと聞く、川幅十間にも満たざる也、懸る事の有るは山中の人は実多フきの余りにや心もまたせバし、故に此ノ過ち有けらし、痛ましき事也、湯泉の前より川を右にして三四丁北に上りて行きて坂に懸る、是レより川に少しく遠さかる、坂の上り四丁斗り七曲りとてまかり七ツ也、上りつめて切通し有り、岩壁の高さ壱丈四五尺横壱間斗り通り五間斗りなり、此ノ坂を七曲り八丁坂といふ、□丁斗り帰りて川に至る、橋にて渡る、合せて四ツ橋を渡りなして川は右なり、人家七軒有り、是レ大門といふ、

半蔵といふものゝ所に休ひぬ、是レ迄北に来る、湯泉より半里斗り道岩松しのぶ多フし、是レゟ川にそふて上り行く、四ツ橋を渡り帰へり流レ右也、其レより枝川にそふて乾に登り行きて人家二軒有り、□右衛門といふものゝ所に休ふ、時に暮六ツ時也、亭主は農に出でゝ居らさりしが押付け帰り申さんなととて茶抔出して多くもてなしける、程なく主し帰りて物語り抔して時移りける、是レより日光道は十二里にて爰ゟ二里の間人家もなき山路を経て足羽街道へ出るとて、是レより壱里にして花輪其レより三里にして足羽也、赤ごなより足羽迄六里皆ナ北也と云ふ、主し参り厚き事故に出るとて門に杉の木道をさしはさみける故に

山里の人は厚けれ忘られねまたもとはまし杉立る門

と読ミて杉の枝に結ひ付けて帰りけるなり、大門ゟ此赤こな迄半里斗り此地最も高し、爰も忍山の中也、大門へ帰りてまた半蔵所にて休ひ小児に銭を遣す、此地草なと生ひ是レ露の深かりけれは、筆を借りてたつね来て見れハ露けき杉深ミ岩にも苔の秋を示して

と書て岩に結ひ付け置ぬ、道にも月を見てかくなん読ミ侍りける、

ひとりのミ流れにそふていさきよく谷間にすめる秋の夜の月

とて読ミて温泉の前善次父兵蔵所に着きて酒を出たしむ、時に五ツ頃也、爰を出でゝ土橋を渡り、政徳も丈四郎に逢ひて出たるに逢ふて今日も三度湯入りす、忍山ゟ赤ごなまては壱里計り也、北なり、

十三日、天気吉、明十四日郷へ出立と定めぬ、忍山は二渡の中にて蕪丁唐松大門赤ごなを合せて忍山の中六十三軒人家有りといふ、温泉の辺を湯本と号し湯屋甚五右衛門杢右衛門清兵衛佐五兵衛とて湯本四軒有り、人家合せて九軒斗り家南川を渡りてあま竹也、左り吉右衛門か宅也、吉右衛門が東裏に観音堂有り、鶏東へ三丁斗り登りて右二軒有り、是レもあま竹の内也、あま竹の西川を隔てゝわんばといふ、湯本孫兵衛伝蔵とて有り、其南をかなちといふ、八五郎が所也、其南をしたでといふ、其西を五馬の小路といふ是レ忍山入口也、湯八軒なれと今ハ七軒なり、其ノ一軒ハ休めり、忍山辺紙をすく、畑のはたにかずの木有り、此辺茶、うるし、かず共年貢出るといふ、今はうるしは少ナし、桐生紙とてはし切らず也、外には紙も出でず、忍山入りゟ岩たけ出ツ、買売せり、湯さらし艾さも出せり、大なる□□もの□のふちに有り、とろといふもの也、是レハ紙をすくに入るもの也、桐生領にて爰にもつたや有り、桐生ゟハたの運□出るといふ、并御幡竹を出たせし事有りといふ、忍山の中かやをつる事なし、此所川の青のり有り、高沢よりもかるといふ、壱枚四五十銅或は高直の時は百銅程といふ、明日出立と定めし故政徳を倶なひてせり石へ参詣す、南一丁余り行きて橋を渡り巽に行きて右雷電の森山上に有りぬ、また橋を渡りて右へ桐生新町道なり、是レ迄あま竹より十五丁斗り是レゟまた橋を渡りてせり石へ行く也、東北の方へこす、人家有り是レをなか井と云ふ、左り東北へ行きて六七丁にしてせり石明神也猿田彦命也、先ツ是レより三丁斗り東川を右にして東北へ行く也、道左りの人家を宮かいといふ、川より向をさるかやとゝ云ふなり、是レ下毛国也、宮かやと迄は二渡村川中下毛へ寄りて高サ壱丈八九尺の大岩有り、上に松生ひ小社有り、是レ猿田彦の影向石也、是レ迄佐野なり、此川は是レより東北山地村の奥州□□□□所是レゟ四里斗りより流れ出ると也、下毛境を流れてせり石明神の前も流れて中□にて忍山の方の川と一ツとなる、是レゟ明け□下りて石の鳥井を入りて前□□社拝殿五間に三間の所なり、本殿壱間半二間也、宮殿は六尺四方也、神垣六間斗り宮殿銅瓦也、神主森下伊豆守興せる社とぞ、尾定ゑり物有り美麗なり、川を隔てゝ高き山を高戸山と云ふ、是野州也、桐生皆ナ川を境ふて野州とす、森下氏と立ながら語る、帰るとて八五郎所へ寄るなり、是レゟ宿りに帰りて大屋へ行く、明日立の故也、暮れて帰へり着きぬ、八五郎来る、刻たはこを持ち孫兵衛所へ行く、亭主酒を出たす、其レより丈

四郎か宅へ寄る、是レより善次所へ二百銅を遣す、善次芋の煮たるを出してもてなす、十郎兵衛所へも行きし、丈四郎に一百銅を遣す也、政徳六百銅斗りの買物せりとて吾レに語る、調ひしめは今夜山魚なと食ひ八五郎髪を結ひてくれぬ、入湯の入用大屋〻の書付四貫五百文也、今夜吾レ飯をときて明日をいそく也、此度の入湯吾等郷へ帰るを急くにあらず、政徳甚だ帰郷を思ふによりて明日と帰郷の日を定めし也、八五郎が□□□□□物を買ふ也、吉右衛門本宅は戌向也、吾か居れ(リ脱カ)し所は未向也、吉右衛門所湯本の宅につぼ数十斗り也、吾か居れりし所湯場一所つぼは隠居共に六ツ斗り也、前の離れや湯場二ヶ所つぼ八ツ也、合せて湯場六ツつぼ二十四五斗り、(コヽヨリ十四日ナラザルカ)いまた明けさるに起きて手水し髪をなで付けひけをそり食して行水して衣類を易へて宿りへも出立を言ひ借れりしものを皆かへしてわらじはきて温泉の方へ政徳を従ひて石階を登る、百二十八階なりと言ふ、前殿左り右り共に温泉出ツ、北は昔し彼ノ馬を投したる所にて其香薄しといふ也、南をよしとす、是レより帰りてあま竹の伝八といふものを宿りよりたのミて荷を負ハしめたり、吉右衛門父子妻共に送り出てぬ、時に五ツ過也、此夜より曇りて出立の頃は雨降り来りぬ、佐野道の追分にて右へ行き小高き所に小社の美麗なる有り、石階を少し登る也、牛頭天王の社也、是レより右にてうせん寺禅宗にて見込よし、大道に黒門有り、浅部に至る、爰を岡といふ、右に小高所薬師堂有り、此所道右に高沢村の人家二三軒有り、高□道へ近し、次に橋を渡る、これ高沢より流れ出る也、右へ入りて雷神岳道なり、大滝口へ出る也、大滝迄是レより壱里半岳は乾に当るとぞ、浅部村忍山より壱里の所也、次に高まゝ村の人家を経て行く、湯沢村右乾の方山有り城山といふ也、左り桐生□を隔てゝ爰に葎山(ムグラヤマ)阿戸山とて二ツ見ゆ、是レは天正元年三月十五日新田金山桐生氏を攻め落せし時の荒戸寄り山の麓に藤生紀伊や□□□□等の軍(マヽ)テして将をして葎山の尾崎阿戸の峯を以て天神の社陣せりと記るし有りぬ、葎山は阿戸山の東より南へ引廻せる地といふ、彼藤生が後は二渡村有りといふ、爰を過きて居立ヲ村の中矢車薬や有り、御屋敷といふ所〻右に城山有り、是レ桐生又二郎の城跡なり、里人の伝へに前に攻むる勢をめし(し脱カ)て(遥カ)呈兵を引すぐりて□方今の鳳仙の所に小庵の僧を案内者として城山の後〻不意に上りて城を落せりと云ふ、是レに因て今に鳳仙寺栄へしといふ、是レ由良家の氏立し寺といふ、今に横瀬するが殿のぼたいの寺といふ、城山へ登り十丁斗りといふ、通りに小流を渡る也、是レ城の堀水といふ、もぐら山辺〻山の間壱里斗り本城の所より前にて余程ひくき山の上に松森有り、是レ寺の有し所と云ふ、寄手の急なる時鐘を落して人を殺せる事有りといふ、西南の方町屋の村の中天神の森とて有り、是レ今の新町入口の天神の本也といふ、此所より引しと也、此所□の□場ならん、川向ふ観音山とそ、□有り、堂は爰にて横瀬するが殿法事せると也、鳳仙の法事也、其レより西南と覚しき所にまた山見ゆ、是レ荒戸村の中也と云ふ、□を荒戸寄り山と思ハる、□□□□野州の中也、下ひしの中といふ、居立テの次は大門也、右黒門有り、西方寺十五石の御朱印也、後の山を西方寺山といふ、城の山に近し、次に同しく大門の中に右黒門有り、入りて壱丁の余に門有り(寮カ)、入りて石階を上る、作り木のさつきなる多フし、左り大小学僚各一ツ有り白壁也、石階をまた上りて二重の二重門有り、□□掛り鐘堂有り、門を入りて左禅寺右にあり本堂大イ也、是レ桐生山鳳仙寺也、洞家宗也、大寿を尋ぬ逢ふ也、住寺へ申通せり、一宿と止めけれと□欠　字□出てぬ、本堂辰向也、通りより二丁斗也、大門板にてよし、西方寺も同し、鳳仙寺は十石の御朱印にて□石ニもむかふといふ、本寺也、次に□□村の入口右に石鳥井有り、前殿有り、是レより直立の石階を百四十一階登りて堂の如き社有り、三宝荒神也、鳥井の額には大荒神と書せり、東北也、下りて別当(神)□恵寺に寄る、爰を出てゝ軍治道の遅きを云ふ、我レ少しく叱する

也、彼レ赤面せり、次におん出し村右に吾妻権現の山見ゆ高し、女□□参るとぞ、次に新町の入口なり天神也、南向也、新町入りて町の中右へ入り石鳥井有り、上毛十二社の中なり、三輪大明神也、石鳥井三社懸持の鳥井也、石の小橋有り、流れ少し有り、社南向拝殿有り、五間半に二間也、本宮壱間斗り神垣五間に五間半斗りなり、是レよりまた町へ入りて□彼か所にて五色糸を買ふて□□ゟ是レ迄の左の川を桐生川といふ、川の向は野州也、高沢の澗ゟ生食(喰)といふ馬出てしと云ふ、高園寺の辺にて捕へて献せりしといふ、如何知らず土俗の伝へなり、忍山ゟ新町へ二里半と云ふ三里斗りもあらんか、坤に来るなり、新町は南北町にて裏表共に三丁桐生町六丁有りと云ふ也、町の中左り土蔵作りにて祇園の社有り、まり場有り、此所富家多ㇷし、中にも佐波万屋井筒屋伊勢屋出嶋等五家富めるとぞ、休はすして町の出口に聖□(眼)寺といふ寺有り、町の出口左り足利道也、右へ出て原有り、是レ□屋とするのよしなり、遊女町のよし云ふ、原を西へ十丁斗り行きて赤岩の渡し也、西の方に□□(高津)戸の城山見ゆ、桐生新町より大間々町へ西二里有り、渡瀬川赤岩にて綱越しにて渡る、西へ渡る川幅せバし、川原を西南と数丁行きて直にて大間々道なり、左り辰巳の方大原いせ崎道といふ也、入りて辰巳へ行く事また数丁左如来堂人家也、其レより阿佐美の沼の東を経る、大イ也、西の方にて見ゆる也、小サく見ゆる也、是レより□□人家へ寄りて中食する、阿佐美村の藤左衛門といふものゝ所也、甚雨也、是レより新田郡也、是レまて新町より壱里新町は長に当り大間々へハ壱里に遠しといふ、是レゟ左り山を見て南へ行く松森へ入る、是レより阿佐美の生品森よし(の脱カ)、石鳥井有り、出てゝ猶南へ行きて藪塚村此ノ三年斗り□□湯有り、入湯道者五十人斗り四丁□□有りと云ふ、猶南へ行きて山の神村ノ通りへ出す、西十八丁斗り大原巽二里大田也、酒屋にて酒のミて尾嶋の方への道なり、左り巽へ向ふ、細谷に至るまて巽に向ふなり、松原を三十丁斗り経て小金井村也、次に脇谷村観音二重門也、三間四面堂也東向也、大イなる餅(餌)口有、作り酒屋加□所にて酒のミて出てゝ由良村の溜メのはたへ出てゝ飯玉大明神へ寄る、南向、石の鳥井有り、大道へ出てゝ野栗へ出てゝ天神橋にて手水を遣ひ神を拝す、黄昏の頃隠宅に着く也、伝八をハ政徳所に宿らしむ、山神ゟ二里半余といふ、桐生より五里の所也ける、合羽をきる、雨甚たし、先ツ氏神を拝し祠堂を拝す也、祖母公初め皆ナ語ひ玉ふ、正室へ入りて拝し奉る、

奥書

右高山仲繖君忍山湯旅の記壱冊ハ我家の所蔵自筆日記の正本に依り書写卒業了

明治十四年一月三日　　矢嶋行康（花押）

因云右原書安政六年己未七月武州埼羅郡台村剣持氏の家より出譲を受我家の珍蔵となる也

右一巻ハ矢嶋行康所有し処明治廿年十二月十四日宮内大臣土方久元卿の奏上を経て既ニ奉供

天覧之処叡感の余り　聖上の玉座に御留置と成る奉献行康今ハ今上皇帝御物と成る

明治廿年十二月日　　矢嶋行康謹記

（以上奥書「玉能御声」）

（高山彦九郎全集第一巻）

索引

【ア】

藍 一三五
相生の松 一六三
相下駄 一五一
あいさつ（挨拶） 一〇六、一六六、二三六、二三一
挨拶廻り 一五六
会津 五一
会津のヤネヤ（屋根屋） 二一、四九
アイヌ語 二三三
アオイシボトケ 二三三
青鬼 五一
アオキ 三六
青木氏 六五
青木一家 一一八
青大将 一一三
青葉 一五
青虫 一八七
赤いアザ 一四三
赤いおこわ 一七六
赤いごはん 一五一
赤いごんご 八
赤いはんてん 一五三
赤いふんどし 一五三
赤鬼 五一
赤城 六一、一一五、一二一
赤城様 七三、八三
アカギサンバ 一一五
赤城神社 九八、一一五
赤城登山 一九九
赤城と男体山 一二一
赤城南麓地方 二三八、二三九
赤城の神さま 一二一
赤城の講 六一
赤城祭 七八
赤城山 六一、一一五、一一六、二二九
あかぎれ 一一四
アカツカワ 四一
アカノッポ 二七
アカハラ 二三五
赤虫 三一
アカメ 三五
アガリ節供 一九三
上リハナ 二三一、二三四、二三五
赤椀節 一二八
赤ん坊 五〇、一四四、一四七、一四八、一七六
赤ん坊の産着 一一六
赤ん坊のお膳 一四九
秋のえびすこう 一一
アキノカタ（アキの方） 一八一
秋の草花 二〇四
アキの方向 一八一
アキの山 二一〇
秋まつり 七四
アク 四六、四七
悪態うた 一四〇
悪病 一一〇
悪病神送り 一一〇
悪魔 二五
アクマッパライ 一四二、一七一
悪魔除け 一七八
アク山 二九
アグリ 一四八
あけびの花 一三五
麻 一一九、一四六
アザ（あざ） 一五、一〇八
朝イチゲン 一五八
朝エビス 一八九、二〇八
朝織り 一七八、一八二
アサガオ 一一九
麻がや 二三六
朝ぐも 一〇九
朝茶 一〇九
麻のシメ縄 一九四
麻の葉 三、四
麻の葉の柄 一四七
麻の葉模様 一四七
朝はん 二〇
朝びき 六
朝日さす（旭さす） 二一四
朝ふじ（藤） 二三
浅部神楽 一二六
浅部の観音堂 一二三
浅部の観音堂の下座 一二五
浅部の組立式下座 一二五
朝参り 一七九
アザミ 一四
アサメシ（あさめし、朝飯） 八、一三、一五七
朝飯前 八四
朝やけ 一一四
朝湯 一七九
アシイレ（足入れ） 一四二、一五六、一五七
足入婚 一四二
足尾 四九、五三、六六、九四、一五五
足尾線 六八、一五五、一三一、一三六
足尾銅山 二二四
足尾方面 四八
足利 五三、六六、八三、一八八
足利忠鋼（公） 一一九、二二三
足利の織姫神社 一一九
芦毛の馬 六五
アシナカ（あしなか、足半） 五
足踏み脱穀 二六

アズキ（あずき、小豆）　一〇、一一、一七、六五、一八四
あずきあん（小豆あん）　六一、二〇七
アズキガユ（あずきがゆ、小豆がゆ、小豆粥）　一〇、六五、八六、八七、一八五、一八六、一八七、一八八
アズキご飯（アズキ御飯）　一九〇、二〇六
アズキのおカユ（小豆のお粥）　八八、九二
あずきのおけえ　八六、二一〇
あずきのかゆ　一八六
小豆のにかた　一一
アズキのまんま　二〇四
あずき飯（小豆めし）　一一、九二、一八九
あずきを食べる日　一一
あ　せ　八
あ　ぜ　一三七
遊ばせ唄　一三四、一三五
あ　そ　び　一五四
あそびじまい　一八八
遊び用具　一三四
愛宕さま　九八
愛宕様の子　一二〇
愛宕祭　六一、六七
愛宕山　六一、九八
新しい着物　四
新しい仏　一九九
アダナ（あだな、あだ名）　二二二、二二一
アッケナ坂　一〇七
あととり　六三
あととり息子　一七二
あと念仏　一七五
あとばら　一〇八
後厄　一五三
穴の病気　一五一
穴のホリオキ　一七二
あなほり（穴掘り）　六二、一七二
穴掘り組合　一七三
アナマワリ　一七二
兄　六三、六四、二二五
兄貴　六三、六四
アニサン　六三
アニヤン　六三
アニヨメ　六三
姉　六三
姉さま女房　一五五
アネサンカブリ　二
姉夫婦　六四
アブ　一一四、二二六
油　一二〇
油かい茶かい　一四一
あぶらげ（油揚げ）　八七、一五一、一八四、一九一
油もの　一四八
アベカワモチ　二〇六
アボヒボ　一八七
甘いものの好きな人　一八
雨がえる　一一四
雨具　二
雨雲　一一五
雨乞　九八、一一五、一一六、二二五
甘酒こうじ　一七
あまだれ　二二五
アマダレギワ　一〇七、二二五
甘茶　一九四
尼寺　一〇〇
雨戸　二二五、二二九
天の岩戸舞　一二六
天の川　一九八
アマンジャク　八六
アマンジャクヤロウ　八六
アミダ　四五
編み笠　一七二
雨　一一四、一一五
あめ売り　五二
雨の前ぶれ　一一四
飴屋　五三
あめ屋の歌　五二
アヤジ　四五
アユ　一五
洗イマ　二二三
アラク　二八
あらし（嵐）　一一四、一九六
あらしの前ぶれ　一一四
アラジンショウ　一七
アラハダ　三九
アラヒガン　二〇五
アラボン（アラ盆、新盆）　一七七、二〇〇、二〇一、二〇五
新盆ちょうちん　二〇一
あら盆見舞　六二
新巻のシヤケ　二一〇
アラ麦　五三
アリ　一一八
ありじごく（あり地ごく）　一三七
アリの行列　一一四
アリンゴ　二二五
アワ（粟）　八、九、一二、一三、二八、三二、三三、五一、一一三、二〇七、二一〇
アワセナイ　一八七
アワモチ（アワ餅、粟もち、粟餅）　一二、三三、一六六、一八二
アンコ（あんこ）　一二、六七、一〇八、二一〇
安産　一四三、一四四
安産祈願　一四二、一四三
安産祈願の神様　六一
安産の呪　一一一
アンネー　六三
アンピン（あんぴんもち）　一一、一〇、二一〇

【イ】

井伊掃部守　七〇、七七
イイツギ　五六
イイトコバンバ　二〇五
いいはなし　一二〇
いい夢　一〇九
いい嫁　一五五
委員　五六
謂雲寺　二二三
家　八
家柄　五六、二三二、二三六
家コワシ　五七

家印（家標）　六三
家のカド先　一五九
家の神　二〇七
家の年寄り　一四五
家の祭り　二〇八
家の間取り　三一
家屋敷　一五四
遺骸　一二七
鋳かけ屋　五三
伊香保　六一
生き返った　一七六
生き盆　二〇〇
池の端の占い　一二七
生花　一三一
イザリバタ（いざり機）　六、四五
石うす（石臼）　九、一六九、二三〇、一九、二〇、二三三、
石垣　二三五
石かつぎ　一五九
石がま　二四
イシガマッカゴ　二七
石鴨　二二七
石鴨キャンプ場　六九
イシガモツカゴ　五一
石鴨の鹿島堂　一〇四
石鴨両村　七
石川五衛門　二〇八
石地蔵　六九
石塚　一一八
イジッコ　五一、五二
石の名のついた地名　二三三
異字の苗字　二三〇
イシバイ　二八、三三、四三
イシベロ　二三五
イシベロッタマ　二三五
イシミ（石箕）　二〇七、五一、一五三
石宮　三九、七七、八三、九八、一二五、一三五、一九五
イジメ　五五
医者　五三、五四、六六、六八、六九、一一一、一一三
慰藉料　一六〇
出雲（国）　九九、二〇五、二〇八
出雲大社　二一七
伊勢講　九五
伊勢崎の稲荷さま　四四
伊勢参宮　一六〇
伊勢まいり　九五
遺体　一五三
板倉の雷電様　一一八
板敷　三九、二二二
イタチ（いたち）　四一
板の間　三三
板張り　三八
イタヤ（板屋）　三一、二三〇
板割　三一、五一
市　四四、四五、五一
一月十五日　一〇、六五、一六六
一月七日　一〇
一月八日　一六四
イチゲン　六四、一五八、一六〇、一六五
イチゲンのヒキオトシ　一六〇
一合もち　三三
一ダン（一駄）　五〇、一二八
イチッコ　五五
一日丈　四五
一日の食制　八
一人前　二八、三四、三五、四〇、四五、五九、六四、六九、八四、一二六、二〇一
一人前のしごと（仕事）　二〇七、二〇八
一人前の嫁　一六六
一年忌　一五五
一ノ瀬　二一〇
一ノ瀬イッケ　一八一、二二一
一之瀬家　一八九、二三三
一ノ瀬の先祖　六五
一番草とり　三三
一姫二太郎　一六五
一ぼう　一一六
一枚暦　二九
一マク　六四
一毛田　二七
一夜かざり（飾り）　一八三、二二〇
一夜松　二一〇
イチャムコ　一六〇
イチヤモチ（一夜餅）　二一〇
いちようがえし（返し）　一、二一、一六六
胃腸病　二二五
一里塚　五一
一厘銭　一六〇
一把　一二六
一か　一二六
一回忌　一五五
イッケ　一一九
一家氏神　七六
イッケウチ　六四
一家の結合　六四
一才上の妻　一五三
一週忌　一五五
一升ます（桝）　一四七、一六九、一七〇、二〇八
一升めし　八
一斉そうじ　二〇九
いっちける　二二六
一丁目の苗字　六四
五ツメ　一六五
一斗樽　一七〇、一七六
一杯茶　一〇九
一杯もの　一〇九
イッポン　一四
糸あげ　二三一
糸あげ唄　二三一
糸買い　一一八
糸くり　四五、一〇八
糸とり　五
糸ひき　六、四五、二三一
糸ひき唄　二三一
糸値　六

井戸　三、一〇六、一一九、一四三、一五五、一六八、一七九、三三一、三三五
井戸替　三三
井戸神（さま）　八四、一八二、三三〇
いとこ　六三
イトコドウシ（いとこ同志）　一五五
稲作儀礼　一九六
稲荷さま（様）　一七、一四六、一七九、八七、一二〇、一九一、一九三、二〇五
イナリサン（いなりさん稲荷さん）　一四九、一五一
稲荷神社　六五
稲荷の神木　一一八
稲荷日待　九八
稲荷祭（り）　六〇、一九一、一九二
イヌ（犬）　三六、三九、四〇、四二、五〇、六五、八七、一〇九、一一八、一一九、一四六、一四七、一四八、一九六、三三五
イヌガヤ　三三五
犬トウバ　五〇
イヌの供養　一一九
イヌの日（戌の日）　三三、八七、一〇五、一一八、一一九、一四三、一九六
イヌハジヤ　一七三
イヌバラミ　一四五
イノシシ　三一七
イノチサダメ　一五三
いはい（位はい、位牌）　一一七、一六九、一七七、一五三、一七三、一七四、一五五、一七六、一九九、二〇〇、二〇一、二三六
イハイモチ（位牌持ち）　一七三
茨城　五三
いぶし　四三
いぶし飼　二六
イボ　一〇七
イボタガエル　一〇七、一三一
イボガエルの卵　一〇七
居問　一三三
忌み　一四三
忌み田　二三三
忌の事　一七五
イモ（いも）　八、九、一〇、一一、二〇、三三、五一、八七、二〇四、二〇八
イモウエバナ　三三
イモガラ（いもがら、芋がら）　一八三、二〇六、二〇七
イモゴシラエ　一七
いもの煮っころがし　三
イモフミザル　二七
イモボタモチ　一、二
イモメケー（イモメケエ）　五一、一九一
イモリ　二三三
イリカゼ　二三六
入り口　二〇八
入飛駒（村）　四六、七〇
入母屋　二三六、二三八
入母屋造り　二三九
イルリ　一三三、一四三、一七四
イルリの四隅　一四三
色紙　九二、九九、一七三、二〇〇
イロリ（いろり）　五一、一三二、一三四、一四四、一四八、一七四、一八五、一九〇、一九九、二〇〇、二三一、二三三
（いろりの）禁忌　三三
イロリ端（いろりばた）　八、一九〇
祝いごと　一一
イワシ　一九〇
いわしのオカシラツキ　一九一
いわしの頭（鰯の頭）　一八九、一九〇、一九一
イワシバ　五一
イワタケ　一四
イワクラ　二三三
岩ツバメ　一一四
イワナ　一一四
岩山　二三三
インキョ（隠居）　四六、六三、六四、六六
（隠居と）お祭り　四六
（隠居の）食事　四六
（隠居の）住居　四六
インキョメン　六六
インゲン　二七、一九六、一九七
因縁畑　二三三

【ウ】

初産　一〇七
植え疱瘡　一〇八
魚つり　二一〇
ウケウタヒ　一五九
うさぎ（兎）　四〇、四一、九八、三一、一四三
ウサギタケ　一一四
牛　一九、五〇、八七、二九、二三四
牛も千里　二三四
ウジ神（氏神）　七四、七六、一七九
氏神さま（様）　一四九、一六五、一七九、一八七
氏神まいり　一六五
ウシの刻（丑の刻）　五五、二〇五
氏子　七四、七五、一九五
氏子入り　一四九
氏子惣代　五六
ウス（うす、臼）　一八、一三、一三六、二八、八五、一七一、一七三、二〇四、二一〇
碓氷追分　二三九
ウスヌキさま　一四四
失せもの　二一四
歌　七
謡　一五九、一六〇
卯・辰の日　一九六
歌ぼろんじ　二一九
歌よみ　二〇九
ウチマツリ　一九六
うちみ　一五五
ウツギ　一九四
ウツギの花　一三三、一九四
腕相撲　九三
ウデッケエシ　六〇
ウデマンジュウ（うでまんじゅう）　一〇、二三、一九七、一九八
うど　一三三

ウドン（うどん）　一、六、九、一〇、一一、二一、三一、三六、四三、八〇、八六、八五、九八、一三〇、一四七、一五七、一七四、一七七、一八一、一八四、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇五、二〇四
ウドン粉（うどん粉）　一三、五一、六一、九八、一〇七、一九三、一九八、二〇七、二二五
ウドンブチ（うどんぶち）　一五七、一五八
ウドンブルマイ（うどんぶるまい）　一〇、一一
うどん屋　六八
ウナイグワ　二九
ウナギ　一四
ウナギとり　一三
うなされること　一一四
ウナリイシ　一三三
うの日　一三
乳母　一四九
ウバ　一四七
生形　一二五
うぶぎ（初着、産着）　三、六、一四七、一六五
うぶ毛（生毛）　一四九、一四九
ウブスナサマ（様）　一四四、一四九
ウブタキ　一四七
生部屋明　一四九
産湯　一四七
馬　三、三五、四九、五〇、五一、一〇一、一〇八、一一六、一二〇、一八六、二〇八、二二四、二二九、二三一、二三四、二三一
馬方（たち）　五〇、五一、八五、一二五
馬方のうた　一二九
馬方節　一三五
うま小屋　二五
ウマッコ　一四三
馬という字　一〇七
馬の金ぐつ　五一
馬の蹄鉄師の碑　五一
午の日　一七八
ウマビエ　九、二六、一〇七
ウマヤ（馬屋）　三、一二八、一三一、一三三、一三三、一三四、二一五
ウマヤゴイ　一六八
馬屋の臼　一三
馬も千里　一三四
うまやの神　八五
生まれかわり　一一七
梅　一四、一六三
ウメズ　一〇七
梅田（梅田北区、梅田地方）　四七、四八、八五、一八五、二三三、二三七
梅田追分　一七八
梅田出張所　五六
梅田の七カイド　一三五
梅田発電所　一六八
梅原　一三八
梅干　五〇、一四八
梅若　一九二
ウラオシボコ　一〇
うらない（占い）　一〇九、二二九
うらないうた　一三六
占い師　一一七
占い者　一二九
浦和県土持孝心子守唄　八五
ウルウ年（うるう年）　一八、一一一
ウルシ　三八
ウルシカキ　三八
うるしかせ　一〇八
漆屋　三八
ウルチ（うるち米）　二〇、二一、三二、八五
裏紋　一三
ウロコ帯　一五三
上数　一七六
ウン　一一〇
うんこ　一四八
運送　五〇
運送車　五〇
運送ひき　一八
運動会　一五四
ウンマミチ　一六五

【エ】

営業製糸　四五
衛生組長　五六
衛生費　五六
エー節供　一九二
永徳　一三四
エエノコ　六三
絵かき唄　一五六
エサン　九八
えじめ　八五
越後　一八、二二、二三、二三五、五一、五三、五三、八六、一〇四、一二九、一五四
越後追分　一二九
越後の薬屋　一三四
越後のゴゼ　一二九
越後の職人　三八
越県合併　七〇
越中　六八
エッチユウフンドシ　四
江戸　一三五
エナ　一四八
エビス　二一〇
エビス講（えびす講）　三三、五三、一七八、一九六、二〇七、二〇八
エビス様（えびすさま えびす様、夷様）　一一、九九、一八一、一九九、二二四、二二五、二〇七、二〇八
エビス大黒（えびす大黒さま）　八四、一七八
夷の舞　一三六
エビス祭り　二〇八
エボ　一〇七
エボ地蔵　一〇七
吉方　一八一
絵馬　一〇〇、一一〇
獲物　四一
獲物の内臓　四一
エリ　三

えり巻　一六八
えんが　二九
宴会　一六八
エンガワ（縁側）　一六八、一六九、二三三、二三四、二五三、二五六
縁起　七〇、一〇九、一八二
縁起物　一六八
縁切り　三一、一五三、一五五
縁者　一六九
縁つなぎ　三一

【オ】

オールバック　二一
オイナリ様（お稲荷さま、お稲荷様）　一三一、一四九、一八九、一九一、二一〇
おいなりさん　一四八、一九一
オイヌ（お犬、おイヌサマ）　一二八、二二九
オイハン　一三三
お祝い　一五六
追分け節　二九
おいらん買い　三一
オウカン（往還）　四九、五〇
オウカガイ　九二
王子稲荷（神社）　一九二
王子稲荷神社祭り　一九二
往生　四
オエビス様　一八六、一八九
オエビス様の福分け　一八九
大雨　二三四
大火事　三九
大風　一五二、一五三、一八六
オオカミ（狼）　三七、二二八、二二九
オオカミヨケ　一五二
大川家　二三〇
大胡の産泰様　一四三
大阪の陣　二三四
大阪落城　三七
オオシメ　一八二
大正月　九、一七九、一八六
大杉様の堂　一〇四
大杉様の祭り　一五二
大杉神社　一五四、一八五、一九六
太田の子育呑竜様　一四九
大太鼓の囃子　二三七
大滝　二三三
大ダメ　一四〇
大胴　一三六、二二七
大道具　二三三、二三四
大年寄　九八
大入道　二一七
大紋　九二
オオベラ　四〇
大間々　八、四三、五七、一五三、二三五、二三三
大間々の貴船様（さん）　四四、一七九
大水　一八六、二三九
大晦日　一二、一七九、一八二、二三一
大麦　三八、二〇七
大麦の粉　一三
大めし　二三四
大屋根　一九二
オオヤマ　三一
大山祇神社　一七九
大山祇命　七一
大ワラジ　五九
オカアチャン　二三六
オカイ　一四八
オカエシ（おかえし、お返し）　一三〇、二三九、一五〇、一九六、二三〇
オカグラ　一二八
おかけ　一五一
おかざり（お飾り）　一八五、一八六、一九九、二三〇
おかざりげえ　一八五
お飾りの松　一八五
おかし（お菓子）　一〇〇、二二五
オカシラヅキ（お頭付き、尾頭付き）　三一、一九一、一九七、二〇八
オカシラヅキのゴマメ　一四七
尾頭付きの魚　一八四
岡平のお茶の水　一四四
オカズ（おかず）　八、五〇、八二、一八七
おかたび　五五
お勝手　四三、一六八、二〇一、一三三、一七九、一九〇、一九八、一九九、一七〇
オカッテザシキ　一四七
お勝手仕事　九二、一〇五
お勝手道具　一九二
お勝手の人　一六八、一六九
お勝手ブルメエ（ぶるめえ）　一六八、一七〇
お金　二〇、一八四
オカボ（陸稲）　三一、六〇
オカマサマ（おかまさま）　八四、一〇八、二二五
オカマサマのハナ　一〇八、二二五
オカマサマの松　二三四
オカミ（お神）　八七、一四九、二〇八
オガミ　三九
おかみさん　六八、二二五、二三四
オカミナ（お上名）　一五〇
オカユ（おかゆ、お粥）　八、一六八、一四八、一八三、一八四、一八七、一八八、一八六
お粥のたき始め　一八四
お仮屋　四一、九三、九九、一九七
お願　一〇〇
オガンショ（お願生）　一〇七、二一三、二五一、二二八
オガンショバタシ　一四四
オカンダチ（サマ）　二一五
お祇園　一九七
お吉清三　二二八
翁の舞　二三六
お客（様）　一五八、一六八、一八一、一六九、二〇〇
お客のお土産　一〇八
オキヤクボトケ　一五六、一九九
お給仕　一七〇、一九六
お経　八八、一二七、一五七、二三四
オキヨメ　一四四
オキヨメのお膳　一五一
オク　二三七

奥座敷　八四
奥さん　二八
おぐら峠　二九
オクリ　三五
送りイチゲン　一六五
送りだんご　一九三、二〇一
送り盆　一〇八、一九八、二〇一
送り盆のウマ　一九九
オクンチ（おくんち）　一一、二〇〇、二〇五
桶　一七四
おこ　四三
オコアゲ（おこあげ）　一〇、四三
お庚申さま　八〇
おこさま　四三
オコシ　七、三五
オコジヨ　二八
オゴッツオ　九
おこもり（御籠り）　一〇三
オコワ　一一、一七、一八、二〇、一五〇、一五三、一五九、一八〇、一九一、一九二、一九五、二〇四、二〇七
おこわ飯　二〇四
お菜　八
おさいせん（おさい銭）　六八、二〇〇
オサキ　二八
オサキツキ　二八
お酒　一三
オサゴ　三、一四七、一四八、一六四、一六五
オサメ　八六
オサユ　一九九
お産　八七、一〇八、一一三、一四三、一四四、一四五、一四六、一六八、一七〇
お産の重い人　一四五
お産の神　六六、一七六
お産の軽い人　一四五
お産の場所　一四五
お産見舞　六三、一五〇
おし　八
おじ（伯、叔父）　六三、一七六
オジイ　六三
おじいさん　八
オシイブン　九六
押入　二二四
オジゴ　一五六、二二六
お獅子　一七一
オシシツカイ　五三
お師匠さん　一九二
オシタジ（お下地）　二〇四、二〇五
お七夜　四三、一四六、一四八、一四九、二三〇
オシポコ　二〇
オシマンガ　二九
押し麦　九、五三
おしも福次　二八
オジヤ（おじや）　一八三、一八五
オシヤカサマ（オシヤカ様、お釈迦さま）　一九四
おしやか様の日　五三
おしやく　一五六、一五九
おしやぶり　一三一
忍山　四〇、四五、二三五
忍山の温泉　四九
忍山湯旅の記　四九
お正月　八、六三
お正月さま（様）　七、一〇八
オジヤン　六三
オジャンボン　二九
和尚（さん）　一〇一、一一三、一七六、二〇〇、二一三、二二四、二三五、二三六
オショウサマザシキ　一七四
お精進　一〇四
オンヨウのケサガケ　一四六
オショウバン（おしようばん）　六三、一七六
お醤油　四四
オシラキ　五三、一五三、一八一、一八二、一八八、一九一、二〇五
オシラ神　四四
オシラ様　一六五、一八六
オシラマチ　七
オシラ祭り　一六五
おしるこ（お汁粉）　一五九、一八九、二〇九
おしろい（お白）　二一、六八、一五六
オジンギ　一六五
おすいもん　一八二
お歳暮　一六五
お節供　三五、六三、九八
お膳　九、一五三、一五六、八〇、一六〇、一七三、一七五、一九七、一九八
お線香　二四
お雑煮　一八二
オソナエ（おそなえ、お供え）　三九、一七九、一八二、一八六、一八八、一九五
お供え餅　一八一、一八二、一八五、一八六、一八九、一九三、一九四
オソネエ　一八二
お太師講　二〇九、二一〇
オタカモリ　一六〇
御高盛の御飯（お高盛の飯）　一六九
オタクラ　八六
オタナ（お棚）　一八一、一八七
オタナイタ　一八一
オタナサガシ　一八三
オタマジヤクシ　二一三
オタル　九六
小田原攻め　七一
小田原北条氏　七一
オダンゴ（おだんご）　一七五、一八六、一九四、二〇一
お誕生　一五〇
落人　七五
お近づき　一五六
オチカヅキの盃　一六〇
オチカヅキの酒　一五六
お乳　二二四
オチツキ　一五六、一五九
オチツキヨメゴ　一五九
お茶　一七、二一、一五六、一五九、一六〇、一七〇、一七四、一七九、一八〇、一八九、二〇三、二一五、二二五、二二六
お茶がし（菓子）　一六〇、一八九、二〇九

お茶がしばなし　二一六
オチヤダシギモン　一六〇
御中元　一六五
オチョウメチョウ（男蝶女蝶）　一三九、一六〇
オチョコ　一六九
オチラシ　一八四
オチンコ　一三三
オツカア　六三、二一六
おつかいもの　一六六
オッカサン　一六〇
オッカサンカブリ　二
オッカヤン　二一五
お月様　二〇四
オツケ（おつけ）　八、一六九
オツケの汁　一六九
オツツケミツメ　一五六
オツケモチ　一八
オッサマ　一八四
オッシャン　一五六
夫　一〇九
お手玉　一四四
お寺　一六九、一七五、一八四、二〇一
お寺さま（お寺さん）　一六八、一八五
お寺の本堂　二〇〇
オテントウサマ　七
オテントサンのカケジ　九八
オトー（オトウ）　四一、六三、二一六
オトウチャン　二一六
弟　六三、六四、二一五
オトウ人数　二
オトギリソウ　一〇六
オトコオビ　四
オトコオンナ　一六七
男衆　四一、四三、四四、六六、六七、一五三、一九四、一九六、一九八、二〇五
男のツワリ　一四三
男の初子　一六九
オトモリ　一五〇
オトモリッコ　一五〇
踊り子　一二八
オナガ（尾長）　四一
オナベ　一五三
おにしめ　一九五
鬼　二〇九、二一一
鬼子　一一七
鬼ごっこ　一五五
鬼退治　三
オニッパ　一五〇
鬼の歯　一五三
オニバ　一五〇
オネ　一三五
おば　六三
おばあさん　八、一五一
お墓　一四六、二〇一
おはかまいり（お墓参り）　一一、一七五
オハギ（おはぎ）　九、一一、一四七、一七五、一八二、一九三、二〇〇、二〇三
オハグロ（おはぐろ、お歯黒）　一二、一五五、一九六
オバケ（おばけ）　六、一五四
オバゴ　一三六
おはやし　一三七
オバヤン　六三
オハライ（おはらい、お祓い）　一五六、一〇八、一七〇、一七七、一七四、一九四、二〇五
お針のけいこ　一九三
お針の師匠　一八四
おばんし　一三
帯　三一、四四、一四九、一五一、一五三、一五六、二〇六
オビトキ（帯とき）　一四三、一五三、二〇六
オビトキ祝　一五三
オビトキの祝い　二〇六
帯の結び方　五
オヒチヤ　一四七
オビド　一八三
おひなさま（おひな様）　六三、一六〇、一九三
オヒネリ（おひねり）　一〇八、一七四
お日待（御日待）　六六、七八、九九、一二八
お姫様　一三四
オヒヤガミサマ　一五
お百度　八四、一一一
お百度まいり（お百度参り、お百度詣り）　一一一、一四三、一六六
オヒヤマイリ　一四八
オヒラキ（お開き）　一六〇、一八八
お昼　一七〇、二〇一
オフクラ　九九
おふだ（お札）　六〇、七五、九四、九八、一一三、一一五、一四三、一五一、一五三、一八一、一八三、一八八、一九二、一九四、一九六、一九七、二一八
お札つくり　一九二
オフミゴゼ　五三
オブヤキ　一四六
おふろもらい　八
オベコ　一五一
オボギ　一四七
オボヤキ　一四九
おぼん（お盆）　一〇、一三一、一五四
お盆様　一九八
オマイダマ　一九一
オマイダマショウガツ　一八五
オマシ（オマワシ）　二〇六
小俣の鶏足寺　一五三
小俣の弘法の池　一四四
お松　一八一、一八四、一八五、一八六、一九〇、二〇九、二一〇
お松ひき　一八五
お松むかえ（迎え）　二一〇
お祭り　五七、八五
オマモリ（お守り）　四、六一
オマユ　一八六
オマル（おまる）　六一、二〇四、二〇五、二〇六
オマンゴ石　二一四

オミキ（おミキ、おみき、お神酒） 二一、三八、三九、八八、九八、九九、一四八、一七三、一八四、一八五、一九四
オミキスズ 三九、一九一
おみこし（御神輿） 五七、七四、七五
オミタマ様 一七八、一七九、二二一
オミナエシ 二〇〇、二二五
お土産 一六五、二〇一
お宮の門 七六
お宮まいり（お宮参り） 三、一四八、一五二
お明神様 二一〇
オメカキ 一五一
お召 四四、四五
オメンチ 六四
オモチ 二〇七
おもちや 一五一
表座敷 一五九
面師 一二三
おも屋（母屋） 二三、二〇九
親 三、四、四六、六六、一四六、一五四、一五六、一五八
親方 六六
親方夫婦 三七
親方連 五九
親がわり 六六
親子 一五八、二二〇
親子なり 六六
親子の盃 一五八
オヤジ（親父） 六三、二二〇
親同志 一五六
親にウスイ 一五〇
親のあたま 二五
親の意見 二二四
親分子分関係 六六
親元 四
お湯 一八九
織り子 一九九
おり賃（織賃） 六、二六、四四、四五、六七
オリニナル 三五
オリヒメ 一九八
織マワシ（織りまわし） 二六、四五
織り元 四五
織物 一、七二
お礼奉公 四五、六八
お礼参り 一二三
おろし 一七六
大蛇 九九、二二五、二二五
大蛇退治 一二六
おわかれのじんぎ 一五七
オワリ 八
おわん 五二
オンカ 一五七
温泉宿 二二五
御嶽講 九三、九四
御嶽講の位階 九三
（御嶽講の）大元 九三
（御嶽講の）修行 九三
（御嶽講の）となえ言 九三
御嶽参り 九三
音頭取り 一〇一
女 一八三
女が町へ出るとき 六二
女し（女衆） 三、三三、三五、四二、四五、四六、五七、六二、六六、六七、八四、九九、一五四、一七四、一八九、一九四、一九五、一九九、二〇七、二〇九
女衆だけ 六一
女シュウト 一五九
女衆のこづかい（小遣銭） 四二、四六
女衆の檀那寺 九九
女の神様 一九七
女の仕事 四五
女の尻 一六七
女の出稼ぎ 四五
女の初孫 一九三
女の厄年 一五三
女道 七五
オンベ 一六九
【カ】
蚊 二二二、二三六
カアチヤン 二三六
開運の神様 一七九
外交 五六
開墾 二八
かいこ（蚕） 二二、二四、四二、四三、四四、六六、一二一、一五四、一八五、二三六
かいこ祝い（蚕祝い） 二六、四二、四四
蚕神（蚕の神） 四四、一八五、一八六
蚕作のうらない 一一〇
蚕手伝（蚕の手伝） 四三
（蚕の）アゲ祝い 四四
蚕の室 一九四
蚕の上族 三二
蚕のはきたて（掃立て） 三三、四二
かいこの休み 四二
カイコビョウ 四三
皆沢 二二三
皆沢の氏神さま 一一九
（皆沢の）収入源 二六
皆沢の八幡さま 一一九
皆沢の百才遍念仏供養 一〇五
皆沢の苗字 二二〇
皆沢の神明様 二二三
（皆沢の）明神の伝説 一七九
買芝居 一二六
会社づとめ 二六
会葬 二六
開田 三、二四、四三、六七、六八、二二六
カイト 二三三
カイド 一五二、二〇八
カイドウ 一五九、二〇一
会費 一九七
廻覧板 五六
改良マブシ 四三
返し言葉 一五五
かえしばり 一七一
カエデ 一二〇
カエル 一一四

蛙の卵 一三四
カエロンゴ 一三四
顔 三一
カカア（かかあ） 二三四、二三六
カカデンカ（かかあ天下） 六八、一〇八、一六七
カカアデンカニ二代ナシ 一六七
鏡 一〇八
鏡石 二三五、二三四
カガミイワ 二三五
カカリゴ 六五
柿 一三一、一三七、一四〇、一八二、二〇四、二〇七
カギ 一〇八
カキコム 二〇九
カキシメジ 一四
カギ竹 一四、一二三
カギ竹の鯉 一四
カギ竹の俗信 一四
カキダレ 五五、一八二
かぎつるし 一一四
垣根 一三五
柿の木 一八六
ガキの首 一八六
柿のユザシ 一四
ガキ仏 二〇一
ガキ仏の座 一七六
カキマモリ 四
柿もち（餅） 一三
カギンコバナ 二三五
角帯 四

隠し金 三六
格式 二三〇、二三一
カクシドコロ 一五五
角兵衛獅子 二五、一八二
カクベエニナル 二五
カクシモチ（カクシ餅、かくし餅） 一八、六五、一八二
カクマンガ 二〇
神楽 五三、五六、八三、一三六、一九一、一九四、一九六
神楽面 二三七
カクラン 一〇三、一〇六、一〇七
かくらんよけ 一一
カケジ 一八八、一九八
かけじく（掛軸） 六三、八八
カケ正月 一八八
かげ膳 一八
カケナガシ 一六
カケヤ 一九一
カゴ（かご籠） 三六、五三、一〇八、一四七、一五七、二〇七
過去帳 二一四
かさ 二三五
カザハナ 二三六
火災除け 一五九
笠木の鳥居 一八二
傘踊り 二二八
風神様 七六
カサジ 四四
風祭 七六、九九
カザリカエ 一六五

飾り菓子 一六五
カザリダンゴ（かざりだんご） 一六九、一七〇
飾り物 一八二
カサヲカブル 二三五
菓子 七四、二〇八
火事 二三、三六、六五、一〇八、一三一、一四五、一三〇、一八九、一九〇、二〇七、二〇八、二二九、二三三、二三五、二三七
貸し売り 五三
カジカ 一四、一九〇
カシラ 二三七
カシラッキ 一八五、二〇七
頭付魚 一五四
カシワ 八、一四一
柏の葉 一九六
かしわもち 一〇、一三、一九六
家人 一六八
カズズ 四六、一八五
カズガラ 一五九
カズザル 四七
カズの木 二一八
カズハタキ板 四七
カゼ（風邪） 九八、一〇八、一八二、一八四、一八八、二二九
風 二二四、二三六
カゼノカミ送り（かぜの神送り） 一〇八
かぜの神さま 一〇八
風の前ぶれ 二二四

風の又三郎 九九
風よけ（風除け） 一七六、一九一
風をきる 二二五
家族 六五、一六〇、一六六、一七二、一七五、一八八、二二八、二三一
家族関係 六五
家族の私財 六六
家族の食事 一六六
家族の呼び名 六五
かたあげ 一四
カタクリ 一六
片袖 六
片月見 二〇八
刀 一六九、一七一
かたみ 二三
カタビラ（かたびら） 六、一七一
固めの盃 一五六、一五九
片輪の子 八八
カチクルミ 二二三
カツオブシ 一四七
カックワ 二九
脚気 一五五
学校 四一、七〇、九二、一〇五、一〇八
葛飾北斎 二三五
カッテ（勝手） 一〇一、一三一
勝手仕事 一六五
勝手の神 一八二
飼ってはいけない動物 一九
カッテンボウ 二三五

カッパ 三〇六
カッパマキ 三一、三三
カッパ淵 三三
カツブシ（かつぶし） 一六、一四七、一八七
合併 七三
かてめし 九三
家伝薬 一〇六
カド 一九、二一〇、二一一
門入り 一五五
カトウキン 一〇六
カドウタイ（門うたい） 一五五
カドロ（門口） 一〇六、一五六、一六〇
門づき 一五五
門付 一五一
門付芸 一五六
カドバシラ 一〇六
カド松（門松） 四四、四五、一一〇、一一一
カド道 一〇一
家内安全 九
カナグッ 一四三
金ゴキ 六
金沢 三三
金沢絆 三三
金沢の大黒天 一五
金山彦の舞 三六
火難よけ 一三

カネ（かね、鉦、鐘） 一〇一、一一二、一一五、一一六、一一七、一二五、一二六、一三〇
金 六二
金がたまる話 一一〇
かほ太鼓（金太鼓） 一五五
カネダマ 一六、一三一、一三六、一三七
かねつけ祝い 一一五
金の神様 一〇六
かねのわらじ 一五
カノウ 九、三一
カノウ狩野派 一三、三一
カノエサル 一三
カノコ 八
カノの神 三、三五
カビタリモチ（餅） 九
歌舞伎 一〇六
歌舞伎舞台 一三四、一三五
蕪丁 一三三
カブラナ 一四四
蕪の根 一〇六
かぶりもの 二
貨幣経済 一三三
壁ぬり 六三
火防 五五
火防の神 一六
かぼちゃ 六六
鎌 一五

カマ（かま、釜） 一九、一九六、一九七
かま（かまど） 一三、三五、一九一
カマ神様（かま神様） 一三四、一九九、二一〇、二一〇
釜じめ 八五
かまずみ 三三
カマチ 三五
カマツブタモチ（餅） 一九六
カマド（かまど） 八四、一四五
カマド神のお松 一三四
カマの口あけ 一九六
釜のふた 一九六
釜のフタモチ 一九八
髪 一五一
神おくり 二一五
神がかり 九三
髪飾り 一
髪型 二
神さま（様） 一六、一九、二五、二六、二七、三四、三五、三六、三七、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一一〇、一一一、一一二、一一三、一一四、一一五、一一六、一一七、一一八、一一九、一二〇、一二一、一二二、一二三、一二四、一二五、一二六、一二七、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二三六二、二三六三、二三六四、二三六五、二三六六、二三六七、二三六八、二三六九、二三七〇、二三七一、二三七二、二三七三、二三七四、二三七五、二三七六、二三七七、二三七八、二三七九、二三八〇、二三八一、二三八二、二三八三、二三八四、二三八五、二三八六、二三八七、二三八八、二三八九、二三九〇、二三九一、二三九二、二三九三、二三九四、二三九五、二三九六、二三九七、二三九八、二三九九、二四〇〇、二四〇一、二四〇二、二四〇三、二四〇四、二四〇五、二四〇六、二四〇七、二四〇八、二四〇九、二四一〇、二四一一、二四一二、二四一三、二四一四、二四一五、二四一六、二四一七、二四一八、二四一九、二四二〇、二四二一、二四二二、二四二三、二四二四、二四二五、二四二六、二四二七、二四二八、二四二九、二四三〇、二四三一、二四三二、二四三三、二四三四、二四三五、二四三六、二四三七、二四三八、二四三九、二四四〇、二四四一、二四四二、二四四三、二四四四、二四四五、二四四六、二四四七、二四四八、二四四九、二四五〇、二四五一、二四五二、二四五三、二四五四、二四五五、二四五六、二四五七、二四五八、二四五九、二四六〇、二四六一、二四六二、二四六三、二四六四、二四六五、二四六六、二四六七、二四六八、二四六九、二四七〇、二四七一、二四七二、二四七三、二四七四、二四七五、二四七六、二四七七、二四七八、二四七九、二四八〇、二四八一、二四八二、二四八三、二四八四、二四八五、二四八六、二四八七、二四八八、二四八九、二四九〇、二四九一、二四九二、二四九三、二四九四、二四九五、二四九六、二四九七、二四九八、二四九九、二五〇〇、二五〇一、二五〇二、二五〇三、二五〇四、二五〇五、二五〇六、二五〇七、二五〇八、二五〇九、二五一〇、二五一一、二五一二、二五一三、二五一四、二五一五、二五一六、二五一七、二五一八、二五一九、二五二〇、二五二一、二五二二、二五二三、二五二四、二五二五、二五二六、二五二七、二五二八、二五二九、二五三〇、二五三一、二五三二、二五三三、二五三四、二五三五、二五三六、二五三七、二五三八、二五三九、二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五、二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五五〇、二五五一、二五五二、二五五三、二五五四、二五五五、二五五六、二五五七、二五五八、二五五九、二五六〇、二五六一、二五六二、二五六三、二五六四、二五六五、二五六六、二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二五七一、二五七二、二五七三、二五七四、二五七五、二五七六、二五七七、二五七八、二五七九、二五八〇、二五八一、二五八二、二五八三、二五八四、二五八五、二五八六、二五八七、二五八八、二五八九、二五九〇、二五九一、二五九二、二五九三、二五九四、二五九五、二五九六、二五九七、二五九八、二五九九、二六〇〇、二六〇一、二六〇二、二六〇三、二六〇四、二六〇五、二六〇六、二六〇七、二六〇八、二六〇九、二六一〇、二六一一、二六一二、二六一三、二六一四、二六一五、二六一六、二六一七、二六一八、二六一九、二六二〇、二六二一、二六二二、二六二三、二六二四、二六二五、二六二六、二六二七、二六二八、二六二九、二六三〇、二六三一、二六三二、二六三三、二六三四、二六三五、二六三六、二六三七、二六三八、二六三九、二六四〇、二六四一、二六四二、二六四三、二六四四、二六四五、二六四六、二六四七、二六四八、二六四九、二六五〇、二六五一、二六五二、二六五三、二六五四、二六五五、二六五六、二六五七、二六五八、二六五九、二六六〇、二六六一、二六六二、二六六三、二六六四、二六六五、二六六六、二六六七、二六六八、二六六九、二六七〇、二六七一、二六七二、二六七三、二六七四、二六七五、二六七六、二六七七、二六七八、二六七九、二六八〇、二六八一、二六八二、二六八三、二六八四、二六八五、二六八六、二六八七、二六八八、二六八九、二六九〇、二六九一、二六九二、二六九三、二六九四、二六九五、二六九六、二六九七、二六九八、二六九九、二七〇〇、二七〇一、二七〇二、二七〇三、二七〇四、二七〇五、二七〇六、二七〇七、二七〇八、二七〇九、二七一〇、二七一一、二七一二、二七一三、二七一四、二七一五、二七一六、二七一七、二七一八、二七一九、二七二〇、二七二一、二七二二、二七二三、二七二四、二七二五、二七二六、二七二七、二七二八、二七二九、二七三〇、二七三一、二七三二、二七三三、二七三四、二七三五、二七三六、二七三七、二七三八、二七三九、二七四〇、二七四一、二七四二、二七四三、二七四四、二七四五、二七四六、二七四七、二七四八、二七四九、二七五〇、二七五一、二七五二、二七五三、二七五四、二七五五、二七五六、二七五七、二七五八、二七五九、二七六〇、二七六一、二七六二、二七六三、二七六四、二七六五、二七六六、二七六七、二七六八、二七六九、二七七〇、二七七一、二七七二、二七七三、二七七四、二七七五、二七七六、二七七七、二七七八、二七七九、二七八〇、二七八一、二七八二、二七八三、二七八四、二七八五、二七八六、二七八七、二七八八、二七八九、二七九〇、二七九一、二七九二、二七九三、二七九四、二七九五、二七九六、二七九七、二七九八、二七九九、二八〇〇、二八〇一、二八〇二、二八〇三、二八〇四、二八〇五、二八〇六、二八〇七、二八〇八、二八〇九、二八一〇、二八一一、二八一二、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八一八、二八一九、二八二〇、二八二一、二八二二、二八二三、二八二四、二八二五、二八二六、二八二七、二八二八、二八二九、二八三〇、二八三一、二八三二、二八三三、二八三四、二八三五、二八三六、二八三七、二八三八、二八三九、二八四〇、二八四一、二八四二、二八四三、二八四四、二八四五、二八四六、二八四七、二八四八、二八四九、二八五〇、二八五一、二八五二、二八五三、二八五四、二八五五、二八五六、二八五七、二八五八、二八五九、二八六〇、二八六一、二八六二、二八六三、二八六四、二八六五、二八六六、二八六七、二八六八、二八六九、二八七〇、二八七一、二八七二、二八七三、二八七四、二八七五、二八七六、二八七七、二八七八、二八七九、二八八〇、二八八一、二八八二、二八八三、二八八四、二八八五、二八八六、二八八七、二八八八、二八八九、二八九〇、二八九一、二八九二、二八九三、二八九四、二八九五、二八九六、二八九七、二八九八、二八九九、二九〇〇、二九〇一、二九〇二、二九〇三、二九〇四、二九〇五、二九〇六、二九〇七、二九〇八、二九〇九、二九一〇、二九一一、二九一二、二九一三、二九一四、二九一五、二九一六、二九一七、二九一八、二九一九、二九二〇、二九二一、二九二二、二九二三、二九二四、二九二五、二九二六、二九二七、二九二八、二九二九、二九三〇、二九三一、二九三二、二九三三、二九三四、二九三五、二九三六、二九三七、二九三八、二九三九、二九四〇、二九四一、二九四二、二九四三、二九四四、二九四五、二九四六、二九四七、二九四八、二九四九、二九五〇、二九五一、二九五二、二九五三、二九五四、二九五五、二九五六、二九五七、二九五八、二九五九、二九六〇、二九六一、二九六二、二九六三、二九六四、二九六五、二九六六、二九六七、二九六八、二九六九、二九七〇、二九七一、二九七二、二九七三、二九七四、二九七五、二九七六、二九七七、二九七八、二九七九、二九八〇、二九八一、二九八二、二九八三、二九八四、二九八五、二九八六、二九八七、二九八八、二九八九、二九九〇、二九九一、二九九二、二九九三、二九九四、二九九五、二九九六、二九九七、二九九八、二九九九、三〇〇〇、三〇〇一、三〇〇二、三〇〇三、三〇〇四、三〇〇五、三〇〇六、三〇〇七、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三〇一四、三〇一五、三〇一六、三〇一七、三〇一八、三〇一九、三〇二〇、三〇二一、三〇二二、三〇二三、三〇二四、三〇二五、三〇二六、三〇二七、三〇二八、三〇二九、三〇三〇、三〇三一、三〇三二、三〇三三、三〇三四、三〇三五、三〇三六、三〇三七、三〇三八、三〇三九、三〇四〇、三〇四一、三〇四二、三〇四三、三〇四四、三〇四五、三〇四六、三〇四七、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三〇五三、三〇五四、三〇五五、三〇五六、三〇五七、三〇五八、三〇五九、三〇六〇、三〇六一、三〇六二、三〇六三、三〇六四、三〇六五、三〇六六、三〇六七、三〇六八、三〇六九、三〇七〇、三〇七一、三〇七二、三〇七三、三〇七四、三〇七五、三〇七六、三〇七七、三〇七八、三〇七九、三〇八〇、三〇八一、三〇八二、三〇八三、三〇八四、三〇八五、三〇八六、三

カヤ（かや、萱）　一、二〇、三一、三五、三九、五六、六三、一一四、二一六、二二五
榧　二一七
萱刈り　二〇
カヤゴサイ　三九
カヤヅクリ　三九
カヤの箸　一四七
カヤバ（カヤ場）　三一、三九、五九
カヤ屋根　三一
かやぶき屋根　一四六
カヤ山　三九
カユ（かゆ、粥）　一六、一五〇、一八三、一八四、一八七、一八八
カユカキ棒　一八五、一八六、一八七
ガラガラ　一五二
ガラガラ畑　二七
唐獅子　一二四
唐獅子団　一二四
唐獅子の牡丹の図　一二四
カラス（鴉）　一二七、一三六、一六〇
カラスカラス（からすからす）　一三六、一四〇
カラス天狗の絵馬　八五
カラスなき（からすなき、カラス鳴き、烏鳴き）　一〇九、一三六、一六〇
空鉄砲　一〇八
カラムシ　六
刈り上げ祝い　二〇六
カリクワ　四四
刈り払い　一八、三七、三八、四〇
カルカヤ　二〇〇
カルカヤボウズ　二三五
家例　一九、六四、六五、一八二
カレーライス　六九
川　二〇八
川石　一五四、一五五
川神様　一九八
皮靴　五
川崎　一五四
川魚　八、四三
川の土手　二三三
川のり　一四
川バタ　一九〇、二一〇
カワバタガミサマ　二三四
カワラケ　一九四、二〇〇、二〇一
河原田　三六
瓦版　三六
かわりもの（変りもの、かわりもん）　一〇、一九四、二〇四、二〇五、二〇六
寒　八八
棺　一四四、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三
願　一五一、一七二、一七九
かんうち　三九
岩塩　六〇
かんおけ番　六二
ガンカケ（願かけ）　一〇〇、一二一、一六八
寒行　九三
玩具　一三〇
カンクロ稲荷　二一八
寒庚申　八六、八八
冠婚葬祭　六二
カンザシ（かんざし）　二一、一四六、二三一、一五一
寒申　八八
元日　一五五、一八二
元日の縁起　一八二
感謝祭　八九
甘藷　三三
かんじょう　六六
間食　一一五
カンゼヨリ　一八二
がんだいづくり　二三
元旦　二一
勘当　一五五
棺道具　一七一
棺道具置場　一七一
がんどうぐ小屋（棺道具小屋）　六一、一一一
関東大震災　二七、六七
監督　四五
カンナ　二二八、二三六
神主　六〇、九六、一〇〇、一五一、一七四、一九四、一九五、一九六、一九九、二〇五、二三三
カンヌシサマ（神主さん）　一五五、一八一、一八二
観音さま（観音さん、観音様）　一六八、一八八、一九八、二〇四、二〇五
観音さまの掛軸　二〇〇
観音堂　二三一
神梅丹次　二〇七
ガンパコ　一三〇
願はたし　一〇〇、一一一
かんぱつ（干ばつ）　一〇、二一五
間伐　三九、六五
眼病　一〇四
カンピョウ（干びょう）　一四七、一四八、一八二、一八四
寒水　九三
ガンモドキ　九
官有地　三八
観覧席　一三五
甘露梅　五五
願をかける　二一八
願をとく　二二九

【キ】

キーン　二三六
木　二三五
忌明け　一五五
ぎおん（祇園）　五七、一九七、一九九、二〇三、二〇四
着換え　一九六
キキョウ　二〇〇、二三五
ききん　一八、一〇一
乞巧奠　一九八
きござ（着ござ）　二八、一九九
きこり（木こり、樵夫）　三一、三三、六六、二一七
木崎音頭　二三六
きじ（雉子）　四〇、四一
木品　二三二
汽車　一七一

汽車の音　二八
キジャク　四四
喜寿　一五三
気絶　一〇六
キセルツタマ　七
北風　一五
北ざく　一九
義太夫　一五三、二三
義太夫語り　二三
北ゴボウ　一九
木出し　一九、二三
北枕　一六九
北水　三
北向き　一六八、一七三、一七五
北山家　二七
忌中　一五
キックルマ　三
木槌　一九八、一九一
キツネ（狐）　四一、一二八、一九一
キツネツキ（狐つき）　二一八
キッパゼン　一九
汽笛　二三六
祈祷　二三
祈祷師　一一三
キヌグモ　一〇
キネ（杵）　二〇八、二〇九、二一〇
キネの柄　二〇六
キノコ（きのこ）　一四一、一六、一三五、二〇四、二一三
喜の字の祝い　一五

木の葉かご　三〇
木の葉ザマ　二五
キノハッカブリ　一四
木の秋　一五五
キノワカブリ　一四
キハダ　六
キビ団子　三一三、三一三、三一三
木フシ　三
キミ　六四、六五、二一〇
キモ（きも）　三六、四〇

着物　二、三、六、一四、一六、一九、二五、二七、二九、三五、三七、三九、四一、四五、四六、四九、五一、五三、五五、五七、五九、六一、六五、六七、六九、七一、七五、七七、七九、八一、八五、八七、八九、九一、九五、九七、九九、一〇一、一〇五、一〇七、一〇九、一一一、一一五、一一七、一一九、一二一、一二五、一二七、一二九、一三一、一三五、一三七、一三九、一四一、一四五、一四七、一四九、一五一、一五五、一五七、一五九、一六一、一六五、一六七、一六九、一七一、一七五、一七七、一七九、一八一、一八五、一八七、一八九、一九一、一九五、一九七、一九九、二〇一、二〇五、二〇七、二〇九
着物ひとそろえ　三
着物を裁つ日　六
鬼門　一六
キヤ　一五
ギヤクエン　六五
客間　三〇八
客ばら三日　一六
キャハン（きゃはん、脚絆）　三、四、一二
救荒作物　一
球根　三五
旧正月　五、一六、一九
旧村意識　七一
（旧の一月）十五日　一九
牛馬　五〇
久離　五五

キュウリ（胡瓜）　一九、二五、八〇、一〇一、一二四、一九七、二〇〇
キュウリの馬（キュウリの馬）　三〇一
胡瓜の種　一〇六
キュウリモミ　一九七
旧暦　一九
行商　九三、一〇三、一〇四
キョウカタビラ（経かたびら）　六、一四〇、一四一
行者　一〇三、一〇四
行商　五一
行商人　六六
行政区画変更　七〇
兄弟　六三、一四七
兄姉　一五六
兄弟づきあい　一九四
共同井戸　三五
共同組合方式　五六
共同購入　五一
共同作業　一、五
共同の棺道具　一五三
共同墓地　一五一
郷土芸能　一三三
行ヘオリル　一〇五
行屋　一五三、一〇三、一〇四
共有地　五六
共有の水車　九六
共有山　五六
共有林　五、五六

行列　一五一
行列用　一七一
居館跡　二二三
居館跡　一四三
虚弱児　二一六
巨樹　二三〇
居住性　一四二、一四七、一四九
キヨメ（清め）　一六九
清めのお祓い　一五一、一五四
キヨメの酒　一〇
キラズ　八、三、一四、一五、一八、二四、二五、二八、三〇、三五、三七、四〇、四二、四五、四八、五〇、五二、五五、五七、六〇、六二、六五、六七、七〇、七二、七五、七七、八〇、八二、八五、八七、九〇、九二、九五、九七、一〇〇、一〇二、一〇五、一〇七、一一〇、一一二、一一五、一一七、一二〇、一二二、一二五、一二七、一三〇、一三二、一三五、一三七
桐生氏　一一、一二三
桐生大炊介　二六、一四、一六、一八
桐生織物　九、一二八
桐生紙　一四五
桐生紙のつくり方　一四五
桐生川　一、一八、二三、二五、二七、二九、三一、三三、三五、三七、三九、四一、四三、四五、四七、四九、五一、五三、五五、五七、五九、六一、六三、六五、六七、六九、七一、七三、七五、七七、七九、八一、八三、八五、八七、八九、九一、九三、九五、九七、九九、一〇一、一〇三、一〇五、一〇七、一〇九、一一一、一一三、一一五、一一七、一一九、一二一、一二三、一二五、一二七、一二九、一三一、一三三、一三五、一三七、一三九、一四一、一四三、一四五、一四七、一四九、一五一、一五三、一五五、一五七、一五九、一六一、一六三、一六五、一六七、一六九、一七一、一七三、一七五、一七七、一七九、一八一、一八三、一八五、一八七、一八九、一九一、一九三、一九五、一九七、一九九、二〇一、二〇三、二〇五、二〇七、二〇九、二一一、二一三、二一五、二一七、二一九、二二一、二二三、二二五、二二七、二二九、二三一、二三三、二三五、二三七、二三九、二四一、二四三、二四五、二四七、二四九、二五一、二五三、二五五、二五七、二五九、二六一、二六三、二六五、二六七、二六九、二七一、二七三、二七五、二七七、二七九、二八一、二八三、二八五、二八七、二八九、二九一、二九三、二九五、二九七、二九九、三〇一、三〇三、三〇五、三〇七、三〇九、三一一、三一三、三一五、三一七、三一九、三二一、三二三、三二五、三二七、三二九、三三一、三三三、三三五、三三七、三三九、三四一、三四三、三四五、三四七、三四九、三五一、三五三、三五五、三五七、三五九、三六一、三六三、三六五、三六七、三六九、三七一、三七三、三七五、三七七、三七九、三八一、三八三、三八五、三八七、三八九、三九一、三九三、三九五、三九七、三九九、四〇一、四〇三、四〇五、四〇七、四〇九、四一一、四一三、四一五、四一七、四一九、四二一、四二三、四二五、四二七、四二九、四三一、四三三、四三五、四三七、四三九、四四一、四四三、四四五、四四七、四四九、四五一、四五三、四五五、四五七、四五九、四六一、四六三、四六五、四六七、四六九、四七一、四七三、四七五、四七七、四七九、四八一、四八三、四八五、四八七、四八九、四九一、四九三、四九五、四九七、四九九、五〇一、五〇三、五〇五、五〇七、五〇九、五一一、五一三、五一五、五一七、五一九、五二一、五二三、五二五、五二七、五二九、五三一、五三三、五三五、五三七、五三九、五四一、五四三、五四五、五四七、五四九、五五一、五五三、五五五、五五七、五五九、五六一、五六三、五六五、五六七、五六九、五七一、五七三、五七五、五七七、五七九、五八一、五八三、五八五、五八七、五八九、五九一、五九三、五九五、五九七、五九九、六〇一、六〇三、六〇五、六〇七、六〇九、六一一、六一三、六一五、六一七、六一九、六二一、六二三、六二五、六二七、六二九、六三一、六三三、六三五、六三七、六三九、六四一、六四三、六四五、六四七、六四九、六五一、六五三、六五五、六五七、六五九、六六一、六六三、六六五、六六七、六六九、六七一、六七三、六七五、六七七、六七九、六八一、六八三、六八五、六八七、六八九、六九一、六九三、六九五、六九七、六九九、七〇一、七〇三、七〇五、七〇七、七〇九、七一一、七一三、七一五、七一七、七一九、七二一、七二三、七二五、七二七、七二九、七三一、七三三、七三五、七三七、七三九、七四一、七四三、七四五、七四七、七四九、七五一、七五三、七五五、七五七、七五九、七六一、七六三、七六五、七六七、七六九、七七一、七七三、七七五、七七七、七七九、七八一、七八三、七八五、七八七、七八九、七九一、七九三、七九五、七九七、七九九、八〇一、八〇三、八〇五、八〇七、八〇九、八一一、八一三、八一五、八一七、八一九、八二一、八二三、八二五、八二七、八二九、八三一、八三三、八三五、八三七、八三九、八四一、八四三、八四五、八四七、八四九、八五一、八五三、八五五、八五七、八五九、八六一、八六三、八六五、八六七、八六九、八七一、八七三、八七五、八七七、八七九、八八一、八八三、八八五、八八七、八八九、八九一、八九三、八九五、八九七、八九九、九〇一、九〇三、九〇五、九〇七、九〇九、九一一、九一三、九一五、九一七、九一九、九二一、九二三、九二五、九二七、九二九、九三一、九三三、九三五、九三七、九三九、九四一、九四三、九四五、九四七、九四九、九五一、九五三、九五五、九五七、九五九、九六一、九六三、九六五、九六七、九六九、九七一、九七三、九七五、九七七、九七九、九八一、九八三、九八五、九八七、九八九、九九一、九九三、九九五、九九七、九九九、一〇〇一、一〇〇三、一〇〇五、一〇〇七、一〇〇九、一〇一一、一〇一三、一〇一五、一〇一七、一〇一九、一〇二一、一〇二三、一〇二五、一〇二七、一〇二九、一〇三一、一〇三三、一〇三五、一〇三七、一〇三九、一〇四一、一〇四三、一〇四五、一〇四七、一〇四九、一〇五一、一〇五三、一〇五五、一〇五七、一〇五九、一〇六一、一〇六三、一〇六五、一〇六七、一〇六九、一〇七一、一〇七三、一〇七五、一〇七七、一〇七九、一〇八一、一〇八三、一〇八五、一〇八七、一〇八九、一〇九一、一〇九三、一〇九五、一〇九七、一〇九九、一一〇一、一一〇三、一一〇五、一一〇七、一一〇九、一一一一、一一一三、一一一五、一一一七、一一一九、一一二一、一一二三、一一二五、一一二七、一一二九、一一三一、一一三三、一一三五、一一三七、一一三九、一一四一、一一四三、一一四五、一一四七、一一四九、一一五一、一一五三、一一五五、一一五七、一一五九、一一六一、一一六三、一一六五、一一六七、一一六九、一一七一、一一七三、一一七五、一一七七、一一七九、一一八一、一一八三、一一八五、一一八七、一一八九、一一九一、一一九三、一一九五、一一九七、一一九九、一二〇一、一二〇三、一二〇五、一二〇七、一二〇九、一二一一、一二一三、一二一五、一二一七、一二一九、一二二一、一二二三、一二二五、一二二七、一二二九、一二三一、一二三三、一二三五、一二三七、一二三九、一二四一、一二四三、一二四五、一二四七、一二四九、一二五一、一二五三、一二五五、一二五七、一二五九、一二六一、一二六三、一二六五、一二六七、一二六九、一二七一、一二七三、一二七五、一二七七、一二七九、一二八一、一二八三、一二八五、一二八七、一二八九、一二九一、一二九三、一二九五、一二九七、一二九九、一三〇一、一三〇三、一三〇五、一三〇七、一三〇九、一三一一、一三一三、一三一五、一三一七、一三一九、一三二一、一三二三、一三二五、一三二七、一三二九、一三三一、一三三三、一三三五、一三三七、一三三九、一三四一、一三四三、一三四五、一三四七、一三四九、一三五一、一三五三、一三五五、一三五七、一三五九、一三六一、一三六三、一三六五、一三六七、一三六九、一三七一、一三七三、一三七五、一三七七、一三七九、一三八一、一三八三、一三八五、一三八七、一三八九、一三九一、一三九三、一三九五、一三九七、一三九九、一四〇一、一四〇三、一四〇五、一四〇七、一四〇九、一四一一、一四一三、一四一五、一四一七、一四一九、一四二一、一四二三、一四二五、一四二七、一四二九、一四三一、一四三三、一四三五、一四三七、一四三九、一四四一、一四四三、一四四五、一四四七、一四四九、一四五一、一四五三、一四五五、一四五七、一四五九、一四六一、一四六三、一四六五、一四六七、一四六九、一四七一、一四七三、一四七五、一四七七、一四七九、一四八一、一四八三、一四八五、一四八七、一四八九、一四九一、一四九三、一四九五、一四九七、一四九九、一五〇一、一五〇三、一五〇五、一五〇七、一五〇九、一五一一、一五一三、一五一五、一五一七、一五一九、一五二一、一五二三、一五二五、一五二七、一五二九、一五三一、一五三三、一五三五、一五三七、一五三九、一五四一、一五四三、一五四五、一五四七、一五四九、一五五一、一五五三、一五五五、一五五七、一五五九、一五六一、一五六三、一五六五、一五六七、一五六九、一五七一、一五七三、一五七五、一五七七、一五七九、一五八一、一五八三、一五八五、一五八七、一五八九、一五九一、一五九三、一五九五、一五九七、一五九九、一六〇一、一六〇三、一六〇五、一六〇七、一六〇九、一六一一、一六一三、一六一五、一六一七、一六一九、一六二一、一六二三、一六二五、一六二七、一六二九、一六三一、一六三三、一六三五、一六三七、一六三九、一六四一、一六四三、一六四五、一六四七、一六四九、一六五一、一六五三、一六五五、一六五七、一六五九、一六六一、一六六三、一六六五、一六六七、一六六九、一六七一、一六七三、一六七五、一六七七、一六七九、一六八一、一六八三、一六八五、一六八七、一六八九、一六九一、一六九三、一六九五、一六九七、一六九九、一七〇一、一七〇三、一七〇五、一七〇七、一七〇九、一七一一、一七一三、一七一五、一七一七、一七一九、一七二一、一七二三、一七二五、一七二七、一七二九、一七三一、一七三三、一七三五、一七三七、一七三九、一七四一、一七四三、一七四五、一七四七、一七四九、一七五一、一七五三、一七五五、一七五七、一七五九、一七六一、一七六三、一七六五、一七六七、一七六九、一七七一、一七七三、一七七五、一七七七、一七七九、一七八一、一七八三、一七八五、一七八七、一七八九、一七九一、一七九三、一七九五、一七九七、一七九九、一八〇一、一八〇三、一八〇五、一八〇七、一八〇九、一八一一、一八一三、一八一五、一八一七、一八一九、一八二一、一八二三、一八二五、一八二七、一八二九、一八三一、一八三三、一八三五、一八三七、一八三九、一八四一、一八四三、一八四五、一八四七、一八四九、一八五一、一八五三、一八五五、一八五七、一八五九、一八六一、一八六三、一八六五、一八六七、一八六九、一八七一、一八七三、一八七五、一八七七、一八七九、一八八一、一八八三、一八八五、一八八七、一八八九、一八九一、一八九三、一八九五、一八九七、一八九九、一九〇一、一九〇三、一九〇五、一九〇七、一九〇九、一九一一、一九一三、一九一五、一九一七、一九一九、一九二一、一九二三、一九二五、一九二七、一九二九、一九三一、一九三三、一九三五、一九三七、一九三九、一九四一、一九四三、一九四五、一九四七、一九四九、一九五一、一九五三、一九五五、一九五七、一九五九、一九六一、一九六三、一九六五、一九六七、一九六九、一九七一、一九七三、一九七五、一九七七、一九七九、一九八一、一九八三、一九八五、一九八七、一九八九、一九九一、一九九三、一九九五、一九九七、一九九九、二〇〇一、二〇〇三、二〇〇五、二〇〇七、二〇〇九、二〇一一、二〇一三、二〇一五、二〇一七、二〇一九、二〇二一、二〇二三、二〇二五、二〇二七、二〇二九、二〇三一、二〇三三、二〇三五、二〇三七、二〇三九、二〇四一、二〇四三、二〇四五、二〇四七、二〇四九、二〇五一、二〇五三、二〇五五、二〇五七、二〇五九、二〇六一、二〇六三、二〇六五、二〇六七、二〇六九、二〇七一、二〇七三、二〇七五、二〇七七、二〇七九、二〇八一、二〇八三、二〇八五、二〇八七、二〇八九、二〇九一、二〇九三、二〇九五、二〇九七、二〇九九、二一〇一、二一〇三、二一〇五、二一〇七、二一〇九、二一一一、二一一三、二一一五、二一一七、二一一九、二一二一、二一二三、二一二五、二一二七、二一二九、二一三一、二一三三、二一三五、二一三七、二一三九、二一四一、二一四三、二一四五、二一四七、二一四九、二一五一、二一五三、二一五五、二一五七、二一五九、二一六一、二一六三、二一六五、二一六七、二一六九、二一七一、二一七三、二一七五、二一七七、二一七九、二一八一、二一八三、二一八五、二一八七、二一八九、二一九一、二一九三、二一九五、二一九七、二一九九、二二〇一、二二〇三、二二〇五、二二〇七、二二〇九、二二一一、二二一三、二二一五、二二一七、二二一九、二二二一、二二二三、二二二五、二二二七、二二二九、二二三一、二二三三、二二三五、二二三七、二二三九、二二四一、二二四三、二二四五、二二四七、二二四九、二二五一、二二五三、二二五五、二二五七、二二五九、二二六一、二二六三、二二六五、二二六七、二二六九、二二七一、二二七三、二二七五、二二七七、二二七九、二二八一、二二八三、二二八五、二二八七、二二八九、二二九一、二二九三、二二九五、二二九七、二二九九、二三〇一、二三〇三、二三〇五、二三〇七、二三〇九、二三一一、二三一三、二三一五、二三一七、二三一九、二三二一、二三二三、二三二五、二三二七、二三二九、二三三一、二三三三、二三三五、二三三七、二三三九、二三四一、二三四三、二三四五、二三四七、二三四九、二三五一、二三五三、二三五五、二三五七、二三五九、二三六一、二三六三、二三六五、二三六七、二三六九、二三七一、二三七三、二三七五、二三七七、二三七九、二三八一、二三八三、二三八五、二三八七、二三八九、二三九一、二三九三、二三九五、二三九七、二三九九、二四〇一、二四〇三、二四〇五、二四〇七、二四〇九、二四一一、二四一三、二四一五、二四一七、二四一九、二四二一、二四二三、二四二五、二四二七、二四二九、二四三一、二四三三、二四三五、二四三七、二四三九、二四四一、二四四三、二四四五、二四四七、二四四九、二四五一、二四五三、二四五五、二四五七、二四五九、二四六一、二四六三、二四六五、二四六七、二四六九、二四七一、二四七三、二四七五、二四七七、二四七九、二四八一、二四八三、二四八五、二四八七、二四八九、二四九一、二四九三、二四九五、二四九七、二四九九、二五〇一、二五〇三、二五〇五、二五〇七、二五〇九、二五一一、二五一三、二五一五、二五一七、二五一九、二五二一、二五二三、二五二五、二五二七、二五二九、二五三一、二五三三、二五三五、二五三七、二五三九、二五四一、二五四三、二五四五、二五四七、二五四九、二五五一、二五五三、二五五五、二五五七、二五五九、二五六一、二五六三、二五六五、二五六七、二五六九、二五七一、二五七三、二五七五、二五七七、二五七九、二五八一、二五八三、二五八五、二五八七、二五八九、二五九一、二五九三、二五九五、二五九七、二五九九、二六〇一、二六〇三、二六〇五、二六〇七、二六〇九、二六一一、二六一三、二六一五、二六一七、二六一九、二六二一、二六二三、二六二五、二六二七、二六二九、二六三一、二六三三、二六三五、二六三七、二六三九、二六四一、二六四三、二六四五、二六四七、二六四九、二六五一、二六五三、二六五五、二六五七、二六五九、二六六一、二六六三、二六六五、二六六七、二六六九、二六七一、二六七三、二六七五、二六七七、二六七九、二六八一、二六八三、二六八五、二六八七、二六八九、二六九一、二六九三、二六九五、二六九七、二六九九、二七〇一、二七〇三、二七〇五、二七〇七、二七〇九、二七一一、二七一三、二七一五、二七一七、二七一九、二七二一、二七二三、二七二五、二七二七、二七二九、二七三一、二七三三、二七三五、二七三七、二七三九、二七四一、二七四三、二七四五、二七四七、二七四九、二七五一、二七五三、二七五五、二七五七、二七五九、二七六一、二七六三、二七六五、二七六七、二七六九、二七七一、二七七三、二七七五、二七七七、二七七九、二七八一、二七八三、二七八五、二七八七、二七八九、二七九一、二七九三、二七九五、二七九七、二七九九、二八〇一、二八〇三、二八〇五、二八〇七、二八〇九、二八一一、二八一三、二八一五、二八一七、二八一九、二八二一、二八二三、二八二五、二八二七、二八二九、二八三一、二八三三、二八三五、二八三七、二八三九、二八四一、二八四三、二八四五、二八四七、二八四九、二八五一、二八五三、二八五五、二八五七、二八五九、二八六一、二八六三、二八六五、二八六七、二八六九、二八七一、二八七三、二八七五、二八七七、二八七九、二八八一、二八八三、二八八五、二八八七、二八八九、二八九一、二八九三、二八九五、二八九七、二八九九、二九〇一、二九〇三、二九〇五、二九〇七、二九〇九、二九一一、二九一三、二九一五、二九一七、二九一九、二九二一、二九二三、二九二五、二九二七、二九二九、二九三一、二九三三、二九三五、二九三七、二九三九、二九四一、二九四三、二九四五、二九四七、二九四九、二九五一、二九五三、二九五五、二九五七、二九五九、二九六一、二九六三、二九六五、二九六七、二九六九、二九七一、二九七三、二九七五、二九七七、二九七九、二九八一、二九八三、二九八五、二九八七、二九八九、二九九一、二九九三、二九九五、二九九七、二九九九、三〇〇一、三〇〇三、三〇〇五、三〇〇七、三〇〇九、三〇一一、三〇一三、三〇一五、三〇一七、三〇一九、三〇二一、三〇二三、三〇二五、三〇二七、三〇二九、三〇三一、三〇三三、三〇三五、三〇三七、三〇三九、三〇四一、三〇四三、三〇四五、三〇四七、三〇四九、三〇五一、三〇五三、三〇五五、三〇五七、三〇五九、三〇六一、三〇六三、三〇六五、三〇六七、三〇六九、三〇七一、三〇七三、三〇七五、三〇七七、三〇七九、三〇八一、三〇八三、三〇八五、三〇八七、三〇八九、三〇九一、三〇九三、三〇九五、三〇九七、三〇九九、三一〇一、三一〇三、三一〇五、三一〇七、三一〇九、三一一一、三一一三、三一一五、三一一七、三一一九、三一二一、三一二三、三一二五、三一二七、三一二九、三一三一、三一三三、三一三五、三一三七、三一三九、三一四一、三一四三、三一四五、三一四七、三一四九、三一五一、三一五三、三一五五、三一五七、三一五九、三一六一、三一六三、三一六五、三一六七、三一六九、三一七一、三一七三、三一七五、三一七七、三一七九、三一八一、三一八三、三一八五、三一八七、三一八九、三一九一、三一九三、三一九五、三一九七、三一九九、三二〇一、三二〇三、三二〇五、三二〇七、三二〇九、三二一一、三二一三、三二一五、三二一七、三二一九、三二二一、三二二三、三二二五、三二二七、三二二九、三二三一、三二三三、三二三五、三二三七、三二三九、三二四一、三二四三、三二四五、三二四七、三二四九、三二五一、三二五三、三二五五、三二五七、三二五九、三二六一、三二六三、三二六五、三二六七、三二六九、三二七一、三二七三、三二七五、三二七七、三二七九、三二八一、三二八三、三二八五、三二八七、三二八九、三二九一、三二九三、三二九五、三二九七、三二九九、三三〇一、三三〇三、三三〇五、三三〇七、三三〇九、三三一一、三三一三、三三一五、三三一七、三三一九、三三二一、三三二三、三三二五、三三二七、三三二九、三三三一、三三三三、三三三五、三三三七、三三三九、三三四一、三三四三、三三四五、三三四七、三三四九、三三五一、三三五三、三三五五、三三五七、三三五九、三三六一、三三六三、三三六五、三三六七、三三六九、三三七一、三三七三、三三七五、三三七七、三三七九、三三八一、三三八三、三三八五、三三八七、三三八九、三三九一、三三九三、三三九五、三三九七、三三九九、三四〇一、三四〇三、三四〇五、三四〇七、三四〇九、三四一一、三四一三、三四一五、三四一七、三四一九、三四二一、三四二三、三四二五、三四二七、三四二九、三四三一、三四三三、三四三五、三四三七、三四三九、三四四一、三四四三、三四四五、三四四七、三四四九、三四五一、三四五三、三四五五、三四五七、三四五九、三四六一、三四六三、三四六五、三四六七、三四六九、三四七一、三四七三、三四七五、三四七七、三四七九、三四八一、三四八三、三四八五、三四八七、三四八九、三四九一、三四九三、三四九五、三四九七、三四九九、三五〇一、三五〇三、三五〇五、三五〇七、三五〇九、三五一一、三五一三、三五一五、三五一七、三五一九、三五二一、三五二三、三五二五、三五二七、三五二九、三五三一、三五三三、三五三五、三五三七、三五三九、三五四一、三五四三、三五四五、三五四七、三五四九、三五五一、三五五三、三五五五、三五五七、三五五九、三五六一、三五六三、三五六五、三五六七、三五六九、三五七一、三五七三、三五七五、三五七七、三五七九、三五八一、三五八三、三五八五、三五八七、三五八九、三五九一、三五九三、三五九五、三五九七、三五九九、三六〇一、三六〇三、三六〇五、三六〇七、三六〇九、三六一一、三六一三、三六一五、三六一七、三六一九、三六二一、三六二三、三六二五、三六二七、三六二九、三六三一、三六三三、三六三五、三六三七、三六三九、三六四一、三六四三、三六四五、三六四七、三六四九、三六五一、三六五三、三六五五、三六五七、三六五九、三六六一、三六六三、三六六五、三六六七、三六六九、三六七一、三六七三、三六七五、三六七七、三六七九、三六八一、三六八三、三六八五、三六八七、三六八九、三六九一、三六九三、三六九五、三六九七、三六九九、三七〇一、三七〇三、三七〇五、三七〇七、三七〇九、三七一一、三七一三、三七一五、三七一七、三七一九、三七二一、三七二三、三七二五、三七二七、三七二九、三七三一、三七三三、三七三五、三七三七、三七三九、三七四一、三七四三、三七四五、三七四七、三七四九、三七五一、三七五三、三七五五、三七五七、三七五九、三七六一、三七六三、三七六五、三七六七、三七六九、三七七一、三七七三、三七七五、三七七七、三七七九、三七八一、三七八三、三七八五、三七八七、三七八九、三七九一、三七九三、三七九五、三七九七、三七九九、三八〇一、三八〇三、三八〇五、三八〇七、三八〇九、三八一一、三八一三、三八一五、三八一七、三八一九、三八二一、三八二三、三八二五、三八二七、三八二九、三八三一、三八三三、三八三五、三八三七、三八三九、三八四一、三八四三、三八四五、三八四七、三八四九、三八五一、三八五三、三八五五、三八五七、三八五九、三八六一、三八六三、三八六五、三八六七、三八六九、三八七一、三八七三、三八七五、三八七七、三八七九、三八八一、三八八三、三八八五、三八八七、三八八九、三八九一、三八九三、三八九五、三八九七、三八九九、三九〇一、三九〇三、三九〇五、三九〇七、三九〇九、三九一一、三九一三、三九一五、三九一七、三九一九、三九二一、三九二三、三九二五、三九二七、三九二九、三九三一、三九三三、三九三五、三九三七、三九三九、三九四一、三九四三、三九四五、三九四七、三九四九、三九五一、三九五三、三九五五、三九五七、三九五九、三九六一、三九六三、三九六五、三九六七、三九六九、三九七一、三九七三、三九七五、三九七七、三九七九、三九八一、三九八三、三九八五、三九八七、三九八九、三九九一、三九九三、三九九五、三九九七、三九九九、四〇〇一、四〇〇三、四〇〇五、四〇〇七、四〇〇九、四〇一一、四〇一三、四〇一五、四〇一七、四〇一九、四〇二一、四〇二三、四〇二五、四〇二七、四〇二九、四〇三一、四〇三三、四〇三五、四〇三七、四〇三九、四〇四一、四〇四三、四〇四五、四〇四七、四〇四九、四〇五一、四〇五三、四〇五五、四〇五七、四〇五九、四〇六一、四〇六三、四〇六五、四〇六七、四〇六九、四〇七一、四〇七三、四〇七五、四〇七七、四〇七九、四〇八一、四〇八三、四〇八五、四〇八七、四〇八九、四〇九一、四〇九三、四〇九五、四〇九七、四〇九九、四一〇一、四一〇三、四一〇五、四一〇七、四一〇九、四一一一、四一一三、四一一五、四一一七、四一一九、四一二一、四一二三、四一二五、四一二七、四一二九、四一三一、四一三三、四一三五、四一三七、四一三九、四一四一、四一四三、四一四五、四一四七、四一四九、四一五一、四一五三、四一五五、四一五七、四一五九、四一六一、四一六三、四一六五、四一六七、四一六九、四一七一、四一七三、四一七五、四一七七、四一七九、四一八一、四一八三、四一八五、四一八七、四一八九、四一九一、四一九三、四一九五、四一九七、四一九九、四二〇一、四二〇三、四二〇五、四二〇七、四二〇九、四二一一、四二一三、四二一五、四二一七、四二一九、四二二一、四二二三、四二二五、四二二七、四二二九、四二三一、四二三三、四二三五、四二三七、四二三九、四二四一、四二四三、四二四五、四二四七、四二四九、四二五一、四二五三、四二五五、四二五七、四二五九、四二六一、四二六三、四二六五、四二六七、四二六九、四二七一、四二七三、四二七五、四二七七、四二七九、四二八一、四二八三、四二八五、四二八七、四二八九、四二九一、四二九三、四二九五、四二九七、四二九九、四三〇一、四三〇三、四三〇五、四三〇七、四三〇九、四三一一、四三一三、四三一五、四三一七、四三一九、四三二一、四三二三、四三二五、四三二七、四三二九、四三三一、四三三三、四三三五、四三三七、四三三九、四三四一、四三四三、四三四五、四三四七、四三四九、四三五一、四三五三、四三五五、四三五七、四三五九、四三六一、四三六三、四三六五、四三六七、四三六九、四三七一、四三七三、四三七五、四三七七、四三七九、四三八一、四三八三、四三八五、四三八七、四三八九、四三九一、四三九三、四三九五、四三九七、四三九九、四四〇一、四四〇三、四四〇五、四四〇七、四四〇九、四四一一、四四一三、四四一五、四四一七、四四一九、四四二一、四四二三、四四二五、四四二七、四四二九、四四三一、四四三三、四四三五、四四三七、四四三九、四四四一、四四四三、四四四五、四四四七、四四四九、四四五一、四四五三、四四五五、四四五七、四四五九、四四六一、四四六三、四四六五、四四六七、四四六九、四四七一、四四七三、四四七五、四四七七、四四七九、四四八一、四四八三、四四八五、四四八七、四四八九、四四九一、四四九三、四四九五、四四九七、四四九九、四五〇一、四五〇三、四五〇五、四五〇七、四五〇九、四五一一、四五一三、四五一五、四五一七、四五一九、四五二一、四五二三、四五二五、四五二七、四五二九、四五三一、四五三三、四五三五、四五三七、四五三九、四五四一、四五四三、四五四五、四五四七、四五四九、四五五一、四五五三、四五五五、四五五七、四五五九、四五六一、四五六三、四五六五、四五六七、四五六九、四五七一、四五七三、四五七五、四五七七、四五七九、四五八一、四五八三、四五八五、四五八七、四五八九、四五九一、四五九三、四五九五、四五九七、四五九九、四六〇一、四六〇三、四六〇五、四六〇七、四六〇九、四六一一、四六一三、四六一五、四六一七、四六一九、四六二一、四六二三、四六二五、四六二七、四六二九、四六三一、四六三三、四六三五、四六三七、四六三九、四六四一、四六四三、四六四五、四六四七、四六四九、四六五一、四六五三、四六五五、四六五七、四六五九、四六六一、四六六三、四六六五、四六六七、四六六九、四六七一、四六七三、四六七五、四六七七、四六七九、四六八一、四六八三、四六八五、四六八七、四六八九、四六九一、四六九三、四六九五、四六九七、四六九九、四七〇一、四七〇三、四七〇五、四七〇七、四七〇九、四七一一、四七一三、四七一五、四七一七、四七一九、四七二一、四七二三、四七二五、四七二七、四七二九、四七三一、四七三三、四七三五、四七三七、四七三九、四七四一、四七四三、四七四五、四七四七、四七四九、四七五一、四七五三、四七五五、四七五七、四七五九、四七六一、四七六三、四七六五、四七六七、四七六九、四七七一、四七七三、四七七五、四七七七、四七七九、四七八一、四七八三、四七八五、四七八七、四七八九、四七九一、四七九三、四七九五、四七九七、四七九九、四八〇一、四八〇三、四八〇五、四八〇七、四八〇九、四八一一、四八一三、四八一五、四八一七、四八一九、四八二一、四八二三、四八二五、四八二七、四八二九、四八三一、四八三三、四八三五、四八三七、四八三九、四八四一、四八四三、四八四五、四八四七、四八四九、四八五一、四八五三、四八五五、四八五七、四八五九、四八六一、四八六三、四八六五、四八六七、四八六九、四八七一、四八七三、四八七五、四八七七、四八七九、四八八一、四八八三、四八八五、四八八七、四八八九、四八九一、四八九三、四八九五、四八九七、四八九九、四九〇一、四九〇三、四九〇五、四九〇七、四九〇九、四九一一、四九一三、四九一五、四九一七、四九一九、四九二一、四九二三、四九二五、四九二七、四九二九、四九三一、四九三三、四九三五、四九三七、四九三九、四九四一、四九四三、四九四五、四九四七、四九四九、四九五一、四九五三、四九五五、四九五七、四九五九、四九六一、四九六三、四九六五、四九六七、四九六九、四九七一、四九七三、四九七五、四九七七、四九七九、四九八一、四九八三、四九八五、四九八七、四九八九、四九九一、四九九三、四九九五、四九九七、四九九九、五〇〇一、五〇〇三、五〇〇五、五〇〇七、五〇〇九、五〇一一、五〇一三、五〇一五、五〇一七、五〇一九、五〇二一、五〇二三、五〇二五、五〇二七、五〇二九、五〇三一、五〇三三、五〇三五、五〇三七、五〇三九、五〇四一、五〇四三、五〇四五、五〇四七、五〇四九、五〇五一、五〇五三、五〇五五、五〇五七、五〇五九、五〇六一、五〇六三、五〇六五、五〇六七、五〇六九、五〇七一、五〇七三、五〇七五、五〇七七、五〇七九、五〇八一、五〇八三、五〇八五、五〇八七、五〇八九、五〇九一、五〇九三、五〇九五、五〇九七、五〇九九、五一〇一、五一〇三、五一〇五、五一〇七、五一〇九、五一一一、五一一三、五一一五、五一一七、五一一九、五一二一、五一二三、五一二五、五一二七、五一二九、五一三一、五一三三、五一三五、五一三七、五一三九、五一四一、五一四三、五一四五、五一四七、五一四九、五一五一、五一五三、五一五五、五一五七、五一五九、五一六一、五一六三、五一六五、五一六七、五一六九、五一七一、五一七三、五一七五、五一七七、五一七九、五一八一、五一八三、五一八五、五一八七、五一八九、五一九一、五一九三、五一九五、五一九七、五一九九、五二〇一、五二〇三、五二〇五、五二〇七、五二〇九、五二一一、五二一三、五二一五、五二一七、五二一九、五二二一、五二二三、五二二五、五二二七、五二二九、五二三一、五二三三、五二三五、五二三七、五二三九、五二四一、五二四三、五二四五、五二四七、五二四九、五二五一、五二五三、五二五五、五二五七、五二五九、五二六一、五二六三、五二六五、五二六七、五二六九、五二七一、五二七三、五二七五、五二七七、五二七九、五二八一、五二八三、五二八五、五二八七、五二八九、五二九一、五二九三、五二九五、五二九七、五二九九、五三〇一、五三〇三、五三〇五、五三〇七、五三〇九、五三一一、五三一三、五三一五、五三一七、五三一九、五三二一、五三二三、五三二五、五三二七、五三二九、五三三一、五三三三、五三三五、五三三七、五三三九、五三四一、五三四三、五三四五、五三四七、五三四九、五三五一、五三五三、五三五五、五三五七、五三五九、五三六一、五三六三、五三六五、五三六七、五三六九、五三七一、五三七三、五三七五、五三七七、五三七九、五三八一、五三八三、五三八五、五三八七、五三八九、五三九一、五三九三、五三九五、五三九七、五三九九、五四〇一、五四〇三、五四〇五、五四〇七、五四〇九、五四一一、五四一三、五四一五、五四一七、五四一九、五四二一、五四二三、五四二五、五四二七、五四二九、五四三一、五四三三、五四三五、五四三七、五四三九、五四四一、五四四三、五四四五、五四四七、五四四九、五四五一、五四五三、五四五五、五四五七、五四五九、五四六一、五四六三、五四六五、五四六七、五四六九、五四七一、五四七三、五四七五、五四七七、五四七九、五四八一、五四八三、五四八五、五四八七、五四八九、五四九一、五四九三、五四九五、五四九七、五四九九、五五〇一、五五〇三、五五〇五、五五〇七、五五〇九、五五一一、五五一三、五五一五、五五一七、五五一九、五五二一、五五二三、五五二五、五五二七、五五二九、五五三一、五五三三、五五三五、五五三七、五五三九、五五四一、五五四三、五五四五、五五四七、五五四九、五五五一、五五五三、五五五五、五五五七、五五五九、五五六一、五五六三、五五六五、五五六七、五五六九、五五七一、五五七三、五五七五、五五七七、五五七九、五五八一、五五八三、五五八五、五五八七、五五八九、五五九一、五五九三、五五九五、五五九七、五五九九、五六〇一、五六〇三、五六〇五、五六〇七、五六〇九、五六一一、五六一三、五六一五、五六一七、五六一九、五六二一、五六二三、五六二五、五六二七、五六二九、五六三一、五六三三、五六三五、五六三七、五六三九、五六四一、五六四三、五六四五、五六四七、五六四九、五六五一、五六五三、五六五五、五六五七、五六五九、五六六一、五六六三、五六六五、五六六七、五六六九、五六七一、五六七三、五六七五、五六七七、五六七九、五六八一、五六八三、五六八五、五六八七、五六八九、五六九一、五六九三、五六九五、五六九七、五六九九、五七〇一、五七〇三、五七〇五、五七〇七、五七〇九、五七一一、五七一三、五七一五、五七一七、五七一九、五七二一、五七二三、五七二五、五七二七、五七二九、五七三一、五七三三、五七三五、五七三七、五七三九、五七四一、五七四三、五七四五、五七四七、五七四九、五七五一、五七五三、五七五五、五七五七、五七五九、五七

桐生地方 一三三、一三四
桐生天満吟 一四八、一五一
桐生の今泉 一八〇
桐生のオギオン 一九七
桐生の天神様 一八一
桐生の問屋 一八五
桐生の西宮（神社） 一八八、一九〇、一九六
桐生方面 一四一
桐生まつり（祭） 一三三、一三五、一三七、一四〇
桐生館 一〇〇、一〇一
きりきず 一五五
きりこ 一〇三
キリスト教 一三三
桐原 一三六
切ブブ 一四八
キリョウサダメ 一五三
きれ 二〇三
キワダの皮 一九、二四、一三五、一九六
禁忌 二五、二九
禁忌作物 二五、二九
禁忌動物 二五
近所 一三〇、一三六、一三七
近所のオバサン 一四五
近所の年寄 一四五
近所の人（たち） 一一一、一四七、一六〇
近親 一三五、一三七、一四五
近親者 一四五、一四六、一四七、一五三、一五四、一五五
近世庶民 一四五、一四六、一四七、一五三、一五四、一五五
近世民家 一三七、一三八
近代化 一三八
金八地蔵 一三三
キンピラ（きんぴら） 一〇三、一一四、一四五
近隣の人 一四六
【ク】
食いしんぼう 一一〇
クイゾメ（食い初め） 一四六
食いだめ 一九二、一三七
宮司 一四四
クキ 一一六
草刈り 一三三
クサカリカゴ（草刈かご、草刈り籠） 一三五、一三六、一九二
草刈り鎌 一九九
草刈りザマ 一三五
草刈馬子唄 一三九
草競馬 一三五
草とり 一三三、一三五
草花 一三五
草葺屋根 一三七、一三九
草ぼうき 一一七
草むしり 一九六
草餅 一九五
クサヤネヤ 一三五
クサユメくし（櫛） 一〇九
くじ 一三〇
グシ（ぐし） 八六
グシアゲ祝い 一三〇、一三二
グシコボシ 一三五
くじびき（くじ引き、籤引き） 一三一、一三六、一三八、一四九、一五二
グシモチ 一三〇、一三二
クジラ幕 一三五
クズ 一一六
肩 一三五
くず糸 一一六
くず粉 一一二
楠 一四四
楠の葉 一一六、一一七
クズの根（くずの根） 一四二、一四五、一四六、一四七
くずまゆ（屑繭） 一三〇、一三二
クズ屋（くず屋） 一三五
薬売り 一一四
くすり屋 一三五
くだまき（管巻き） 一四五、一四六
くだもの（くだ物、果物） 一一四、一一五、一二〇、一二一
クダヤ（くだ矢、管矢） 一二九、一三三
下り腹 一〇六
クダリ作 一三三
クチガタメ（口がため） 一四二、一四三、一四五
クチガタメの酒 一四五
朽津氏 一四五
口ぬり 一三五
口火 一三五
口長 一三五
区長の選出 一三五
口寄せ 一三七、一四七
口寄せ女 一二七
クッツイタ 一三五
クヅヤ 一二
くどき（口説き） 一二七、一三三
クドキブシ（くどき節、口説節） 一三五、一三八
国定忠治 一四二
国めぐり 一三五
クヌギ 一三五
くね 一三五
区費 一三五
熊 一四五、一四八、一四九
熊谷三郎兵衛 一三三
くまで（熊手） 一三五、一三八
熊野神社 一四一、一四九
熊野祭 一四九
組合 一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二三六二、二三六三、二三六四、二三六五、二三六六、二三六七、二三六八、二三六九、二三七〇、二三七一、二三七二、二三七三、二三七四、二三七五、二三七六、二三七七、二三七八、二三七九、二三八〇、二三八一、二三八二、二三八三、二三八四、二三八五、二三八六、二三八七、二三八八、二三八九、二三九〇、二三九一、二三九二、二三九三、二三九四、二三九五、二三九六、二三九七、二三九八、二三九九、二四〇〇、二四〇一、二四〇二、二四〇三、二四〇四、二四〇五、二四〇六、二四〇七、二四〇八、二四〇九、二四一〇、二四一一、二四一二、二四一三、二四一四、二四一五、二四一六、二四一七、二四一八、二四一九、二四二〇、二四二一、二四二二、二四二三、二四二四、二四二五、二四二六、二四二七、二四二八、二四二九、二四三〇、二四三一、二四三二、二四三三、二四三四、二四三五、二四三六、二四三七、二四三八、二四三九、二四四〇、二四四一、二四四二、二四四三、二四四四、二四四五、二四四六、二四四七、二四四八、二四四九、二四五〇、二四五一、二四五二、二四五三、二四五四、二四五五、二四五六、二四五七、二四五八、二四五九、二四六〇、二四六一、二四六二、二四六三、二四六四、二四六五、二四六六、二四六七、二四六八、二四六九、二四七〇、二四七一、二四七二、二四七三、二四七四、二四七五、二四七六、二四七七、二四七八、二四七九、二四八〇、二四八一、二四八二、二四八三、二四八四、二四八五、二四八六、二四八七、二四八八、二四八九、二四九〇、二四九一、二四九二、二四九三、二四九四、二四九五、二四九六、二四九七、二四九八、二四九九、二五〇〇、二五〇一、二五〇二、二五〇三、二五〇四、二五〇五、二五〇六、二五〇七、二五〇八、二五〇九、二五一〇、二五一一、二五一二、二五一三、二五一四、二五一五、二五一六、二五一七、二五一八、二五一九、二五二〇、二五二一、二五二二、二五二三、二五二四、二五二五、二五二六、二五二七、二五二八、二五二九、二五三〇、二五三一、二五三二、二五三三、二五三四、二五三五、二五三六、二五三七、二五三八、二五三九、二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五、二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五五〇、二五五一、二五五二、二五五三、二五五四、二五五五、二五五六、二五五七、二五五八、二五五九、二五六〇、二五六一、二五六二、二五六三、二五六四、二五六五、二五六六、二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二五七一、二五七二、二五七三、二五七四、二五七五、二五七六、二五七七、二五七八、二五七九、二五八〇、二五八一、二五八二、二五八三、二五八四、二五八五、二五八六、二五八七、二五八八、二五八九、二五九〇、二五九一、二五九二、二五九三、二五九四、二五九五、二五九六、二五九七、二五九八、二五九九、二六〇〇、二六〇一、二六〇二、二六〇三、二六〇四、二六〇五、二六〇六、二六〇七、二六〇八、二六〇九、二六一〇、二六一一、二六一二、二六一三、二六一四、二六一五、二六一六、二六一七、二六一八、二六一九、二六二〇、二六二一、二六二二、二六二三、二六二四、二六二五、二六二六、二六二七、二六二八、二六二九、二六三〇、二六三一、二六三二、二六三三、二六三四、二六三五、二六三六、二六三七、二六三八、二六三九、二六四〇、二六四一、二六四二、二六四三、二六四四、二六四五、二六四六、二六四七、二六四八、二六四九、二六五〇、二六五一、二六五二、二六五三、二六五四、二六五五、二六五六、二六五七、二六五八、二六五九、二六六〇、二六六一、二六六二、二六六三、二六六四、二六六五、二六六六、二六六七、二六六八、二六六九、二六七〇、二六七一、二六七二、二六七三、二六七四、二六七五、二六七六、二六七七、二六七八、二六七九、二六八〇、二六八一、二六八二、二六八三、二六八四、二六八五、二六八六、二六八七、二六八八、二六八九、二六九〇、二六九一、二六九二、二六九三、二六九四、二六九五、二六九六、二六九七、二六九八、二六九九、二七〇〇、二七〇一、二七〇二、二七〇三、二七〇四、二七〇五、二七〇六、二七〇七、二七〇八、二七〇九、二七一〇、二七一一、二七一二、二七一三、二七一四、二七一五、二七一六、二七一七、二七一八、二七一九、二七二〇、二七二一、二七二二、二七二三、二七二四、二七二五、二七二六、二七二七、二七二八、二七二九、二七三〇、二七三一、二七三二、二七三三、二七三四、二七三五、二七三六、二七三七、二七三八、二七三九、二七四〇、二七四一、二七四二、二七四三、二七四四、二七四五、二七四六、二七四七、二七四八、二七四九、二七五〇、二七五一、二七五二、二七五三、二七五四、二七五五、二七五六、二七五七、二七五八、二七五九、二七六〇、二七六一、二七六二、二七六三、二七六四、二七六五、二七六六、二七六七、二七六八、二七六九、二七七〇、二七七一、二七七二、二七七三、二七七四、二七七五、二七七六、二七七七、二七七八、二七七九、二七八〇、二七八一、二七八二、二七八三、二七八四、二七八五、二七八六、二七八七、二七八八、二七八九、二七九〇、二七九一、二七九二、二七九三、二七九四、二七九五、二七九六、二七九七、二七九八、二七九九、二八〇〇、二八〇一、二八〇二、二八〇三、二八〇四、二八〇五、二八〇六、二八〇七、二八〇八、二八〇九、二八一〇、二八一一、二八一二、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八一八、二八一九、二八二〇、二八二一、二八二二、二八二三、二八二四、二八二五、二八二六、二八二七、二八二八、二八二九、二八三〇、二八三一、二八三二、二八三三、二八三四、二八三五、二八三六、二八三七、二八三八、二八三九、二八四〇、二八四一、二八四二、二八四三、二八四四、二八四五、二八四六、二八四七、二八四八、二八四九、二八五〇、二八五一、二八五二、二八五三、二八五四、二八五五、二八五六、二八五七、二八五八、二八五九、二八六〇、二八六一、二八六二、二八六三、二八六四、二八六五、二八六六、二八六七、二八六八、二八六九、二八七〇、二八七一、二八七二、二八七三、二八七四、二八七五、二八七六、二八七七、二八七八、二八七九、二八八〇、二八八一、二八八二、二八八三、二八八四、二八八五、二八八六、二八八七、二八八八、二八八九、二八九〇、二八九一、二八九二、二八九三、二八九四、二八九五、二八九六、二八九七、二八九八、二八九九、二九〇〇、二九〇一、二九〇二、二九〇三、二九〇四、二九〇五、二九〇六、二九〇七、二九〇八、二九〇九、二九一〇、二九一一、二九一二、二九一三、二九一四、二九一五、二九一六、二九一七、二九一八、二九一九、二九二〇、二九二一、二九二二、二九二三、二九二四、二九二五、二九二六、二九二七、二九二八、二九二九、二九三〇、二九三一、二九三二、二九三三、二九三四、二九三五、二九三六、二九三七、二九三八、二九三九、二九四〇、二九四一、二九四二、二九四三、二九四四、二九四五、二九四六、二九四七、二九四八、二九四九、二九五〇、二九五一、二九五二、二九五三、二九五四、二九五五、二九五六、二九五七、二九五八、二九五九、二九六〇、二九六一、二九六二、二九六三、二九六四、二九六五、二九六六、二九六七、二九六八、二九六九、二九七〇、二九七一、二九七二、二九七三、二九七四、二九七五、二九七六、二九七七、二九七八、二九七九、二九八〇、二九八一、二九八二、二九八三、二九八四、二九八五、二九八六、二九八七、二九八八、二九八九、二九九〇、二九九一、二九九二、二九九三、二九九四、二九九五、二九九六、二九九七、二九九八、二九九九、三〇〇〇、三〇〇一、三〇〇二、三〇〇三、三〇〇四、三〇〇五、三〇〇六、三〇〇七、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三〇一四、三〇一五、三〇一六、三〇一七、三〇一八、三〇一九、三〇二〇、三〇二一、三〇二二、三〇二三、三〇二四、三〇二五、三〇二六、三〇二七、三〇二八、三〇二九、三〇三〇、三〇三一、三〇三二、三〇三三、三〇三四、三〇三五、三〇三六、三〇三七、三〇三八、三〇三九、三〇四〇、三〇四一、三〇四二、三〇四三、三〇四四、三〇四五、三〇四六、三〇四七、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三〇五三、三〇五四、三〇五五、三〇五六、三〇五七、三〇五八、三〇五九、三

組合念仏　一七五
組合の人　二〇一
組合ばらい　一六九
組合まわり　一五六
組合村　三三
組内　七四、一六五
組内の女　一五三
組内の人　一五三
組内の者　一六八
組々の庚申　九〇
組立式舞台　二三五
組長（さん）　五六、五七、六二、一七五、一六九、一九三、一九五
組長の家　八二
組長の選出　五六
組の人　一五三
組の者　一六九、一七八
区民大会　五七
雲　二二四
クモイズ　一〇七
くものうらない　一〇九
供物　一五四
倉　一八四、一八五
倉びらき（倉開き）　一八四、一八六
くらしむき　六七
クリ（栗）　二三六、三〇四、三〇五
ぐりぐり坊主　一四九
クルブシ　二三五
車　五〇、一五〇
車ひき　五〇
曲輪　六二
クレ（塊）　二〇
暮　五七、一二九、一五四、一四九、一八二
くれ方（嫁の）　六三、一五六、一五六、一六〇、一六五
クレグシ　二三八
暮のお日待　九九
暮のそうじ　二〇九
黒いアザ　一四三
クロキ　三八
クロノッポ　一〇七
黒の元結い　一五三
黒むくの着物　一五三
クロボシ　二三五
クロンボ　二四
クワ（鍬）　二九、一八五
桑　三三、四三、一一〇、一二六、二〇八
くわ入れ　一八五
クワイレ正月（鍬入れ正月）　一八四
桑きり　四二
桑くれ　四三、一四四
鍬立て　一八五
鍬立て様　一八四
桑つみかご　二〇八
桑の木　四三、一八四
桑の木の二又　一九二
桑の仕立方　四四
（桑の）高木仕立て　四三
（桑の）根がり　四四
桑の葉　四三
桑畑　四三
食わないもの　一一九
桑原勢善子之像　一四六
クワーン　二三六
クン炭　三六
クンタン肥料　二九

【ケ】

景気　六
警察　二〇七
傾斜地　二三二
鶏足寺　二二三
競馬　五一
ケイヤク　一九二
敬老会　一九二
ケエ　二三
ケエカキボウ（ケーカキ棒）　一〇七
ケエシバリ　七
ケード　四九
けが　一二〇
けが除け　二四
ケガレ　一四二
懸魚　一二五
ケゴ　一九五
ケコラオビ　一
下座　一三、一二五
ケサガケ児　一四六
ケシ　六五
化粧直し　一五八、一五九
化粧箱　二
下水　二四
げた（下駄）　五七、六四、一四六、一四九、一五一、一六六
ケツウリゴゼ　五三
月経　一四七
結婚　一二〇、一五二、一五五、一五六、一五七、一六六
結婚式　四二、六四、一四二、一五七
結婚式のときのうたい　一六一
結婚年令　一五五
結婚の条件　一五五
血判　七六
血脈　一一〇、一七一
ケヌキアワセ　八、一八
毛虫　一四六
煙出し　三一
煙出し穴　三五
煙出しのない家　三一
ケムノクチ　三五
ケヤキ（欅）　三三、二一七
玄関　二〇、一五九
検査ギモン　一五二
剣術　一五五
ケンジョウ　四
ケンチン汁（けんちんじる）　二一、二三、二〇五、二〇七、二〇八
ゲンノショウコ　一〇八
剣の舞　一三八
見番　四五
元服祝い　二〇四

原木　二五五
玄米　一六九
元禄袖　三

【コ】

碁　八八
こい（堆肥）　一八八
小泉　二〇五
こいのぼり（鯉のぼり）　一八〇、一九五
講　六〇、六二、七三、八〇、八八、九四、二〇五
公役　七三
高園寺　九六、一七三、二三三、二二四
公会堂　五六
コーカンボウ　二三六
高血圧　一〇六
高沢　二三〇
高沢川　二二四
鉱山米　四九
こうじ　一六
格子棒　二三三
甲種合格　一五四
江洲　五七
口上　一四〇
庚申　八六、八八
庚申縁起　九〇
庚申組　二
庚申供養塔　八九
庚申（の）講　八二、七三、八六、八七
庚申御縁起　九二
庚申講当番帳　八九
庚申講の備品　八九
庚申さま（様）　二、六二、八四、八六、八七、八八、一六六、一九六、一九七、二〇四、二〇八
荒神さま（様）　一三四、八四、一〇八、一三六、一四七
庚申様のお渡りの日　八八
庚申（さま）のカケジ（掛軸）　七三、八七、八六、九〇、九九、一九七
庚申様の堂　二二四
庚申（様）の日　八六、二〇六
庚申様祭　二〇八
庚申塔　八七、八九、二三三
庚申のエサン　九〇
庚申のお膳（庚申講の膳椀、庚申講の膳）　九〇、八七、八八、八九、九〇
荒神の火事　二三三
庚申の膳箱　八八
荒神の大火　二三三
庚申の食べもの　二
庚申の晩（夜）　八六、八七、八八
（庚申の）宿　八六、八七
庚申まち（待）　八七、八八
荒神山　一五、一二六
コーズ　三六、四六、四七
洪水　五七
鉱石　二三〇
鉱泉　二三三
コウゼンジ　二三五
コウゾ　四六
構造　二三九、二四一
豪族　二三九
豪族の居住地　二三三
講組織　九三
皇太神宮　九九
高沢院　二三三
耕地　六六
コウチ（コーチ）　七七、一三三、一八二、一九三
コウチの行事　一〇三
交通路　四九
コウデ（こうで）　一〇七、一四六
香奠　一七六
香典返し　一七四
香奠の半返し　一七六
高等小学校　一〇六
鉱物　二三三
弘法さま　二三五
弘法（様）の井戸　二三五
弘法大師　二三
弘法の池（弘法池、弘法さまの池）　一〇八、一二六、二三五
弘法の水　一〇八、二三五
光明寺　一三
好友会　九九
勾欄の衡立　二三五
氷　一八三
氷池　一八三
コオリ（垢離）　一六六
コオリトリ　一四三、一六六
強力　二二四
こうりやん　六六
香炉　一七三
ココガ　四六
コガイ　四三
小影祭　七八
コカゲサン　四四
五月五日　一〇
五月節供　六五、一五〇
五月の節供　一六六
五月幟り　六四
コガネ　一八九
ごぎょう　一八五
刻卯　六三
コクカゴ　五一
コクサ木　二六、三二
こぐそ（蚕糞）　一〇六
蚕糞ぬき　一五四
穀断ち　九三
穀俵　一四五
黒炭　一三四、二三五
ごくつぶし　一八
国有林　二〇、三二、三九、五三
極楽浄土　一七六
御苦労賃　一七〇
五合飯　五〇
護国神社春祭り　一五四
五穀ダチ　一一三
五穀の神　八八
五穀（の）豊作　一五三
五穀豊穣の神　八六

ゴゴッパ　三、二五
ゴゴッパモチ　三
ゴゴッパモチ　一三
ゴゴップサゲ　一八
九日餅　二一〇
心付　一四〇
ゴザ（ござ）　八二、一〇七、一九四、二〇七
五才　一五一
小作百姓　六八
小作料　二七、三一
ゴサン　一四六
輿　一一七
こじき　一一七
五色の旗　一六一
コシキリ　三
こしきりじばん　五一
コシキリバンテン（半天）　三、五〇
腰抜　一三五
小島一家　三五、一七六
こしまき（腰まき、腰巻）　四一、一三〇
腰巻祝い　一五一
腰巻姿　一四〇
コシミソ　一八
五社の神　二〇七
御祝儀　三、八、一〇、一二七、一三〇、一六五
御祝儀の酒　一六五
五十回忌　一五六
五十五才　一五一
小姑　一〇七
こじゅうはん　八
こじゅけい（小寿鶏）　四〇、四一
コジュハン　八
小正月　一一、六五、一七八、一七九、一八五、一八六、二一〇、
小正月のマイ玉（まいだま、マユダマ）　四一、一八二、一八六
小正月の餅　一八
御神酒　八六、一八二、二二七
個人狩猟　四四
御神体　一七六
御真法　九三
ご神木　一九三、二二七
個人墓地　一二三
個人持ち　二七
個人有のマグサバ　五六
五寸　二一八
ゴゼ（瞽女）　五三、五四、一二九
五節供　一〇七
ご（御）先祖さま（さん）　九九、一〇五、一〇八、一〇八
ごせん米　九四
子育観音　一四四
子育て地蔵　一四三、一五一
コタツヤグラ　一四五
ゴチソウ（ごちそう、ご馳走）　九、一九二、二〇六、二〇八
伍長　五六、一五六
小づかい（小遣い）　六、四四、六六、六七、一六六、一八〇、二〇七
小づかい銭　二〇七
小粒の石　一四九
固定舞台　一三五
小胴　一三六
ことじまい　二〇九
ことはじめ（事始め）　一八三、一九一
コトビ　三一
子ども（子供）　三、二五、三四、五五、六六、七、八、二三、二六、四四、七四、九八、一〇一、一〇六、一〇四、一一九、一二一、一三二、一三五、一四四、一五二、一四六、一四七、一八八、一九三、一九八、二〇〇、二〇四、二〇五、二〇六、二一〇、二二〇、二二五、[illegible]
子ども会　五六
子供組　一五二
子供達　一九四
子どもの遊び唄　一〇七
子どもの遊び方　一〇七
子どもの下着　一五二
子どものしつけ　一〇五
子どもの膳　一四九
子供の葬式　一七六
子供の誕生祝　一五〇
子供のはき物　一五二
子供の病気　一五二
子どもの神輿　一七九
子供の夜泣き　二一〇
子どもの霊　二〇一
コト八日（事八日）　三二、一七八、一九一、二〇八、二〇九
ことわざ　二二四
粉　一七七、二〇八
コナシ　二〇八
こ荷駄（小荷駄）　五〇、一二九
ご年始　一八三
近衛前久　一二三
コハク　四四
コハゼ（こはぜ）　三二、五〇、一四〇
コバチ（小鉢）　八、五〇、五六、二二一
コバン（小判）　五三、六五、一三〇、一六五
ゴハン（ごはん、御飯）　八、一〇、九三、九四、一一二、一一三、一一七、一一八、一二三、一六五、一七六、一九九、二〇〇、二〇八、二一〇、二一五、二二一
御飯たき　一〇八
木びき（木挽き）　三六、三七、五三、八五、一三〇
木挽うた　一三〇
護符　六〇
コブ（こぶ）　五三、一八一
五夫婦　一五九
コブガハラ（古峰ヶ原）　七、九四
古峰ヶ原代参講　九四
ご不浄　一九〇
コブナ　二四
こぶまき　九
ごへい（御幣）　一二四、一七六、一八三、一八四、一九四、一九五
ごへいそく（御幣束）　一一一、一八三
コベユリ　一六

コペラ　一〇
ゴボウ（ごぼう、午ぼう）　一一、一九、一〇一、一三一、八七、一一九、一八〇、一八四
小堀氏　九五
五本バシ　一八
ゴマ（護摩）　一五三、一八〇
ゴマ（胡麻）　一九、九五、一八七
小松飾り　一八二
ゴマメ（こまめ）　一八〇、一五三、一九一
ゴミ　一八二
ゴミタマ様　一八八
古峰　九四
古民家　二一七、二二九
小麦　一八、五三、一〇八、二〇七
小麦粉　一三、一六八、六一、二〇七
小麦まんじゅう　一九六
ゴムシーン　二三六
虚無僧　二二九
ゴムまり　一三三
米　八、九、一一、一二、一七、二〇、二一、二七、二七、三三、三四、四四、四六、五〇、五一、五五、六一、六七、六八、八五、八四、八六、九六、九五、九四、九八、一〇二、一二一、一二二、一一二、一三五、一一八、一四七、一六〇、一六一、一七九、一八三、一八四、一八五、一九四、一九四、一九〇、二二〇、二二七、二三〇
米アゲザル　五一
コメカイザシキ（米買い座敷）　八、一三
米俵　五〇、一二六、一九五、一八四
米の祝い　一五三
米の粉（米粉）　一三、六一、九六、一八五、一九三、一九三
米の代金　四四
コメノメシ　九
コモ　一五五、二〇一
子持ち　二二四
子守り　二、一五〇
子もりうた（子もり唄、子守唄）　一二四、一九九、二五一
子守りっ子（子守り子）　二五一
こもり堂　七七
小屋　五七、九〇、一五一、二〇七
小屋裏利用　二三〇
小屋がけ　二四
小屋火事　二四
小屋組　二三〇、二三七、二三九
コヤシッカゴ　五一
子安観音　一〇〇
子安観音堂　一四四
子安地蔵　一四四
コヨミ（暦）　一四八、一八一、二〇八
コワカイシ　九九
小若衆　九九、一八六
コワメシ（こわめし、強飯）　九、一二、一四
こり　一六八
ゴリカン　二三三
古老　一七七
こんいな人（悪意な人）　一七六、一九三、二〇〇
婚姻　一四三
婚姻関係　七七
婚姻関係用語　一六〇
婚姻圏　六四、一九五
婚家　一五五、一七六
困窮年の食料　一六
困窮用　三六
権現山　四七、一〇三
コンジョウカガリ　一四八
コンジン様　一八二
コンニヤク（こんにやく）　三一、一八四、二〇九
コンパク　一五〇
金毘羅　二一七
コンブ　一八二
昆布巻　一八二
ごんぼう　八
婚約破棄　一七七
婚約申込　一五六
婚礼　一六二、一九五
婚礼とりむすび座附の事　一六四
婚礼のウドンブチ　一七七
婚礼のつくりもの　一六〇、一六一

【サ】

採光　二三一
サイコロ（さいころ）　八九、二〇七
サイコロノメ　六九
財産　六四、一九五、一九六
財産家　一九六
財産のある家　九六
歳時唄　一七七
祭日　一九五
さい銭　二〇七
祭典　一九一
財布　四六
細部形式　二一七
裁縫　四五
西方寺　二二五、二三一
西方寺の六地蔵　一〇〇、一〇七
材木　五〇、一八五
祭文（左衛門）　五三、一二九
サオ石　一五一、一八四
榊　三六、一八一
逆さ児　一四三
さかさ塔婆　一七六
さかさみず　一五〇
サカテ仕事　六〇
酒代　四四
さかな（魚）　八、八七、九八、二一七、二二三
肴　九八
魚の骨　一〇八、二三四
酒盛り　三六、一六〇
左官　五一
坐棺　一五三
サク（さく）　一八四、一八五
作入れ　三一
作神（さく神様、作神さま、作神様）　八六、八七、九八、一八四

作神のお札 一九二
さく切り 六
サクタテ 八四
サクバ 一二五
作物 一八五、一九六
サクラ 三五
サクラモチ（桜餅） 三三、三五、一九二
ざぐり（座繰） 三三、一三一
ざぐり製糸 六六
サクリグワ 三七、二九
ざくろ 三五、一〇六
酒 一〇、三一、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一一〇、一一一、一一二、一一三、一一四、一一五、一一六、一一七、一一八、一一九、一二〇、一二一、一二二、一二三、一二四、一二五、一二六、一二七、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、二四〇、二四一、二四二、二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一、二五二、二五三、二五四、二五五、二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六二、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、二六九、二七〇、二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九四、二九五、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一一、三一二、三一三、三一四、三一五、三一六、三一七、三一八、三一九、三二〇、三二一、三二二、三二三、三二四、三二五、三二六、三二七、三二八、三二九、三三〇、三三一、三三二、三三三、三三四、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五一、三五二、三五三、三五四、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、四五七、四五八、四五九、四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四、四六五、四六六、四六七、四六八、四六九、四七〇、四七一、四七二、四七三、四七四、四七五、四七六、四七七、四七八、四七九、四八〇、四八一、四八二、四八三、四八四、四八五、四八六、四八七、四八八、四八九、四九〇、四九一、四九二、四九三、四九四、四九五、四九六、四九七、四九八、四九九、五〇〇、五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、五〇六、五〇七、五〇八、五〇九、五一〇、五一一、五一二、五一三、五一四、五一五、五一六、五一七、五一八、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二五、五二六、五二七、五二八、五二九、五三〇、五三一、五三二、五三三、五三四、五三五、五三六、五三七、五三八、五三九、五四〇、五四一、五四二、五四三、五四四、五四五、五四六、五四七、五四八、五四九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七一、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一一、八一二、八一三、八一四、八一五、八一六、八一七、八一八、八一九、八二〇、八二一、八二二、八二三、八二四、八二五、八二六、八二七、八二八、八二九、八三〇、八三一、八三二、八三三、八三四、八三五、八三六、八三七、八三八、八三九、八四〇、八四一、八四二、八四三、八四四、八四五、八四六、八四七、八四八、八四九、八五〇、八五一、八五二、八五三、八五四、八五五、八五六、八五七、八五八、八五九、八六〇、八六一、八六二、八六三、八六四、八六五、八六六、八六七、八六八、八六九、八七〇、八七一、八七二、八七三、八七四、八七五、八七六、八七七、八七八、八七九、八八〇、八八一、八八二、八八三、八八四、八八五、八八六、八八七、八八八、八八九、八九〇、八九一、八九二、八九三、八九四、八九五、八九六、八九七、八九八、八九九、九〇〇、九〇一、九〇二、九〇三、九〇四、九〇五、九〇六、九〇七、九〇八、九〇九、九一〇、九一一、九一二、九一三、九一四、九一五、九一六、九一七、九一八、九一九、九二〇、九二一、九二二、九二三、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三〇、九三一、九三二、九三三、九三四、九三五、九三六、九三七、九三八、九三九、九四〇、九四一、九四二、九四三、九四四、九四五、九四六、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五一、九五二、九五三、九五四、九五五、九五六、九五七、九五八、九五九、九六〇、九六一、九六二、九六三、九六四、九六五、九六六、九六七、九六八、九六九、九七〇、九七一、九七二、九七三、九七四、九七五、九七六、九七七、九七八、九七九、九八〇、九八一、九八二、九八三、九八四、九八五、九八六、九八七、九八八、九八九、九九〇、九九一、九九二、九九三、九九四、九九五、九九六、九九七、九九八、九九九、一〇〇〇、一〇〇一、一〇〇二、一〇〇三、一〇〇四、一〇〇五、一〇〇六、一〇〇七、一〇〇八、一〇〇九、一〇一〇、一〇一一、一〇一二、一〇一三、一〇一四、一〇一五、一〇一六、一〇一七、一〇一八、一〇一九、一〇二〇、一〇二一、一〇二二、一〇二三、一〇二四、一〇二五、一〇二六、一〇二七、一〇二八、一〇二九、一〇三〇、一〇三一、一〇三二、一〇三三、一〇三四、一〇三五、一〇三六、一〇三七、一〇三八、一〇三九、一〇四〇、一〇四一、一〇四二、一〇四三、一〇四四、一〇四五、一〇四六、一〇四七、一〇四八、一〇四九、一〇五〇、一〇五一、一〇五二、一〇五三、一〇五四、一〇五五、一〇五六、一〇五七、一〇五八、一〇五九、一〇六〇、一〇六一、一〇六二、一〇六三、一〇六四、一〇六五、一〇六六、一〇六七、一〇六八、一〇六九、一〇七〇、一〇七一、一〇七二、一〇七三、一〇七四、一〇七五、一〇七六、一〇七七、一〇七八、一〇七九、一〇八〇、一〇八一、一〇八二、一〇八三、一〇八四、一〇八五、一〇八六、一〇八七、一〇八八、一〇八九、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九三、一〇九四、一〇九五、一〇九六、一〇九七、一〇九八、一〇九九、一一〇〇、一一〇一、一一〇二、一一〇三、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一一〇八、一一〇九、一一一〇、一一一一、一一一二、一一一三、一一一四、一一一五、一一一六、一一一七、一一一八、一一一九、一一二〇、一一二一、一一二二、一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一一二七、一一二八、一一二九、一一三〇、一一三一、一一三二、一一三三、一一三四、一一三五、一一三六、一一三七、一一三八、一一三九、一一四〇、一一四一、一一四二、一一四三、一一四四、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五一、一一五二、一一五三、一一五四、一一五五、一一五六、一一五七、一一五八、一一五九、一一六〇、一一六一、一一六二、一一六三、一一六四、一一六五、一一六六、一一六七、一一六八、一一六九、一一七〇、一一七一、一一七二、一一七三、一一七四、一一七五、一一七六、一一七七、一一七八、一一七九、一一八〇、一一八一、一一八二、一一八三、一一八四、一一八五、一一八六、一一八七、一一八八、一一八九、一一九〇、一一九一、一一九二、一一九三、一一九四、一一九五、一一九六、一一九七、一一九八、一一九九、一二〇〇、一二〇一、一二〇二、一二〇三、一二〇四、一二〇五、一二〇六、一二〇七、一二〇八、一二〇九、一二一〇、一二一一、一二一二、一二一三、一二一四、一二一五、一二一六、一二一七、一二一八、一二一九、一二二〇、一二二一、一二二二、一二二三、一二二四、一二二五、一二二六、一二二七、一二二八、一二二九、一二三〇、一二三一、一二三二、一二三三、一二三四、一二三五、一二三六、一二三七、一二三八、一二三九、一二四〇、一二四一、一二四二、一二四三、一二四四、一二四五、一二四六、一二四七、一二四八、一二四九、一二五〇、一二五一、一二五二、一二五三、一二五四、一二五五、一二五六、一二五七、一二五八、一二五九、一二六〇、一二六一、一二六二、一二六三、一二六四、一二六五、一二六六、一二六七、一二六八、一二六九、一二七〇、一二七一、一二七二、一二七三、一二七四、一二七五、一二七六、一二七七、一二七八、一二七九、一二八〇、一二八一、一二八二、一二八三、一二八四、一二八五、一二八六、一二八七、一二八八、一二八九、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一二九四、一二九五、一二九六、一二九七、一二九八、一二九九、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、一三〇四、一三〇五、一三〇六、一三〇七、一三〇八、一三〇九、一三一〇、一三一一、一三一二、一三一三、一三一四、一三一五、一三一六、一三一七、一三一八、一三一九、一三二〇、一三二一、一三二二、一三二三、一三二四、一三二五、一三二六、一三二七、一三二八、一三二九、一三三〇、一三三一、一三三二、一三三三、一三三四、一三三五、一三三六、一三三七、一三三八、一三三九、一三四〇、一三四一、一三四二、一三四三、一三四四、一三四五、一三四六、一三四七、一三四八、一三四九、一三五〇、一三五一、一三五二、一三五三、一三五四、一三五五、一三五六、一三五七、一三五八、一三五九、一三六〇、一三六一、一三六二、一三六三、一三六四、一三六五、一三六六、一三六七、一三六八、一三六九、一三七〇、一三七一、一三七二、一三七三、一三七四、一三七五、一三七六、一三七七、一三七八、一三七九、一三八〇、一三八一、一三八二、一三八三、一三八四、一三八五、一三八六、一三八七、一三八八、一三八九、一三九〇、一三九一、一三九二、一三九三、一三九四、一三九五、一三九六、一三九七、一三九八、一三九九、一四〇〇、一四〇一、一四〇二、一四〇三、一四〇四、一四〇五、一四〇六、一四〇七、一四〇八、一四〇九、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一三、一四一四、一四一五、一四一六、一四一七、一四一八、一四一九、一四二〇、一四二一、一四二二、一四二三、一四二四、一四二五、一四二六、一四二七、一四二八、一四二九、一四三〇、一四三一、一四三二、一四三三、一四三四、一四三五、一四三六、一四三七、一四三八、一四三九、一四四〇、一四四一、一四四二、一四四三、一四四四、一四四五、一四四六、一四四七、一四四八、一四四九、一四五〇、一四五一、一四五二、一四五三、一四五四、一四五五、一四五六、一四五七、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六二、一四六三、一四六四、一四六五、一四六六、一四六七、一四六八、一四六九、一四七〇、一四七一、一四七二、一四七三、一四七四、一四七五、一四七六、一四七七、一四七八、一四七九、一四八〇、一四八一、一四八二、一四八三、一四八四、一四八五、一四八六、一四八七、一四八八、一四八九、一四九〇、一四九一、一四九二、一四九三、一四九四、一四九五、一四九六、一四九七、一四九八、一四九九、一五〇〇、一五〇一、一五〇二、一五〇三、一五〇四、一五〇五、一五〇六、一五〇七、一五〇八、一五〇九、一五一〇、一五一一、一五一二、一五一三、一五一四、一五一五、一五一六、一五一七、一五一八、一五一九、一五二〇、一五二一、一五二二、一五二三、一五二四、一五二五、一五二六、一五二七、一五二八、一五二九、一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、一五三四、一五三五、一五三六、一五三七、一五三八、一五三九、一五四〇、一五四一、一五四二、一五四三、一五四四、一五四五、一五四六、一五四七、一五四八、一五四九、一五五〇、一五五一、一五五二、一五五三、一五五四、一五五五、一五五六、一五五七、一五五八、一五五九、一五六〇、一五六一、一五六二、一五六三、一五六四、一五六五、一五六六、一五六七、一五六八、一五六九、一五七〇、一五七一、一五七二、一五七三、一五七四、一五七五、一五七六、一五七七、一五七八、一五七九、一五八〇、一五八一、一五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一五八六、一五八七、一五八八、一五八九、一五九〇、一五九一、一五九二、一五九三、一五九四、一五九五、一五九六、一五九七、一五九八、一五九九、一六〇〇、一六〇一、一六〇二、一六〇三、一六〇四、一六〇五、一六〇六、一六〇七、一六〇八、一六〇九、一六一〇、一六一一、一六一二、一六一三、一六一四、一六一五、一六一六、一六一七、一六一八、一六一九、一六二〇、一六二一、一六二二、一六二三、一六二四、一六二五、一六二六、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三一、一六三二、一六三三、一六三四、一六三五、一六三六、一六三七、一六三八、一六三九、一六四〇、一六四一、一六四二、一六四三、一六四四、一六四五、一六四六、一六四七、一六四八、一六四九、一六五〇、一六五一、一六五二、一六五三、一六五四、一六五五、一六五六、一六五七、一六五八、一六五九、一六六〇、一六六一、一六六二、一六六三、一六六四、一六六五、一六六六、一六六七、一六六八、一六六九、一六七〇、一六七一、一六七二、一六七三、一六七四、一六七五、一六七六、一六七七、一六七八、一六七九、一六八〇、一六八一、一六八二、一六八三、一六八四、一六八五、一六八六、一六八七、一六八八、一六八九、一六九〇、一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一六九五、一六九六、一六九七、一六九八、一六九九、一七〇〇、一七〇一、一七〇二、一七〇三、一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一七八九、一七九〇、一七九一、一七九二、一七九三、一七九四、一七九五、一七九六、一七九七、一七九八、一七九九、一八〇〇、一八〇一、一八〇二、一八〇三、一八〇四、一八〇五、一八〇六、一八〇七、一八〇八、一八〇九、一八一〇、一八一一、一八一二、一八一三、一八一四、一八一五、一八一六、一八一七、一八一八、一八一九、一八二〇、一八二一、一八二二、一八二三、一八二四、一八二五、一八二六、一八二七、一八二八、一八二九、一八三〇、一八三一、一八三二、一八三三、一八三四、一八三五、一八三六、一八三七、一八三八、一八三九、一八四〇、一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八四五、一八四六、一八四七、一八四八、一八四九、一八五〇、一八五一、一八五二、一八五三、一八五四、一八五五、一八五六、一八五七、一八五八、一八五九、一八六〇、一八六一、一八六二、一八六三、一八六四、一八六五、一八六六、一八六七、一八六八、一八六九、一八七〇、一八七一、一八七二、一八七三、一八七四、一八七五、一八七六、一八七七、一八七八、一八七九、一八八〇、一八八一、一八八二、一八八三、一八八四、一八八五、一八八六、一八八七、一八八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇、二〇〇一、二〇〇二、二〇〇三、二〇〇四、二〇〇五、二〇〇六、二〇〇七、二〇〇八、二〇〇九、二〇一〇、二〇一一、二〇一二、二〇一三、二〇一四、二〇一五、二〇一六、二〇一七、二〇一八、二〇一九、二〇二〇、二〇二一、二〇二二、二〇二三、二〇二四、二〇二五、二〇二六、二〇二七、二〇二八、二〇二九、二〇三〇、二〇三一、二〇三二、二〇三三、二〇三四、二〇三五、二〇三六、二〇三七、二〇三八、二〇三九、二〇四〇、二〇四一、二〇四二、二〇四三、二〇四四、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二〇四九、二〇五〇、二〇五一、二〇五二、二〇五三、二〇五四、二〇五五、二〇五六、二〇五七、二〇五八、二〇五九、二〇六〇、二〇六一、二〇六二、二〇六三、二〇六四、二〇六五、二〇六六、二〇六七、二〇六八、二〇六九、二〇七〇、二〇七一、二〇七二、二〇七三、二〇七四、二〇七五、二〇七六、二〇七七、二〇七八、二〇七九、二〇八〇、二〇八一、二〇八二、二〇八三、二〇八四、二〇八五、二〇八六、二〇八七、二〇八八、二〇八九、二〇九〇、二〇九一、二〇九二、二〇九三、二〇九四、二〇九五、二〇九六、二〇九七、二〇九八、二〇九九、二一〇〇、二一〇一、二一〇二、二一〇三、二一〇四、二一〇五、二一〇六、二一〇七、二一〇八、二一〇九、二一一〇、二一一一、二一一二、二一一三、二一一四、二一一五、二一一六、二一一七、二一一八、二一一九、二一二〇、二一二一、二一二二、二一二三、二一二四、二一二五、二一二六、二一二七、二一二八、二一二九、二一三〇、二一三一、二一三二、二一三三、二一三四、二一三五、二一三六、二一三七、二一三八、二一三九、二一四〇、二一四一、二一四二、二一四三、二一四四、二一四五、二一四六、二一四七、二一四八、二一四九、二一五〇、二一五一、二一五二、二一五三、二一五四、二一五五、二一五六、二一五七、二一五八、二一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六四、二一六五、二一六六、二一六七、二一六八、二一六九、二一七〇、二一七一、二一七二、二一七三、二一七四、二一七五、二一七六、二一七七、二一七八、二一七九、二一八〇、二一八一、二一八二、二一八三、二一八四、二一八五、二一八六、二一八七、二一八八、二一八九、二一九〇、二一九一、二一九二、二一九三、二一九四、二一九五、二一九六、二一九七、二一九八、二一九九、二二〇〇、二二〇一、二二〇二、二二〇三、二二〇四、二二〇五、二二〇六、二二〇七、二二〇八、二二〇九、二二一〇、二二一一、二二一二、二二一三、二二一四、二二一五、二二一六、二二一七、二二一八、二二一九、二二二〇、二二二一、二二二二、二二二三、二二二四、二二二五、二二二六、二二二七、二二二八、二二二九、二二三〇、二二三一、二二三二、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三七、二二三八、二二三九、二二四〇、二二四一、二二四二、二二四三、二二四四、二二四五、二二四六、二二四七、二二四八、二二四九、二二五〇、二二五一、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五六、二二五七、二二五八、二二五九、二二六〇、二二六一、二二六二、二二六三、二二六四、二二六五、二二六六、二二六七、二二六八、二二六九、二二七〇、二二七一、二二七二、二二七三、二二七四、二二七五、二二七六、二二七七、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二二八三、二二八四、二二八五、二二八六、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、二二九二、二二九三、二二九四、二二九五、二二九六、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇、二三〇一、二三〇二、二三〇三、二三〇四、二三〇五、二三〇六、二三〇七、二三〇八、二三〇九、二三一〇、二三一一、二三一二、二三一三、二三一四、二三一五、二三一六、二三一七、二三一八、二三一九、二三二〇、二三二一、二三二二、二三二三、二三二四、二三二五、二三二六、二三二七、二三二八、二三二九、二三三〇、二三三一、二三三二、二三三三、二三三四、二三三五、二三三六、二三三七、二三三八、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、二三四三、二三四四、二三四五、二三四六、二三四七、二三四八、二三四九、二三五〇、二三五一、二三五二、二三五三、二三五四、二三五五、二三五六、二三五七、二三五八、二三五九、二三六〇、二三六一、二三六二、二三六三、二三六四、二三六五、二三六六、二三六七、二三六八、二三六九、二三七〇、二三七一、二三七二、二三七三、二三七四、二三七五、二三七六、二三七七、二三七八、二三七九、二三八〇、二三八一、二三八二、二三八三、二三八四、二三八五、二三八六、二三八七、二三八八、二三八九、二三九〇、二三九一、二三九二、二三九三、二三九四、二三九五、二三九六、二三九七、二三九八、二三九九、二四〇〇、二四〇一、二四〇二、二四〇三、二四〇四、二四〇五、二四〇六、二四〇七、二四〇八、二四〇九、二四一〇、二四一一、二四一二、二四一三、二四一四、二四一五、二四一六、二四一七、二四一八、二四一九、二四二〇、二四二一、二四二二、二四二三、二四二四、二四二五、二四二六、二四二七、二四二八、二四二九、二四三〇、二四三一、二四三二、二四三三、二四三四、二四三五、二四三六、二四三七、二四三八、二四三九、二四四〇、二四四一、二四四二、二四四三、二四四四、二四四五、二四四六、二四四七、二四四八、二四四九、二四五〇、二四五一、二四五二、二四五三、二四五四、二四五五、二四五六、二四五七、二四五八、二四五九、二四六〇、二四六一、二四六二、二四六三、二四六四、二四六五、二四六六、二四六七、二四六八、二四六九、二四七〇、二四七一、二四七二、二四七三、二四七四、二四七五、二四七六、二四七七、二四七八、二四七九、二四八〇、二四八一、二四八二、二四八三、二四八四、二四八五、二四八六、二四八七、二四八八、二四八九、二四九〇、二四九一、二四九二、二四九三、二四九四、二四九五、二四九六、二四九七、二四九八、二四九九、二五〇〇、二五〇一、二五〇二、二五〇三、二五〇四、二五〇五、二五〇六、二五〇七、二五〇八、二五〇九、二五一〇、二五一一、二五一二、二五一三、二五一四、二五一五、二五一六、二五一七、二五一八、二五一九、二五二〇、二五二一、二五二二、二五二三、二五二四、二五二五、二五二六、二五二七、二五二八、二五二九、二五三〇、二五三一、二五三二、二五三三、二五三四、二五三五、二五三六、二五三七、二五三八、二五三九、二五四〇、二五四一、二五四二、二五四三、二五四四、二五四五、二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五五〇、二五五一、二五五二、二五五三、二五五四、二五五五、二五五六、二五五七、二五五八、二五五九、二五六〇、二五六一、二五六二、二五六三、二五六四、二五六五、二五六六、二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二五七一、二五七二、二五七三、二五七四、二五七五、二五七六、二五七七、二五七八、二五七九、二五八〇、二五八一、二五八二、二五八三、二五八四、二五八五、二五八六、二五八七、二五八八、二五八九、二五九〇、二五九一、二五九二、二五九三、二五九四、二五九五、二五九六、二五九七、二五九八、二五九九、二六〇〇、二六〇一、二六〇二、二六〇三、二六〇四、二六〇五、二六〇六、二六〇七、二六〇八、二六〇九、二六一〇、二六一一、二六一二、二六一三、二六一四、二六一五、二六一六、二六一七、二六一八、二六一九、二六二〇、二六二一、二六二二、二六二三、二六二四、二六二五、二六二六、二六二七、二六二八、二六二九、二六三〇、二六三一、二六三二、二六三三、二六三四、二六三五、二六三六、二六三七、二六三八、二六三九、二六四〇、二六四一、二六四二、二六四三、二六四四、二六四五、二六四六、二六四七、二六四八、二六四九、二六五〇、二六五一、二六五二、二六五三、二六五四、二六五五、二六五六、二六五七、二六五八、二六五九、二六六〇、二六六一、二六六二、二六六三、二六六四、二六六五、二六六六、二六六七、二六六八、二六六九、二六七〇、二六七一、二六七二、二六七三、二六七四、二六七五、二六七六、二六七七、二六七八、二六七九、二六八〇、二六八一、二六八二、二六八三、二六八四、二六八五、二六八六、二六八七、二六八八、二六八九、二六九〇、二六九一、二六九二、二六九三、二六九四、二六九五、二六九六、二六九七、二六九八、二六九九、二七〇〇、二七〇一、二七〇二、二七〇三、二七〇四、二七〇五、二七〇六、二七〇七、二七〇八、二七〇九、二七一〇、二七一一、二七一二、二七一三、二七一四、二七一五、二七一六、二七一七、二七一八、二七一九、二七二〇、二七二一、二七二二、二七二三、二七二四、二七二五、二七二六、二七二七、二七二八、二七二九、二七三〇、二七三一、二七三二、二七三三、二七三四、二七三五、二七三六、二七三七、二七三八、二七三九、二七四〇、二七四一、二七四二、二七四三、二七四四、二七四五、二七四六、二七四七、二七四八、二七四九、二七五〇、二七五一、二七五二、二七五三、二七五四、二七五五、二七五六、二七五七、二七五八、二七五九、二七六〇、二七六一、二七六二、二七六三、二七六四、二七六五、二七六六、二七六七、二七六八、二七六九、二七七〇、二七七一、二七七二、二七七三、二七七四、二七七五、二七七六、二七七七、二七七八、二七七九、二七八〇、二七八一、二七八二、二七八三、二七八四、二七八五、二七八六、二七八七、二七八八、二七八九、二七九〇、二七九一、二七九二、二七九三、二七九四、二七九五、二七九六、二七九七、二七九八、二七九九、二八〇〇、二八〇一、二八〇二、二八〇三、二八〇四、二八〇五、二八〇六、二八〇七、二八〇八、二八〇九、二八一〇、二八一一、二八一二、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八一八、二八一九、二八二〇、二八二一、二八二二、二八二三、二八二四、二八二五、二八二六、二八二七、二八二八、二八二九、二八三〇、二八三一、二八三二、二八三三、二八三四、二八三五、二八三六、二八三七、二八三八、二八三九、二八四〇、二八四一、二八四二、二八四三、二八四四、二八四五、二八四六、二八四七、二八四八、二八四九、二八五〇、二八五一、二八五二、二八五三、二八五四、二八五五、二八五六、二八五七、二八五八、二八五九、二八六〇、二八六一、二八六二、二八六三、二八六四、二八六五、二八六六、二八六七、二八六八、二八六九、二八七〇、二八七一、二八七二、二八七三、二八七四、二八七五、二八七六、二八七七、二八七八、二八七九、二八八〇、二八八一、二八八二、二八八三、二八八四、二八八五、二八八六、二八八七、二八八八、二八八九、二八九〇、二八九一、二八九二、二八九三、二八九四、二八九五、二八九六、二八九七、二八九八、二八九九、二九〇〇、二九〇一、二九〇二、二九〇三、二九〇四、二九〇五、二九〇六、二九〇七、二九〇八、二九〇九、二九一〇、二九一一、二九一二、二九一三、二九一四、二九一五、二九一六、二九一七、二九一八、二九一九、二九二〇、二九二一、二九二二、二九二三、二九二四、二九二五、二九二六、二九二七、二九二八、二九二九、二九三〇、二九三一、二九三二、二九三三、二九三四、二九三五、二九三六、二九三七、二九三八、二九三九、二九四〇、二九四一、二九四二、二九四三、二九四四、二九四五、二九四六、二九四七、二九四八、二九四九、二九五〇、二九五一、二九五二、二九五三、二九五四、二九五五、二九五六、二九五七、二九五八、二九五九、二九六〇、二九六一、二九六二、二九六三、二九六四、二九六五、二九六六、二九六七、二九六八、二九六九、二九七〇、二九七一、二九七二、二九七三、二九七四、二九七五、二九七六、二九七七、二九七八、二九七九、二九八〇、二九八一、二九八二、二九八三、二九八四、二九八五、二九八六、二九八七、二九八八、二九八九、二九九〇、二九九一、二九九二、二九九三、二九九四、二九九五、二九九六、二九九七、二九九八、二九九九、三〇〇〇、三〇〇一、三〇〇二、三〇〇三、三〇〇四、三〇〇五、三〇〇六、三〇〇七、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三〇一四、三〇一五、三〇一六、三〇一七、三〇一八、三〇一九、三〇二〇、三〇二一、三〇二二、三〇二三、三〇二四、三〇二五、三〇二六、三〇二七、三〇二八、三〇二九、三〇三〇、三〇三一、三〇三二、三〇三三、三〇三四、三〇三五、三〇三六、三〇三七、三〇三八、三〇三九、三〇四〇、三〇四一、三〇四二、三〇四三、三〇四四、三〇四五、三〇四六、三〇四七、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三〇五三、三〇五四、三〇五五、三〇五六、三〇五七、三〇五八、三〇五九、三〇六〇、三〇六一、三〇六二、三〇六三、三〇六四、三〇六五、三〇六六、三〇六七、三〇六八、三〇六九、三〇七〇、三〇七一、三〇七二、三〇七三、三〇七四、三〇七五、三〇七六、三〇七七、三〇七八、三〇七九、三〇八〇、三〇八一、三〇八二、三〇八三、三〇八四、三〇八五、三〇八六、三〇八七、三〇八八、三〇八九、三〇九〇、三〇九一、三〇九二、三〇九三、三〇九四、三〇九五、三〇九六、三〇九七、三〇九八、三〇九九、三一〇〇、三一〇一、三一〇二、三一〇三、三一〇四、三一〇五、三一〇六、三一〇七、三一〇八、三一〇九、三一一〇、三一一一、三一一二、三一一三、三一一四、三一一五、三一一六、三一一七、三一一八、三一一九、三一二〇、三一二一、三一二二、三一二三、三一二四、三一二五、三一二六、三一二七、三一二八、三一二九、三一三〇、三一三一、三一三二、三一三三、三一三四、三一三五、三一三六、三一三七、三一三八、三一三九、三一四〇、三一四一、三一四二、三一四三、三一四四、三一四五、三一四六、三一四七、三一四八、三一四九、三一五〇、三一五一、三一五二、三一五三、三一五四、三一五五、三一五六、三一五七、三一五八、三一五九、三一六〇、三一六一、三一六二、三一六三、三一六四、三一六五、三一六六、三一六七、三一六八、三一六九、三一七〇、三一七一、三一七二、三一七三、三一七四、三一七五、三一七六、三一七七、三一七八、三一七九、三一八〇、三一八一、三一八二、三一八三、三一八四、三一八五、三一八六、三一八七、三一八八、三一八九、三一九〇、三一九一、三一九二、三一九三、三一九四、三一九五、三一九六、三一九七、三一九八、三一九九、三二〇〇、三二〇一、三二〇二、三二〇三、三二〇四、三二〇五、三二〇六、三二〇七、三二〇八、三二〇九、三二一〇、三二一一、三二一二、三二一三、三二一四、三二一五、三二一六、三二一七

サンダワラ（サン俵）
三段松
山頂
三徳
三年忌
三年びね（みそ）
三年のしんぼう
山王さま（山王様）
山王信仰
山王の猿
産の形
産の神様
産の姿勢
産婆
三番叟
三・八の市
散髪
産婦
産婦の食事
産部屋
三宝荒神
サンボングリ
三本辻
三本ツメ
サンマ（さんま）
ザンマ（残馬）様
ザンマタ
残馬山
産見舞
三夜さま
三夜さまの食べもの
サンヤマツリ
山林
山林収入
三輪亡
【シ】
シイタケ
寺院
市営山の家
塩
塩あん
シオガマ
塩釜神社
塩辛
塩気
塩サケ
シオダチ
塩の瀬神社
シオノミヤ
塩の宮神社
シオビキ（塩びき）
シカ（鹿）
市会議員
市街地
地方芝居
四月八日
自家発電
シカヘイサン
シカマ
死からの生還
式
敷居
式年祭
式の翌日
ジグルマ
ジグルマショイ台
私経済
仕事
しごと着（仕事着）
しごとし
しごと仲間
仕事の早い人
仕事場
仕事はじめ（仕事始め）
自作
持参金
持参金つき
シシ（猪）
シシギノコ
ジジババイワ
獅子舞
死者
死者の着物
死者の霊
死者の霊魂
しじやすみ（シジ休み）
寺社の敷地
四十九日
四十二師匠
しすい
四節供
自然暦
死装束
死体
下絵師
下刈り
下着
下ごしらえ
仕立て
シダマブシ
七回忌
七ガイト
七五三
七十七才（歳）
七十七歳の祝い
七十七のお祝

七年忌 一五五
質屋 七〇
七夜 一四八
七輪焼 三五
実家 一四四、一五七、一五六、一六六、一七七、一八四、二〇四
シッカマ 三五
湿地 二三三
ジッチョウ 一九
実名 二三〇、二三一
死出の山 一七六
自転車 一五四
地頭 二三
自動車 四九
自動銃 四一
シナナ 一一九
ジナイ 二三五
シニガラス 一六八
シニシニ 一六八
死人 二三六、八七、一〇八、一一九、一三六
地主 二七
死の通知 一七〇
芝居 一三五、一三七、一五四、一五五
芝居小屋 二二四
芝居の舞台 二三三
シバモグリ 一四
ジバン 三一
しびれ 一〇七

死ブク 八八
ジフテリヤ 一〇七、一〇八、一五一
しぶと 三三
死への途中 一一七
四方がため 九二
四方旗 一〇一
死亡の沙汰 一七
四方舞 三六
四方モチ 二一
シマイグンチ 二二五
シマイ正月（しまい正月） 一七六、一八八、一八九
シマイッコ 一四六
しまだ 二
シマダイ 一〇〇、一〇三
島田髷 二八
始末 四
シマヘビ（しま蛇） 一五一、一三三
清水 二三三
ジムグリ 二二五
シメ 九三、一五五、一八五、一八八
しめ飾り（注連飾り） 九四、九五、一八一
シメジ 一四
しめなわ（シメ縄） 二一〇、一八一、一八三
下肥 九一、二三一
下肥くみ 三一
下大黒柱 二二〇
霜月の二十四日 二一〇
霜柱 二〇八
じゃがいも 八、一七、九八、一〇七

借金のカタ 三七、一五三
借金のはなし 六〇
しゃくし 一六九
シャクジッコウ（さるすべり） 二三五
ジャクズレ 二三三
尺八 一一九
ジャクロ 一〇八
シャケ 二一〇
寂光院 二一〇
シャテイ（舎弟） 九五、二二五
ジャヒ（じゃひ） 二二、一二五
社日 一九三、二〇五
ジャヒッツラ 二二六
じゃみ 六
シャミセン草 一八四
社務所 一九二
シャモジ 一一一、一六九
ジャリユウブチ（蛇留淵） 八八、二三五、二三三
蛇留淵の観音 一〇四
ジャンボン 一六九
集会所 九六、一八一
祝儀 一七、一五三、一六〇、一五六、一五七、一九五
祝儀の料理 一〇
住居 二三
十九 一五三、一八三
十九夜様 六一
修験 五三、一五五、一七九、二二二
修験者 四八、二二七

修験道 五一
自由行動 一五六
十五夜 一八五
十五日がゆ 一八八、一九〇
十五日ゲエ 一七〇
ジュウゴンチショウガツ（十五日正月） 二一、一八五、一八八
十五夜 一〇、一一、一四四、二〇四、二〇五、二〇六
十五夜の供え物 二〇四
十三回忌 一五五
十三童子 二一四
十三仏 一四四、一五五
十三仏掛軸（十三仏のカケジ、十三仏の掛図） 一六九、一七四、一九九
十三仏の飾りだんご 一七四
十三仏の念仏 一七四
十三夜 一〇、一一、一三一、一四四、二〇五、二〇六
十七祝 一五一
十七回忌 一五五
終戦の放送 九九
集団狩猟 九七
しゅうと（姑） 九〇、一六〇、一六五、一九六、一七〇
シュウトサン（しゅうとさま、姑さん） 八、一四四、一九九
シュウトバアサン（姑ばあさん） 一六五
十二 一八五
十二神 二一〇
ジュウニサマ（十二さま、十二さん、十二様） 五四、八五、八四、一八五

ジュウニサマの日 八三
十二山 二〇七
十二山神社 二〇七
十二山のお祭り（十二山の祭り） 一七九、二〇七
十二膳 一七八
十二ゼン様（十二膳さま、十二膳様） 一七八、一八五、一八七
十二膳のハラミ箸 一八五
十二ゼン箸 一八五
十二嶽 四八
十二天様 一八五
十二峠 六八
収入 二六
重箱 一五〇、一六六、一七三、一八八、一九三、二三三
重箱ヅミ 一九、二〇
十八日ガユ 一八八
自由拍子 一二九
十郎太 五一
十六メー玉 一八五
酒宴唄 一二九
祝祭日 六四
熟蚕 四二、四三
主食 八
呪術 一四二
呪支 四〇
主人 二三、四一、六六、一一一、一三、一一八、一一九、一七九、一八五、二二二
主人の頭 二三
シュス 四四
ジュズ（じゆず、珠数） 四四、一〇一、一〇四、一〇七、一一一、一七一、二〇三
出棺 一七三
出世 一一九、一六八
十ばち 三四
術をつかう人 二一九
主伐 三八
ジュバン（じゅばん） 一五八、一七五
襦袢の襟 一八四
主婦 六六
主婦権 六六、六八
狩猟 二六
シュロ 一六、二五
ショイカゴ 二七
ショイコミ 三五
ショイダイ 三〇、三五、三六、五一
ショイデ 三〇
しょいでえ 五一
しょいばし 五一
書院 二三六
ショウ（生） 九四
正一位八幡宮 二二三
ショウガ（しょうが） 一六六、一六七、二〇四
しょうがの節供 二〇四
小学校 四、五九
正月 五、七、九、一一、一四、五七、五八、五七、一二〇、一五五、一六六、一七八、一八四、二一〇、二二一
正月午の日 一八五
正月ガラ 一八八
正月十五日 一八
正月だな（棚） 一八〇、一八一
正月の歌 二二一
正月のお飾り 一九〇
正月の終り 一八九
正月のカケジ 一八九
正月の飾り 一八六
正月の講の宿 八六
正月のゴヘイソク 三九
正月の年男 一七九
正月の松かざり 一八一
正月の餅 一七九、二一〇
正月餅 一九、六四
正月休み 二一一
しょうぎ（将棋） 八七、八八
焼香 一七三
ショーコーバナ 一七三
小黒柱 三三
障子 一五三、一五四、一六五、二三九
障子紙 四六
障子のめど 一〇七
精進 一〇四、一九八
精進物 一七三
精進屋 一〇四
常設の舞台 一三六
上族 三三、四二、四三
常だな 一八一
松竹 二一〇
松竹梅 一六〇
ショウチュウ 一三、三七
ショウチュウがめ 四三
ショウデンサマ 二一八
聖徳太子 一八一
商人 一九五
商売人 二〇七
乗馬とがめ 一一三
ジョウビタキ 二三五
ショウブ 一九五、一九六
ショウブ酒 一九五、一九六
ショウブ湯（しょうぶ湯） 一九五、一九六
定舞台 一三五
小便（ションベン） 一〇七、一一三、一一三、一九六
消防訓練 一七九
上まゆ 四二
ショウユ（しょうゆ） 一三、一六、五〇、五八
ショウリョウコモ（精霊ごも） 二〇一、二〇二
精霊様 二〇一
ジョウリン 二九
少林山 六一
職業 二二一
食事 八、一七一、一七四、一九七
食習の俗信 一八
職人 三、五、三七、二一〇、二二四
植物禁忌 六四

食用植物 一四
食糧事情 一六
食料難 九四
食料不足 九二
植林 六六
植林刈払 九六
女工 一四四
初産 一四七
初秋蚕 三一、四一
除伐 六六
庶民 二二七
除夜の鐘 一七九、三一一
ジョレン 二九
シラン 九六
シラジ 二〇三
しらせ 一七七
白滝神社 一九九
シラッカユ 一八六
シラメシ 一八三
シリッパショリ 一六五
汁 八、一四九
汁がけ飯 三〇
印ばんてん（印半纏） 三一、一八三
シレイ 一、一六、二〇〇、二三五
白い犬（白犬） 六五、一三三、二一九、二三一
白い馬（白馬） 六五、一三三、二一九、二三一、二三三
白いおこわ 一六六
白いヘビ（白い蛇） 一二三、二一四
二郎の一日 一八六
二郎の日 一八六
白黒 二〇七
白酒 一九二
白足袋 一七〇
白のご飯 一九〇
白歯 一六五
白無垢 一七三
白むくの着物 一七三
シロモチ 一八二
城山 九八、二二三、二二四
城山の娘 二二四
シワス八日 二〇九
神宮 八四、一五三、一六九、一八二、一九二、一九七
ジンギ（じんぎ、仁儀） 六六、一五六、一六六、一七〇
寝具 二四〇
神経痛の薬 二二四
新建材 二二七
新粉 一九六
信仰 一七二
信仰集団 六〇
新婚夫婦 一九九
神礼 八四
寝室 一四五、二二八、二四〇
神社 六〇、七〇、一一二、一一三、一四八、一五三、一五七、一六九、一六八、一七一、一八九、一九〇、一九六、一九〇、一九四、二〇〇、二〇三、二〇四、二〇六、二〇八、二〇九、二一四
神社建築 二二五
神社掃除 一九二
神社総代 一九三
神社のお札 一九七
神社の祭典 七七
神社の鳥居 一二五
神酒 一八四、一九四、一九七
シンショウ（身上） 四三、四四、一四六、一六六、一六七、一六八、一一〇、一五七、一六六、二一七、二一八
身上がけ 四三
シンショウ残す法 二一八
シンショウマワシ（しんしょうまわし、身上まわし） 二〇、六六、六八
新正月 一七八、一七九
親せき（親戚） 一九、二〇、三三、三九、六三、六四、八七、一一一、一四九、一五〇、一二六、一五九、一六八、一七七、一九五、一九六、一九九、二〇〇、二〇一、二〇四、二〇五、二〇六
親せき関係（親戚関係） 六三
親せきの者 一七二
親戚回り 一六五
新世帯 一七
新蔵院 二一七
親族 一五五
親族関係 六三
死んだ人 一一七、一六〇
薪炭 一四六、二二六
薪炭商 九六
新築 一、一九、二一
新築祝い（新築のお祝い） 一、一二
心中 二一九
心中の生れ代り 一五一
進駐年 四〇
新町会長 九六
新道 二二二
シントウバ 一五五
心とう柱 一七六
神道裁許の書状 二〇四
新年宴会 一八一
新年会 五七、一五二
親王さんびな 一九二
神仏への供えもの 一七
親類 六五、六四、一五二、一五五
親類づきあい 六四
新わら 二〇七
人力（車） 五〇、六九、一六五

【ス】

ス 四六
スイカ（西瓜） 一五七、二〇〇、二〇一
水害 五二、五七
水害と米 五二
炊事 四三
水車 九、一三、四七、九八、一六六
水（分）神 一七二
水神祭 九六、九八
水神さま（様） 一六九、二〇八、二一〇

水田　一、一六
ズイトビキ　九
すいとん　一、八
スイモノ　一〇
水浴　一
水路　一三三
ズウ　四三
末っ子（末子）　六三、六四、一四六、二一〇、二三五
末広　一五八
透し彫り　一二五
菅原道真　一七一
スギ（杉）　五六、一六三、二一七
杉のうえつけ　一一六
スキヤ　一三三、一三三、一三四
ズキン　一〇七
スケ　六三
すげがさ（すげ笠、スゲ笠、菅笠）　二、一〇七、二二八、一五九
スゲ笠踊り　一二八
スシ（すし）　一〇、一一、一八四、一五九、一七一、一八四、一九一、一九三、二〇三、二〇四
鈴　一三九、一八三
ズズ　二〇三
ススキ（すすき）　二〇一、二〇五、二〇六
ススキの穂　二〇四
ススキ　一四〇
鈴木主人　一二八
スズシロ（すずしろ）　一八三、一八四
スズナ（すずな）　一八三、一八四
すすなぜ　二〇九
煤はき　二〇九
すすはらい　二〇九
スリッケエ　二一〇
スダレ　一三五、二〇一
捨て子（捨児、捨子）　一四三、一四九、二二〇
須永好　四九
砂はらい（砂払い）　二〇九
ズベ　一一七
住居のご恩子もり唄　九六
墨　一七一
炭　八、一八、三三、三四、三五、三六、三七、一五六、四五、四九、五〇、一五三、一〇八、一二八、一八三、一九一
炭がま　三四、一九一、二二一
炭俵　一三五、一三六、一五〇、一六六
スミドウフ　一九一
炭問屋　一五三
（炭の）搬出　一三六
炭ぶるい　一五一
炭屋　一五一
炭やき（炭焼き）　[illegible]
炭やきがま（炭焼きがま）　一三四、一三五
炭焼き小屋　一三四、一三五
（炭焼きの）勘定　一三六
（炭焼きの）給食　一三六
（炭焼きの）御定法　一三五
すみれ　二三五
炭をやく人　二三〇
すもう（角力、相撲）　九六、一五四、一五五
角力とり（取）　二二五、二二六
ズリ　一六八
擂臼　二九
すり鉢　二〇三、二三四
ズリマンガ　二九
スルメ（するめ）　九、一〇七、一五〇、一五八、一六〇、一九三
諏訪神社　一七六
諏訪明神　二一七
スンブリ　一五一

【セ】

税　七七
盛愛社　一〇三、一二八
生業　二二九
税金　四四、一五八
生産市場　一五一
生児　一四七
製糸工場　一三二
捷松寺　二二四
成人式　一五三
せいしん丹　一五一
セイタ　二九、一三〇
青年　一五九、一七四、一九五
青年会　一五九、一五五
青年階層　一五八
青年集団　一四三
青年組織　一五九
青年団　一五六、一五八、一七〇
青年の親方　一七四
セイフロムコ　一六〇
セエフロヨメゴ　一六〇
歳暮　一六五、一六七、二一〇
姓名　二二一
整理屋　一四三
精霊ゴモ　一八〇
セイレン　一五二
セータ　二三、二五五
セエモン　一五三
背負子　五
背負い台　二九
セガイ　二三六、二三九
施餓鬼　二〇三
施餓鬼の献い　二〇一
せがれ　六八
石祠　一〇〇
石尊様　一一六
セキトウ（石塔）　一四三、一七五、二二四
赤飯　[illegible]

赤痢草 一〇六
世間ばなし（世間話） 五四、八六、九一
セコ 二六、三九
施主 八三、一五六、一五八、一五九、一七〇、一七三、一七四
施主の妻 一七三
施主花 一七三
せちもち（セチ餅） 一一、六五、一一九、一三〇
石灰 二九、三三、四九
石灰岩 一五五
石灰石 三三
石灰のヤキヤマ 五四
石灰山 五七
節供（節句） 九、一二、三三、一五四、一六五、一六六、一六七、一九三、一九五、二〇四、二三三
節供がえし（返し） 一九三、一九六
節分 一一、一七八、一七九、一九九、二〇〇、二〇九
説明伝説 六四
せどり 四三
背中あて 五二
セナゴ 六五、二三五
銭 二六
背縫ひ 四
セミ抜 二三五
セムシ抜 二三五
セリ（せり） 一〇八、一四四、一六七、一八三、一八四
セリ石（猿石） 二三五
世話好きの人 一四六
世話人 五六、一九二
世話やき 五九
世話役 五三、九八、一七三
膳 八、九八、一七三、一七四、二〇八
選挙 五六
浅間様 一〇四
浅間神社 九四
浅間山 五〇
線香 一一、一三、一二四、一六六、一六八、一七一、一七三、一九三、一九七、一九八、二〇〇、二〇一、二〇五、二一四
線香あげ 二〇〇
線香代 二〇一
善光寺さまなどのカケジ 一九九
戦勝 一六八
染色 六
先祖 一九、一六七、二〇〇
先祖さま 一三五、一七五
先祖のいはい 一〇八
先祖代々の供養 二〇四
先祖まつり 二一四
戦争 一九、一三〇、一三一、二二九
せんたく（洗たく） 七
前兆 一〇九
センブリ 一〇六
煎餅 八三、八八
餞別 九二
センボンシメジ 一四
ゼンマイ 一四
泉竜院 一五三
膳椀 二二五

【ソ】

僧 一七五
総あげ 五九
桑園の仕立て 一五四
造花 二〇〇
創価学会 一九六
葬儀 一七〇、一七四
雑木 二二六
ぞうきん（雑巾） 七、一二四、一八二
雑巾を動かさない禁忌 七
そうじ（掃除） 一二六、一〇八、一八二、二二五
相互扶助 六三
葬式 七、九、一〇、一七、二四、二五、三三、四九、六三、六四、一〇一、一二一、一三五、一四一、一四五、一四六、一五〇、一六八、一七〇、一七五、一七六、一七七、一七八、一九九、二〇一、二〇四、二二九
葬式の棺 二二五
葬式の日 二三〇
葬制 一四三
双生児 一五三
装束 二二七
相続人 一〇七、一三〇、一九九
総代 六〇
贈答 一九六
総名主 五六
ゾウニ（ぞうに、雑煮） 一五九、一八二、一八五
相馬様 二一四
相馬様の井戸 二一四
相馬神 二一三
相馬神の信仰 二一三
ソーメン（そうめん） 二〇〇
贓物 四〇
沢入 五三
ゾウリ（ぞうり、草履） 五六、六八、一四六、二〇六
ぞうりきんじょきんじょ 一四一
ゾウリ作り 一五一
ソーリの庚申さま 四四
僧侶 一七三
ソウリョウゴモ 二〇一
造林 四〇
葬列 一七三、一七五
葬列の服装 一七三
俗信 一〇五
束髪 二
底抜けビシャク 八五
ソシ 四六
ソシトリボウチョウ 四六
ゾッキ山 五六
外エン 二二四
外ぬり 二五五
外風呂 一五四
外湯 一五四
供え餅 一九七

供え物　一八二、二〇一
園田氏　六五
ソバ（そば）　八、九、二八、五一、一四八、一九九、一八二
ソバカキ　九二
そばまき　三二
ソヒ（麦皮）　四六
ソヒトリ包丁　四六
祖父　六三、一四七
祖母　四六
祖母オバー　四三
そら豆　五三
ソリ（そり）　三八、三七、四一、二三一
そりひき　四一、五三、二三一
祖霊　一九九
村有林　五八
村落結合　六六
村落社会　六〇

【タ】

ターピン　一六六
田　三六、二八、二九、三一、七〇
大工　二二、五三、一三五、二二七
大工の棟梁　二
太鼓　九、一二一、一二五、一二八、一六九、一七一、二〇三
大庚申　六〇
ダイコク　一四
大黒柱　三、三六、三七、一三一、一三八
大黒柱の逃げ　三九
ダイコ寺　二四
たいこみこし　七五
だいころし　二四
ダイコン（だいこん、大根）　一、八七、一四八、六〇、六一、一六三、八二、八五、一八四、九〇、一九六、一九九、二〇七、二〇八、二〇四、二一五
ダイコン、煮ッコロガシ　九
代参　六、九四、九八、一二五
代参講　六〇
胎児　一四三、一四七
タイシ講（太子講）　六三、二三〇
大師様　六三
大事なはなし　二三〇
大蛇　九九、二二五、二三五
大小豆　三三
大食　一四九
大食の神様　八七
大食の人　一八
大尽　一五五
大尽の家　一三、一六六
大神宮（大神宮さま、大神宮様、大神宮さん）　一七、五五、七六、八四、一六五、一八六、一八九、二〇〇、二〇四、二〇五、二二五、二二七、二三〇、二三一
大神宮様の棚　一八九
大豆　一〇八、一八九
大豆めし　六六
太々神楽　一三、一三六
太々ブチ　一二七
大腸カタル　一〇八
ダイドコ（ダイドコロ、台所）　三、二五、四五、八四、一〇一、一〇六、一三六、一六八、一七九、一八〇、二〇八、二一三、二三四、二三五
台所仕事　四五
台所の俵神様　一八四
ダイナマイト　二三〇
ダイマナク　一七八、一九二、二〇八、二〇九
ダイノコボウ　一六〇
堆肥　二六、一八八
大病人　二一
大福帳　四六
大福餅　五四、八五、二〇七
胎便　一四七
大麻　一八一
タイマツ（たいまつ、たい松、タイ松）　一五九、一七一、一七三
大門　二三三
大茂　二三三
大力　二一八
大力和尚　二三五
大力の人　六〇
内裏様　一九四
田植　一〇、三三、四一、一一六、一六六、二二一、一八七
田植えのごちそう　一八七
田植を嫌う日　二三
高尾山　六三
高木氏　六五
高砂のじいさんばあさん　一六〇
タカヅッポ　三
タカッポ　三九
高機　六、四四
高盛り　二〇八
高山彦九郎　四九
滝　二三三
たきごわめし　二
たくわん　五〇
タクハタチヂ姫　一七五
竹　六三、一六五
嶽サマ　九四
タケ神社　一七五
竹筒　三九、一三一、一三五
タケナガ（たけなが）　四六、一五八
竹の子　一三
竹びしゃく　一七六
竹ぼうき　三五、一五六
たけやすみ（タケ休み）　四三、一八五
竹籔　二三六
だし（調味料）　一六
ダシ（けむだし穴）　五五
ダシアゲユワイ　五五
たすき　三
堕胎　一四七
忠綱（公）　二一三、二一九、二二〇、二二三

忠綱明神（様）　八〇、一七三
忠綱明神の神体　一七三
たたみ（畳）　三、二五、一一一、一四五、二〇四、二三一、二三七、二六八
たたみの目　二五五
畳寄せ　二六八
タタリ　二二八
タチオチャ　一〇六
裁ち方　四
タチ茶　一〇六
立ち振舞い　一五八
駄賃　五〇
駄賃付け　二二九
タチンベエ　二三五
竜　二三四
タツイシ　二三三
ダツカゼ　二三六
脱穀　二六
タツゼン　一九
タツ年　二三〇
タツの日（たつの日）　二三三、一一九
タッペの唄　一六九
たつ巻　二三四
タツメ　四四
鬱　一〇六
立棺　一四〇
建具　二二九、二三〇、二三一
タテゼン　一九
たて又　二三五
タテマイ（タテメエ、たてまえ）　一七、三二、五七、六二
棚　一五九、一八二、二〇〇
棚上げ　一七五
田中氏　六五
たなばた（七夕）　一一、二二、五七、八四、一九六、一九八、一九九、二〇〇
タナバタミズ　一九九
谷氏　七六
タニノロ　五五
谷焼　二三
犠　四一
種　一九六
種銭　二〇八
タネマイ　四五
種まき（種播き）　一一九、一二三、一三六
種火　二三
田の植つけ　二九
田の神　七三、一七九
田のくろ　二二九
田の三番草　一五七
タバコ（煙草）　二二〇、一四〇
田畑　一九六、二三九
たび（足袋）　五五、六六、一六六、一四一、一四六
旅人　六六
たまご　八
魂　一四〇、一七五
玉取姫　二二六
玉まゆ　四二
魂よび　一六六
タマリ　二三三
玉ンマエの形　一八五
タメ　一五〇
ためかつぎ用　五一
タモト　三二
タラ　一八二
ダラムスビ　五五
タル（樽）　一二五、一三七、一四〇、一七〇
タル（滝）　二三三
タルウエ（滝上）　二三三
タルシタ（滝下）　二三三
ダルマ（だるま）　五一、五三、六二
だるまあめや　五三
タルミ　二三三
タロッペ　一四
タワラガミサマ（俵がみさま、俵神）　八四、一八四、二一〇
タワラグミ　二三三
俵藤太　六五
ダンゴ（だんご、団子）　九、一一、一三、一七、六〇、一〇〇、一〇八、一一一、一一六、一一九、一二四、一八五、一九一、一九五、一九七、一九八、二〇五、二一〇、二〇一、二〇六、二二二、二三四
団子をつくる日　二一
男根　一七五、一〇〇
男女の別　七
男女の交わり　八〇
誕生　一四六
誕生日　一五〇
誕生餅（誕生祝餅）　二三〇、一五〇
たんざく（短冊）　一九八、一九九
たんす　一六六
たんす長持　二七
タンスノコヤシ　一五三
檀徒総代　五六、二〇三
ダンナ様（旦那さん、旦那様）　六七、六八、一五一、一五九、二三四
旦那ざかり　五九
だんな座敷　八
田圃　一五六、一八六
タンボコ　二三五
反物　五三
胆力のある人　二二九

【チ】

チーン　一六九
地下足袋　五五
地固め　二〇七
チガヤ　一九九
力石　五九、六〇
力くらべ（力比べ）　五九、一五五、二二五、二二六
力仕事　二
力づな　一四五
力のある女　二二八
チカラメン　一四三
力もち（力持ち）　六〇、一五〇、一八四、二二四
地車　五〇、一〇六

地車ひき（引き）　五〇、五一、八五
地形語　二三三
地獄のカマノフタ　一九八
稚蚕期　四三
稚蚕共同飼育所　四三
稚蚕飼育所　四三
地芝居　二二六
地所　一六六
地所を買う　一七二
地震　八六、八七、八八、一二五、一九七、二三三
地震のうらない　一二五
地蔵（地蔵様、地蔵さん）　一三三、二一三
地代　一七二
父　六五
父親　一〇五、一〇九、一四七
チヂカケ　二二五
チチタケ　一四
秩父　一一八
秩父の三峰　一一八
ちちょうの石　一一四
地方歌舞伎舞台　一三五
地ふく　二二九
血ブク　八七、八八、一四九
地名伝説　一一三
茶　七四、一五三、一七六、一八一、一八七、二一六
茶つみ（茶摘み）　三一、六〇
茶の葉　一〇一
チャノマ（茶ノマ、茶の間）　八四、二三一、二三四、二三五
茶柱　一〇九
ちゃぶだい（ちゃぶ台）　八、二〇七
茶松　一八一
ちゃわん（茶わん、茶碗）　一九、一一八、一二一、一四九、一六八、一六九、二三五
ちゃんちゃん　三一
中学生　七四
中気　一一七、一九〇、二〇九
中元　一六五
チュウザ（中座）　一五八、一五九
昼食　一七一、一九二、二〇一
忠臣蔵　一五三
中禅寺　一二五
中禅寺湖　二二四
中日　一九三、二二四
中まゆ　四三
中宿　一五八、一五九
中老　一五九
長谷寺　一五一、二二五
長谷寺の火事　二二九
チョーナ　二三九、二三六
町会委員　一五六
町会長　一五六
町会長会議　一五六
町会費　一五六
長女　一九三
朝鮮あめ　五三
長泉寺　九九、一二一、一二三
朝鮮ビーソバ　二〇五
朝鮮ビエ（びえ）　九、二〇五
チョウチン（ちょうちん、提灯）　五九、六三、一五九、一七一、一七七、一八九、二〇〇、二〇一、二〇三、二三一
町内会　六二
町内の組織　一五六
長男　一四六、一四七、一七二、一七九、一九〇、一九六
帳場　一九二
チョウハン（丁半）　四九、六九、八五、二〇七
チョウハンブチ（丁半ぶち）　六八、二〇七
チョウハンモチ　六九
徴兵検査　七一
調味料　一六
町務委員　一五六
町務員　一五六
チョウムスビ　五
長命　一二七
帳面紙　四六
千代ガ淵　二二四
チョコダンゴ　一六九
チョボ　二三五
チョボクレ　五三
チンゲ　一四九、一五三、一六〇
鎮魂形式　二〇七
鎮守　二三三
鎮守さま（様）　一九九、二〇三、二〇六
鎮守祭り　七六、一九四
ちんちんまめや　五三
賃バタ（賃機）　六、四四、四五、八四、一三三、一八五
賃機織り　四五、一三一

【ツ】

通行人　一三五
通称　二三〇
通報の伝達　一五六
通夜　一七一
杖　一七一、一七三
塚　四〇
月　九三、一二四
つきあい　九三、九五
月さまの祭り　二〇四
月に二たて　四五
月見だんご　二
ツキモチ　一五九
ツキモノ　一一八
ツグ　二〇七
机　二〇七
ツクシ　一八四
ツグミ（つぐみ）　四一、一九九、二〇七、二三五
ツグミのかすみ網　四一
ツゲ（つげ、告げ）　九三、一九〇、一九三
つけな　八〇
つげの木　一三五
つけひも　一三五
漬物　八五
漬物石　一四五

辻　101、102、201
辻念仏　101、111
辻の信仰　192
ツジュウダンゴ　150
ツジョウモチ　150
つち　232、235、280
土壁　233
槌棒　151
ツチムグリ　232
ツチンボ　190
ツツゴベエリ　232
ツツ坂越え　151
ツツボ　233
包金　231
ツトッコ　256、280
ツバ（つば）　256、102、121
ツバキ　234、121
つぶししまだ（つぶし島田）　217、221
ツボ　232
つぼみ　186
ツボヤ　180
妻屋根　235
つむじ　214
ツメ切り　152
ツラヌキ　188
つりがね　180、232
ツル　214
鶴亀　202
ツルシ　232
【テ】
手　186
デーガラバシ　170
デーマナク　121
出会い　186
デイ　180、232、235、256、280、282、284、285
デイ境　194
亭主　232
デイシュザシキ　232
デイの柱　235
手踊り　232
手織り　186
テエソク　192
手桶　190
出女　212
出開帳　184
手綱　232
出稼ぎ　235
テガラ　184
手金　184
テザラ　186
第子　121
鉄　186
手甲　217、280
てっこばっこ　280
テッコバッコのうた　214
手ツピラ　202
鉄びん（瓶）　234、194、212
鉄砲　232、234、210、235
鉄砲ぶち（打ち）　234、234、198、235
鉄砲祭り　234
手伝い　186、235
テナシゴデト（でと）　232、235
テト馬車　186
手ぬぐい（手拭）　235、236、238
手拭い踊り　235
手拭かぶり　235
手箱　194
テバタ　192
デブシ　235
出不足　186、235
手間　235
手間カーリ　233
手間くいものテマゲエシ　235
手間賃　235
手土産　186
手ヨキ　186
寺　186、235
寺子屋　186
寺世話人　190、232
寺のご年始　235
寺の世話役　232
寺の普請　235
寺への通知　234
てんぐ　186
テンアゲ　186
テンアゲイワイ　186
天気　235
天気のうらない　214
天狗（さん）　186、192、235
天狗のインダイ松　235
天狗の絵馬　235
天狗の腰掛松　235
天狗松　234
天災よけ　234
天井　234、235
天照皇太神　180
天神講　234、235
天神さま（天神さん、天神様）　234、235、236、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000、1001、1002、1003、1004、1005、1006、1007、1008、1009、1010、1011、1012、1013、1014、1015、1016、1017、1018、1019、1020、1021、1022、1023、1024、1025、1026、1027、1028、1029、1030、1031、1032、1033、1034、1035、1036、1037、1038、1039、1040、1041、1042、1043、1044、1045、1046、1047、1048、1049、1050、1051、1052、1053、1054、1055、1056、1057、1058、1059、1060、1061、1062、1063、1064、1065、1066、1067、1068、1069、1070、1071、1072、1073、1074、1075、1076、1077、1078、1079、1080、1081、1082、1083、1084、1085、1086、1087、1088、1089、1090、1091、1092、1093、1094、1095、1096、1097、1098、1099、1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106、1107、1108、1109、1110、1111、1112、1113、1114、1115、1116、1117、1118、1119、1120、1121、1122、1123、1124、1125、1126、1127、1128、1129、1130、1131、1132、1133、1134、1135、1136、1137、1138、1139、1140、1141、1142、1143、1144、1145、1146、1147、1148、1149、1150、1151、1152、1153、1154、1155、1156、1157、1158、1159、1160、1161、1162、1163、1164、1165、1166、1167、1168、1169、1170、1171、1172、1173、1174、1175、1176、1177、1178、1179、1180、1181、1182、1183、1184、1185、1186、1187、1188、1189、1190、1191、1192、1193、1194、1195、1196、1197、1198、1199、1200、1201、1202、1203、1204、1205、1206、1207、1208、1209、1210、1211、1212、1213、1214、1215、1216、1217、1218、1219、1220、1221、1222、1223、1224、1225、1226、1227、1228、1229、1230、1231、1232、1233、1234、1235、1236、1237、1238、1239、1240、1241、1242、1243、1244、1245、1246、1247、1248、1249、1250、1251、1252、1253、1254、1255、1256、1257、1258、1259、1260、1261、1262、1263、1264、1265、1266、1267、1268、1269、1270、1271、1272、1273、1274、1275、1276、1277、1278、1279、1280、1281、1282、1283、1284、1285、1286、1287、1288、1289、1290、1291、1292、1293、1294、1295、1296、1297、1298、1299、1300、1301、1302、1303、1304、1305、1306、1307、1308、1309、1310、1311、1312、1313、1314、1315、1316、1317、1318、1319、1320、1321、1322、1323、1324、1325、1326、1327、1328、1329、1330、1331、1332、1333、1334、1335、1336、1337、1338、1339、1340、1341、1342、1343、1344、1345、1346、1347、1348、1349、1350、1351、1352、1353、1354、1355、1356、1357、1358、1359、1360、1361、1362、1363、1364、1365、1366、1367、1368、1369、1370、1371、1372、1373、1374、1375、1376、1377、1378、1379、1380、1381、1382、1383、1384、1385、1386、1387、1388、1389、1390、1391、1392、1393、1394、1395、1396、1397、1398、1399、1400、1401、1402、1403、1404、1405、1406、1407、1408、1409、1410、1411、1412、1413、1414、1415、1416、1417、1418、1419、1420、1421、1422、1423、1424、1425、1426、1427、1428、1429、1430、1431、1432、1433、1434、1435、1436、1437、1438、1439、1440、1441、1442、1443、1444、1445、1446、1447、1448、1449、1450、1451、1452、1453、1454、1455、1456、1457、1458、1459、1460、1461、1462、1463、1464、1465、1466、1467、1468、1469、1470、1471、1472、1473、1474、1475、1476、1477、1478、1479、1480、1481、1482、1483、1484、1485、1486、1487、1488、1489、1490、1491、1492、1493、1494、1495、1496、1497、1498、1499、1500、1501、1502、1503、1504、1505、1506、1507、1508、1509、1510、1511、1512、1513、1514、1515、1516、1517、1518、1519、1520、1521、1522、1523、1524、1525、1526、1527、1528、1529、1530、1531、1532、1533、1534、1535、1536、1537、1538、1539、1540、1541、1542、1543、1544、1545、1546、1547、1548、1549、1550、1551、1552、1553、1554、1555、1556、1557、1558、1559、1560、1561、1562、1563、1564、1565、1566、1567、1568、1569、1570、1571、1572、1573、1574、1575、1576、1577、1578、1579、1580、1581、1582、1583、1584、1585、1586、1587、1588、1589、1590、1591、1592、1593、1594、1595、1596、1597、1598、1599、1600、1601、1602、1603、1604、1605、1606、1607、1608、1609、1610、1611、1612、1613、1614、1615、1616、1617、1618、1619、1620、1621、1622、1623、1624、1625、1626、1627、1628、1629、1630、1631、1632、1633、1634、1635、1636、1637、1638、1639、1640、1641、1642、1643、1644、1645、1646、1647、1648、1649、1650、1651、1652、1653、1654、1655、1656、1657、1658、1659、1660、1661、1662、1663、1664、1665、1666、1667、1668、1669、1670、1671、1672、1673、1674、1675、1676、1677、1678、1679、1680、1681、1682、1683、1684、1685、1686、1687、1688、1689、1690、1691、1692、1693、1694、1695、1696、1697、1698、1699、1700、1701、1702、1703、1704、1705、1706、1707、1708、1709、1710、1711、1712、1713、1714、1715、1716、1717、1718、1719、1720、1721、1722、1723、1724、1725、1726、1727、1728、1729、1730、1731、1732、1733、1734、1735、1736、1737、1738、1739、1740、1741、1742、1743、1744、1745、1746、1747、1748、1749、1750、1751、1752、1753、1754、1755、1756、1757、1758、1759、1760、1761、1762、1763、1764、1765、1766、1767、1768、1769、1770、1771、1772、1773、1774、1775、1776、1777、1778、1779、1780、1781、1782、1783、1784、1785、1786、1787、1788、1789、1790、1791、1792、1793、1794、1795、1796、1797、1798、1799、1800、1801、1802、1803、1804、1805、1806、1807、1808、1809、1810、1811、1812、1813、1814、1815、1816、1817、1818、1819、1820、1821、1822、1823、1824、1825、1826、1827、1828、1829、1830、1831、1832、1833、1834、1835、1836、1837、1838、1839、1840、1841、1842、1843、1844、1845、1846、1847、1848、1849、1850、1851、1852、1853、1854、1855、1856、1857、1858、1859、1860、1861、1862、1863、1864、1865、1866、1867、1868、1869、1870、1871、1872、1873、1874、1875、1876、1877、1878、1879、1880、1881、1882、1883、1884、1885、1886、1887、1888、1889、1890、1891、1892、1893、1894、1895、1896、1897、1898、1899、1900、1901、1902、1903、1904、1905、1906、1907、1908、1909、1910、1911、1912、1913、1914、1915、1916、1917、1918、1919、1920、1921、1922、1923、1924、1925、1926、1927、1928、1929、1930、1931、1932、1933、1934、1935、1936、1937、1938、1939、1940、1941、1942、1943、1944、1945、1946、1947、1948、1949、1950、1951、1952、1953、1954、1955、1956、1957、1958、1959、1960、1961、1962、1963、1964、1965、1966、1967、1968、1969、1970、1971、1972、1973、1974、1975、1976、1977、1978、1979、1980、1981、1982、1983、1984、1985、1986、1987、1988、1989、1990、1991、1992、1993、1994、1995、1996、1997、1998、1999、2000、2001、2002、2003、2004、2005、2006、2007、2008、2009、2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016、2017、2018、2019、2020、2021、2022、2023、2024、2025、2026、2027、2028、2029、2030、2031、2032、2033、2034、2035、2036、2037、2038、2039、2040、2041、2042、2043、2044、2045、2046、2047、2048、2049、2050、2051、2052、2053、2054、2055、2056、2057、2058、2059、2060、2061、2062、2063、2064、2065、2066、2067、2068、2069、2070、2071、2072、2073、2074、2075、2076、2077、2078、2079、2080、2081、2082、2083、2084、2085、2086、2087、2088、2089、2090、2091、2092、2093、2094、2095、2096、2097、2098、2099、2100、2101、2102、2103、2104、2105、2106、2107、2108、2109、2110、2111、2112、2113、2114、2115、2116、2117、2118、2119、2120、2121、2122、2123、2124、2125、2126、2127、2128、2129、2130、2131、2132、2133、2134、2135、2136、2137、2138、2139、2140、2141、2142、2143、2144、2145、2146、2147、2148、2149、2150、2151、2152、2153、2154、2155、2156、2157、2158、2159、2160、2161、2162、2163、2164、2165、2166、2167、2168、2169、2170、2171、2172、2173、2174、2175、2176、2177、2178、2179、2180、2181、2182、2183、2184、2185、2186、2187、2188、2189、2190、2191、2192、2193、2194、2195、2196、2197、2198、2199、2200、2201、2202、2203、2204、2205、2206、2207、2208、2209、2210、2211、2212、2213、2214、2215、2216、2217、2218、2219、2220、2221、2222、2223、2224、2225、2226、2227、2228、2229、2230、2231、2232、2233、2234、2235、2236、2237、2238、2239、2240、2241、2242、2243、2244、2245、2246、2247、2248、2249、2250、2251、2252、2253、2254、2255、2256、2257、2258、2259、2260、2261、2262、2263、2264、2265、2266、2267、2268、2269、2270、2271、2272、2273、2274、2275、2276、2277、2278、2279、2280、2281、2282、2283、2284、2285、2286、2287、2288、2289、2290、2291、2292、2293、2294、2295、2296、2297、2298、2299、2300、2301、2302、2303、2304、2305、2306、2307、2308、2309、2310、2311、2312、2313、2314、2315、2316、2317、2318、2319、2320、2321、2322、2323、2324、2325、2326、2327、2328、2329、2330、2331、2332、2333、2334、2335、2336、2337、2338、2339、2340、2341、2342、2343、2344、2345、2346、2347、2348、2349、2350、2351、2352、2353、2354、2355、2356、2357、2358、2359、2360、2361、2362、2363、2364、2365、2366、2367、2368、2369、2370、2371、2372、2373、2374、2375、2376、2377、2378、2379、2380、2381、2382、2383、2384、2385、2386、2387、2388、2389、2390、2391、2392、2393、2394、2395、2396、2397、2398、2399、2400、2401、2402、2403、2404、2405、2406、2407、2408、2409、2410、2411、2412、2413、2414、2415、2416、2417、2418、2419、2420、2421、2422、2423、2424、2425、2426、2427、2428、2429、2430、2431、2432、2433、2434、2435、2436、2437、2438、2439、2440、2441、2442、2443、2444、2445、2446、2447、2448、2449、2450、2451、2452、2453、2454、2455、2456、2457、2458、2459、2460、2461、2462、2463、2464、2465、2466、2467、2468、2469、2470、2471、2472、2473、2474、2475、2476、2477、2478、2479、2480、2481、2482、2483、2484、2485、2486、2487、2488、2489、2490、2491、2492、2493、2494、2495、2496、2497、2498、2499、2500、2501、2502、2503、2504、2505、2506、2507、2508、2509、2510、2511、2512、2513、2514、2515、2516、2517、2518、2519、2520、2521、2522、2523、2524、2525、2526、2527、2528、2529、2530、2531、2532、2533、2534、2535、2536、2537、2538、2539、2540、2541、2542、2543、2544、2545、2546、2547、2548、2549、2550、2551、2552、2553、2554、2555、2556、2557、2558、2559、2560、2561、2562、2563、2564、2565、2566、2567、2568、2569、2570、2571、2572、2573、2574、2575、2576、2577、2578、2579、2580、2581、2582、2583、2584、2585、2586、2587、2588、2589、2590、2591、2592、2593、2594、2595、2596、2597、2598、2599、2600、2601、2602、2603、2604、2605、2606、2607、2608、2609、2610、2611、2612、2613、2614、2615、2616、2617、2618、2619、2620、2621、2622、2623、2624、2625、2626、2627、2628、2629、2630、2631、2632、2633、2634、2635、2636、2637、2638、2639、2640、2641、2642、2643、2644、2645、2646、2647、2648、2649、2650、2651、2652、2653、2654、2655、2656、2657、2658、2659、2660、2661、2662、2663、2664、2665、2666、2667、2668、2669、2670、2671、2672、2673、2674、2675、2676、2677、2678、2679、2680、2681、2682、2683、2684、2685、2686、2687、2688、2689、2690、2691、2692、2693、2694、2695、2696、2697、2698、2699、2700、2701、2702、2703、2704、2705、2706、2707、2708、2709、2710、2711、2712、2713、2714、2715、2716、2717、2718、2719、2720、2721、2722、2723、2724、2725、2726、2727、2728、2729、2730、2731、2732、2733、2734、2735、2736、2737、2738、2739、2740、2741、2742、2743、2744、2745、2746、2747、2748、2749、2750、2751、2752、2753、2754、2755、2756、2757、2758、2759、2760、2761、2762、2763、2764、2765、2766、2767、2768、2769、2770、2771、2772、2773、2774、2775、2776、2777、2778、2779、2780、2781、2782、2783、2784、2785、2786、2787、2788、2789、2790、2791、2792、2793、2794、2795、2796、2797、2798、2799、2800、2801、2802、2803、2804、2805、2806、2807、2808、2809、2810、2811、2812、2813、2814、2815、2816、2817、2818、2819、2820、2821、2822、2823、2824、2825、2826、2827、2828、2829、2830、2831、2832、2833、2834、2835、2836、2837、2838、2839、2840、2841、2842、2843、2844、2845、2846、2847、2848、2849、2850、2851、2852、2853、2854、2855、2856、2857、2858、2859、2860、2861、2862、2863、2864、2865、2866、2867、2868、2869、2870、2871、2872、2873、2874、2875、2876、2877、2878、2879、2880、2881、2882、2883、2884、2885、2886、2887、2888、2889、2890、2891、2892、2893、2894、2895、2896、2897、2898、2899、2900、2901、2902、2903、2904、2905、2906、2907、2908、2909、2910、2911、2912、2913、2914、2915、2916、2917、2918、2919、2920、2921、2922、2923、2924、2925、2926、2927、2928、2929、2930、2931、2932、2933、2934、2935、2936、2937、2938、2939、2940、2941、2942、2943、2944、2945、2946、2947、2948、2949、2950、2951、2952、2953、2954、2955、2956、2957、2958、2959、2960、2961、2962、2963、2964、2965、2966、2967、2968、2969、2970、2971、2972、2973、2974、2975、2976、2977、2978、2979、2980、2981、2982、2983、2984、2985、2986、2987、2988、2989、2990、2991、2992、2993、2994、2995、2996、2997、2998、2999、3000、3001、3002、3003、3004、3005、3006、3007、3008、3009、3010、3011、3012、3013、3014、3015、3016、3017、3018、3019、3020、3021、3022、3023、3024、3025、3026、3027、3028、3029、3030、3031、3032、3033、3034、3035、3036、3037、3038、3039、3040、3041、3042、3043、3044、3045、3046、3047、3048、3049、3050、3051、3052、3053、3054、3055、3056、3057、3058、3059、3060、3061、3062、3063、3064、3065、3066、3067、3068、3069、3070、3071、3072、3073、3074、3075、3076、3077、3078、3079、3080、3081、3082、3083、3084、3085、3086、3087、3088、3089、3090、3091、3092、3093、3094、3095、3096、3097、3098、3099、3100、3101、3102、3103、3104、3105、3106、3107、3108、3109、3110、3111、3112、3113、3114、3115、3116、3117、3118、3119、3120、3121、3122、3123、3124、3125、3126、3127、3128、3129、3130、3131、3132、3133、3134、3135、3136、3137、3138、3139、3140、3141、3142、3143、3144、3145、3146、3147、3148、3149、3150、3151、3152、3153、3154、3155、3156、3157、3158、3159、3160、3161、3162、3163、3164、3165、3166、3167、3168、3169、3170、3171、3172、3173、3174、3175、3176、3177、3178、3179、3180、3181、3182、3183、3184、3185、3186、3187、3188、3189、3190、3191、3192、3193、3194、3195、3196、3197、3198、3199、3200、3201、3202、3203、3204、3205、3206、3207、3208、3209、3210、3211、3212、3213、3214、3215、3216、3217、3218、3219、3220、3221、3222、3223、3224、3225、3226、3227、3228、3229、3230、3231、3232、3233、3234、3235、3236、3237、3238、3239、3240、3241、3242、3243、3244、3245、3246、3247、3248、3249、3250、3251、3252、3253、3254、3255、3256、3257、3258、3259、3260、3261、3262、3263、3264、3265、3266、3267、3268、3269、3270、3271、3272、3273、3274、3275、3276、3277、3278、3279、3280、3281、3282、3283、3284、3285、3286、3287、3288、3289、3290、3291、3292、3293、3294、3295、3296、3297、3298、3299、3300、3301、3302、3303、3304、3305、3306、3307、3308、3309、3310、3311、3312、3313、3314、3315、3316、3317、3318、3319、3320、3321、3322、3323、3324、3325、3326、3327、3328、3329、3330、3331、3332、3333、3334、3335、3336、3337、3338、3339、3340、3341、3342、3343、3344、3345、3346、3347、3348、3349、3350、3351、3352、3353、3354、3355、3356、3357、3358、3359、3360、3361、3362、3363、3364、3365、3366、3367、3368、3369、3370、3371、3372、3373、3374、3375、3376、3377、3378、3379、3380、3381、3382、3383、3384、3385、3386、3387、3388、3389、3390、3391、3392、3393、3394、3395、3396、3397、3398、3399、3400、3401、3402、3403、3404、3405、3406、3407、3408、3409、3410、3411、3412、3413、3414、3415、3416、3417、3418、3419、3420、3421、3422、3423、3424、3425、3426、3427、3428、3429、3430、3431、3432、3433、3434、3435、3436、3437、3438、3439、3440、3441、3442、3443、3444、3445、3446、3447、3448、3449、3450、3451、3452、3453、3454、3455、3456、3457、3458、3459、3460、3461、3462、3463、3464、3465、3466、3467、3468、3469、3470、3471、3472、3473、3474、3475、3476、3477、3478、3479、3480、3481、3482、3483、3484、3485、3486、3487、3488、3489、3490、3491、3492、3493、3494、3495、3496、3497、3498、3499、3500、3501、3502、3503、3504、3505、3506、3507、3508、3509、3510、3511、3512、3513、3514、3515、3516、3517、3518、3519、3520、3521、3522、3523、3524、3525、3526、3527、3528、3529、3530、3531、3532、3533、3534、3535、3536、3537、3538、3539、3540、3541、3542、3543、3544、3545、3546、3547、3548、3549、3550、3551、3552、3553、3554、3555、3556、3557、3558、3559、3560、3561、3562、3563、3564、3565、3566、3567、3568、3569、3570、3571、3572、3573、3574、3575、3576、3577、3578、3579、3580、3581、3582、3583、3584、3585、3586、3587、3588、3589、3590、3591、3592、3593、3594、3595、3596、3597、3598、3599、3600、3601、3602、3603、3604、3605、3606、3607、3608、3609、3610、3611、3612、3613、3614、3615、3616、3617、3618、3619、3620、3621、3622、3623、3624、3625、3626、3627、3628、3629、3630、3631、3632、3633、3634、3635、3636、3637、3638、3639、3640、3641、3642、3643、3644、3645、3646、3647、3648、3649、3650、3651、3652、3653、3654、3655、3656、3657、3658、3659、3660、3661、3662、3663、3664、3665、3666、3667、3668、3669、3670、3671、3672、3673、3674、3675、3676、3677、3678、3679、3680、3681、3682、3683、3684、3685、3686、3687、3688、3689、3690、3691、3692、3693、3694、3695、3696、3697、3698、3699、3700、3701、3702、3703、3704、3705、3706、3707、3708、3709、3710、3711、3712、3713、3714、3715、3716、3717、3718、3719、3720、3721、3722、3723、3724、3725、3726、3727、3728、3729、3730、3731、3732、3733、3734、3735、3736、3737、3738、3739、3740、3741、3742、3743、3744、3745、3746、3747、3748、3749、3750、3751、3752、3753、3754、3755、3756、3757、3758、3759、3760、3761、3762、3763、3764、3765、3766、3767、3768、3769、3770、3771、3772、3773、3774、3775、3776、3777、3778、3779、3780、3781、3782、3783、3784、3785、3786、3787、3788、3789、3790、3791、3792、3793、3794、3795、3796、3797、3798、3799、3800、3801、3802、3803、3804、3805、3806、3807、3808、3809、3810、3811、3812、3813、3814、3815、3816、3817、3818、3819、3820、3821、3822、3823、3824、3825、3826、3827、3828、3829、3830、3831、3832、3833、3834、3835、3836、3837、3838、3839、3840、3841、3842、3843、3844、3845、3846、3847、3848、3849、3850、3851、3852、3853、3854、3855、3856、3857、3858、3859、3860、3861、3862、3863、3864、3865、3866、3867、3868、3869、3870、3871、3872、3873、3874、3875、3876、3877、3878、3879、3880、3881、3882、3883、3884、3885、3886、3887、3888、3889、3890、3891、3892、3893、3894、3895、3896、3897、3898、3899、3900、3901、3902、3903、3904、3905、3906、3907、3908、3909、3910、3911、3912、3913、3914、3915、3916、3917、3918、3919、3920、3921、3922、3923、3924、3925、3926、3927、3928、3929、3930、3931、3932、3933、3934、3935、3936、3937、3938、3939、3940、3941、3942、3943、3944、3945、3946、3947、3948、3949、3950、3951、3952、3953、3954、3955、3956、3957、3958、3959、3960、3961、3962、3963、3964、3965、3966、3967、3968、3969、3970、3971、3972、3973、3974、3975、3976、3977、3978、3979、3980、3981、3982、3983、3984、3985、3986、3987、3988、3989、3990、3991、3992、3993、3994、3995、3996、3997、3998、3999、4000、4001、4002、4003、4004、4005、4006、4007、4008、4009、4010、4011、4012、4013、4014、4015、4016、4017、4018、4019、4020、4021、4022、4023、4024、4025、4026、4027、4028、4029、4030、4031、4032、4033、4034、4035、4036、4037、4038、4039、4040、4041、4042、4043、4044、4045、4046、4047、4048、4049、4050、4051、4052、4053、4054、4055、4056、4057、4058、4059、4060、4061、4062、4063、4064、4065、4066、4067、4068、4069、4070、4071、4072、4073、4074、4075、4076、4077、4078、4079、4080、4081、4082、4083、4084、4085、4086、4087、4088、4089、4090、4091、4092、4093、4094、4095、4096、4097、4098、4099、4100、4101、4102、4103、4104、4105、4106、4107、4108、4109、4110、4111、4112、4113、4114、4115、4116、4117、4118、4119、4120、4121、4122、4123、4124、4125、4126、4127、4128、4129、4130、4131、4132、4133、4134、4135、4136、4137、4138、4139、4140、4141、4142、4143、4144、4145、4146、4147、4148、4149、4150、4151、4152、4153、4154、4155、4156、4157、4158、4159、4160、4161、4162、4163、4164、4165、4166、4167、4168、4169、4170、4171、4172、4173、4174、4175、4176、4177、4178、4179、4180、4181、4182、4183、4184、4185、4186、4187、4188、4189、4190、4191、4192、4193、4194、4195、4196、4197、4198、4199、4200、4201、4202、4203、4204、4205、4206、4207、4208、4209、4210、4211、4212、4213、4214、4215、4216、4217、4218、4219、4220、4221、4222、4223、4224、4225、4226、4227、4228、4229、4230、4231、4232、4233、4234、4235、4236、4237、4238、4239、4240、4241、4242、4243、4244、4245、4246、4247、4248、4249、4250、4251、4252、4253、4254、4255、4256、4257、4258、4259、4260、4261、4262、4263、4264、4265、4266、4267、4268、4269、4270、4271、4272、4273、4274、4275、4276、4277、4278、4279、4280、4281、4282、4283、4284、4285、4286、4287、4288、4289、4290、4291、4292、4293、4294、4295、4296、4297、4298、4299、4300、4301、4302、4303、4304、4305、4306、4307、4308、4309、4310、4311、4312、4313、4314、4315、4316、4317、4318、4319、4320、4321、4322、4323、4324、4325、4326、4327、4328、4329、4330、4331、4332、4333、4334、4335、4336、4337、4338、4339、4340、4341、4342、4343、4344、4345、4346、4347、4348、4349、4350、4351、4352、4353、4354、4355、4356、4357、4358、4359、4360、4361、4362、4363、4364、4365、4366、4367、4368、4369、4370、4371、4372、4373、4374、4375、4376、4377、4378、4379、4380、4381、4382、4383、4384、4385、4386、4387、4388、4389、4390、4391、4392、4393、4394、4395、4396、4397、4398、4399、4400、4401、4402、4403、4404、4405、4406、4407、4408、4409、4410、4411、4412、4413、4414、4415、4416、4417、4418、4419、4420、4421、4422、4423、4424、4425、4426、4427、4428、4429、4430、4431、4432、4433、4434、4435、4436、4437、4438、4439、4440、4441、4442、4443、4444、4445、4446、4447、4448、4449、4450、4451、4452、4453、4454、4455、4456、4457、4458、4459、4460、4461、4462、4463、4464、4465、4466、4467、4468、4469、4470、4471、4472、4473、4474、4475、4476、4477、4478、4479、4480、4481、4482、4483、4484、4485、4486、4487、4488、4489、4490、4491、4492、4493、4494、4495、4496、4497、4498、4499、4500、4501、4502、4503、4504、4505、4506、4507、4508、4509、4510、4511、4512、4513、4514、4515、4516、4517、4518、4519、4520、4521、4522、4523、4524、4525、4526、4527、4528、4529、4530、4531、4532、4533、4534、4535、4536、4537、4538、4539、4540、4541、4542、4543、4544、4545、4546、4547、4548、4549、4550、4551、4552、4553、4554、4555、4556、4557、4558、4559、4560、4561、4562、4563、4564、4565、4566、4567、4568、4569、4570、4571、4572、4573、4574、4575、4576、4577、4578、4579、4580、4581、4582、4583、4584、4585、4586、4587、4588、4589、4590、4591、4592、4593、4594、4595、4596、4597、4598、4599、4600、4601、4602、4603、4604、4605、4606、4607、4608、4609、4610、4611、4612、4613、4614、4615、4616、4617、4618、4619、4620、4621、4622、4623、4624、4625、4626、4627、4628、4629、4630、4631、4632、4633、4634、4635、4636、4637、4638、4639、4640、4641、4642、4643、4644、4645、4646、4647、4648、4649、4650、4651、4652、4653、4654、4655、4656、4657、4658、4659、4660、4661、4662、4663、4664、4665、4666、4667、4668、4669、4670、4671、4672、4673、4674、4675、4676、4677、4678、4679、4680、4681、4682、4683、4684、4685、4686、4687、4688、4689、4690、4691、4692、4693、4694、4695、4696、4697、4698、4699、4700、4701、4702、4703、4704、4705、4706、4707、4708、4709、4710、4711、4712、4713、4714、4715、4716、4717、4718、4719、4720、4721、4722、4723、4724、4725、4726、4727、4728、4729、4730、4731、4732、4733、4734、4735、4736、4737、4738、4739、4740、4741、4742、4743、4744、4745、4746、4747、4748、4749、4750、4751、4752、4753、4754、4755、4756、4757、4758、4759、4760、4761、4762、4763、4764、4765、4766、4767、4768、4769、4770、4771、4772、4773、4774、4775、4776、4777、4778、4779、4780、4781、4782、4783、4784、4785、4786、4787、4788、4789、4790、4791、4792、4793、4794、4795、4796、4797、4798、4799、4800、4801、4802、4803、4804、4805、4806、4807、4808、4809、4810、4811、4812、4813、4814、4815、4816、4817、4818、4819、4820、4821、4822、4823、4824、4825、4826、4827、4828、4829、4830、4831、4832、4833、4834、4835、4836、4837、4838、4839、4840、4841、4842、4843、4844、4845、4846、4847、4848、4849、4850、4851、4852、4853、4854、4855、4856、4857、4858、4859、4860、4861、4862、4863、4864、4865、4866、4867、4868、4869、4870、4871、4872、4873、4874、4875、4876、4877、4878、4879、4880、4881、4882、4883、4884、4885、4886、4887、4888、4889、4890、4891、4892、4893、4894、4895、4896、4897、4898、4899、4900、4901、4902、4903、4904、4905、4906、4907、4908、4909、4910、4911、4912、4913、4914、4915、4916、4917、4918、4919、4920、4921、4922、4923、4924、4925、4926、4927、4928、4929、4930、4931、4932、4933、4934、4935、4936、4937、4938、4939、4940、4941、4942、4943、4944、4945、4946、4947、4948、4949、4950、4951、4952、4953、4954、4955、4956、4957、4958、4959、4960、4961、4962、4963、4964、4965、4966、4967、4968、4969、4970、4971、4972、4973、4974、4975、4976、4977、4978、4979、4980、4981、4982、4983、4984、4985、4986、4987、4988、4989、4990、4991、4992、4993、4994、4995、4996、4997、4998、4999、5000、5001、5002、5003、5004、5005、5006、5007、5008、5009、5010、5011、5012、5013、5014、5015、5016、5017、5018、5019、5020、5021、5022、5023、5024、5025、5026、5027、5028、5029、5030、5031、5032、5033、5034、5035、5036、5037、5038、5039、5040、5041、5042、5043、5044、5045、5046、5047、5048、5049、5050、5051、5052、5053、5054、5055、5056、5057、5058、5059、5060、5061、5062、5063、5064、5065、5066、5067、5068、5069、5070、5071、5072、5073、5074、5075、5076、5077、5078、5079、5080、5081、5082、5083、5084、5085、5086、5087、5088、5089、5090、5091、5092、5093、5094、5095、5096、5097、5098、5099、5100、5101、5102、5103、5104、5105、5106、5107、5108、5109、5110、5111、5112、5113、5114、5115、5116、5117、5118、5119、5120、5121、5122、5123、5124、5125、5126、5127、5128、5129、5130、5131、5132、5133、5134、5135、5136、5137、5138、5139、5140、5141、5142、5143、5144、5145、5146、5147、5148、5149、5150、5151、5152、5153、5154、5155、5156、5157、5158、5159、5160、5161、5162、5163、5164、5165、5166、5167、5168、5169、5170、5171、5172、5173、5174、5175、5176、5177、5178、5179、5180、5181、5182、5183、5184、5185、5186、5187、5188、5189、5190、5191、5192、5193、5194、5195、5196、5197、5198、5199、5200、5201、5202、5203、5204、5205、5206、5207、5208、5209、5210、5211、5212、5213、5214、5215、5216、5217、5218、5219、5220、5221、5222、5223、5224、5225、5226、5227、5228、5229、5230、5231、5232、5233、5234、5235、5236、5237、5238、5239、5240、5241、5242、5243、5244、5245、5246、5247、5248、5249、5250、5251、5252、5253、5254、5255、5256、5257、5258、5259、5260、5261、5262、5263、5264、5265、5266、5267、5268、5269、5270、5271、5272、5273、5274、5275、5276、5277、5278、5279、5280、5281、5282、5283、5284、5285、5286、5287、5288、5289、5290、5291、5292、5293、5294、5295、5296、5297、5298、5299、5300、5301、5302、5303、5304、5305、5306、5307、5308、5309、5310、5311、5312、5313、5314、5315、5316、5317、5318、5319、5320、5321、5322、5323、5324、5325、5326、5327、5328、5329、5330、5331、5332、5333、5334、5335、5336、5337、5338、5339、5340、5341、5342、5343、5344、5345、5346、5347、5348、5349、5350、5351、5352、5353、5354、5355、5356、5357、5358、5359、5360、5361、5362、5363、5364、5365、5366、5367、5368、5369、5370、5371、5372、5373、5374、5375、5376、5377、5378、5379、5380、5381、5382、5383、5384、5385、5386、5387、5388、5389、5390、5391、5392、5393、5394、5395、5396、5397、5398、5399、5400、5401、5402、5403、5404、5405、5406、5407、5408、5409、5410、5411、5412、5413、5414、5415、5416、5417、5418、5419、5420、5421、5422、5423、5424、5425、5426、5427、5428、5429、5430、5431、5432、5433、5434、5435、5436、5437、5438、5439、5440、5441、5442、5443、5444、5445、5446、5447、5448、5449、5450、5451、5452、5453、5454、5455、5456、5457、5458、5459、5460、5461、5462、5463、5464、5465、5466、5467、5468、5469、5470、5471、5472、5473、5474、5475、5476、5477、5478、5479、5480、5481、5482、5483、5484、5485、5486、5487、5488、5489、5490、5491、5492、5493、5494、5495、5496、5497、5498、5499、5500、5501、5502、5503、5504、5505、5506、5507、5508、5509、5510、5511、5512、

伝染病　一〇九
電灯　一六六
伝統音楽　三六、一二七
天道様　一四二
天道様の祭り　一七六、一九二
天道念仏　一七六
天王さま（様）　一〇、五五、七四、七五、八三、一一四、一三一、一九七
天王様のみこし　一九七
天皇陛下　六九
天王祭　一七八、一九七
テンパー　一三五
天秤　一五五
てんびん棒　五一
てんぷら　八七、二〇四
デンポウ　一五六
天保銭　六八、六九
天保の改革　一三四
天保の飢饉　一三四
テンマツリ（天祭り）　六〇、七六、九六、一二五、一七六、一九二、一九五
テンマツリ当番　一九二
天祭りの日　八六
てんまる　四一
天満堂　一七一
天明の飢饉　一〇一
電話　一二〇

【ト】

堂　一〇四、一七一
トウイモ　一九
東海マブシ　四三
十日夜　一〇、六九、七七、七八、一二七、一四〇、一八九、二〇六、二〇七、二一一
十日夜のうた　一二七
十日夜の唱え言　二〇七
十日夜餅　二〇七
ドウギ（胴着）　二一
トウキビの粉　一三
トウキミ　六五
同級生　一六五
東京大震災　二〇五
トウグワ（唐ぐわ）　一九、一七二
峠　二一四
トウザイッコ　四四
冬至　一一、一七六、一八九、一九〇、二〇九
同志会　五九、七〇、一五四
トウジザル　五一
トウジッペ　二三五
冬至十日　二〇九
冬至トウナス（冬至トーナス、冬至とうなす）　一一、二〇九
冬至の神　二〇八
冬至の日　一八九
冬至の水　二〇九
ドウシャンボウ　五四
土臼　二九
同姓　六四
東禅寺　二一〇
同族関係　六四
同族の結合　六四
道祖神　九六、一八八
道祖神祭　一五三
道祖神祠　一五三
トウダイギ　二九
東沢寺本尊縁起　九九
トウチャン　二三六
道中の小遣銭　一四〇
ドウヅキ　一九
トウナス（とうなす）　一一、六三、一二七、二〇〇、二〇四、二〇九
盗難よけ　二〇九
トウヌキムシ　二一八
ドウノノコ　二三
塔婆　一七三、一九五
当番　一五六、六〇、九八、一七三、一八八、一九六
当番制　一五六
投票　一五六
トーフ（とうふ、豆腐）　一九、一九二、二〇一
動物禁忌　六四
動物のうた　一三六
豆腐のから　五〇
トウフのスミキリ　一九一
トウミギ　一二〇
灯明　一二九、一六二、一九五、一九七
トウムギ　一九
トウモロコシ（トーモロコシ、とうもろこし）　一一、一九、四〇、六四、六五、一六一、二〇〇、二〇四
トーモロコシ畑　四〇
トウリユウモトさん　一八
同齢感覚　五九、六〇
道路普請　一六五
ドウロクジン（道陸神、道ろく神さん、道陸神さま）　五五、九七、一〇六、一〇七、一五一
トカゲ　三五
土方　二一八
土釜　一六九
トキ（鍋）　二〇七
読経　一七一
徳川時代の村　五五
徳川将軍　二一四
毒消　五三
毒消し売り　五三
ドクダミ　一〇六
毒ぬき　一〇六
トコ　二二六、二四〇、二四四、二四五、二四六
床入れの式　一六〇
床の間　八七、九九、一九九、一二五、一二八、一八五、二〇八、二一〇、二二五
トコホリ　一七一、一七二
トコホリの役　一七二
トコロ　一六、一七
年祝い　一一、一四五
年男　一九九、一九六
年神　一七六、一九九、一八二、一八五、一八六、一八九、二一〇

年神さま（年神様、歳神さま） 八四、一四七、一七六、一八一、一八三、一八四、一八五、一八七、一八八、一八九、一九〇
歳神様のオタナ 一八八
年神大神のお札 一八二
年神（の）棚 一七八、一八〇、一八五、一八六
トシコシ（年越し） 一八〇、一八九
年越の晩 一〇八、二〇九
年こしの豆（年越の豆） 二四、二五、一九〇
トシコシの夜 一九〇
トシトリ（としとり） 一一、一八九
としとりの豆 二一四、二一五
年廻り 二五五
としより（年寄り、年老り） 二、三五、四三、九九、六六、九九、一四五、一四八、一五一、一五四、一六八、一九九、二〇〇、二〇八、二三三
トズルーリ 二三三
土葬 六二、一四二
土台 二三九、二四六
土台石 二一四
トダナ 二三八、二四〇、二四四、二四四
トタン 二三九
トタン屋根 一九五
トチ 一六六
土地 六四
土地改正 八六
土地がら 一六八
栃木 五三、一五五
トチッカユ 一六六
トチの実 一、一六
とっとき 二二
トッピ 六六
唱え言 一八四
となりぐみ（隣り組、隣組） 二〇、一五八、二三三、二四四
隣組長 五六
隣三軒の便所 一四七
隣の組合 一四三
殿様 六六
ドブロク 七七
トボウ 三三、一二五、一七〇
トボグチ（トボロ、トボーロ、トボーグチ、とぶロ） 八四、一〇一、一〇八、一四六、一五一、一五四、一五八、一五九、一六〇、一九一、二〇八、二三一、二三三、二三九
トボッツアキ 二〇八
土間 二三八、二四六
トマト 一七〇
トマリソメ（とまりぞめ、泊りそめ） 一五七、一六〇
泊まり山 三四、八五
富岡 四三
富田 五三
トメ袖 一五九
トメヤ 三八、四〇
友引 一七一
友引の日 一三〇、一七〇
富山 五三
富山の置き薬 六九
富山のくすり屋（薬屋） 五二
土用 一四五、二三五、一六〇、一七〇
土用入り 九三
土用の入り口 一九七
土用念仏 一〇一
土用干し 二
豊受姫 五五
豊臣秀吉 七
トラック 五六
トラ年（とらどし） 三三、二三〇
トラの日（とらの日） 一三〇、一四〇、一七一
トラバサミ 四一
鳥 四〇
トリアゲバアサン（取りあげばあさん） 一四四、一四五、一四七、一四九
取り上げ婆さんの碑 一四五
トリアゲ孫 一四六
鳥居 一四八、一六八
取入れ 一七九
とり入り感謝 九九
トリカブト 一二〇
とりしまり 五五
トリマンガ 四〇
トリムスビ 五七
取り結びの式 五九
トロ 三三
とろいも 一四八
ドロッカブリ 一四
トロロ飯 一八〇
ドンドンヤキ（ドント焼き） 一五一、一七八、一八五
とんぼ 一五七
とんぼのうた 一五七
問屋 五六、四五
呑竜坊主 一四九

【ナ】

ナ（な、菜） 八、三一、一八五、一八四、一九〇、一九九
内職 四五
内緒の金 六六
内臓 二〇七
ナオシ 三、三七、四五
ナオッタ 六五
ナオライ（なおらい、直会） 八四、一九三、一九四
中祝い 三
長い話 八〇
ナガイワ 二三
長着 五〇
ナカグンチ（中グンチ） 二〇五
ナカザ（中座） 九五
長竿 一五九
ナガシ 一六八、二三一、二三五
長襦袢 三二、一五三
中立人 一五六
ナカトリ 一六〇
仲間 五九、九四、一九一
長持 一三二、一三四、一六六
永山熊蔵 一三
流れ灌頂 一七八
ナガレゴ 一四七

長脇差 二二九
泣きぼくろ 一一〇
泣く子 二二四
ナグサッタビ 五
なくしもの 二二四
ナゲ 二三五
ナゲシ（長押） 一九〇、二三六
仲人 六二、一三五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六五、二一〇
仲人親 六六
仲人結婚 一五六
仲人三年 一六五
仲人との交際 一六六
仲人のナナデンボウ 一五六
仲人ばあさん 一五八
仲人披露 一五六
仲人夫婦 一五九
仲人孫 一六五
仲人礼 一六五
ナコウドン 一五六
ナシ 二〇〇、二〇四
ナス（なす） 一九〇、一九七、一九九、二〇〇、二〇一、二〇五
ナズナ 一九三、一八四、一九四
ナズナ取り 一九三
謎 二三一
なた 一六九、一八八
名付け 二三〇
名づけ親（名付親） 六六、二三〇
名づけの祝い 二三〇

夏ゴ 三一
ナツヅキ 二〇四
納豆 三二
夏のおまつり 七四
夏の土用 一〇三
夏の火燃し 二二四
菜っ葉 一七六
夏負け 一〇三
夏やせ 二〇九
七色のもの 八〇
ナナクサ（七草） 一九三、一八四、二〇四
七草ガユ（がゆ、げえ） 一八二、一八三、一八四
七草講中 七七
ナナクサナズナセリタタキ 一九三
七草の祈祷 二〇五
ナナコ 四四
七才 二三三
七つ石 二二三
ナナデンボウ 一五六
七晩げ 一九七
七へんげえし 一七四
ナニヤブシ 五四
名主 二〇、五六、二三一
七日がえり 三一
七日供養 一三五
七日ざらし 二一、一三五
七日の絰 一三三
七日の膳 一三三、一三五
菜畑 一九八

ナベ（鍋） 一〇三、一六九、二三五
鍋足 二三三
なべ火事 二一四
なべずみ 二一四、二二一
生いか 一四七
名前 一四七、二二一
ナマグサ 八六、八八、九三、九四
なまぐさなし 八二
ナマグサモノ 一七四
並の腕 八四
ナミノハナ（波の花） 二一、九四、一七四
南無阿弥陀仏 六二、一七四、一七五
納屋 一二七、二三〇
ナラ（なら） 二三、三五、三六、二〇八
ナラの木（ならの木） 一八二、二〇九、二二一
並ぶ 一五五
成り木責め 一八八
ナリクラ 七七
成田山 一五三
成田不動 一五三
ナリモノの木 一八八
鳴神様 九四
鳴神山 七三、一三六、一七九、一九四、一九六、一九八、二〇六
鳴神山神社 一七九
雷神岳神社 七三、一三五
鳴神山の雷岳神社 一四四
なる木ぜめのうた（唄） 一三六、一四一
ナレアイ（なれあい） 一五四、一五六

なわ（縄） 三一、三五、六三、二〇六、二〇八
苗代 三一
縄ない 一六九
なわない仕事 一五四
南京袋 五一
南京米 四九
なんぞのきまり 二二四
男体 三一
男体山 七七
南天の葉 一六六
ナンド（納戸） 一四三、一四五、一四八、一六八、一七〇、二〇八、二三九、二三〇、二三八、二三四、二三五、二三六

【ニ】

新潟 三三、二二九
新がたのうまれ 六六
荷置き場 五一
二階 二二三
ニガッパヤ 一四
二月八日 二三一
肉 一〇四
荷鞍 五二、一八三
荷車 三五、三六、三七、四九、五〇、一八三
荷車ひき 四九、五一、一八三
ニケ（コ） 二二三
にこみ（煮こみ） 八、九四
二才 五八
二歳子 一五〇
二三男分家 六二
西陣技術 二二一

西陣の織師 二三二
ニシメ（にしめ） 一三、一〇〇、二〇四
ニシメの晩 二〇四
二十五 一五三、一八三
二十三回忌 一七五
二十三夜 九二
二十三夜講 九二
二十三夜様 六一
二十三夜まち 九二
二十七回忌 一七五
にしん 九
煮たき 一九八
日曜日 一七八
日露戦争 一八、四七、五一、一〇四、二一七
入棺 一七〇
荷付ニンバ 五一
日光 四〇、六八、一一五
日光の神さま 一三一
日清戦争 一八、一一三
日清日露の両戦役 一一三
新田義貞 二一四
二男坊 六四
二百十日 二〇四
二百二十日 二〇四
日本刀 二〇七
二毛田 二七
入村手続 六二
入道 一一七
入道窪 一一七
入道ックボ 二三二
入梅の時期 二三六
入猟金 四〇
ニョー草 三一
にょうはち 一七一
女人禁制 七五
ニラ 一三
ニラモチ 一三
庭 一六五、一六九、一七三
ニワガケ東 三六
庭木 二四
荷分け 五一
ニワトコ 一八五、一八六、一八七
ニワトコの木 一八六
ニワトリ（にわとり、鶏） 一〇、一九、六五、八六、二二五
にわとりのハツウミ 一四四
（庭に）植えない木 二四
庭松 二一〇
庭廻り 一七二
にわやすみ（ニワ休み） 四二、一八五
任期 五六
人形芝居 一三三
人間 一九五
妊娠 一五七
妊娠禁忌 一四三
妊娠呪術 一四三
妊娠中の人 一〇八
妊娠予兆 一四三
ニンジン（にんじん、人参） 二〇、二一、八七、一四八、一八二、一八三、一八四、二〇五
人足 八八
荷場 五一
妊婦 一四二、一四三
人夫 三七

【ヌ】

ぬい針 二四
ヌキウチ 一八七
ヌケシヨ 二三三
ぬすっとぐも 一〇九
布きれ 一九三
ヌノビキ 一四
沼地 二三三
ヌリモノ売り 五二
ヌテンボー（ヌデンボウ、ヌデン棒、ヌルデ、ヌルデ木、ヌルデンボウ） 一二、三三、一六〇、一八五、一八七、二二五

【ネ】

ネーヤ 六三
ねえさん 二二四
ねかせ唄 一三四
寝棺 一七三
ネギ（ねぎ） 二三、八七、一四八、一九一、二〇八、二〇九
ネギ仏（ねぎ仏） 一一七、二二三
ネコ（ねこ） 八、二三、一六九、一七六、二二四
ネゴク 六三
ね小便 一〇七
ネジリヅッポ 三
ネジリハチマキ（ネジリ鉢巻、ねじり鉢巻） 二、五〇
ねずみ（鼠） 一一三、一二〇
ねずみたいじ 一一三
ネセカエ 一六八
ネッコダイジン 六〇
ねどこ 一〇七、一〇八
ねはん 一九二
ネブタの枝 八四
ネブタの葉 一九九
ねむ 二三六
根本さま（根本さん） 六八、一一五、一四四、一九七、二一七、二一八
根本山 四八、五四、六八、六九、七二、七七、九八、二二五、二三八
根本山参詣路一人案内 八〇、八一
根本さん（の）信仰 四九、七二
根本山神社 七七、一八五
根本山神社里宮 八一
根本山神社里宮と手洗い 八一、八二
根本山大正院 四八、七七、七九、九九
根本山の神主 九八
根本山の燈籠 八一、八二
根本山ひとり案内 七七
根本山への里程標 八一
根本山略縁起 七九
根本神社 六八、二〇五
根本神社の奥の院 二〇七
年会 一一一
年忌 一七五、一七六
年期 四五
年期奉公 四五、六六、六八

年期奉公の人　一五四
年始　六四、一六六、一八四
年始まわり　一八二
年中行事　一七八
粘土　三四、三五
念仏　一〇一、一〇四、一一一、一七四、一九五、二〇三
念仏石　一〇二
ネンブッガシ　一七四
念仏講　六二、一〇一、一七六
ネンブッダマ　一七四
年齢階層　五六

【ノ】

農家　三九、二〇二
納棺　一七〇
農協　四三、五六
農業　一一五
農業関係　六四
農業関係の禁忌　一二八
農具　一〇八
農耕　二六
農作業　六二、一〇〇
農作祈願　九六
農作物　八〇
農事の開始期　一七八
農事有線放送　七〇
農事暦　三二
農林　五五
能の翁　一一三
農繁期　八
農休み　一〇、一三六、一七四、一五五、一七七
野帰り　一七三
ノコ（ギリ）　一二〇
のし買い　六
のしもち（のし餅）　二一〇
野宿　九四
ノゾッコミ（のぞっこみ）　一五四、一六二、一六五
ノゾッコミの穴　一六五
ノゾッコミのもめごと　一六五
ノダチ　三九
野だめ　三一
ノチ産（後産）　一四六
ノッポ　二七
ノデンボウ（ノーデンボー）　一六六、一八七
能登　三九、一五四
のど自慢　一四二
野ねずみ　一三七
野辺送り　一七三、一七五
ノボリ（のぼり）　六二、六五、一五〇、一九五、一九六
上りガマ　三五
ノボリ作　三一
飲みもの　二〇〇
ノヤマ　一三三
海苔　一八四
ノロ　一六六
ノロシ　一六六
のろま　三六

【ハ】

歯　一四九、一五三
灰　一四六、一四九、一六九、一七四
配給　七〇
拝殿　一六八
ハエ　一八五
ハエットリ　四〇
羽織　一五三
墓　一一七、一三六、一七六、一六六、一九三、二〇〇、二〇三、二〇五、二一八
バカ（馬鹿）　八、三三、二一七、二三四
化かされた話　二二七
墓そうじ　一九三、二〇〇
ハカナオシ（墓ナオシ、墓直し）　一七三、一七四
墓の草　二〇〇
墓場　一七三、一七五、二〇一
はかま（袴）　四、一五三、一五七
ハカマイリ（墓参り、墓詣り）　一一、一七三、一七七、一九三、二〇〇、二〇一、二〇五
墓参りのダンゴ　一一
袴着　一四三、一五三
袴代　一五七
はかり　一三四
はきそうじ　一〇五
はきたて　四三
はきもの（履物）　七、一六五
白雲山碧雲寺　九九
博奕　四八
白鶏　六五
白炭　三四、三五
白痴　二一七
バクチ（ばくち）　五九、六五、六八、六九、一九九
ばくち場　六八
白米　一六九
バクメシ　九
馬喰の唄　一二九
はげ山　二三三
羽子板　六二
箱膳　八、一二二
ハコベ　一八三、一八四
ハコベラ　一八四
はさみ　一七二
はさみ箱　一五八
ハシ（箸）　一八、一五〇、一六九、一七九、一八〇、一八七
橋　五七、一四四、二二四
橋普請　五七
ハシカ　一五三
ハシ木　二二
ハジキ　一七三
ハシゴ　一六九
ハシのはさみどり　一九
はしばの薬師堂　一〇四
（馬事の）御者　五〇
馬車屋　五〇
柱　一九、一三九、二三〇、一三六、一四〇

蓮　一九三
はずかしがりや　一二四
はた（機）　六、四五、一四三、一六六
はたおり（機おり、はた織り、機織り）　五、六、二六、三一、三三、三四、四四、四五、六四、七〇、八四、一二六、一二八、一三三、一三三、一六六、一七八、一八二、一八四、二三三
はたおりうた（機織り唄）　一三三、一三六
機織り女　一三三
はた織り工場　四四
ハタオリッ子　一五四
ハタ神（はたがみ、機神様）　四五、七三、八四、一七八、一八一、一九九
肌着　一四七
はたけ（畑、畠）　二六、二八、二九、三三、三六、六四、六五、一一七、一八四、一八六、一九〇、一九三、一九七、二〇八
はたけうらない　二一六
はたけ仕事（畑仕事）　三〇、一一九
畑の草とり（草取）　三五、六二
旅籠屋　二〇一
旗竿の藪　二一四
畑作　一
ハタシ　四五、一六六
裸足　一四〇
ハダシ参　一一三
ハタ場（機場）　一六六、一七八
機場の嫁　一六六
ハタヤ（はたや、はた屋、機屋）　四四、四五、八四、一三四、一九九、二三一、二三四、二三五
はたやまわり　四四
破談　一五七
蜂　一一三
ハチアゲユワイ（はちあげ祝い）　三四、三五
八十八　一三〇
八十八歳　三〇、一五三
八十八夜　一三一、六六、七四、一五五
ハチッカワセ　八
鉢巻き　二
八幡さま　一一九、一二〇、一六八、二三一
八幡宮　七三、七四
初午　一〇、一一、一三、二三、二六、三九、五七、六〇、八三、一一〇、一二〇、一七八、一八五、一九〇、一九一、一九三、二〇八
初午団子　六〇
二十日正月　一七八、一八八、一八九
初がみなり（初雷）　二四、一一四、一一五、一六九、一七〇
ばっかりめし　六六
麦桿の束　一五九
初グンチ　一〇五
初子　三〇、六一、一二三、一四七、一四九
初子の初節供　一九五
初護摩　六一
伐採の種類　三六
伐採料　三六
八朔　一〇、一六六、一七〇、二〇四
八朔がえし　二〇四
八朔の節供　一一、一三
末子　一四六
八升だる　一六
初節句（供）　一三、一七、一五〇、一九三、一九六
バッタン　四五
初誕生　一五〇
ハッチョウジメ（八丁じめ、八丁注連）　五五、一一〇、一九六
初荷　一八五
ハッパ（発破）　二三六
初むこ　一六〇
初もぎり　二一四
初もの　二一四
ハッツヤ　三六、四〇
初よめ（初嫁、初嫁ゴ）　六八、一六六、一七〇、二〇四
ハデ　二八、一四六
鳩　一九〇
馬頭観世音　六二、一〇一、一八八
馬頭観世音の縁日　一八八
はとこ　六五
ハナ　五三、一〇八、一三八、一三九、一五三、一六六、一八五、一八七、一九三
花　三五、一七一、一五五、二〇一
花生け　二三五
はなおけ　一〇九
ハナカゴ　一四三
花笠　一三八
ハナグリ　一九
ハナナシ　二三五
ハナダンゴ　一九三
鼻血　一四九
鼻血止め　一四九
ハナナシ　二三五
ハナノ木　一八六
花火　一五五、一九三
ハナムスビ（はなむすび）　五
歯抜け　一五三
ハネ滝　二一四
ハネット　二二五
花嫁　一五九
花嫁の行列　一五八
母　六三、一五九、二三五
母親　一四六、一七六
母親の実家　一四九
ハバキ（はばき）　三一、一五〇
はばきぬぎ　六六
パヒフ　一〇七、一〇八、一五一
破風　一二五
羽二重　六、四五
はまや　六三
刃物　一六八、一六九、一七五
囃子　一二六
囃し方　一二五
囃子方の曲　一二七
ハヤッコジュハン　一四二
流行リカゼ　一〇八
はやり病気　一一

ハヤリヤマイ　一九七
祓いの札　二〇三
腹帯　一四二
腹掛け　一八三
はらが病めるとき　一〇八
ハラッカワセ　二〇七
はらまき　四
ハラミバシ（ハラミ箸、はらみ箸）　一七八、一八五、一八六、一八七、一八八
ハリ（梁）　一九、二三六
ハリ（屋根ふきの）　七〇
針　七、一七一、一八四、一九二
針くず　一六五
針供養　二三、一八四、一九二
ハリケエシ　二〇
針仕事　一四五、一五四
針坊主　一八四、一九二
馬糧　三一
春秋の彼岸　一一、一〇一
春おまつり　七五
はるご（春蚕）　三七、四二、四三
春蚕の手伝い　四五
ハルゴマ（春駒）　五二、一二九、一八二
榛名山　六一
榛名神社　九八、一一五
榛名の講　六一
春の山廻り　一七九
春彼岸　一九三
春祭り　一七八、一九四、一九七
春南に秋北　一一四
腫れもの　一〇六
パン　八、一四八
ハンギリ　九八
半夏　三三、一〇九、一一九、一九六
半夏生　一九六
半夏田植　一九六
半夏半作　三三
半夏坊主　一一九、一九六
半夏むし（虫）　一〇九、一九六
ハンコ　一五八
晩婚　一五五
半紙　六二、一〇八、一五六、一六五、一八三、一八六
晩秋蚕　三二、四二、四三
ハンソウ坊　六一
半袖の襦袢　五〇
ハンダイ　一五八
バンダイモチ（餅）　一、一三、一八、三七、八三
ハンタク　四
ハンタクオビ　四
半天　三、七
半天半日ほとけさま　一一六
番頭　一一八
パントマイム　一二七
般若経の祈祷　一一二
ハンニンソク　五九
半農半林　二八
半端もん　一五六
半分よび　六二
ハンメシ　九
ハンワケ　四一
万霊塔　一〇〇

【ヒ】

PTA　五六
火　一八、一四二、一四三、二二四
ひ（杼）　四五
火あぶり田　一三一、二二三
ヒイラギ（ひいらぎ）　一七八、一九一、二〇八、二〇九
ヒウチイシ（火打ち石）　一八一、二二三
ヒエ　一、八、一二、二八、三二、一一三
日枝神社　五七、六〇、七六、一一一、一四九、一七九、一九四
ヒエ畑　三三
ヒエ飯　九
ヒエモチ（ヒエ餅）　九、一二、一三、三三
日かげ　二二三
ヒカリダマ　二一七
彼岸　一一、三三、五八、八七、一〇一、一六六、一七五、一七八、一九二、一九三、二〇五
彼岸の入り口　一九三、二〇五
彼岸の中日　一〇、二〇五
（彼岸の）ハシリクチ（走り口）　二〇五
彼岸前　三一
ヒキイ（ひきい）　二三、一五九
ヒキオトシ　一六〇
ひきがえる　一三一
ヒキツケ　一〇六
引き出物　一六〇
引幕　一三三、一二五
ヒキ目（ひき目）　一一八
ヒキモチ　二一
ひきもの（ヒキモン、引物）　六二、一七六、一九九、二〇一
日限り地蔵　一〇〇
ひきわり（ひき割り）　八、九、一三、五〇
ビク（びく）　五一、一一六
ヒゲモリ　一〇
ひげん坊主　二三
飛行機　二三四
ひこっさく　一一九
飛駒　四三、七〇、一七〇、二二三
飛駒紙　二六、四六
飛駒言葉（飛駒っことば）　二二五
飛駒芝居　一二六
ヒコマの商人　五二
飛駒村　四八、七〇
菱形の餅　一九三
菱の黒川の泉竜院　一五三
菱町の観音院　一五三
菱町の観音山　六一
ひしもち（ひし餅、菱餅）　一六六、一九三
ヒシヤク（ひしゃく）　一〇七、一一三、一三六、一四三、一七五、一七六
飛騨の人　二〇七
干鱈　一九六

左ぜん　一九
左縄　一七二
ビッコ　二二四
ヒッコマ　二二五
ひごり　一一六
ひとえもの（ひとえもん）　三、一一六
人が死ぬ　一六八
人形　九三
ヒトダマ（人魂）　一一七、一六七、一六八
人づきあい　一五四
一つちがい　一五五
ヒトツトセエ　五三
人妻の髪型　一
一つ身　四
人手不足　三七
一七日　一七五
人の死ぬ前兆　一〇九
人の評価　六八
一ひろ　一一六
ヒトホコ　二〇
ヒナ様（ひな様）　一六五、一九三
ヒナタヘビ　二二五
ひな段　一九三
ヒナ人形（ひな人形）　一五〇、一九三
ひなまつり　一九三、一九六
火縄　二五
火縄銃　三九
火ニタツ（火に立つ）　三九、一七八
ヒノキ（檜）　三八、一八三
火の玉　一六八
火の番　五七
火の番小屋　二一九
ヒノモノダチ（火のもの断ち）　一八
火柱　一一七
火鉢　一九一
ひも　二〇六
火もどし　一〇七
百庚申供養塔　六一
百姓　一〇六、一九七、二〇五
百姓道具　七〇、一九三
百姓の神（さま）　八七、八八
百姓の子　一九
百姓の正月　一八四
百姓の祭り　一九二
百姓日傭　四三
ひや酒（冷酒）　一五八、一七四、二二四
百回忌　一七五
百貫ゲエコ　四三
ヒヤツカンニチ（百カ日、百か日）　一七二、一七五、二〇〇
百度詣り　一四四
百日のひでり　二二五
百万遍　一〇一
百万遍念仏　一一一、一七八、二〇三
ヒョウ（ひょう）　一一五、一八五、二二四
雹害除け　一九三、一九四
病気　一一五、一八四
病気（の）見舞い　六二、一四六
ひょうきん　二一九
病人　一〇一、一一一、一六八、一七二、一八四、一九七
屏風　一一三
雹雷除け　九九
雹乱　一一五
ヒヨコ　一四三
ヒラガマ　四六
肥料　二六、三一、三八
肥料小舎　二一九
ヒル　一三
ヒルダマ　一〇六
昼寝　一五四
蛭間氏　六四
ひるめし（昼めし、昼飯）　八、一八、五一
ヒロイ親（拾い親）　一五〇
披露宴　二
広間型　二二八、二二九、二三一、二三六
ビワ（びわ）　二四、二五
火渡り　一〇四
びん　一六八
貧乏　一五五

【フ】

ブーン　二二六
風害よけ　九九
風神祭　七八
風船　一三四
風船つき唄（風船つきうた）　一三四、一四一
夫婦　一五七、一九九
夫婦関係　八八
夫婦のいとなみ　八八
笛　一一八、一二六、一三七
不縁　一六七
ふかしまんじゅう　一九八
フキ（ふき）　一四
フキ下シ　二三六
フキゴモリ　一九五
吹き竹（吹竹）　二四、一五三
吹き流し　一五〇、一九五、一九六
フキノトウ　一四
フキの葉柄　二二五
ふきん（布巾）　一二一、二二五
フキンヅル　一四、二三五
ブク　八七、一七五
復原図　二二七
福寿庵　一〇〇
フクジン　一〇〇
福俵　五三
福茶　一八九、一九〇
腹痛　一〇六、二〇七
袋子　一四六
フクロツバタキ（フクロツバタギ）　六三、二二五
不景気　四、八七
不幸　九三、一〇一
不幸つづきのまじない　一七六
不作　二七、六八
不作の年　三二
フサノハナ　一四
藤　二四

不思議な木　二一七
富士講　九四
不二道子守うた（不二道こもり唄）　九四、九六
富士の浅間神社　九四
武士の子　一九
藤の花　一三、一九四
藤生イッケ（一家）　一九、一二五、二〇四、二一〇
不祝儀　二〇、九九、一一七、一五三、六三、一七六
（藤生）紀伊守　六五、七二、一七三、二一〇
藤生氏　六五
藤生六右衛門　七一
不浄送り　二二
不浄日　一八二
婦人　二二
婦人会　三六、七〇
フスマ（ふすま、襖）　四八、六〇、一三一
襖絵　一三〇
ふせぎ　一九六
舞台　一二四、一二五
舞台の下座　一三三、一三四
舞台の引幕　一二五
舞台用引幕　一二四
舞台用襖　一三三
舞台用背景襖　一三三
フタオヤ　一六九
双子　一四三
札箱　九四
二又　五〇
二又大根　一〇〇
二又の木　三五
二人でぬうこと　六
二人万歳　一八二
二渡会館　七五
二渡神社　四五、五七、七四、七五、八四、一四九、一九〇、一九九、二〇五、二三三
ふだん着（普段着）　二一三
物価　五三
ブックルミダンゴ　一九一
ブックルミモチ　二一
フッコシ　二三六
フッコミ　九三、二三六
仏だん（仏壇）　一〇三、一二一、一三四、一六六、一五〇、一六五、一九六、二〇八、一九三、一九九
仏滅　一一〇
ブツヨケ　一六六
筆　一一七
不動穴　二二五
不動様　六二、一〇四
不動神　一〇四
不動尊　七六
不動の金しばり　二一八
布団　一六六
布団がわ　一七六
フナ　四四、二〇八
フナゴマイ　四四
フナメーダマ（ふなまいだま）　四三、四四
フナヤスミ（フナ休み、ふなやすみ）　四三、四四、一八二
フネ　四六
部分林　三六、三八
部分林契約　三八
父母の厄年　一五〇
フミダイ　一三三
普門寺　六二
フユバリ　三八、一三一
ブヨイブシ　二九
ブヨ除け　三五
フライパン　一九八
部落　三五、一五六、一五八、一五九
部落会合　五七
部落会長　三六
部落共有　二一七
部落ごと　九二
部落単位　一五三
部落の懇親会　九八
部落の集会所　三六
ふり買い　六七
ふるい　二〇四
古いひな　一九三
ふるしきづつみ　一六六
ふるしきよめご　一六六
古ムジナ　二一八
フルマイ　一
無礼講　六八
ふろ（風呂）　一七〇、一七六、一七九、一九〇、一九二、一九三、二一八
フロー　一九九
風呂桶　二一四
ふろしき（風呂しき、風呂敷）　四、六八、九九、一五〇、一六〇
ふろしき包　二三一
フロシキヨメゴ　一六七
分家　六三、六四
分村合併　七三
ふんどし　三四、五〇
ふんどし銭　一七〇

【へ】

米寿　一五三
ヘイソク（へいそく、幣束）　四九、八三、八四、九三、九九、一〇六、一六九、一七〇、一七四、一七七、一八一、一八四、一八七、一九三、一九四
幣束納め　九八
兵隊　一八、五九、六九、一二三、一五四、一八一
兵隊検査　五九、一五四
平面　二一七
平面形式　二三八
ヘコオビ　四
ヘソクリ　三六、六〇、六七
ヘソの緒（へそのを）　一四六
ヘッタマ　二二五
ヘッツイ　一八一
紅　六八、一五八

ヘビ（蛇）　九、一〇五、一〇九、一一三、一一四、一八〇、一九五、二二五
蛇切り丸　二二五
ヘビ地蔵　一一三
ヘビに入られた話　二二八
蛇の子　九九
ヘビのぬけがら　一〇七
ヘビのマジナイ　一一三
ヘビの夢　一〇九
蛇除け　一七〇
ペペズキン（ぺぺずきん）　六八、一七〇
部屋　一九五
便所　二五、一四八、一九〇、一九五、二三〇
便所神　一九九
便所の神さま（様）　二五、一四七
便所の便　一四七
便所の屋根　二〇九
便所回り　一四八
弁天さま　一二五
弁天信仰　一〇三
弁当　八、二五、五〇、一九九
弁当銭　一七〇
弁当箱　一八
弁当もち　八

【ホ】

法　二二五
ボウ　二三五
法印様　九九、二二八、二三〇
ホウエンサマ　一五一、二〇〇
棒うち　二八
ボウオシ（棒押し）　六〇、一五四
ホウカケヅクリ　二二五
防寒　四
ホウキ（箒）　二五、一三一、一八二、二〇八
防空演習　三
奉公　四五、六八、一〇六
豊作　一二五
坊さん　八八、一六九、一七一、一七二、一七三、一七四、一七七、一八四、二二五
帽子　五〇
法事　二一
棒ジメ　一八二
報償金　四五
坊主　八、一三六、一四六、二三四、二三五
ホウセンカ　一一九
鳳仙寺　二三三
鳳仙寺の講　八七
ホーソー（ほうそう）　一三一、一五二、一五三、二三五
疱瘡おくり　一〇八
ホーソー神（ほうそうがみ）　九八、一五一
ホウソウサマ　四九、五〇
ホーソー熱　一五三
包丁　一八二
奉納天満宮　九二
ボウのつく木　二三五
ホウレン草　一〇
ホーロク（ホウロク）　一三一、一七七、一八九、一九〇、二〇四
ホウロクヤキ　一三
ホオズキ　二〇〇
ホオヅキの根（ホーズキの根）　一四七
ホカイ（ホケエ、行器）　一七一、二〇〇、二二一、一七六
ボク　一九五
ホグイ　一八七
ホクロ　二一〇
干ウドン　二〇〇
ホシガキ（ほしがき）　一四〇、一八二、一八四
干し草　三、三六
星野一家　六五
星祭り　九九
ほしもの　七
補修学校　一九五
墓石　一五四、一七六
細谷戸の感謝祭　九九
保存食　二五
ホタ　五二
菩提寺　一九五
ホタ木　三五
ボタモチ（ぼたもち、ボタ餅、ぼた餅）　一〇、一一、一一七、一五一、一九三、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二二三、二三四
ホタル（ほたる）　一〇九、一三六
ほたるかご（籠）　一三六
ほたる来い　一三九
墓地　一三三、一四七、一六八、一六九、一七三、一七五、一七八、二〇一、二〇三
墓地の地蔵　二二五
ホチブチ　二一六
ホッカブリ（頬かぶり）　二
掘っ立て　二四
ホッピキ　四五
ホッペタダイジン　二一〇
仏　八七、九八、一一七、一三〇、一四三、一九五、二二五
仏おろし　一七六
仏さま（仏様）　一〇七、一一四、一一七、一四三、一六五、一九三、一九八、二〇〇、二〇一、二〇三
ホトケノザ（仏の座）　一七〇、一八四
仏花　一八六
母乳　一四七、一四八、二二五
墓標　一七一、一七三
ホマチ　六、三六、六八、七〇
ホユバヤ（クキ）　一四
ホラ　三一
ボラッカ　二三三
ホラの貝（ほらの貝、法螺の貝）　五三、一〇三、二二三
堀込源太　二二八
盆　五一、九九、一一一、一二七、一四〇、一五五、一六六、一七八、一九九、二〇四、二〇五
盆おくり（盆送り）　一七八、二〇一、二〇三

ぼんおどり（盆おどり、盆踊り） 一五九、二二七、二二八、一五四、二〇三
盆踊り唄 二二七
盆がら 二二
本業 六〇
盆くれ（盆暮） 六六、一五〇
盆暮かんじょう 六六
本家 六三、六四、一五三、二〇〇
盆ござ 二〇〇
盆魚 二〇三
盆さま竹 二〇一
盆さん 二〇一
盆・正月 一五三
本膳 一七一、一七三
ボンゼン 一〇四
本尊さん（本尊様） 二一〇、二一九
ホンダチ（本立、本裁ち） 一四
ぼんだな（盆棚） 一七七、一七八、一九九、二〇〇、二〇一
盆棚の色紙 二〇一
盆月の死者 二〇三
梵天 九八、九九
ボンデン 九八、一〇三、一七八、一五四、一六五
ボンデン立て 一五四
梵天祭 九八
本堂 一〇一、一六九、二一九
盆の食事 二〇三
盆の墓参り 二〇一
盆の用意 一九九
ボンバナ（盆花） 一九九、二〇〇、二二五
ほんぶり 二二六
本分家 六四
本分家関係 六四
本間道場 一五五
ボンミズ 一九九
盆迎え 二〇〇
盆礼 二〇〇

【マ】

マアリブキ 四〇
マイ 四四
まいしん（埋薪） 四五
埋葬 一四三、一七三、一七四、二〇四
埋葬法 一七三
マイタケ 一四
マイダマ（まいだま） 三一、四四、五三、一六五、一六七、一九一
前掛 三四
マエザ（前座） 九三
前原イッケ（一家） 一九、一八三、二〇四
前原家 一九、二三〇
前原氏 六五
前原姓 六五
前厄 一五三
まがさす（魂がさす） 一九、二一九
まがわるい（悪い） 二三、二三四
マキ（薪） 三三、三六、三七、四三、五〇、六三、一四三、一八三
マキ伐り 三六
（薪の）五貫目束 三六
（薪の）二貫目束 三六
マキアゲモチ（蒔き上げ餅） 二〇八
まきしん 一〇九
まきっ放し 二八
まきのこしのさく 一一九
まきもの（蒔き物） 一〇九、一九六
マグサバ 三六
マグソ（馬糞） 一六八
マクラダンゴ（枕だんご、枕団子） 一二一、一六八、一六九、一七三
枕なおし 一六八
まくらめし（枕飯） 一六八、一六九、一七三
マクラユメ 一〇九
マクリ 一四七
マクリダシ 一四三、一七一
孫 一七一、一四八、一七三
馬子唄 二二九
孫子 二〇〇
マコモのゴザ（ござ） 一七八、二〇〇
マサユメ 一〇九
マジナイ（まじない） 一〇八、二一〇、二一三
ます 一八三、二〇四
マスカッキリ 一四七
マズモチ 一、二一、二一三
まただび 二三四
馬立 二三三、二三四
待ち女房 一五九
マチブチ 四〇
マツ（松） 二一四、二二六、二一五、一六〇、二三〇
マヅイモチ 三
松かざり（松飾り） 六五、一〇八、一六〇、一八二、一八六
末期 一六八
末期の水 一六八
松小屋 一八八
松シメ（松しめ） 一八四
マツタケ 一四、一七六
マッチ 二七
松原 二三二
松ボクリ 六
松むかえ（松迎え） 二一〇
まつり（祭り） 五三、五四、一五四
祭り当番 一五四
祭りの旗じまい 一六五
祭ばやし 一二七
マドギ（窓木） 三九、二三〇
まな板 一六五
まひ 五〇
マブシ（まぶし） 四三
ママ 二三五
まみげ 一一
マメ（豆） 一六、二二三、二一五、一八八、一九七、二三三、九九、一八八、一九〇、一九五、一九一
豆がら 一九一
豆蔵 二二九
豆投げ 一八九
マメにはたらく 一四四

豆まき（豆撒き）　一八九、一九〇
豆まきの豆　一九〇
豆　類　二七、二三一
マムシ（まむし）　一、五、一五、一〇五、一〇七、一一〇、一一三、一九〇
マムシ酒　一、一五
まむしよけ　五
マモノ　一六九、二二四
マモノヨケ　一六八
間取り　二二
マユ（まゆ）　五、六、二六、四二、四三、六七、一六五、一八五、一九四
マユ買い　四三
マユかき（繭かき）　四三、一八八
まゆ毛　二
まゆだし　四二
マイダマ（マユダマ、マユ玉、まゆ玉）　一〇、一一、四四、一三六、一七八、一八五、一八六、一八七、一八八
マユ玉正月　一八五
マユ玉取り　一八八
まゆの代金　四二
魔よけ（魔除け）　二四、一一一、一一四、一六九、一九一、二〇九
マル　一六九
マルオビ（丸オビ）　四
丸コバチ　八
摩利支天　七八
丸太　二二五
まりつき　一三三
まりつきうた（唄）　一三三
マルブキ　二〇
丸坊主　一七〇
マルマゲ（まるまげ、丸まげ）　一、二、一六六、二〇四
マワシ（まわし）　六、四四、四五
まんが洗い　一九六
万石　二八
マンザイ（万才、万歳）　五二、五三、一二九、一八二
マンジュウ（まんじゅう、饅頭）　一三、一七、一七四、一七六、一九七、一九九、二〇四
まんじゅうがさ　二
マンジュシャゲ　一六
マンノウ　二九
まんま　八、三四、一一八、一七九、一八四

【ミ】

ミ（箕）　二八、五二、一〇六、一五〇、二〇四、二〇五
ミ（おすいものの）　一八二
見合い　一四二、一五六
見合い結婚　一五六
身内の人　一七〇
身内のもの（者）　六、一一一、一六八、一七一
ミオキ　二二四
見送り　一七三
ミカイ　三〇
三河万才　六七、一八二
ミカン（みかん）　一〇、一八一、一八九、二〇八
ミカンの皮　一八三
ミクンチ　二〇五
ミクンチナス　二〇五
ミコシ（みこし、御輿、神輿）　七四、一〇八、一九七
みじん切り　一八三
水　一一二、一七二、一九三、一九九、二〇〇、二〇一
水あび（水浴び）　九三、一九九
水入れ　二〇〇
ミズゴ　一四七
水ごり　九三、九八
水野忠邦　一二四
水場　二二、二三、二三三
水引（き）　一六〇、一六五、一八六
水不足　二七、一一五
ミソ（みそ、味噌）　一二、一五、一六、二四、五〇、五八、六七、八三、一四八、二〇九
ミソカソバ　一八二、二一〇、二二一
禊　九三
ミソコシ　五一
溝さらい　五七
ミソタキ（みそたき）　一五、二〇九
みそ玉　一五
ミソヅケ（みそづけ、みそ漬け、味噌づけ）　一四八、一九〇、二〇九
みそづけ大根　八
みその汁　一六
ミソハギ　二〇〇
みそ豆　一五
道　四九、五一、五七、九七、九八、一〇八
ミチガリ（みちがり、道刈り）　五七、八八、一九八、二〇〇
道草刈り　一一六
道の改修　四九
道の神さま　九七
道ぶしん（道普請）　五七、八八、一一六
三月がかり　一二一
ミツクチ（みつくち）　一二一、一四三
ミツバ　一〇、一四
三っ拍子　一二七
三星様　八四
ミツマタ　四六
ミツマタギ　三九
三又の木　一二〇
三つ身　四
三峰　九四
三峯講　六一、九四
ミツミネサマ（ミツミネサン、三峰さま）　九四、一一八
三峯神社のお札　八四
三峰代参講　九四
三峰の信仰　九四
ミツメ（みつめ）　二、一四七、一六五、一六六
ミツモン　一〇
箕ですくう　二〇七
水戸黄門様　一九六
みどし　一二一
巳寅申　二二四
水口　一八七
みなさんよび　六二

南風　125
峯岸一家　76
峯岸氏　19、165
ミノ　5、207
ミノヒ　6
耳　168
みみかくし　2
ミミズ　123
みずく　41
みみだれ　106
耳ふさぎ　168
耳ふさげ　60
耳ふたげ　59
ミンブシ　33
みやげ　166、207
ミヤマ　133
宮参り　143
ミヤマハギ　165
ミヤマボウキ　29
ミヨウガ　87
苗字　64、229、230
明星様　84
明神様　193、194、195、205、206
明神様のお参り　148
明神様のお祭り　194
明神山　222、223
三輪神　73
民家　227、229、240
民家形式　228
民家調査　227
民間薬　106
民俗知識　105
民話　33

【ム】

無縁仏　201
迎え火　200
昔話　223
ムカゼ　107
ムカダ家　19
むかで　107、187
ムカデマブシ　43
ムギ（麦）　1、8、9、12、13、26、28、33、35、53、55、58、86、87、113、126、128、119、127、164、197
麦カブツ　33
麦かり（麦刈り）　28、32、33
麦こなし　33、196
麦七、米三の飯　50
麦田　27
麦（の）たね（種）　87、129、196
麦束　51
麦束三ば　125
麦の祝い　21、23
麦の粉　13
麦の作切り　33
麦の俵　145、184
麦のつくり方　28
麦のまきつけ　50
麦ハゼ　28
麦バナ　23、33
ムギバナモチ　1、13、23
麦ぶち（麦打）　28、126
麦ぶち台　28
麦ふみ　28
麦穂　129
麦まき（蒔き）　23、28、29、33、127、169、178、199、206、207
麦まき終り　206
麦まき地　33
麦まきボタ餅　206
麦マキモチ　33
麦めし（麦飯）　9、148
ムギモチ　9、23、33
麦ヤギリ　28
むぎわら（麦わら）　62、101
麦桿の束　159
麦わらぶき　22
麦わら屋根　29
ムクゲ　64
ムコ（むこ、聟、婿）　146、164、166、167、156、158、159、160、165、166、167、184、207
ムコ一元（一見）　158
聟入り　159
向う三軒　63
ムコウハチマキ　2
むこ方（婿方）　156、157、158、166、159、160、165
むこ十年　160
聟だまし　166
むことり　46
ムコの酒　166
ムコ持ち　57
聟の役　166
むこ六十　160
無言劇　127
ムシ（虫）　106、110、151、190、195、199
虫切り　107
虫けら　187
ムジナ（むじな）　40、128、233
ムジナつき　128
ムジナッタカリ　94、128
虫の口　191
虫封じ　110、151、153
虫除け　187、198
武者窓　239、240
ムジン　20
むすび　8
むすめ（娘）　2、145、154、195
娘の髪型　1
ムセッタ　14
むだばなし　154
棟　230、236、238
棟上げ　236
棟印　63

胸の病気　一五
無病息災　九八
ムラ　一六八
村岡氏　一九、六五、三三
村上氏　六五
ムラガヤ（村がや、村がや、村萱）　一、一〇
村共有地　三八
村庚申　七三、八六、九〇、九三
村境　五五、一〇八、一一〇
村仕事　五七、一二六
村中　一六九
村中総出　一二六
村田銃　二九
村に来た芸人　五三
村に来た人たち　五二
村に来る芸能陣　五三
村に入って来る職人　五二
村人足　五七
村の入口　一一〇
村のおこり　七一
村の親方　九九
村の騒動　二一八
村への新入者　一七三
村まつり（祭）　一〇、四五
村役　五五、五〇、一九三
村用　五七
村寄合　五七

【メ】

メ　二〇八
目明き　一七六
めい旗（名旗）　一七三、一七三
銘仙　四四、四五
命名　一四八、二二三
名誉職　五七
メエ　四四
メーダマ　四四
メカイ　五一、一七二、一七八、一九一、二〇八、二〇九
めかいご（目カイゴ）　一〇八、一〇七
めかけ　一三四
メカゴ　一〇八
メカゴのマジナイ　一〇八
眼鏡　一七〇
めくらせ　五五
めし（飯）　八、一八、九八、一六九、一七〇、一八四、一九四
メシシャモジ　一七四
飯のたき方　一〇
目性　一九九
メッコマ　二二五
メリンス　二一、一八三
メンコ　一九七
免税　二三四
メンバ　八、一八
メンパ売り　五二

【モ】

モ　四五
申し送り　一九三
毛布　一六六
もうろくずきん　二
モギクワ　四四
木材の木口　六五
モクセイ　二三四
木炭　二三四、二五五、四三
モグラ　一三七、二〇七
もぐらたいじ（モグラ退治、もぐら退治）　二〇六、二〇七
モグリ　二九
モクレン　二三四
目録　一五七、一五八
モタシ　一四
モタセ　一四
モチ（もち・餅）　一一九、一一一、一二五、一六八、一七一、一八、一九、五七、七六、九三、六二、六五、六八、八四、二〇七、一二一、一一八、一三七、一八四、一九五、一二〇、一九一、一七二、一八六、一八八、一九一、二〇〇、二二五、二四〇、二三七、二二〇、二〇八
モチ粟の餅　一六六
モチグサ（もちぐさ）　六七、一八三
モチゴメ（もちごめ、餅米）　二一、一三三、一一九
もちつき　八六、二一〇
もちなし　一八三
モチのアンコ　二二
持丸　二三三
モツキン　二四
モッコ　五一
もっこかつぎ　一五四
モッコク　二四
モトオシボコ　二〇
モトジメ（元締め）　三二、三六、三六
元締さん　六六
モノイミ　一七八
物置　一九五
モノサシ（ものさし）　六
モノツクリ　一六五
モノビ　二二
モミジ　二四、二一〇
モミヌカ　一五五
籾山　六五
籾山イッケ　一七九、一八一、一九〇、二一〇、二三一
籾山家　一一九
籾山姓　一一九
もめん（木綿）　二、一五
モモヒキ（ももひき、もも引、股引き）　二三、五〇
ももわれ（桃われ）　一、二、一四六
桃割れ髪　一六六
ももんが（あ）　四〇、四一
モヤ　五七、四三、五〇、五一
モヤヒロイ　五二
モライイチゲン　一五八
もらい方（貰い方）　六二、一五六、一五九、一七〇
もらい乳　一四九
モライッコ　一五〇

森沢の八幡様　七六
森　下　二一〇
森下イッケ（一家）　七五、二二一
森島イッケ　六一
森　嶋　氏　二二五
モ　ロ　コ　シ　一三、一四八
もろこしめし　六八
紋　二三五
紋　章　六三、一五〇
モンツキ（紋付）　一四七、一五一、二三五
紋付き袴　一七二
モンツキバカッタラシ　二三五
門　牌　一七五
も　ん　べ　三

【ヤ】

八百万神　九九、二〇七
夜　学　一五四、一五五
ヤ　カ　ガ　シ　一九〇
ヤキガン（焼き燗）　一七
焼きぎり　三一
やき塩（焼き塩）　一四八
やきとり　二〇七
焼きぬか　四三
焼　畑　九、二七
焼き畑耕作　一
八　木　節　五九、一二七、一三八、一五四、二〇三
八木節踊り　一二七、一三八
八木節調　一二八
ヤキモチ（やきもち、やき餅）　一、八、一三、三四、一九八
ヤキモチッコ　一五二
やきもちやき　二三四
ヤ　キ　ワ　ケ　三五
役　一七二
役　員　一九二
厄おとし（厄落し）　一、一五三、一八三
ヤクザモノ（やくざもの）　一五六、二三六
ヤクザヤロウ　六九
薬師さま（様）　一〇〇、一〇七、二〇六、二二三
薬師さまの井戸　二二五
薬　師　堂　五八、九四、一〇一
薬師の石像　一〇七
厄　神　二〇三
ヤクジン神　一九一、二〇八
厄神除け　一九六
厄　年　一、一五三、一八三
ヤクドシッコ（厄年子）　一四二、一五〇
厄年の人（者）　九九、一八三
役　場　七〇
厄　払　い　一九〇
やくびようがみ（厄病神）　五五、一〇一、一一〇、二〇三
やくびようよけ（厄病よけ）　七五、一一〇、一八六、一九一
厄　豆　一八九
薬用植物　一〇六
厄　除　け　一五三、一九一
厄除大師　一五三
ヤグラ（やぐら）　五九、一二一、一五四、二三八
ヤケド（やけど）　二四、二五、一〇七、一一七
やけどの治療　一〇七
やけどよけ　一四八
屋　号　二一九、二二〇、二二一
やさい（野菜）　一八、六七、一〇三、一一四、一七三、一九四
野菜のまきつけ　三二
やさいもの　三八
やさいもん　二〇〇
八坂神社　七四、七五、一九六、一九七
八坂神社のミコシ　一九七
八坂神社祭り　一九七
屋　敷　一六、二五、六四
屋敷イナリ（いなり、稲荷）　一〇、七六、八四、四六、一四七、一四八、四九、一五七、六五、七九、一九〇、一九一、二〇八、二二〇
屋敷いなり様　一五一
屋　敷　裏　一四六
屋　敷　神　一九四
ヤシキづくり　一九
ヤ　シ　の　実　一六五
ヤシュウツツジ　三二
夜　食　一三、八七
や　し　ろ　一六八
休　み　の　日　三二
休　み　日　一八八
屋　台　一三七
ヤツガシラ（やつがしら）　一七、一九、六五、一四八、二〇五
ヤッコンボウ　二三六
宿　九二、九八、九九、一一五、一九一、一九七
宿　屋　一一八
宿り初め　一五七
宿　礼　五三
屋　根　二〇、三九、四〇、七六、一一二、一六八、一七九、一八一、一九四、二〇九、二三六
ヤネガエ（屋根がえ、屋根替）　一、二〇、二一、三二、三九、五七、六二
屋根替の祝い　二一
屋根替の手伝　二〇
（屋根の）部分的替え　三九
屋　根　ふ　き　三九
屋根ふきの賃金　二一
屋　根　棟　一七五
ヤネヤ（屋根屋）　二〇、二一、五二
ヤ　ネ　ヤ　サ　ン　二一
ヤネヤノトウリユウ　二一
山　二二四
山　遊　び　一七九
ヤ　マ　イ　ヌ　一一八
やまいも（山イモ、山芋）　一四、一七、一〇七、二〇五
山　芋　掘　り　三三
山　入　り　一八二
山　う　ど　六七
山　押　し　二一九

山おとし 七三
山火事 三六、八三
ヤマカブラ 一〇六
山神様 三六、五八、八三、一九四、二〇六
山神祭り 一九一
山刈り 三一
山ゴボウ（ごぼう） 一四、六〇
山小屋 三四、八三
ヤマサキ 三七
山師 一九五
山しごと（山仕事） 一、三五、八、二二、二五、二六、二八、三三、三四、三五、三六、三七、三八、四六、八三、一一六、一三〇、一五三、一七八、一八三、一八五、一八五、一九二、一九七、二二九
山じまい 三六
八岐の蛇 二二七
山地の氏神 九三
山ックワ 一八五
山津波 二二九
山で働く人の組織 三六
日本武尊 七三、一五五、一七九
ヤマドリ（やまどり、山鳥） 一〇、四〇、四一、二二七
山に入っては悪い日 三六
山ヌケ 二三二
山の石宮 八三
（山の）うえつけ 二三六
山のおまつり 三一

山の界 三六
ヤマノカミ（山の神） 三、三四、三六、三九、四〇、四三、七三、七四、八三、八四、一一八、一三〇、一七八、一八五、一八九、一九四、一九五、二〇五、二二七、二二八
山の神さま（様） 三四、一八二、一八五、二三九
山の神さまの木 一三〇
山の神の石宮 八三
山の神のお神楽 一一八
山の神の休むところ 一三〇
（山の神の）宿 八三
山の神祭り 三一、一七八、一七九
山の神祭りのもち 三一
山の刈り払い 三五、三七
（山の）禁忌 三九
ヤマのクチアケモチ 一九八
山の仕事 三一、三六
山の下刈り 二一六
山の下草刈り 二六、三四、五七
山の斜面 二三三
山の植林 一五四
山の中の時計工場 六九
山はじめ（山初め） 三六、三九
山働き 八三
山鳩 四四
山ばんてん 三一
山伏 二一八
山まわり（山廻り） 一七八、一九四
ヤマミチ 四九

ヤマメ 一四、四二
山持ち 三三
山ゆり 一四、二四
山分け 四四
山をやる人 八三
ヤミ米 二〇四
ヤモ 一四
ヤリ 三一

【ユ】

湯 一九一
ユイ 六三
結仕事 六三
由比正雪の乱 二三三
結納 一五七
結納おさめ 一五六、一五七
結納かえし 一五七
結納金 一五七
結納だる 一五六
結納流れ 一五七
結納日 一五七
友義会 五九
夕食 一〇二、一九〇、二〇〇
有線放送 五六、七〇
夕立 一六九、二三四
優等工女 四五
夕はん（夕飯） 九、一〇、一九〇
夕めし 八、一八、二〇六
夕やけ 二一四
床 二三〇

ゆかた 一七一、一九八
湯かん（湯灌） 一七〇、一七一
湯灌の樋 一七〇
雪 二三六
雪かき 五七
雪ぐつ 五五
雪の下 一〇六
湯沢 二三二
湯沢の大事件 二一九
ユズ（ゆず） 五四、一九〇、二〇九
ゆずの木 三五、一六八
ユズのみそづけ（漬け） 一六八、一六九
ゆず湯 二〇九
ユッケオビ（ゆつけおび） 五五
指輪 三一
弓とりの名人 二一九
弓の舞 二三六
弓矢 一七三
ユメ（夢） 四〇、一〇九
夢うつつ 一七六
湯屋 二三三
ゆり（百合） 一四、二〇
ユルリ 一九〇

【ヨ】

夜明かし 五九
夜あそび（遊び） 一四三、一五四、一五五
ようかん 一〇
謡曲 一五九

養蚕 三六、三四、四一、四三、六三、七〇、一一〇、一九一、二三九
養蚕講 七七
養蚕時 一八五
養蚕の禁忌 二一〇
養蚕の主任 四三
養子 三一四、一一七、一五三、一七七
様式編成 二三七
用心棒 二〇七
ヨーッパリ 二一一
洋服屋 一八五
用務員 二五六
養老院 一七七
ヨカヨカあめ 五三
ヨキ 六九、八五
夜ぐも 一〇九
ヨケゴリ 九〇、九三
よごし 一九七
予算外の収入 六〇
寄棟 二三六
よそいぎ 二一三
よそから来た 六二
予兆 一四三、一六〇
四つ 一五三
よつずみ 三一
ヨッピ 二三五
ヨツミ（四つ身） 四一、一五一
よどうされ 二三六
夜泣き 一四八、一五〇、一五一
夜なべ 一三、一三一、一六六
よなべ仕事（夜なべ仕事） 五一、三一、二〇五
夜なわ 三一
米沢の不動穴 二二五
四布ぶとん 一四五
ヨバイ（よばい、夜ばい） 一五四、一五五
ヨビッケース 一六八
夜びき 八六
呼び名 一四九、一五〇、二三〇、二三一
ヨブ除け 二九
余分仕事 六〇
四間取型 二二八、二三〇、二三一、二三六
よめ（嫁） 二、三、四、八、一一、二三、三三、三五、二六、四二、四六、六四、九二、一〇九、一二一、一四六、一五四、一五五、一五六、一五八、一五九、一六〇、一六五、一六六、一六七、一八四、一九六、二〇〇、二〇七、二三二、二一四、二三四、二三〇、二三一
嫁入り 一五七、一五九
嫁入り後の仕事 三一
嫁選び 一五六
嫁が里へ帰れる日 一六六
嫁方 一五七、一五八、一五九、一六〇
嫁方のイチゲン 一五六、一五九、一六〇、一六五
ヨメゴ（ねずみ） 二一〇
ヨメゴ（さん） 一六一、一六五
ヨメゴ（嫁ご）のお茶 一六〇
嫁ごの泣き別れ節供 二〇四
嫁ごのみやげ（土産） 一六〇
嫁さん 三一
嫁三年 一七〇
嫁さんの髪型 二
嫁支度 一五八
ヨメナ 一八四
嫁の家 一六五
嫁の衣装 一五七
嫁のいとまごい 一五八
ヨメノオチヤガシ 一六〇
嫁の親 三一、一九三
嫁の親方 一九三、一九六
嫁の髪型 一六六
よめの近所まわり 六二
嫁のご年始日 一六六
嫁の財産 一六六
嫁の里がえり 一六六
嫁の持参金 一六六
嫁の実家 一六五、二〇四
嫁の実母 一五〇
嫁の食事 一六六
嫁の生家 一四七
嫁の年始 一六六
よめのはずれ 一五五
嫁の初節供 一六六
嫁の土産 一六六
嫁の面倒見 一七〇
ヨメビロウ 一六五
嫁披露 一六五
ヨメムコ（嫁ムコ） 一七、一六五
よめ、むこの里がえり 一七〇
よめ、むこのなきわかれ 一七〇
嫁聟の年始 一八四
よめ、むこのはなし 二一〇
ヨメ持ち 一五七
嫁（をもらう一つの規準） 四五
ヨモギ 一九五、一九六
四方山話 八八
寄台 五七
寄日不動堂前の石碑 一〇一、一〇二
ヨリマシ 一六八
夜仕事 一五三
ヨロク 六六、七〇
ヨロク仕事 七〇
四歳 二〇六
四才の子 一五三

【ラ】

ラーメン 六九
来客 二
雷神祭司 七二
雷神様 七二
雷電祭 七八
雷電様 二六、一九四
雷電の石宮 二二四
雷電山 一二六
ライ病 五五
落雷 一二四
ラッパあめや 五二

乱拍子　一二七
ランプ　四五、一〇六、一六六、一七四

【リ】

離縁　一八、一三四
離婚　一〇七
理趣文の水　一四四
利尿剤　一〇六
硫安　二九
竜宮　二二五
流行病　一一〇、一二八
流産　一四七
竜頭　一七一、一七一
竜の沢山　九九
リュックサック　五一
良縁　一五五
りょうし（猟師）　二六、三九、四〇、四一、二二五
猟師の祝い　四三
猟師バンテン　四一
猟師のきまり　三九
猟銃の変遷　三八
両親　一〇五、一六〇、一六五、一六九、一七四
両親のつき合いの初め　一六五
猟の獲物　四〇
猟の分け前　四〇
両馬青年交友会　一五三
両馬青年同志会　一五三
リョウマチ　二二四
両面鏡　一四三
両毛線　七〇
料理番　二〇
旅行　五〇、六三、一五六
旅行の支度　五〇
林業関係　一五四
林業暦　三六
リンゴ（りんご）　二〇〇、二〇八
臨終　一六八
林野制度　五六

【ル】

留守　二〇八
るすい仏　二〇一
ルスイギョウダンゴ　二〇六
ルスインギョウダンゴ　二〇五
ルスンギョウの祭り　九九

【レ】

霊異現象　一〇五
霊魂の行方　一〇一
礼装　一五九
恋愛　一四三、一五五、一五六
恋愛結婚　一四三、一五五、一五六
連絡の方法　五六

【ロ】

炉　四九
廊下　一五九
老人　一七六
ローソク　一四四、二〇〇
ろうそく立て　一四四、二〇〇
労働力　五六
労力交換　六三
労力奉仕　二〇
六三さま（様）　一一三
六三大師（大士）　一〇五、一一一、一一三
六三　一一三
六三よけ（除け）　一一三
六算除大師　一一三
六尺棒の棒倒し　一五五
六尺フンドシ（ふんどし）　一四一、一四三、一五四、一六〇、一九六
六十才　一五三
六十年の不作　一五五
ろくでなし　二二六
六部　一二九
六根清浄　九七、一〇四
六方踏み　一二七
六文　一七三
六文銭　一七一
六文の地代　一七三
炉端　二二四
炉ぶち　二二三

【ワ】

ワカイ　一四
わかい男衆　六五
わかい女衆　六五
わかいしゅ（若い衆）　三五、五〇、五九、六〇、一五四、一五五、一六一、一六五、一九六、一九七、二一八、二一九、二二一
若い衆がしら（頭）　五九
若い衆集団　五九
若い衆づきあい　一六六
若い衆仲間　五九
若い衆の遊び　五九、一五四
わかいもの（若い者）　一三一、一四三、一四七、一五九、一〇四、一七三
若い嫁　一〇九
若い衆　一四三、一六〇、一六五、一六九
若衆組　一四三、一五三
若衆姿　一六五
若正月　一八五
若大将　一九七
若水　一九七
わかめ　五三
若者組　五九
若者の同志会　七〇
ワカ餅（若餅）　一八、一八五
和紙　四六
ワタ　二〇七
ワタゴサマ（わたごさま）　三九、九八
わたごさまの石宮　九八
わたご精進　九八
ワタマシ　二一
渡辺綱　二二二
渡良瀬川　四九
ワッパ　二〇
ワナ　四〇、四一、一五四
ワニグチ　一一〇

和服　一七二
わら（藁）　六八、一二〇、一三七、二〇六、二〇七、二〇八
わらいがらす　一〇九
わらうち　二〇八
わらざいく　二〇六
ワラジ（わらじ、草鞋）　三、五、三二、四六、五〇、五一、五五、六六、九七、一一〇、一五四、一七〇、一七一、一九六、二〇三、二〇八、二二四
ワラジカケ　三
わらじ銭　六六
わらじづくり　五、一五四
草鞋ぬぎ　六六
わらじばき　五九、六八
ワラゾウリ（わらぞうり、藁草履）　三、五、三二、一五二、一七二
わらたたきぎね　一九一
わら束（藁束）　一四五、一九二、一九四
ワラデッポウ（わらでっぽう、藁鉄砲、ワラ鉄砲）　一三七、二〇六、二〇七
藁人形　一七六
わらのツトッコ　一五八
ワラビ（わらび）　一三、一四、一六、三二
わらべうた（わらべ唄）　一三四、一三六、一三七
ワラモチ　一七
わら屋根　九九
ワリ　五〇
割勘　一九七
割麦　九
ワリメシ　九
悪い夢　一〇九
悪口　一三五
悪口うた　一三五
椀　八七
ワンヤ　三六

群馬県民俗調査報告書第十二集

桐生市梅田町の民俗

昭和四十五年三月二十八日印刷
昭和四十五年三月三十日発行
（非売品）

編集兼発行者　群馬県教育委員会
前橋市大手町二丁目一ノ一

発行所　群馬県教育委員会事務局
前橋市元総社町六七

印刷所　朝日印刷工業株式会社
電話㈹四三六七